枚方市障害者計画（第５次）

枚方市障害福祉計画（第８期）

枚方市障害児福祉計画（第４期）策定のための

アンケート調査結果報告書

（案）

令和８年２月

枚　方　市

【確認用メモ：表紙ウラ】

目次

第１章　調査の概要 1

１　調査の目的 1
２　調査期間と調査方法 1
３　調査対象と回収状況 1
４　報告書の見方 2

第２章　「18 歳以上」調査結果 3

１　属性 3
２　障害の状況 5
３　住まいや暮らし 14
４　日中活動や就労 23
５　障害福祉サービス等の利用 41
６　相談相手 57
７　権利擁護 59
８　災害時の避難等 65
９　手話によるコミュニケーション 71

第３章　「18 歳未満」調査結果 77

１　属性 77
２　障害の状況 79
３　住まいや暮らし 87
４　日中活動や就労 95
５　障害福祉サービス等の利用 110
６　相談相手 122
７　権利擁護 125
８　災害時の避難等 133
９　手話によるコミュニケーション 139
10　保護者への設問 142

第４章　「サービス提供事業所」調査結果 146

１　提供しているサービスについて 146
２　事業所の運営や支援について 162

第５章　「障害者団体」調査結果 179

１　自由意見 179
２　障害者福祉サービスについて 195

第１章　調査の概要

１　調査の目的

本調査は、令和９年度から 14 年度を計画期間とする枚方市障害者計画（第５次）、および、令和９年度から 11 年度を計画期間とする「枚方市障害福祉計画（第８期）」・「枚方市障害児福祉計画（第４期）」の策定にあたって、障害者（児）やその保護者、障害福祉サービス事業所、障害児事業所支援、障害者団体を対象にアンケート調査を行い、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識・意向、また、生活実態や、事業所・団体の運営状況・ニーズなどを把握し、計画策定および施策推進の基礎資料とするために実施したものです。

２　調査期間と調査方法

●調査期間

令和７年 11 月 26 日から令和７年 12 月 26 日まで

●調査方法

「18 歳以上」「18 歳未満」：郵送による配布、郵送・電子による回収

「サービス提供事業所」「障害者団体」：郵送による配布・回収

３　調査対象と回収状況

調査種類	調査対象	配布数	有効回収数	有効回収率
18 歳以上	18 歳以上の障害者手帳所持者	2,092 （2,000）	646 （720）	30.9% （36.0%）
18 歳未満	18 歳未満の障害者手帳所持者	400 （300）	153 （99）	38.3% （33.0%）
サービス提供事業所	枚方市在住の障害者（児）を対象に障害福祉サービスを提供している事業所	384 （300）	208 （157）	54.2% （52.3%）
障害者団体	ラポールひらかた登録団体のうち障害者関係	45 （53）	27 （26）	60.0% （49.1%）

※（　　）の数値は前回計画策定時実施のアンケートの数値

【参考：枚方市の障害種別手帳所持者数】

調査対象	18 歳未満	18～64 歳	65 歳以上	合計
身体障害者手帳所持者	239	2,874	10,713	13,826
療育手帳所持者	1,037	2,565	164	3,766
精神障害者保健福祉手帳所持者	428	4,125	618	5,171
合計	1,704	9,564	11,495	22,763

【参考：障害種別実施数】

調査対象	18 歳未満	18～64 歳	65 歳以上	合計
身体障害者手帳所持者	100	638	218	960
療育手帳所持者	190	478	58	730
精神障害者保健福祉手帳所持者	110	580	120	810
合計	400	1,700	400	2,500

４　報告書の見方

●回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。そのため、回答単数であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

●複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

●図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

●図表等の「n（number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

●クロス集計において、回答者数（n）が少数となる場合は、参考として数値を確認するにとどめ、結果の利用には注意が必要となります。

●報告書中において、「前回調査」と記載しているものは、枚方市が令和６年３月に公開した「福祉に関するアンケート調査報告書」のことを指します。

●自由記述回答において、回答の判別が著しく困難な箇所は「■」で示しています。

第２章　「18 歳以上」調査結果

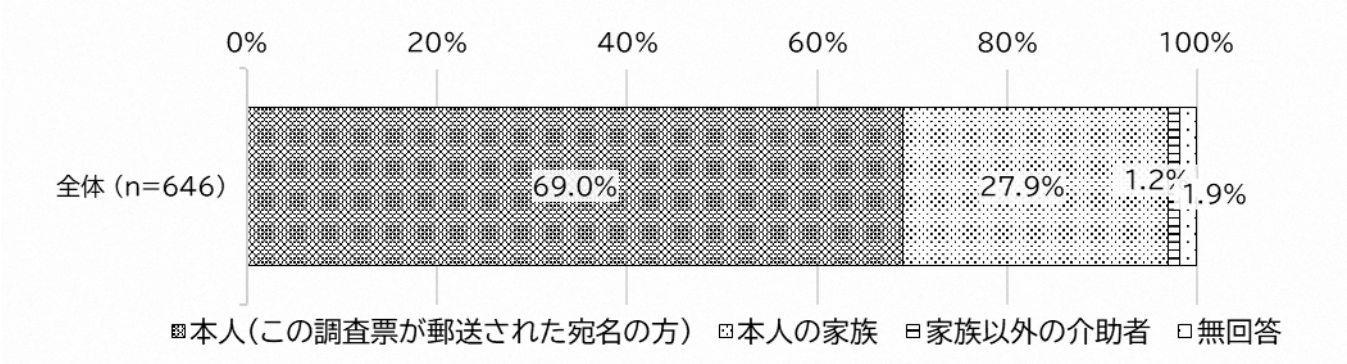
１　属性

（１）　回答者

問１　お答えいただくのは、どなたですか。（○は１つだけ）

回答者は、「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」が 69.0%、「本人の家族」が 27.9%、「家族以外の介助者」が 1.2%となっています。

■【回答者】

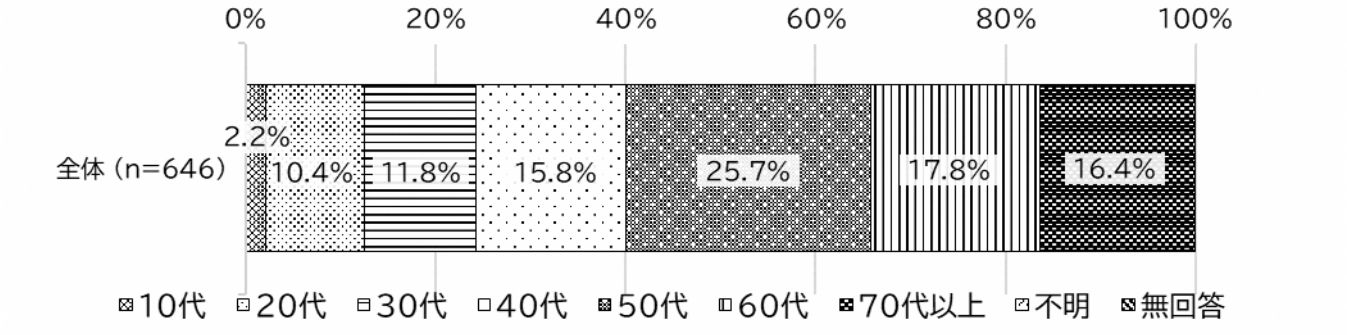


（２）　年齢（令和７年７月１日現在）

問２　あなたの年齢をお答えください。（令和７年７月１日現在）

回答者の年齢は、「50 代」が 25.7%と最も多く、次いで、「60 代」が 17.8%、「70 代以上」が 16.4%となっています。

■【年齢】

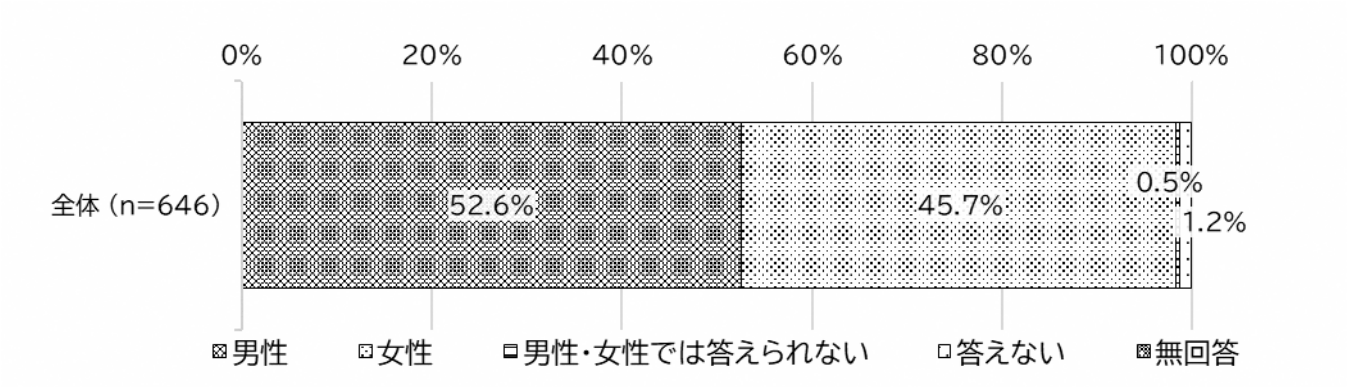


（３）　性別

問３　あなたが思う性別をお答えください。（○は１つだけ）

回答者の性別構成は、「男性」が 52.6%、「女性」が 45.7%となっています。

■【性別】



2　障害の状況

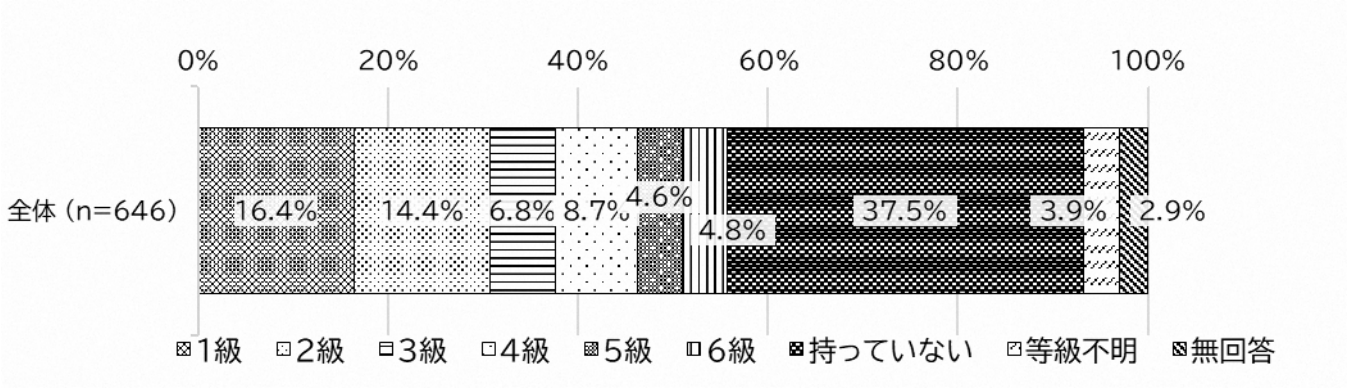
（1）　身体障害者手帳の所持状況

問４　あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。（○は総合等級に応じた１つだけ） 　　また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

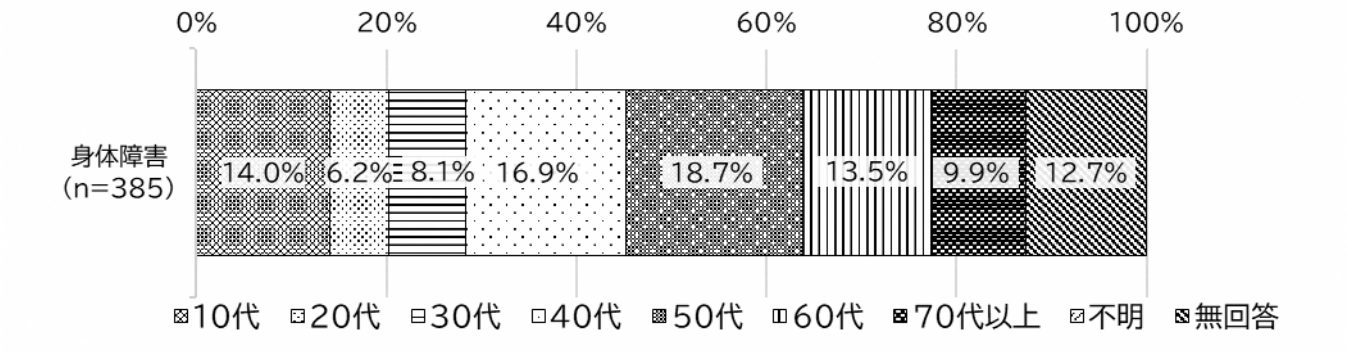
身体障害者手帳の有無については、「1 級」～「6 級」を合わせた『持っている』が 55.7%、「持っていない」が 37.5%となっています。また、身体障害者等級表による級別は、「1 級」が 16.4%と最も多く、次いで、「2 級」が 14.4%、「4 級」が 8.7%、「3 級」が 6.8%となっています。

身体障害者手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「50 代」が 18.7%と最も多く、次いで、「40 代」が 16.9%、「10 代」が 14.0%となっています。

■【身体障害者手帳の所持状況】



■【身体障害者手帳取得年齢】

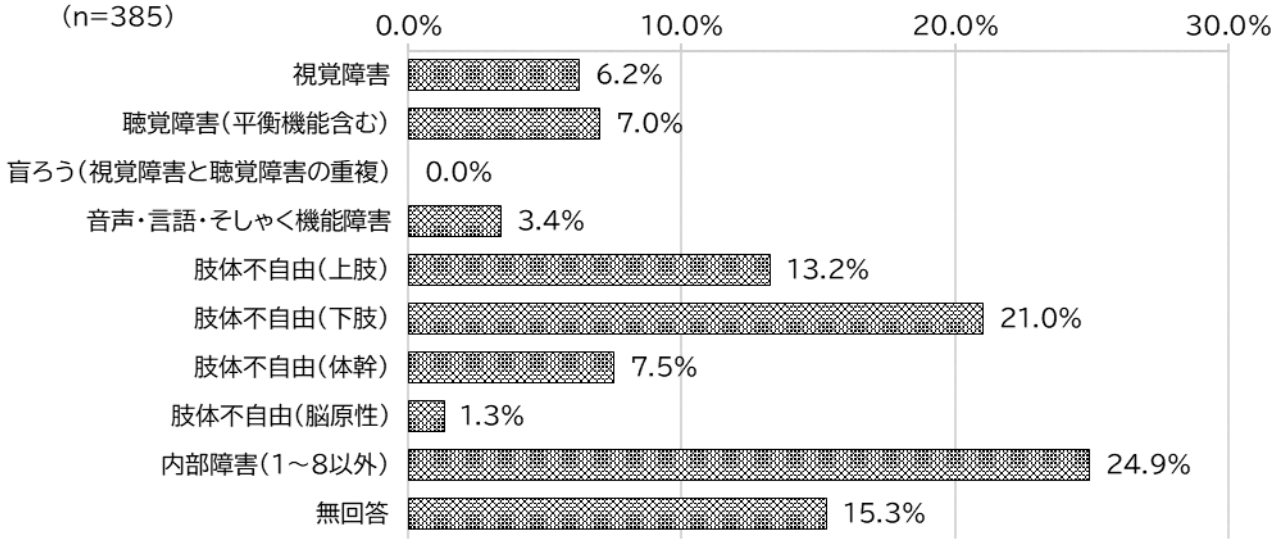


（２）　主たる障害

問５　身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。（複数の障害認定を受けている場合は、等級が最も高いものに○をつけてください）

身体障害者手帳をお持ちの方の、身体障害の障害名については、「内部障害」が 24.9%と最も多く、次いで、「肢体不自由（下肢）」が 21.0%「肢体不自由（上肢）」が 13.2%、「肢体不自由（体幹）」が 7.5%、「聴覚障害」が 7.0%などとなっています。

■【主たる障害（複数回答）】



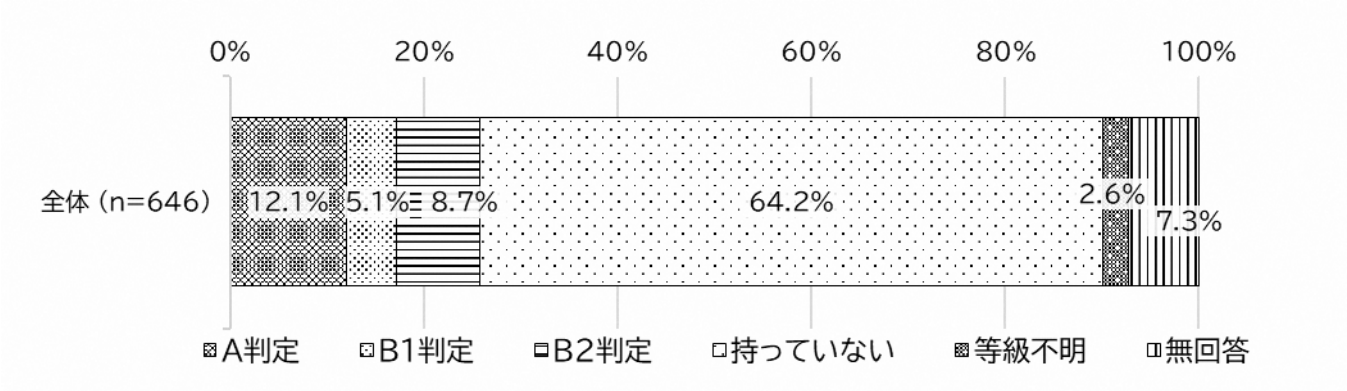
（３）　療育手帳の所持状況

問６　あなたは療育手帳をお持ちですか。（○は１つだけ） 　　また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

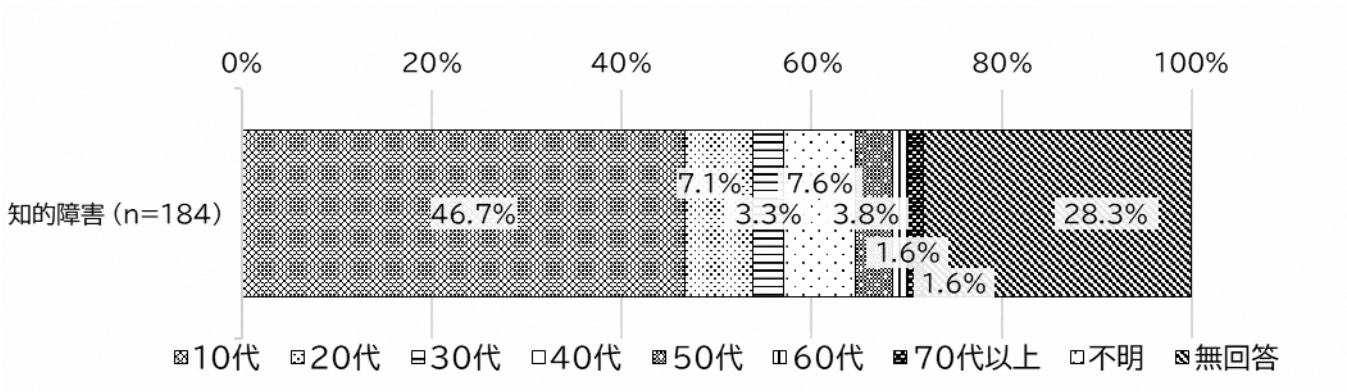
療育手帳の有無については、「A 判定」「B1 判定」「B2 判定」を合わせた『持っている』が 25.9%、「持っていない」が 64.2%となっています。また、療育手帳所持者の総合判定は、「A 判定」が 12.1%と最も多く、次いで、「B2 判定」が 8.7%、「B1 判定」が 5.1%となっています。

療育手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「10 代」が 46.7%と約半数を占めています。

■【療育手帳の所持状況】



■【療育手帳取得年齢】



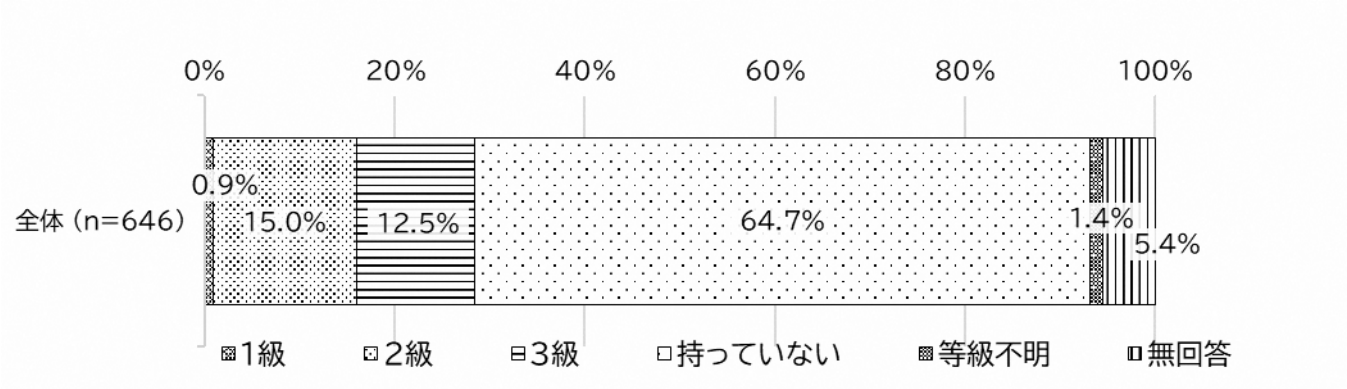
（４）　精神障害者保健福祉手帳の所持状況

問７　あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。（○は１つだけ） 　　また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

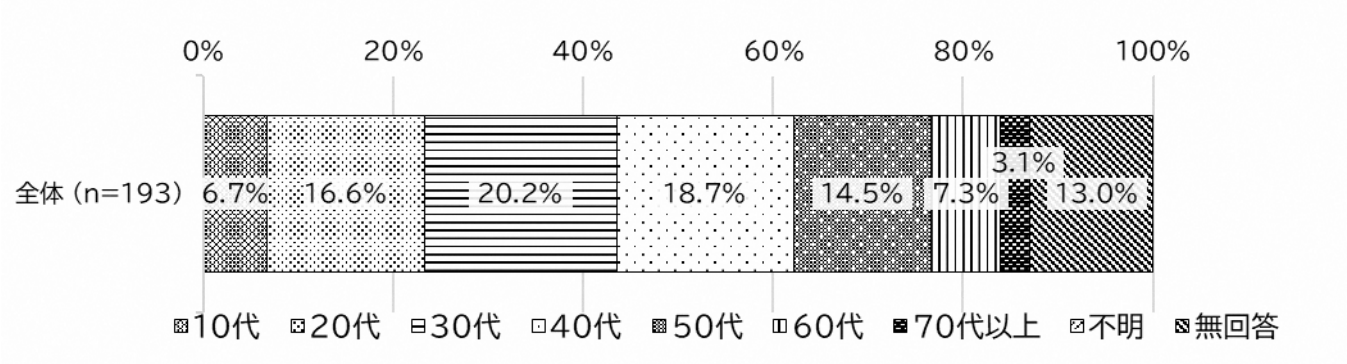
精神障害者保健福祉手帳の有無については、「１級」「2 級」「3 級」を合わせた『持っている』が 28.5%、「持っていない」が 64.7%となっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者の等級は、「2 級」が 15.0%と最も多く、次いで、「3 級」が 12.5%、「1 級」が 0.9%となっています。

精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「30 代」が 20.2%と最も多く、次いで、「40 代」が 18.7%、「20 代」が 16.6%となっています。

■【精神障害者保健福祉手帳の所持状況】



■【精神障害者保健福祉手帳取得年齢】

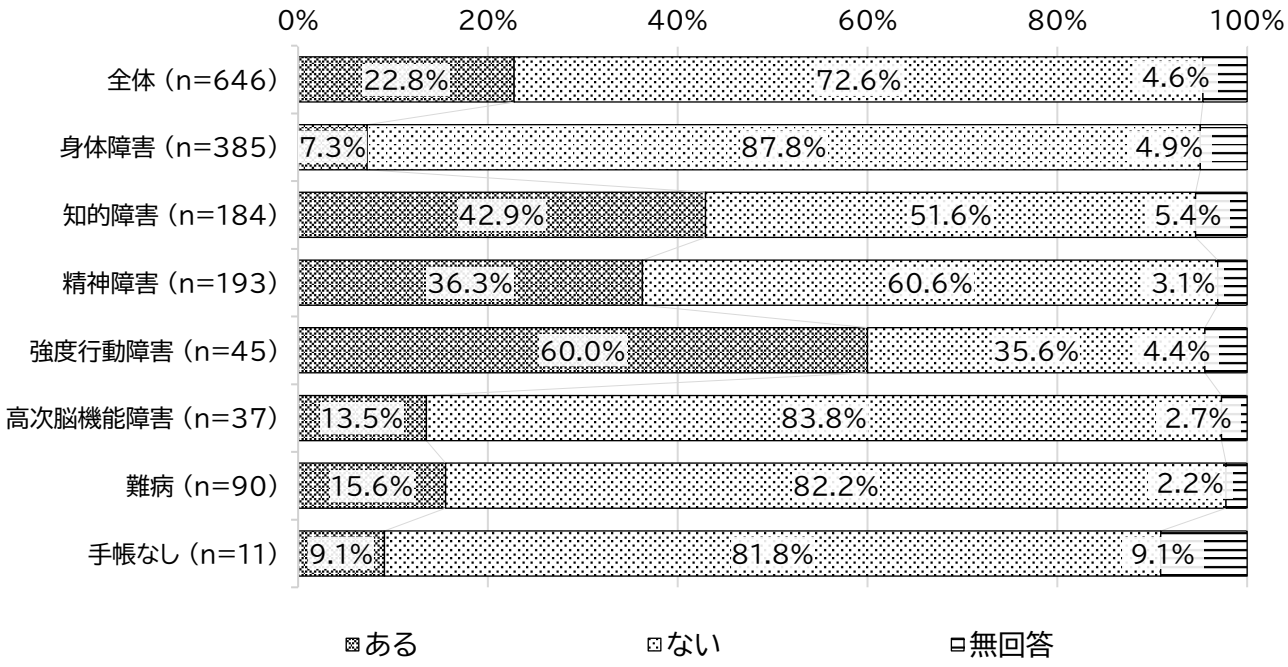


（５）　発達障害の診断

問８　あなたは発達障害として診断されたことがありますか。（○は１つだけ）

発達障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が 22.8%、「ない」が 72.6%となっています。強度行動障害者では「ある」が 60.0%と６割を占めています。

■【発達障害の診断】

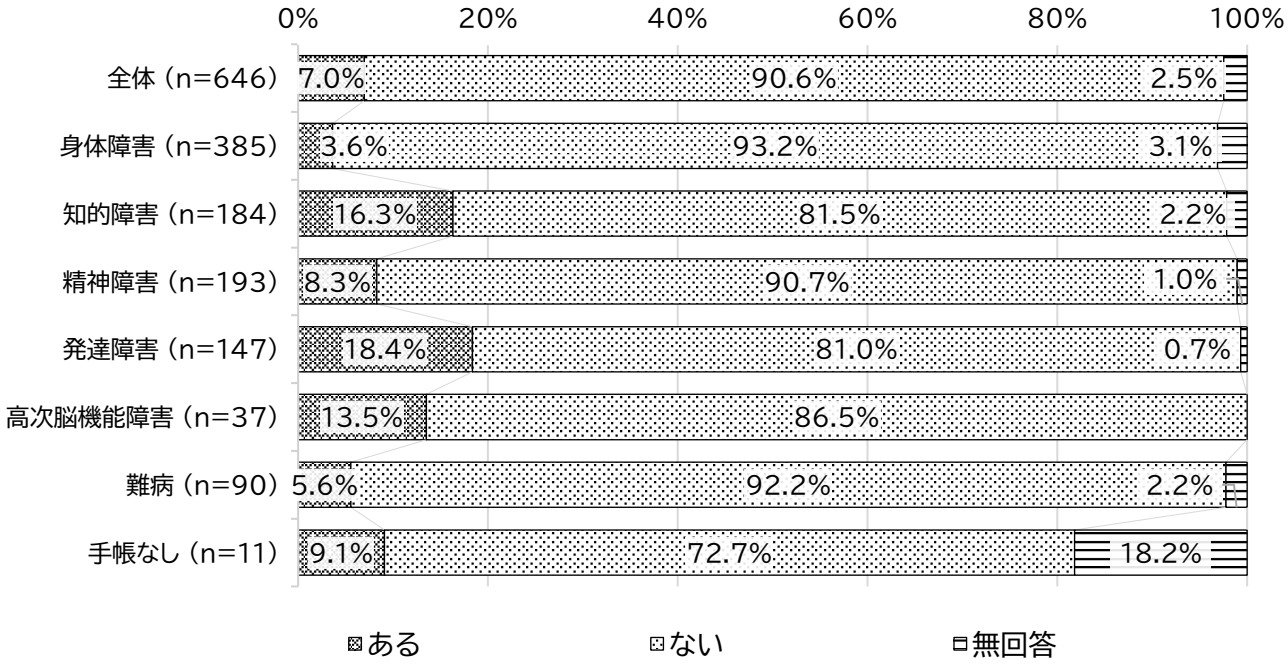


（６）　強度行動障害の診断

問９　あなたは強度行動障害として診断されたことがありますか。（○は１つだけ）

強度行動障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が 7.0%、「ない」が 90.6%となっています。発達障害者では「ある」が 18.4%と２割弱を占めています。

■【強度行動障害の診断】

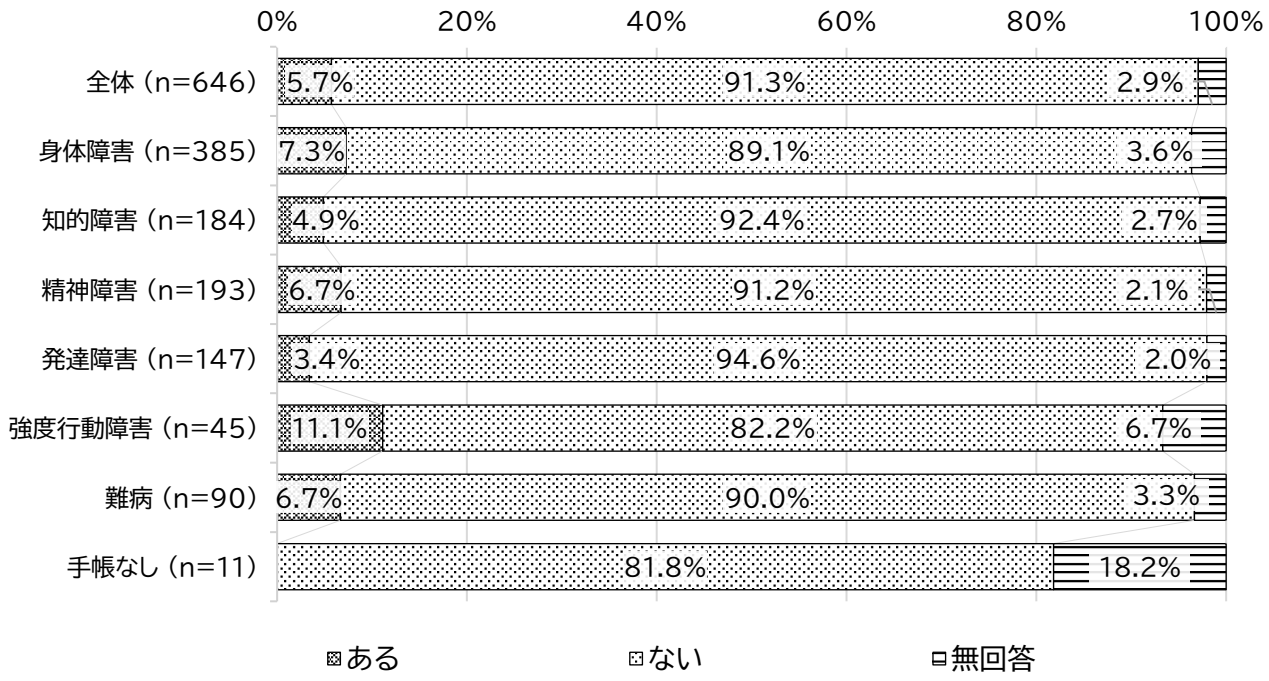


（７）　高次脳機能障害の診断

問１０　あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。（○は１つだけ）

高次脳機能障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が 5.7%、「ない」が 91.3%となっています。強度行動障害者では「ある」が 11.1%と１割を超えています。

■【高次脳機能障害の診断】

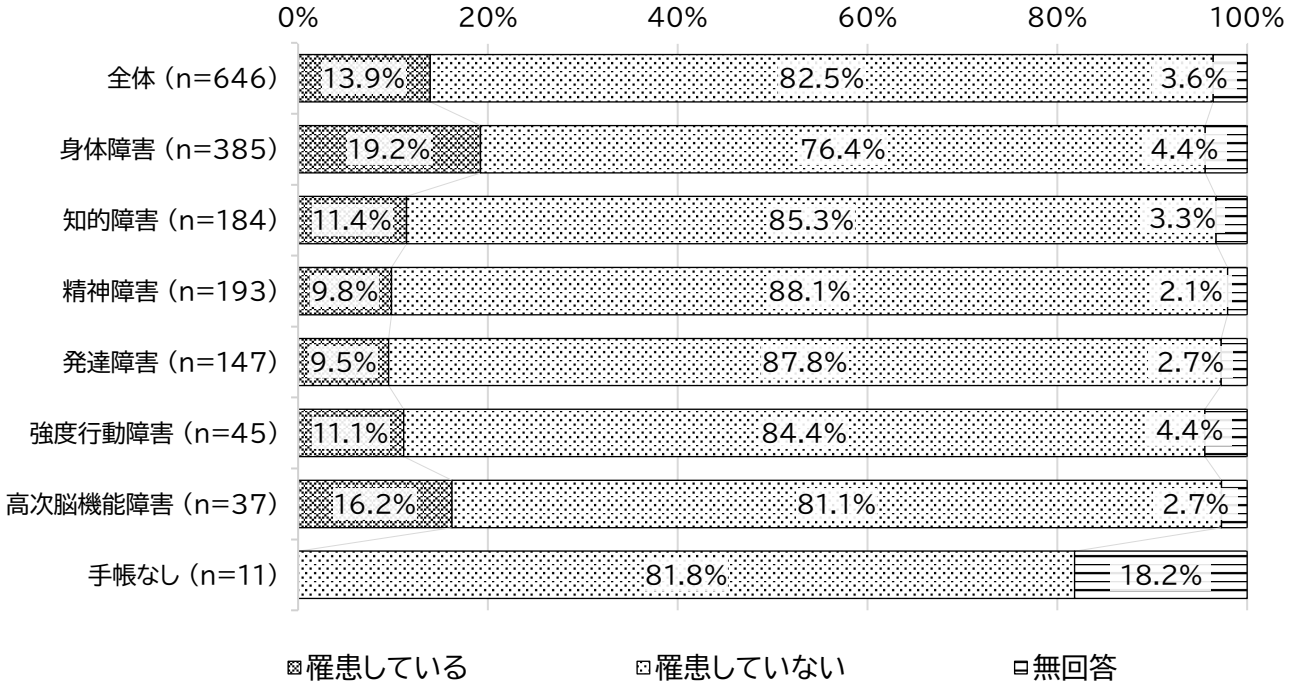


（８）　難病の罹患

問１１　あなたは難病に罹患していますか。（○は１つだけ）

難病に罹患しているかについては、「罹患している」が 13.9%、「罹患していない」が 82.5%となっています。

■【難病の罹患】



（９）　現在受けている医療ケア

問１２　あなたが現在受けている医療ケアをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

現在受けている医療ケアについては、「服薬管理」が 21.5%と最も多く、次いで、「透析」が 3.4%となっています。

■【現在受けている医療ケア（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	気管切開	人工呼吸器（レスピレーター）	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養（ＩＶＨ）	透析	カテーテル留置	ストマ（人工肛門・人工膀胱）	服薬管理	その他	無回答
全体	全体	646	2	4	10	5	7	1	1	22	5	10	139	45	429
		100.0%	0.3%	0.6%	1.5%	0.8%	1.1%	0.2%	0.2%	3.4%	0.8%	1.5%	21.5%	7.0%	66.4%
障害種別	身体障害	385	2	4	9	5	7	1	1	22	5	9	93	38	222
		100.0%	0.5%	1.0%	2.3%	1.3%	1.8%	0.3%	0.3%	5.7%	1.3%	2.3%	24.2%	9.9%	57.7%
	知的障害	184	1	1	1	2	2	1	1	1	0	1	31	15	138
		100.0%	0.5%	0.5%	0.5%	1.1%	1.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	0.5%	16.8%	8.2%	75.0%
	精神障害	193	0	1	5	2	1	0	0	1	0	1	44	6	140
		100.0%	0.0%	0.5%	2.6%	1.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	22.8%	3.1%	72.5%
	発達障害	147	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	28	9	112
		100.0%	0.0%	0.7%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.0%	6.1%	76.2%
	強度行動障害	45	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	12	2	30
		100.0%	0.0%	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.7%	4.4%	66.7%
	高次脳機能障害	37	1	1	3	3	3	0	1	2	0	0	17	4	17
		100.0%	2.7%	2.7%	8.1%	8.1%	8.1%	0.0%	2.7%	5.4%	0.0%	0.0%	45.9%	10.8%	45.9%
	難病	90	1	3	3	3	2	1	0	3	0	0	33	12	42
		100.0%	1.1%	3.3%	3.3%	3.3%	2.2%	1.1%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	36.7%	13.3%	46.7%
	手帳なし	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	8
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%	72.7%

3　住まいや暮らし

（1）　現在の暮らし

問１３　あなたは、現在どのように暮らしていますか。（○は１つだけ）

現在の暮らしについては、「家族と暮らしている」が 71.8%と最も多くなっています。次いで「一人で暮らしている」が 18.6%と２割弱を占めています。

■【現在の暮らし】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	入所施設で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答
全体	全体	646	120	464	25	24	3	5	5
		100.0%	18.6%	71.8%	3.9%	3.7%	0.5%	0.8%	0.8%
障害種別	身体障害	385	78	276	6	18	2	2	3
		100.0%	20.3%	71.7%	1.6%	4.7%	0.5%	0.5%	0.8%
	知的障害	184	16	130	20	11	2	4	1
		100.0%	8.7%	70.7%	10.9%	6.0%	1.1%	2.2%	0.5%
	精神障害	193	57	129	3	2	0	0	2
		100.0%	29.5%	66.8%	1.6%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%
	発達障害	147	15	118	7	4	1	1	1
		100.0%	10.2%	80.3%	4.8%	2.7%	0.7%	0.7%	0.7%
	強度行動障害	45	3	26	7	5	2	2	0
		100.0%	6.7%	57.8%	15.6%	11.1%	4.4%	4.4%	0.0%
	高次脳機能障害	37	1	29	1	4	1	1	0
		100.0%	2.7%	78.4%	2.7%	10.8%	2.7%	2.7%	0.0%
	難病	90	14	72	0	4	0	0	0
		100.0%	15.6%	80.0%	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	手帳なし	11	1	8	1	1	0	0	0
		100.0%	9.1%	72.7%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%

（2）　同居家族

問１３―１　家族の誰と一緒に暮らしていますか。（あてはまるものすべてに○）

回答者の同居家族は、「母」が 47.6%と最も多く、次いで、「配偶者」が 40.5%、「父」が 36.4%、「子ども」が 23.5%となっています。

■【同居家族（複数回答）】

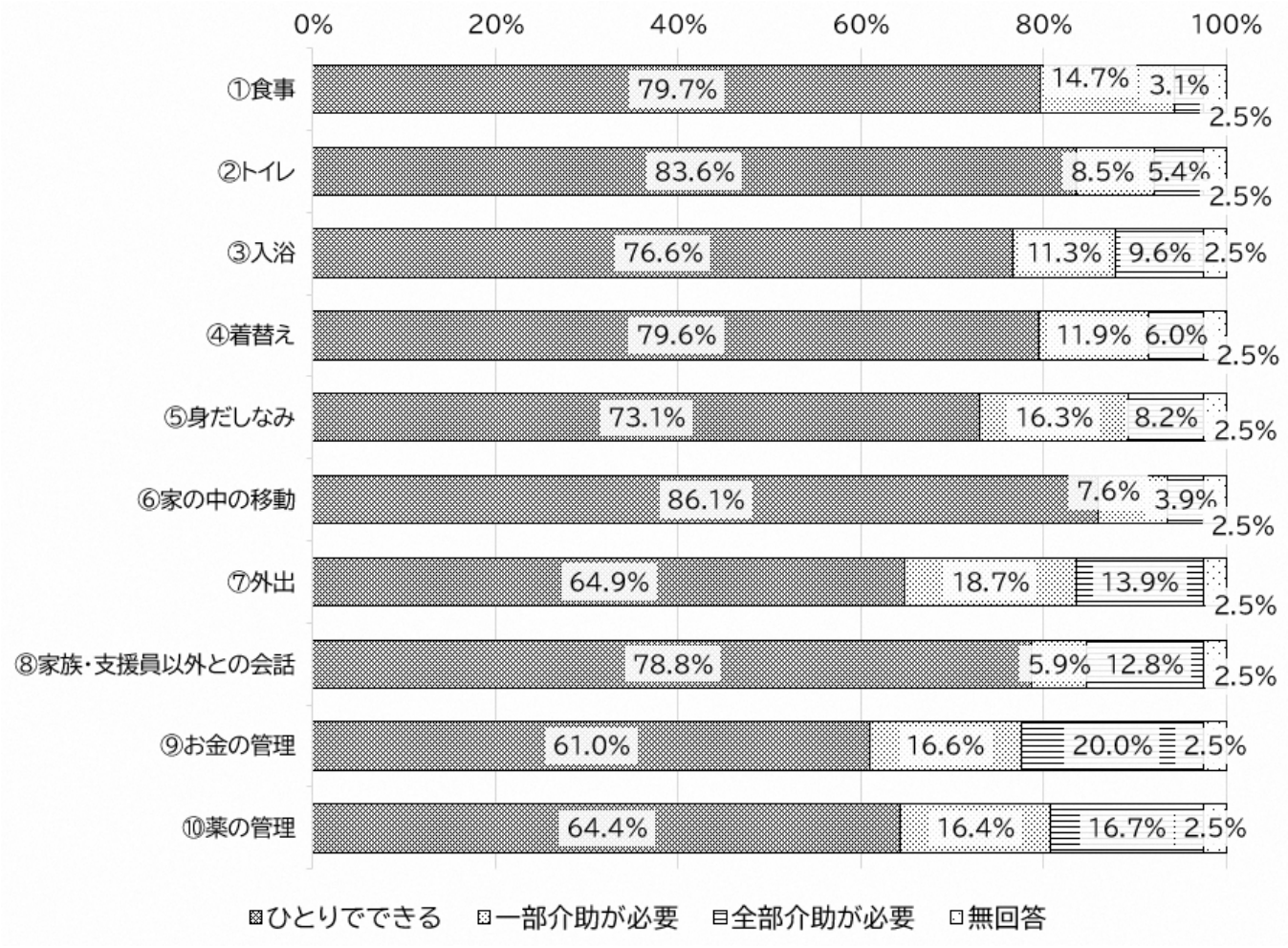
上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	父	母	祖父母	兄弟姉妹	配偶者	子ども	その他	無回答
全体	全体	464	169	221	12	87	188	109	4	1
		100.0%	36.4%	47.6%	2.6%	18.8%	40.5%	23.5%	0.9%	0.2%
障害種別	身体障害	276	62	88	3	26	156	86	1	1
		100.0%	22.5%	31.9%	1.1%	9.4%	56.5%	31.2%	0.4%	0.4%
	知的障害	130	85	107	10	53	11	8	1	0
		100.0%	65.4%	82.3%	7.7%	40.8%	8.5%	6.2%	0.8%	0.0%
	精神障害	129	59	77	1	23	33	21	2	0
		100.0%	45.7%	59.7%	0.8%	17.8%	25.6%	16.3%	1.6%	0.0%
	発達障害	118	78	95	6	44	10	10	0	0
		100.0%	66.1%	80.5%	5.1%	37.3%	8.5%	8.5%	0.0%	0.0%
	強度行動障害	26	15	17	0	4	7	4	0	0
		100.0%	57.7%	65.4%	0.0%	15.4%	26.9%	15.4%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害	29	8	13	1	3	14	9	0	0
		100.0%	27.6%	44.8%	3.4%	10.3%	48.3%	31.0%	0.0%	0.0%
	難病	72	22	33	0	9	34	17	1	0
		100.0%	30.6%	45.8%	0.0%	12.5%	47.2%	23.6%	1.4%	0.0%
	手帳なし	8	1	2	0	2	4	5	0	0
		100.0%	12.5%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	62.5%	0.0%	0.0%

（３）　日常生活の状況

問１４　日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。（①から⑩それぞれに○を１つ）

日常生活におけるさまざまな行動について、①食事、②トイレ、③入浴、④着替え、⑤身だしなみ、⑥家の中の移動、⑧家族・支援者以外の人との会話の７項目は「ひとりでできる」が７割以上と多く、とくに、⑥家の中の移動は 86.1％と最も多くなっています。介助が必要（「一部介助が必要」と「全部介助が必要」の合計）は⑦外出、⑨お金の管理、⑩薬の管理の３項目となり、いずれも３割を超えています。

■【日常生活の状況】



（４）　主な介助者

問１５　あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

主な介助者については、「母」が 23.5%と最も多く、次いで、「父」が 13.9%、「施設やグループホームの指導員など」が 12.1%、「配偶者」が 9.3%となっています。

■【主な介助者（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	父	母	祖父母	兄弟姉妹	配偶者	子ども	施設やグループホームの支援員など	ホームヘルパーなどサービス事業所の人	その他	無回答
全体	全体	646	90	152	4	52	60	37	78	67	9	343
		100.0%	13.9%	23.5%	0.6%	8.0%	9.3%	5.7%	12.1%	10.4%	1.4%	53.1%
障害種別	身体障害	385	28	55	3	21	41	26	32	38	3	240
		100.0%	7.3%	14.3%	0.8%	5.5%	10.6%	6.8%	8.3%	9.9%	0.8%	62.3%
	知的障害	184	65	96	2	34	2	3	54	23	4	56
		100.0%	35.3%	52.2%	1.1%	18.5%	1.1%	1.6%	29.3%	12.5%	2.2%	30.4%
	精神障害	193	18	43	1	9	22	13	13	20	4	100
		100.0%	9.3%	22.3%	0.5%	4.7%	11.4%	6.7%	6.7%	10.4%	2.1%	51.8%
	発達障害	147	48	73	3	17	7	5	27	11	2	54
		100.0%	32.7%	49.7%	2.0%	11.6%	4.8%	3.4%	18.4%	7.5%	1.4%	36.7%
	強度行動障害	45	16	25	0	6	7	3	23	7	0	5
		100.0%	35.6%	55.6%	0.0%	13.3%	15.6%	6.7%	51.1%	15.6%	0.0%	11.1%
	高次脳機能障害	37	4	9	1	5	10	5	9	2	0	13
		100.0%	10.8%	24.3%	2.7%	13.5%	27.0%	13.5%	24.3%	5.4%	0.0%	35.1%
	難病	90	10	21	1	5	14	8	9	15	1	43
		100.0%	11.1%	23.3%	1.1%	5.6%	15.6%	8.9%	10.0%	16.7%	1.1%	47.8%
	手帳なし	11	1	1	0	1	0	1	2	1	1	6
		100.0%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%	18.2%	9.1%	9.1%	54.5%

問１５―１　「１.」～「６.」に複数の○をされた方については、主に介助をしてくれる方の番号を記入してください。

介助者が複数いる場合でも、主な介助者は「母」が 49.7%と最も多くなっています。

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	父	母	祖父母	兄弟姉妹	配偶者	子ども	施設やグループホームの支援員など	ホームヘルパーなどサービス事業所の人	その他	無回答
全体	全体	151	14	75	0	7	17	9	7	6	0	16
		100.0%	9.3%	49.7%	0.0%	4.6%	11.3%	6.0%	4.6%	4.0%	0.0%	10.6%
障害種別	身体障害	65	8	20	0	2	13	6	3	5	0	8
		100.0%	12.3%	30.8%	0.0%	3.1%	20.0%	9.2%	4.6%	7.7%	0.0%	12.3%
	知的障害	87	10	56	0	5	1	0	5	0	0	10
		100.0%	11.5%	64.4%	0.0%	5.7%	1.1%	0.0%	5.7%	0.0%	0.0%	11.5%
	精神障害	31	4	14	0	1	5	3	2	0	0	2
		100.0%	12.9%	45.2%	0.0%	3.2%	16.1%	9.7%	6.5%	0.0%	0.0%	6.5%
	発達障害	60	2	46	0	0	2	2	3	0	0	5
		100.0%	3.3%	76.7%	0.0%	0.0%	3.3%	3.3%	5.0%	0.0%	0.0%	8.3%
	強度行動障害	25	1	15	0	0	2	1	3	0	0	3
		100.0%	4.0%	60.0%	0.0%	0.0%	8.0%	4.0%	12.0%	0.0%	0.0%	12.0%
	高次脳機能障害	12	2	3	0	1	4	0	1	0	0	1
		100.0%	16.7%	25.0%	0.0%	8.3%	33.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%
	難病	25	1	11	0	2	5	3	0	3	0	0
		100.0%	4.0%	44.0%	0.0%	8.0%	20.0%	12.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%
	手帳なし	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
		100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%

（５）　介助者の状態

問１６　あなたを介助してくれる家族で、主に介助をしてくれる方についてお答えください。

①　年齢

②　健康状態

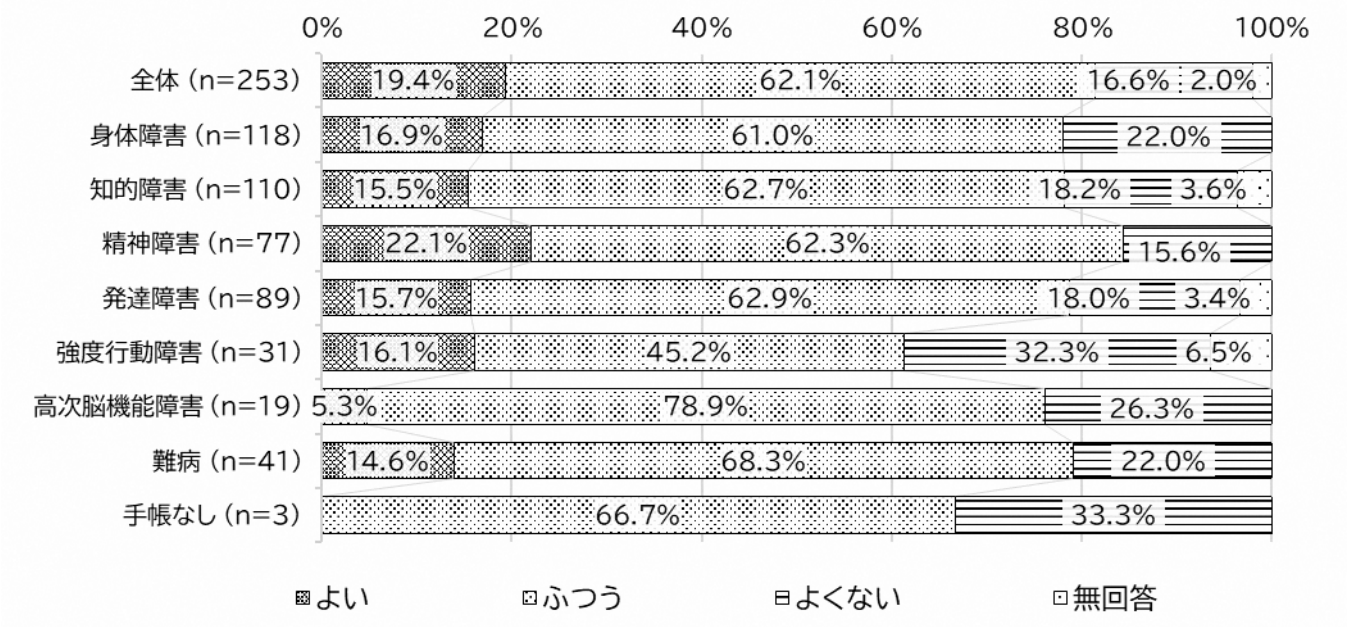
主な介助者の年齢については、「70 代以上」が 32.4%と最も多く、次いで「50 代」が 25.3%、「60 代」が 22.1%となっています。「60 代」（22.1%）、「70 代以上」（32.4%）を合わせると 54.5%と５割を超え、介助者の高齢化が進んでいることがうかがえます。なお、前回調査でも「60 代」「70 代以上」を合わせると 50.6%と同様の傾向が見られた中、より介助者の高齢化の傾向が深刻化していることが考えられます。

■【介助者の年齢】

上段：回答者数 下段：構成比		全体 (n)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	無回答
全体	全体	253	4	3	12	21	64	56	82	0	11
		100.0%	1.6%	1.2%	4.7%	8.3%	25.3%	22.1%	32.4%	0.0%	4.3%
障害種別	身体障害	118	0	0	5	13	22	30	46	0	2
		100.0%	0.0%	0.0%	4.2%	11.0%	18.6%	25.4%	39.0%	0.0%	1.7%
	知的障害	110	1	1	2	4	30	26	42	0	4
		100.0%	0.9%	0.9%	1.8%	3.6%	27.3%	23.6%	38.2%	0.0%	3.6%
	精神障害	77	3	2	5	6	19	15	24	0	3
		100.0%	3.9%	2.6%	6.5%	7.8%	24.7%	19.5%	31.2%	0.0%	3.9%
	発達障害	89	3	1	5	5	32	17	24	0	2
		100.0%	3.4%	1.1%	5.6%	5.6%	36.0%	19.1%	27.0%	0.0%	2.2%
	強度行動障害	31	2	1	0	1	8	7	11	0	1
		100.0%	6.5%	3.2%	0.0%	3.2%	25.8%	22.6%	35.5%	0.0%	3.2%
	高次脳機能障害	19	0	0	0	2	4	8	6	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%	21.1%	42.1%	31.6%	0.0%	0.0%
	難病	41	0	0	2	6	9	9	15	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	4.9%	14.6%	22.0%	22.0%	36.6%	0.0%	0.0%
	手帳なし	3	0	0	0	0	1	2	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%

主な介助者の健康状態については、「ふつう」が 62.1%で最も多く、次いで「よい」が 19.4%となっています。

■【介助者の健康状態】

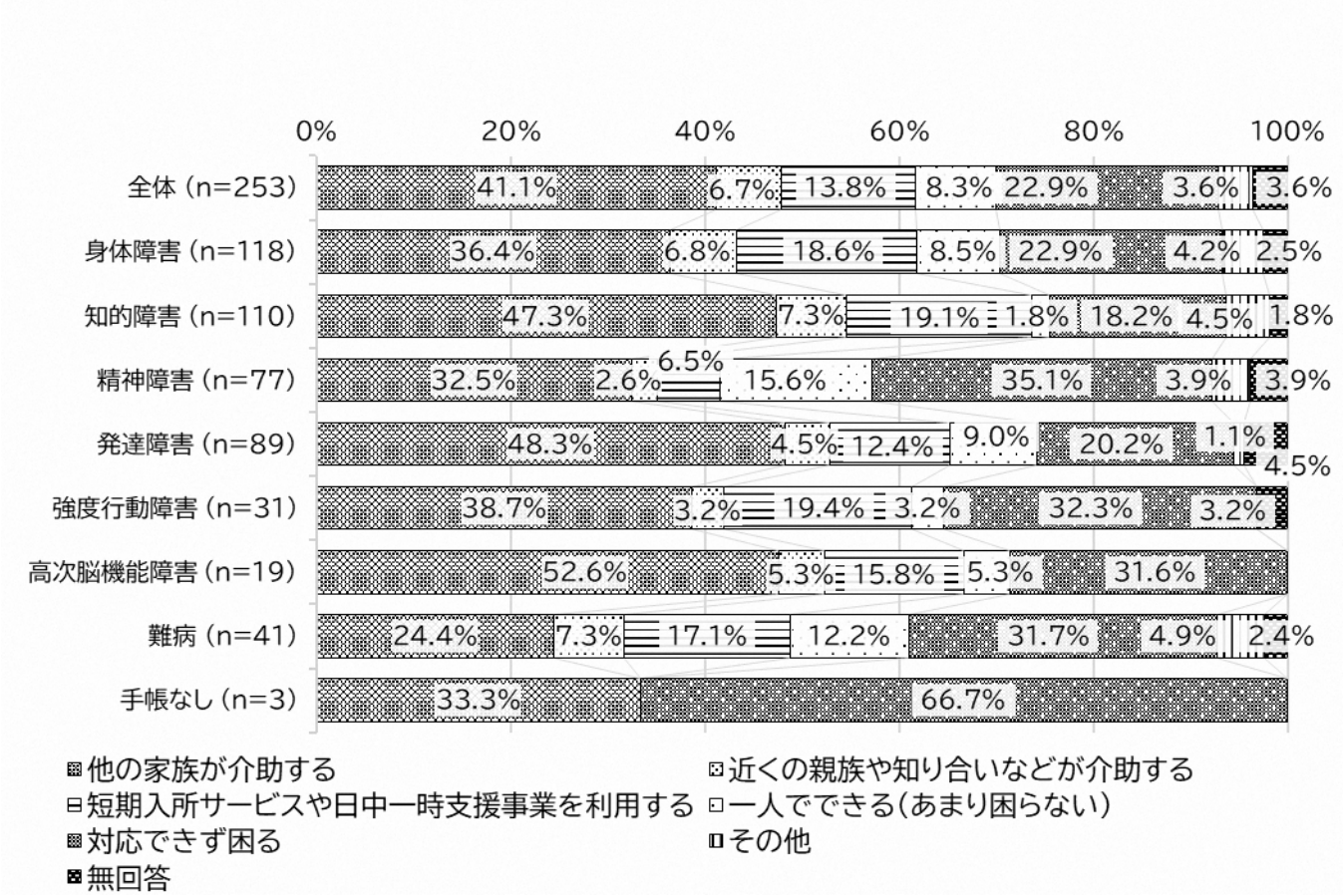


（６）　介助者が一時的に介助ができなくなった場合の対応

問 16③　主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合の対応についてどのようにされますか。（○は１つだけ）

主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合については、「他の家族が介助する」が 41.1%と最も多く、次いで、「対応できず困る」が 22.9%、「短期入所サービスや日中一時支援事業を利用する」が 13.8%となっています。精神障害者・難病患者では「対応できず困る」が最も多くなっており、主な介助者の高齢化が進む状況において、介助者が介助できなくなった時の影響が特に大きくなることが考えられます。

■【介助者が一時的に介助ができなくなった場合の対応】



（７）　介助で困っていること

問１６④　介助を受けていて困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

介助を受けていて困っていることについては、「精神的負担が大きい」が 31.2%と最も多く、次いで、「介助者が少ない」が 25.3%、「経済的負担が大きい」が 22.5%となっています。

■【介助で困っていること（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	精神的負担が大きい	経済的負担が大きい	身体的負担が大きい	介助者が少ない	望まない異性による介助がある	その他	無回答
全体	全体	253	79	57	29	64	0	26	0
		100.0%	31.2%	22.5%	11.5%	25.3%	0.0%	10.3%	0.0%
障害種別	身体障害	118	42	29	19	32	0	9	0
		100.0%	35.6%	24.6%	16.1%	27.1%	0.0%	7.6%	0.0%
	知的障害	110	20	18	12	31	0	10	19
		100.0%	18.2%	16.4%	10.9%	28.2%	0.0%	9.1%	17.3%
	精神障害	77	35	23	7	14	0	11	0
		100.0%	45.5%	29.9%	9.1%	18.2%	0.0%	14.3%	0.0%
	発達障害	89	25	12	7	19	0	9	17
		100.0%	28.1%	13.5%	7.9%	21.3%	0.0%	10.1%	19.1%
	強度行動障害	31	12	10	7	12	0	4	0
		100.0%	38.7%	32.3%	22.6%	38.7%	0.0%	12.9%	0.0%
	高次脳機能障害	19	7	8	5	5	0	2	0
		100.0%	36.8%	42.1%	26.3%	26.3%	0.0%	10.5%	0.0%
	難病	41	8	14	6	16	0	1	0
		100.0%	19.5%	34.1%	14.6%	39.0%	0.0%	2.4%	0.0%
	手帳なし	3	1	0	0	0	0	2	0
		100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%

（８）　将来の暮らしの希望

問１７　あなたは今後４年以内にどのように暮らしたいと思いますか。（○は１つだけ）

今後４年以内にどのように暮らしたいかについては、「家族と一緒に暮らしたい」が56.8%と最も多く、次いで、「一人で暮らしたい」が21.4%となっています。

■【将来の暮らしの希望】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	一人で暮らしたい	家族と一緒に暮らしたい	グループホームで暮らしたい	グループホームに入った後に、一人暮らしをしたい	入所施設で暮らしたい	その他	無回答
全体	全体	646	138	367	30	5	38	23	45
		100%	21.4%	56.8%	4.6%	0.8%	5.9%	3.6%	7.0%
障害種別	身体障害	385	74	239	7	2	27	8	28
		100%	19.2%	62.1%	1.8%	0.5%	7.0%	2.1%	7.3%
	知的障害	184	23	88	29	2	19	8	15
		100%	12.5%	47.8%	15.8%	1.1%	10.3%	4.3%	8.2%
	精神障害	193	71	96	3	2	3	8	10
		100%	36.8%	49.7%	1.6%	1.0%	1.6%	4.1%	5.2%
	発達障害	147	30	73	12	2	9	7	14
		100%	20.4%	49.7%	8.2%	1.4%	6.1%	4.8%	9.5%
	強度行動障害	45	5	17	8	1	8	3	3
		100%	11.1%	37.8%	17.8%	2.2%	17.8%	6.7%	6.7%
	高次脳機能障害	37	6	23	1	0	6	1	0
		100%	16.2%	62.2%	2.7%	0.0%	16.2%	2.7%	0.0%
	難病	90	15	60	1	2	7	1	4
		100%	16.7%	66.7%	1.1%	2.2%	7.8%	1.1%	4.4%
	手帳なし	11	1	4	0	0	2	1	3
		100%	9.1%	36.4%	0.0%	0.0%	18.2%	9.1%	27.3%

（９）　通院時や医療を受けるにあたって困っていること

問１８　通院時や医療を受ける際に困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

通院時や医療を受ける際に困っていることについては､「公共交通機関(バス･電車等)を利用することが困難」が 27.4%で最も多く、次いで「医者や看護師とのコミュニケーション」が 26.3%となっています。知的障害者・発達障害・強度行動障害では「医者や看護師とのコミュニケーション」が４割以上と多くなっています。

■【通院時や医療を受けるにあたって困っていること（複数回答)】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	公共交通機関（バス・電車等）を利用することが困難	支援者を見つけることが困難	医者や看護師とのコミュニケーション	感染症に感染することが不安なため通院ができなくなった	その他	無回答
全体	全体	646	177	91	170	13	73	252
		100.0%	27.4%	14.1%	26.3%	2.0%	11.3%	39.0%
障害種別	身体障害	385	113	45	72	9	48	164
		100.0%	29.4%	11.7%	18.7%	2.3%	12.5%	42.6%
	知的障害	184	53	36	77	4	17	58
		100.0%	28.8%	19.6%	41.8%	2.2%	9.2%	31.5%
	精神障害	193	48	34	55	5	17	75
		100.0%	24.9%	17.6%	28.5%	2.6%	8.8%	38.9%
	発達障害	147	38	31	60	4	14	42
		100.0%	25.9%	21.1%	40.8%	2.7%	9.5%	28.6%
	強度行動障害	45	20	13	22	2	5	6
		100.0%	44.4%	28.9%	48.9%	4.4%	11.1%	13.3%
	高次脳機能障害	37	18	6	14	3	4	11
		100.0%	48.6%	16.2%	37.8%	8.1%	10.8%	29.7%
	難病	90	40	17	26	5	10	29
		100.0%	44.4%	18.9%	28.9%	5.6%	11.1%	32.2%
	手帳なし	11	2	0	1	0	4	4
		100.0%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	36.4%	36.4%

（10）　地域で生活するために必要な支援

問１９　地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思うかについては、「経済的な負担の軽減」が 57.0%と最も多く、次いで、「相談対応等の充実」が 36.5%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 31.4%、「障害者に適した住居の確保」が 30.0%などとなっています。

■【地域で生活するために必要な支援（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	自立生活（一人暮らし、結婚生活等）が体験できる場の確保	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実	地域住民等の理解	情報の取得利用や意思疎通についての支援	その他	無回答
全体	全体	646	141	194	203	125	368	236	144	158	22	91
		100.0%	21.8%	30.0%	31.4%	19.3%	57.0%	36.5%	22.3%	24.5%	3.4%	14.1%
障害種別	身体障害	385	96	103	110	46	212	111	65	75	14	62
		100.0%	24.9%	26.8%	28.6%	11.9%	55.1%	28.8%	16.9%	19.5%	3.6%	16.1%
	知的障害	184	41	64	75	44	93	69	59	60	5	28
		100.0%	22.3%	34.8%	40.8%	23.9%	50.5%	37.5%	32.1%	32.6%	2.7%	15.2%
	精神障害	193	38	65	55	67	126	96	52	62	5	17
		100.0%	19.7%	33.7%	28.5%	34.7%	65.3%	49.7%	26.9%	32.1%	2.6%	8.8%
	発達障害	147	28	60	48	53	93	79	57	63	3	15
		100.0%	19.0%	40.8%	32.7%	36.1%	63.3%	53.7%	38.8%	42.9%	2.0%	10.2%
	強度行動障害	45	14	20	27	11	32	25	20	21	3	2
		100.0%	31.1%	44.4%	60.0%	24.4%	71.1%	55.6%	44.4%	46.7%	6.7%	4.4%
	高次脳機能障害	37	11	11	13	9	23	11	9	8	2	3
		100.0%	29.7%	29.7%	35.1%	24.3%	62.2%	29.7%	24.3%	21.6%	5.4%	8.1%
	難病	90	34	38	36	17	63	26	21	18	2	8
		100.0%	37.8%	42.2%	40.0%	18.9%	70.0%	28.9%	23.3%	20.0%	2.2%	8.9%
	手帳なし	11	2	0	3	0	2	2	2	0	3	3
		100.0%	18.2%	0.0%	27.3%	0.0%	18.2%	18.2%	18.2%	0.0%	27.3%	27.3%

４　日中活動や就労

（１）　外出の頻度

問２０　あなたは１週間にどの程度の外出をしますか。（○は１つだけ）

外出頻度については、「ほぼ毎日」が 54.0%で最も多く、次いで、「１週間に数回」が 31.4%となっています。身体障害者・強度行動障害者・高次脳機能障害者では「めったに外出しない」、高次脳機能障害者・難病患者では「まったく外出しない」がともに１割を超えており、他の障害と比べて多くなっています。

■【外出頻度】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	ほぼ毎日	1週間に数回	めったに外出しない	まったく外出しない	無回答
全体	全体	646	349	203	57	22	15
		100%	54.0%	31.4%	8.8%	3.4%	2.3%
障害種別	身体障害	385	192	125	42	16	10
		100%	49.9%	32.5%	10.9%	4.2%	2.6%
	知的障害	184	127	38	10	6	3
		100%	69.0%	20.7%	5.4%	3.3%	1.6%
	精神障害	193	88	80	17	5	3
		100%	45.6%	41.5%	8.8%	2.6%	1.6%
	発達障害	147	100	32	10	4	1
		100%	68.0%	21.8%	6.8%	2.7%	0.7%
	強度行動障害	45	23	12	5	4	1
		100%	51.1%	26.7%	11.1%	8.9%	2.2%
	高次脳機能障害	37	15	12	5	4	1
		100%	40.5%	32.4%	13.5%	10.8%	2.7%
	難病	90	45	29	5	9	2
		100%	50.0%	32.2%	5.6%	10.0%	2.2%
	手帳なし	11	3	3	2	1	2
		100%	27.3%	27.3%	18.2%	9.1%	18.2%

（２）　外出の目的

問２１　あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。
（あてはまるものすべてに○）

外出する目的については、「買い物に行く」が 61.3%と最も多く、次いで「医療機関への受診」が 55.0%、「通園・通所・通学・通勤」が 50.3%などとなっています。

■【外出の目的（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	通園・通所・通学・通勤	訓練やリハビリに行く	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	グループ活動に参加する	散歩に行く	その他	無回答
全体	全体	646	325	67	355	396	129	121	50	180	39	26
		100.0%	50.3%	10.4%	55.0%	61.3%	20.0%	18.7%	7.7%	27.9%	6.0%	4.0%
障害種別	身体障害	385	156	47	221	239	86	67	33	99	28	20
		100.0%	40.5%	12.2%	57.4%	62.1%	22.3%	17.4%	8.6%	25.7%	7.3%	5.2%
	知的障害	184	134	14	72	95	23	34	21	44	5	9
		100.0%	72.8%	7.6%	39.1%	51.6%	12.5%	18.5%	11.4%	23.9%	2.7%	4.9%
	精神障害	193	89	16	123	124	32	39	9	59	12	5
		100.0%	46.1%	8.3%	63.7%	64.2%	16.6%	20.2%	4.7%	30.6%	6.2%	2.6%
	発達障害	147	97	16	67	79	20	25	9	48	7	3
		100.0%	66.0%	10.9%	45.6%	53.7%	13.6%	17.0%	6.1%	32.7%	4.8%	2.0%
	強度行動障害	45	27	0	23	21	5	5	2	17	5	2
		100.0%	60.0%	0.0%	51.1%	46.7%	11.1%	11.1%	4.4%	37.8%	11.1%	4.4%
	高次脳機能障害	37	17	7	24	23	8	11	5	12	1	3
		100.0%	45.9%	18.9%	64.9%	62.2%	21.6%	29.7%	13.5%	32.4%	2.7%	8.1%
	難病	90	42	11	52	49	16	14	8	22	9	4
		100.0%	46.7%	12.2%	57.8%	54.4%	17.8%	15.6%	8.9%	24.4%	10.0%	4.4%
	手帳なし	11	1	1	6	6	1	1	0	3	1	2
		100.0%	9.1%	9.1%	54.5%	54.5%	9.1%	9.1%	0.0%	27.3%	9.1%	18.2%

（３）　外出について困ること

問２２　外出について困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

外出について困ることについては、「困った時にどうすればいいのか心配」が 27.4%と最も多く、次いで、「休憩できる場所が少ない」が 24.1%、「道路や駅に階段や段差が多い」が 23.7%などとなっています。高次脳機能障害者・難病患者では「道路や駅に階段や段差が多い」が 40%以上と最も多くなっています。

■【外出について困ること（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	公共交通機関が少ない（ない）	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーター等）	介助者が確保できない	外出にお金がかかる（ヘルパーの利用料など）	周囲の目が気になる	発作等突然の身体の変化が心配	困った時にどうすればいいのか心配	休憩できる場所が少ない	その他	無回答
全体	全体	646	89	109	153	97	89	75	148	76	76	177	156	49	149
		100.0%	13.8%	16.9%	23.7%	15.0%	13.8%	11.6%	22.9%	11.8%	11.8%	27.4%	24.1%	7.6%	23.1%
障害種別	身体障害	385	57	81	128	35	67	42	80	29	45	68	105	31	93
		100.0%	14.8%	21.0%	33.2%	9.1%	17.4%	10.9%	20.8%	7.5%	11.7%	17.7%	27.3%	8.1%	24.2%
	知的障害	184	25	33	29	63	24	44	40	19	20	79	33	11	39
		100.0%	13.6%	17.9%	15.8%	34.2%	13.0%	23.9%	21.7%	10.3%	10.9%	42.9%	17.9%	6.0%	21.2%
	精神障害	193	30	20	25	25	17	14	63	41	36	67	56	15	39
		100.0%	15.5%	10.4%	13.0%	13.0%	8.8%	7.3%	32.6%	21.2%	18.7%	34.7%	29.0%	7.8%	20.2%
	発達障害	147	18	18	15	37	13	23	39	39	18	67	31	9	32
		100.0%	12.2%	12.2%	10.2%	25.2%	8.8%	15.6%	26.5%	26.5%	12.2%	45.6%	21.1%	6.1%	21.8%
	強度行動障害	45	9	10	7	16	10	16	17	16	14	25	12	2	5
		100.0%	20.0%	22.2%	15.6%	35.6%	22.2%	35.6%	37.8%	35.6%	31.1%	55.6%	26.7%	4.4%	11.1%
	高次脳機能障害	37	8	13	16	7	12	5	10	6	9	13	12	3	3
		100.0%	21.6%	35.1%	43.2%	18.9%	32.4%	13.5%	27.0%	16.2%	24.3%	35.1%	32.4%	8.1%	8.1%
	難病	90	20	25	41	15	16	21	26	11	16	24	33	10	16
		100.0%	22.2%	27.8%	45.6%	16.7%	17.8%	23.3%	28.9%	12.2%	17.8%	26.7%	36.7%	11.1%	17.8%
	手帳なし	11	1	1	2	1	2	1	0	1	0	3	3	2	3
		100.0%	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	27.3%	27.3%	18.2%	27.3%

（４）　平日日中の過ごし方

問２３　あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（○は１つだけ）

平日の日中の過ごし方については、「自宅で過ごしている」が 38.2%と最も多く、次いで、「会社勤めや、自営業、家業等で収入を得て仕事をしている」が 32.0%、「福祉施設、通所事業所等に通っている（就労継続支援Ａ型を含む）」が 17.3%などとなっています。知的障害者と強度行動障害者では「福祉施設、通所事業所等に通っている（就労継続支援Ａ型を含む）」が最も多くなっています。

■【平日日中の過ごし方】

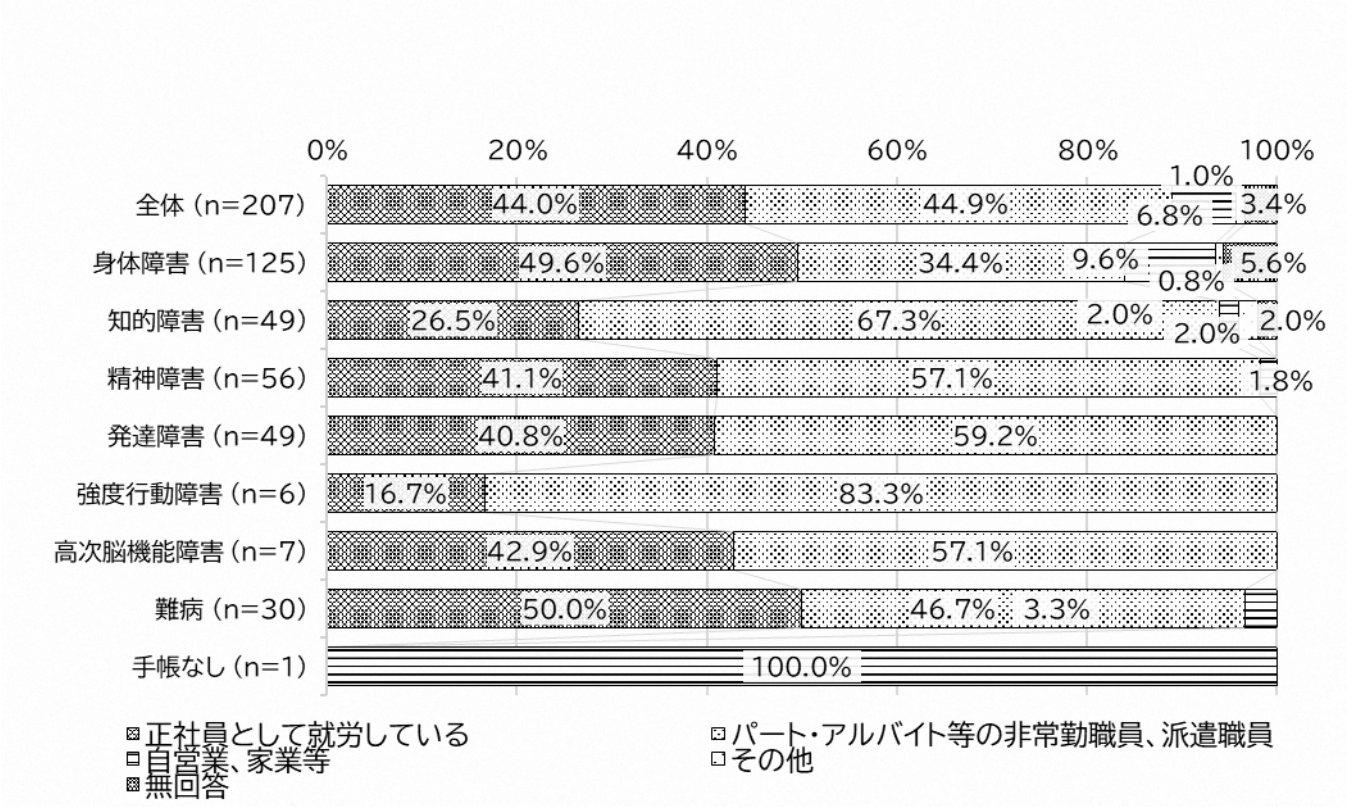
上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	会社勤めや、自営業、家業等で収入を得る仕事をしている	自宅で過ごしている	福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援Ａ型を含む)	病院などのデイケア、リハビリテーションを受けている	入所している施設や病院等で過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校等に通っている	その他	無回答
全体	全体	646	207	247	112	11	25	10	11	23
		100%	32.0%	38.2%	17.3%	1.7%	3.9%	1.5%	1.7%	3.6%
障害種別	身体障害	385	125	174	34	8	20	2	7	15
		100%	32.5%	45.2%	8.8%	2.1%	5.2%	0.5%	1.8%	3.9%
	知的障害	184	49	28	77	1	10	4	3	12
		100%	26.6%	15.2%	41.8%	0.5%	5.4%	2.2%	1.6%	6.5%
	精神障害	193	56	89	30	4	2	5	2	5
		100%	29.0%	46.1%	15.5%	2.1%	1.0%	2.6%	1.0%	2.6%
	発達障害	147	49	37	43	1	5	7	1	4
		100%	33.3%	25.2%	29.3%	0.7%	3.4%	4.8%	0.7%	2.7%
	強度行動障害	45	6	10	19	0	6	0	2	2
		100%	13.3%	22.2%	42.2%	0.0%	13.3%	0.0%	4.4%	4.4%
	高次脳機能障害	37	7	15	4	1	4	1	2	3
		100%	18.9%	40.5%	10.8%	2.7%	10.8%	2.7%	5.4%	8.1%
	難病	90	30	35	11	2	5	2	1	4
		100%	33.3%	38.9%	12.2%	2.2%	5.6%	2.2%	1.1%	4.4%
	手帳なし	11	1	5	2	0	0	0	1	2
		100%	9.1%	45.5%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	18.2%

（５）　勤務形態

問２３－１　【収入を得る仕事をしている方】どのような勤務形態で働いていますか。 （○は１つだけ）

収入を得て仕事をしている方について、どのような勤務形態で働いているかについては、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が 44.9%と最も多く、次いで、「正社員として就労している」が 44.0%、「自営業、家業等」が 6.8 %となっています。

■【勤務形態】



（６）　仕事を見つけた経路

問２３－２　【正社員として就労している方】あなたは今の仕事をなにを通じて見つけましたか。（○は１つだけ）

正社員として就労している方について、今の仕事を見つけた経路については、「ハローワーク（公共職業安定所）」が 20.8%と最も多く、次いで、「自分自身」が 15.5%となっています。

■【仕事を見つけた経路】

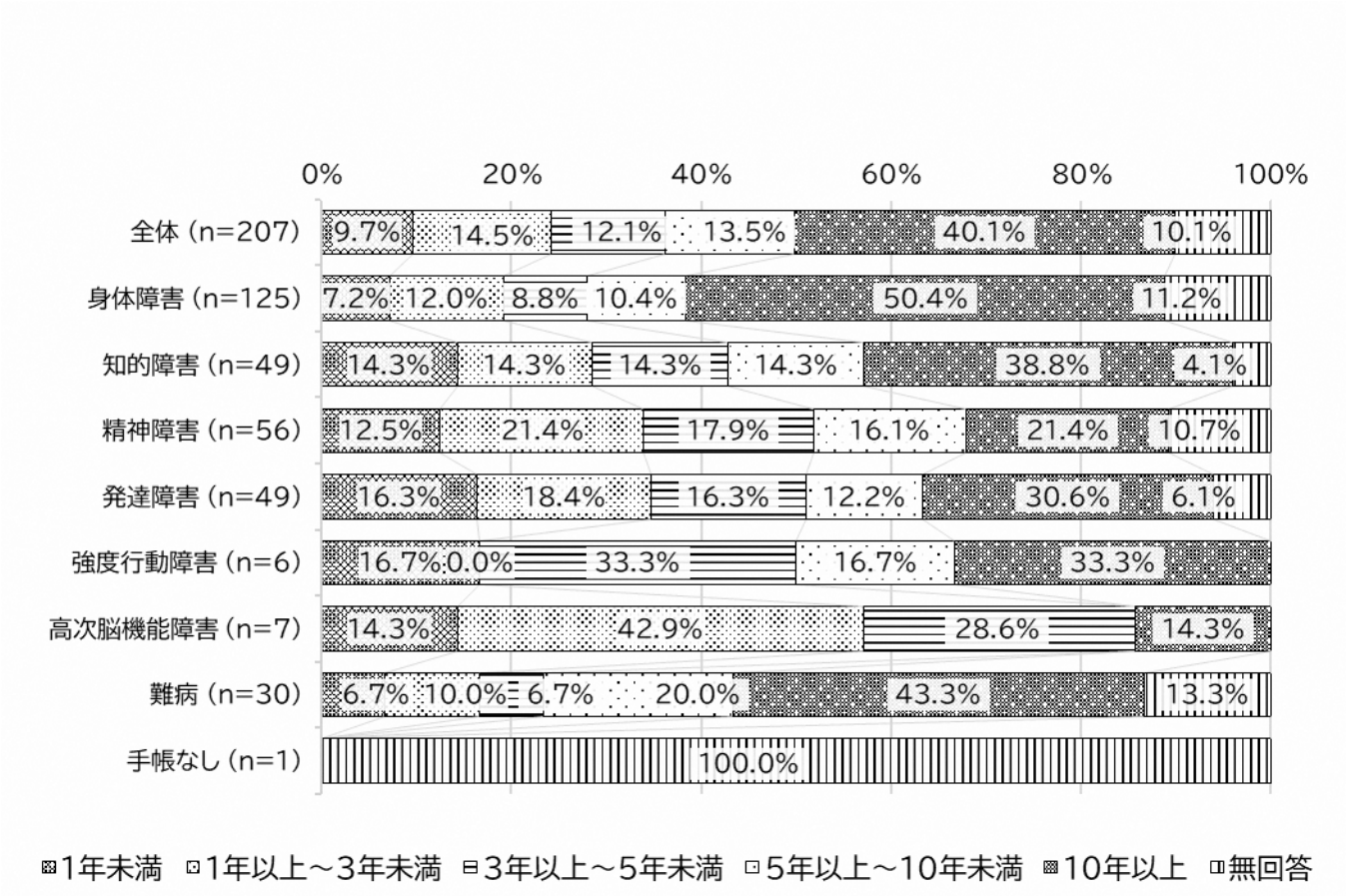
上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	ハローワーク（公共職業安定所）	障害者就業・生活支援センター	学校	職業訓練をうけたところ	施設・障害福祉サービス事業所	知人からの情報	家族からの情報	自分自身で見つけた（インターネットなど）	その他	無回答
全体	全体	207	43	16	30	5	5	19	12	32	6	39
		100%	20.8%	7.7%	14.5%	2.4%	2.4%	9.2%	5.8%	15.5%	2.9%	18.8%
障害種別	身体障害	125	21	6	17	1	0	13	9	24	4	30
		100%	16.8%	4.8%	13.6%	0.8%	0.0%	10.4%	7.2%	19.2%	3.2%	24.0%
	知的障害	49	9	7	13	3	2	4	3	3	1	4
		100%	18.4%	14.3%	26.5%	6.1%	4.1%	8.2%	6.1%	6.1%	2.0%	8.2%
	精神障害	56	18	4	4	2	3	4	3	9	1	8
		100%	32.1%	7.1%	7.1%	3.6%	5.4%	7.1%	5.4%	16.1%	1.8%	14.3%
	発達障害	49	13	7	11	2	2	3	0	4	2	5
		100%	26.5%	14.3%	22.4%	4.1%	4.1%	6.1%	0.0%	8.2%	4.1%	10.2%
	強度行動障害	6	0	2	1	0	0	2	0	0	0	1
		100%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
	高次脳機能障害	7	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1
		100%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%
	難病	30	5	2	1	0	0	4	3	8	0	7
		100%	16.7%	6.7%	3.3%	0.0%	0.0%	13.3%	10.0%	26.7%	0.0%	23.3%
	手帳なし	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

（７）　就労年数

問２３－３　【正社員として就労している方】あなたは今の仕事を始めて何年ですか。 （○は１つだけ）

正社員として就労している方の、今の仕事の就労年数については、「１０年以上」が40.1%と最も多く、次いで、「１年以上～３年未満」が14.5%となっています。

■【就労年数】

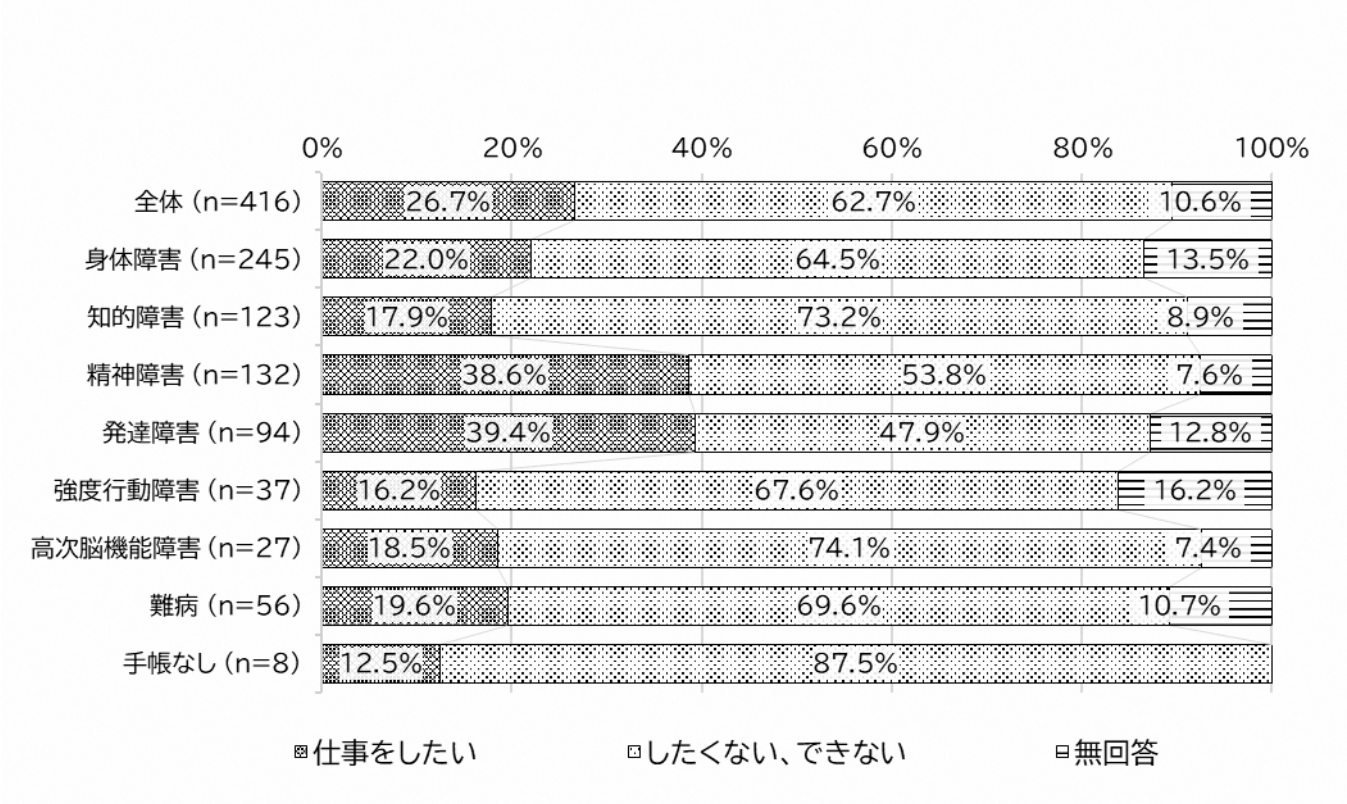


（８）　一般就労の希望

問２４　【一般就労（収入を得る仕事）をしていない方】あなたは今後、一般就労（収入を得る仕事）をしたいと思いますか。（○は１つだけ）

一般就労（収入を得る仕事）をしていない方の、今後の就労意向については、「したい」が 26.7%、「したくない、できない」が 62.7%となっています。精神障害者と発達障害では「したい」が４割近くと多くなっています。

■【一般就労の希望】

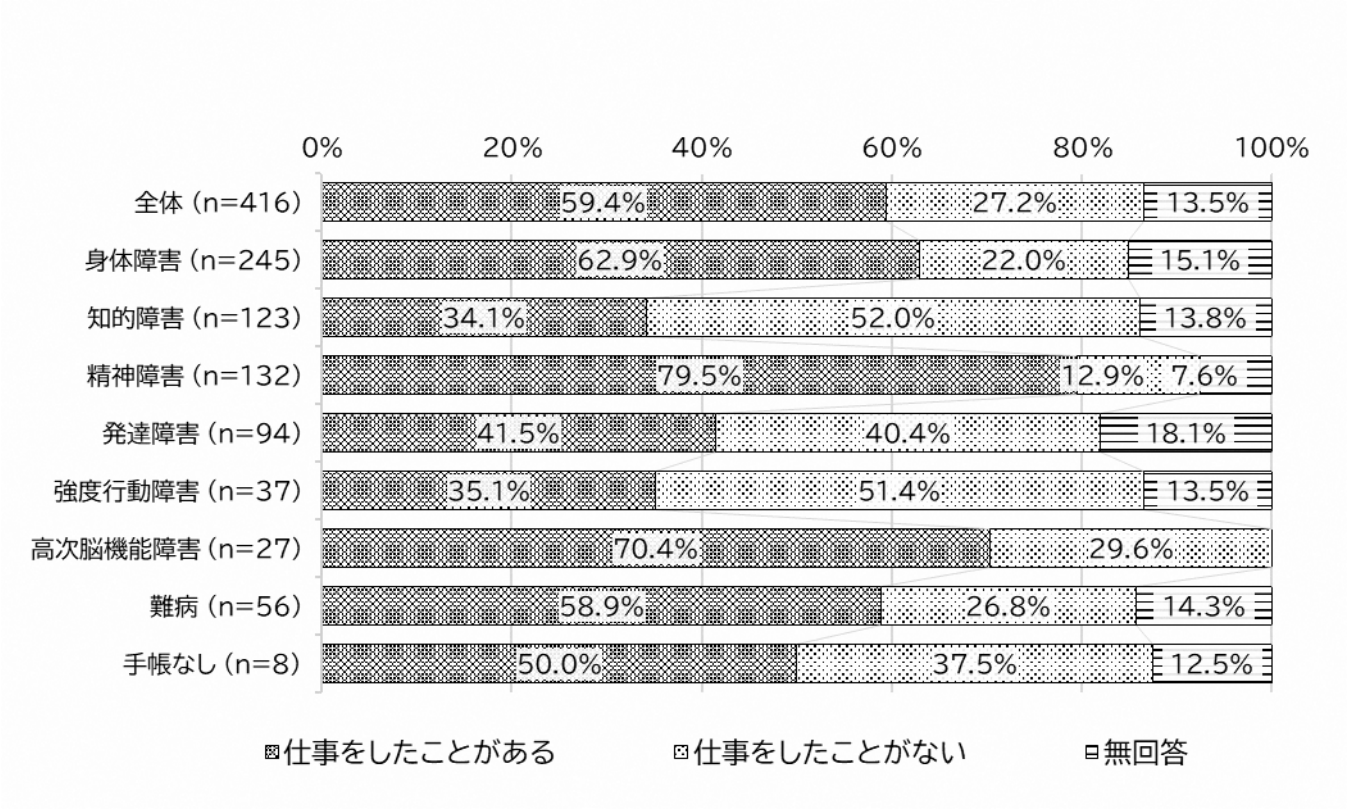


（９）　一般就労の経験

問２５　【一般就労（収入を得る仕事）をしていない方】今までに収入を得る仕事をしたことはありますか。（○は１つだけ）

一般就労（収入を得る仕事）をしていない方の、今までの一般就労の経験については、「したことがある」が 59.4%、「したことがない」が 27.2%となっています。精神障害者・高次脳機能障害者では「したことがある」がともに７割を超えています。

■【一般就労の経験】



（10） 仕事を辞めた理由

問２６ 【一般就労（収入を得る仕事）をしたことがある方】仕事を辞められた主な理由について、お聞きします。（あてはまるものすべてに○）

今までに一般就労をしたことがある方の、仕事を辞めた理由については、「体調悪化により仕事を続けることが難しくなったため」が 40.1%と最も多く、次いで、「職場の人間関係が原因で辞めた」が 29.6%、「仕事の契約期間が終了した」と「仕事を続けることはできたが、自分や家庭の事情で辞めた」がともに 17.4%などとなっています。

■【仕事を辞めた理由（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	仕事の契約期間が終了した	職場の人間関係が原因で辞めた	仕事が合わなかったため	作業内容や勤務場所が変わったため	仕事を続けることはできたが、自分や家庭の事情で辞めた	会社の都合で辞めさせられた	障害に対する周囲の理解や配慮が得られなかったため	通勤や仕事中の移動が大変だったため	コロナウイルス感染症関係で退職	体調悪化により仕事を続けることが難しくなったため	その他	無回答
全体	全体	247	43	73	46	9	43	27	38	18	0	99	22	18
		100.0%	17.4%	29.6%	18.6%	3.6%	17.4%	10.9%	15.4%	7.3%	0.0%	40.1%	8.9%	7.3%
障害種別	身体障害	154	29	26	16	6	32	19	16	10	0	57	13	15
		100.0%	18.8%	16.9%	10.4%	3.9%	20.8%	12.3%	10.4%	6.5%	0.0%	37.0%	8.4%	9.7%
	知的障害	42	7	14	9	2	1	6	8	2	0	6	2	6
		100.0%	16.7%	33.3%	21.4%	4.8%	2.4%	14.3%	19.0%	4.8%	0.0%	14.3%	4.8%	14.3%
	精神障害	105	18	48	30	6	13	16	25	9	0	59	8	3
		100.0%	17.1%	45.7%	28.6%	5.7%	12.4%	15.2%	23.8%	8.6%	0.0%	56.2%	7.6%	2.9%
	発達障害	39	7	24	21	3	4	8	12	3	0	19	2	1
		100.0%	17.9%	61.5%	53.8%	7.7%	10.3%	20.5%	30.8%	7.7%	0.0%	48.7%	5.1%	2.6%
	強度行動障害	13	2	4	3	0	1	3	2	0	0	6	0	2
		100.0%	15.4%	30.8%	23.1%	0.0%	7.7%	23.1%	15.4%	0.0%	0.0%	46.2%	0.0%	15.4%
	高次脳機能障害	19	1	2	2	0	3	2	3	0	0	10	1	3
		100.0%	5.3%	10.5%	10.5%	0.0%	15.8%	10.5%	15.8%	0.0%	0.0%	52.6%	5.3%	15.8%
	難病	33	8	6	4	0	8	5	2	1	0	15	0	6
		100.0%	24.2%	18.2%	12.1%	0.0%	24.2%	15.2%	6.1%	3.0%	0.0%	45.5%	0.0%	18.2%
	手帳なし	4	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1	1
		100.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%

（11）　障害者の就労支援として必要なこと

問２７　あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

障害者の就労支援として必要なことについては、「勤務場所におけるバリアフリーの配慮」が 60.8%と最も多く、次いで、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が 58.7%、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が 53.3%、などとなっています。

■【障害者の就労支援として必要なこと（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	介助者（ヘルパー等）の利用	職場の上司や同僚に障害の理解があること	職場の職員による介助や援助等が受けられること	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（ジョブコーチなど）	企業ニーズに合った就労訓練（能力向上のための取組み）	仕事についての職場外での相談対応、支援	家族の協力	その他	無回答
全体	全体	646	218	393	344	191	217	379	202	192	135	250	235	21	18
		100.0%	33.7%	60.8%	53.3%	29.6%	33.6%	58.7%	31.3%	29.7%	20.9%	38.7%	36.4%	3.3%	2.8%
障害種別	身体障害	385	140	239	178	121	133	203	93	91	72	115	134	14	13
		100.0%	36.4%	62.1%	46.2%	31.4%	34.5%	52.7%	24.2%	23.6%	18.7%	29.9%	34.8%	3.6%	3.4%
	知的障害	184	55	106	103	26	79	100	76	57	36	64	70	7	4
		100.0%	29.9%	57.6%	56.0%	14.1%	42.9%	54.3%	41.3%	31.0%	19.6%	34.8%	38.0%	3.8%	2.2%
	精神障害	193	63	114	120	78	48	137	73	79	47	113	69	6	4
		100.0%	32.6%	59.1%	62.2%	40.4%	24.9%	71.0%	37.8%	40.9%	24.4%	58.5%	35.8%	3.1%	2.1%
	発達障害	147	50	73	91	38	50	109	66	68	42	82	64	7	1
		100.0%	34.0%	49.7%	61.9%	25.9%	34.0%	74.1%	44.9%	46.3%	28.6%	55.8%	43.5%	4.8%	0.7%
	強度行動障害	45	19	29	29	10	26	29	26	20	12	27	20	3	0
		100.0%	42.2%	64.4%	64.4%	22.2%	57.8%	64.4%	57.8%	44.4%	26.7%	60.0%	44.4%	6.7%	0.0%
	高次脳機能障害	37	15	25	18	12	14	22	16	11	11	12	15	1	1
		100.0%	40.5%	67.6%	48.6%	32.4%	37.8%	59.5%	43.2%	29.7%	29.7%	32.4%	40.5%	2.7%	2.7%
	難病	90	45	62	47	36	37	57	30	25	24	40	35	4	2
		100.0%	50.0%	68.9%	52.2%	40.0%	41.1%	63.3%	33.3%	27.8%	26.7%	44.4%	38.9%	4.4%	2.2%
	手帳なし	11	1	9	6	4	3	4	2	1	1	3	4	0	2
		100.0%	9.1%	81.8%	54.5%	36.4%	27.3%	36.4%	18.2%	9.1%	9.1%	27.3%	36.4%	0.0%	18.2%

（12）　余暇活動をするために必要なこと

問２８　あなたが余暇にしたい活動をするために何が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

余暇にしたい活動をするために必要なことについては、「特にない」を除いて、「いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所」が 28.6%と最も多く、次いで、「交通機関や公共施設の改善」が 19.8%、「介助者や支援者の付き添い」が 19.7%、「イベントなどの情報が簡単にわかる仕組み」が 16.7%などとなっています。

■【余暇活動をするために必要なこと（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	スポーツや趣味の講習会	より高い資格・能力を身につけるための講座・教室	活動を応援するボランティアの養成	いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所	スポーツ大会など練習の成果を発表する場所	見に行きたいと思うスポーツイベントの開催	介助者や支援者の付き添い	交通機関や公共施設の改善	イベントなどの情報が簡単にわかる仕組み	手話通訳者派遣などのコミュニケーションの支援	特にない	その他	無回答
全体	全体	646	84	74	50	185	13	56	127	128	108	15	216	21	49
		100.0%	13.0%	11.5%	7.7%	28.6%	2.0%	8.7%	19.7%	19.8%	16.7%	2.3%	33.4%	3.3%	7.6%
障害種別	身体障害	385	45	37	22	93	8	41	69	83	62	11	134	10	35
		100.0%	11.7%	9.6%	5.7%	24.2%	2.1%	10.6%	17.9%	21.6%	16.1%	2.9%	34.8%	2.6%	9.1%
	知的障害	184	20	7	20	59	4	15	67	26	33	5	58	3	13
		100.0%	10.9%	3.8%	10.9%	32.1%	2.2%	8.2%	36.4%	14.1%	17.9%	2.7%	31.5%	1.6%	7.1%
	精神障害	193	34	38	14	62	4	11	29	45	35	2	63	8	12
		100.0%	17.6%	19.7%	7.3%	32.1%	2.1%	5.7%	15.0%	23.3%	18.1%	1.0%	32.6%	4.1%	6.2%
	発達障害	147	15	17	15	50	5	7	33	29	29	4	51	5	7
		100.0%	10.2%	11.6%	10.2%	34.0%	3.4%	4.8%	22.4%	19.7%	19.7%	2.7%	34.7%	3.4%	4.8%
	強度行動障害	45	8	6	7	15	1	2	22	7	9	3	10	2	4
		100.0%	17.8%	13.3%	15.6%	33.3%	2.2%	4.4%	48.9%	15.6%	20.0%	6.7%	22.2%	4.4%	8.9%
	高次脳機能障害	37	6	8	6	14	3	2	11	12	10	2	12	0	2
		100.0%	16.2%	21.6%	16.2%	37.8%	8.1%	5.4%	29.7%	32.4%	27.0%	5.4%	32.4%	0.0%	5.4%
	難病	90	12	15	5	21	3	9	27	27	14	0	26	2	9
		100.0%	13.3%	16.7%	5.6%	23.3%	3.3%	10.0%	30.0%	30.0%	15.6%	0.0%	28.9%	2.2%	10.0%
	手帳なし	11	3	3	3	5	0	0	0	1	1	0	2	0	3
		100.0%	27.3%	27.3%	27.3%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	18.2%	0.0%	27.3%

（13）　健康のために取り組んでいる活動

問２９　あなたが健康のために取り組んでいる活動はありますか。（あてはまるものすべてに○）

健康のために取り組んでいる活動については、「できるだけ体を動かす機会を増やしている」が 40.6%と最も多く、次いで、「定期的に健康診断を受けている」が 35.0%となっています。

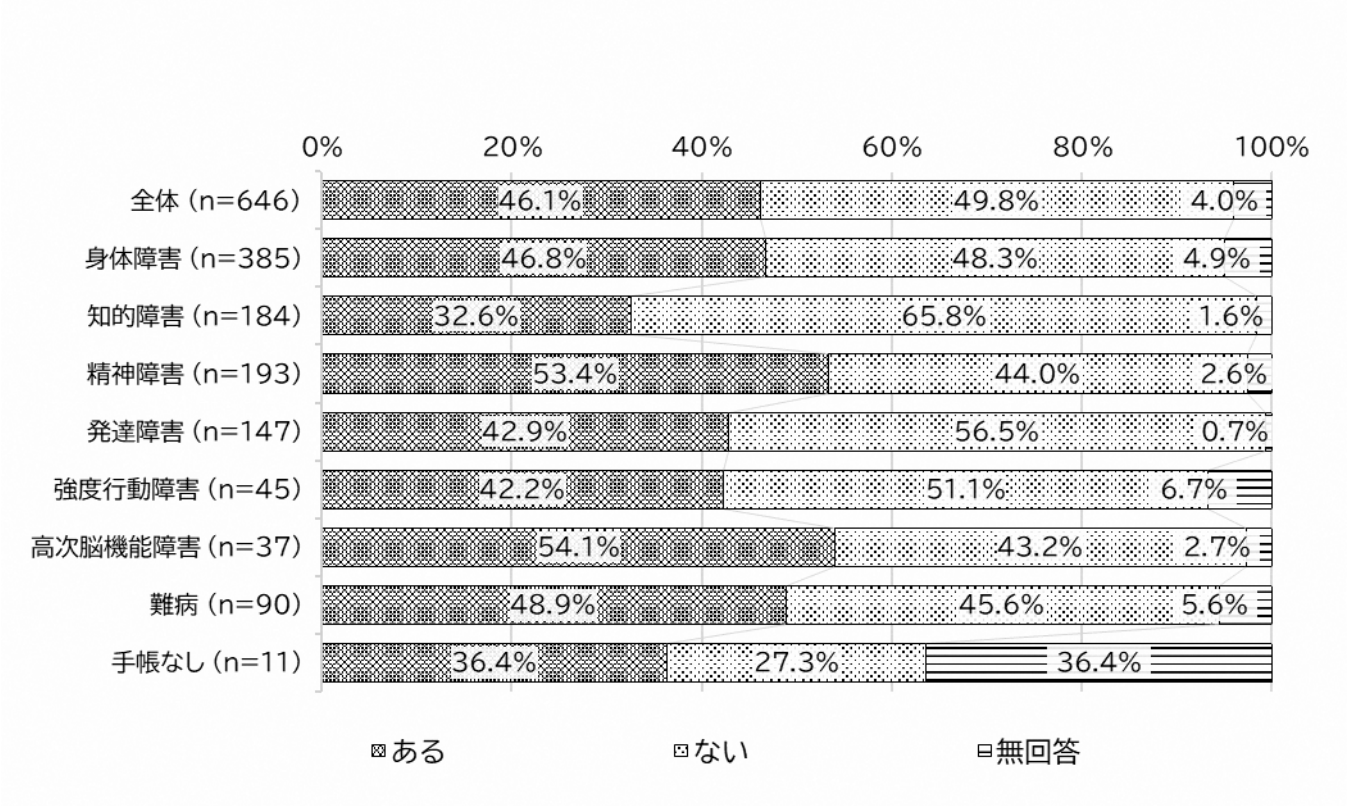
■【健康のために取り組んでいる活動（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	定期的にスポーツをする	できるだけ体を動かす機会を増やしている	定期的に健康診断を受けている	特に何もしていない	その他	無回答
全体	全体	646	47	262	226	226	32	22
		100.0%	7.3%	40.6%	35.0%	35.0%	5.0%	3.4%
障害種別	身体障害	385	26	157	137	130	20	18
		100.0%	6.8%	40.8%	35.6%	33.8%	5.2%	4.7%
	知的障害	184	16	58	66	73	7	4
		100.0%	8.7%	31.5%	35.9%	39.7%	3.8%	2.2%
	精神障害	193	17	79	67	73	12	4
		100.0%	8.8%	40.9%	34.7%	37.8%	6.2%	2.1%
	発達障害	147	13	63	48	60	5	1
		100.0%	8.8%	42.9%	32.7%	40.8%	3.4%	0.7%
	強度行動障害	45	2	14	16	22	3	2
		100.0%	4.4%	31.1%	35.6%	48.9%	6.7%	4.4%
	高次脳機能障害	37	4	18	18	12	2	0
		100.0%	10.8%	48.6%	48.6%	32.4%	5.4%	0.0%
	難病	90	7	41	39	25	7	6
		100.0%	7.8%	45.6%	43.3%	27.8%	7.8%	6.7%
	手帳なし	11	0	5	2	3	0	3
		100.0%	0.0%	45.5%	18.2%	27.3%	0.0%	27.3%

（14）　文化・芸術活動

問３０　あなたは文化・芸術活動を行ったり、作品などを鑑賞することがありますか。

文化・芸術活動の機会については、「ある」が 46.1%、「ない」が 49.8%となっています。



問３０－１　活動したり観賞したものはどれですか。

活動や鑑賞したことのあるものについては、「作品をみる/きく」「自分でつくる/活動する/演じる/参加する」を合わせると、「映画」が 73.1%と最も多く、次いで、「美術（絵画、彫刻、工芸、書画、写真等）」が 70.5%、「音楽（合唱、吹奏楽、オーケストラ等）」が 54.3%などとなっています。

美術については、作品をみる方が回答者の54.7%、自分でつくる方が 15.8%となっています。

■【１．美術（絵画、彫刻、工芸、書画、写真等)】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分で活動する/つくる/演じる/参加する	作品をみる/きく	無回答
全体	全体	298	47	163	117
		100.0%	15.8%	54.7%	39.3%
障害種別	身体障害	180	24	99	71
		100.0%	13.3%	55.0%	39.4%
	知的障害	60	11	23	32
		100.0%	18.3%	38.3%	53.3%
	精神障害	103	22	60	33
		100.0%	21.4%	58.3%	32.0%
	発達障害	63	19	33	21
		100.0%	30.2%	52.4%	33.3%
	強度行動障害	19	7	8	7
		100.0%	36.8%	42.1%	36.8%
	高次脳機能障害	20	1	13	7
		100.0%	5.0%	65.0%	35.0%
	難病	44	7	22	19
		100.0%	15.9%	50.0%	43.2%
	手帳なし	4	0	2	2
		100.0%	0.0%	50.0%	50.0%

音楽については、作品をきく方が回答者の 47.3%、作曲や演奏をする方が 7.0%となっています。

■【２．音楽（合唱、吹奏楽、オーケストラ等)】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分で活動する/つくる/演じる/参加する	作品をみる/きく	無回答
全体	全体	298	21	141	145
		100.0%	7.0%	47.3%	48.7%
障害種別	身体障害	180	10	79	95
		100.0%	5.6%	43.9%	52.8%
	知的障害	60	4	29	28
		100.0%	6.7%	48.3%	46.7%
	精神障害	103	11	53	44
		100.0%	10.7%	51.5%	42.7%
	発達障害	63	4	26	35
		100.0%	6.3%	41.3%	55.6%
	強度行動障害	19	1	8	10
		100.0%	5.3%	42.1%	52.6%
	高次脳機能障害	20	0	10	10
		100.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	難病	44	7	20	20
		100.0%	15.9%	45.5%	45.5%
	手帳なし	4	0	1	3
		100.0%	0.0%	25.0%	75.0%

映画については、作品をみる方が回答者の 71.8%、自分でつくる方が 1.3%となっています。

■【３．映画】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分で活動する/つくる/演じる/参加する	作品をみる/きく	無回答
全体	全体	298	4	214	82
		100.0%	1.3%	71.8%	27.5%
障害種別	身体障害	180	4	129	49
		100.0%	2.2%	71.7%	27.2%
	知的障害	60	1	37	22
		100.0%	1.7%	61.7%	36.7%
	精神障害	103	1	65	37
		100.0%	1.0%	63.1%	35.9%
	発達障害	63	1	41	21
		100.0%	1.6%	65.1%	33.3%
	強度行動障害	19	1	8	10
		100.0%	5.3%	42.1%	52.6%
	高次脳機能障害	20	0	13	7
		100.0%	0.0%	65.0%	35.0%
	難病	44	2	30	13
		100.0%	4.5%	68.2%	29.5%
	手帳なし	4	0	4	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%

舞踊については、作品をみる方が 11.7%、自分で演じる方が 3.0%となっています。

■【４．舞踊（日本舞踊、ダンス、バレエ等）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分で活動する/つくる/演じる/参加する	作品をみる/きく	無回答
全体	全体	298	9	35	256
		100.0%	3.0%	11.7%	85.9%
障害種別	身体障害	180	4	23	154
		100.0%	2.2%	12.8%	85.6%
	知的障害	60	6	8	46
		100.0%	10.0%	13.3%	76.7%
	精神障害	103	3	8	93
		100.0%	2.9%	7.8%	90.3%
	発達障害	63	2	4	57
		100.0%	3.2%	6.3%	90.5%
	強度行動障害	19	1	2	17
		100.0%	5.3%	10.5%	89.5%
	高次脳機能障害	20	0	3	17
		100.0%	0.0%	15.0%	85.0%
	難病	44	2	6	36
		100.0%	4.5%	13.6%	81.8%
	手帳なし	4	0	1	3
		100.0%	0.0%	25.0%	75.0%

芸能については、作品をみる方が 18.8%、自分で演じる方が 0.7%となっています。

■【５．芸能（講談、落語、漫才、浪曲等）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分で活動する/つくる/演じる/参加する	作品をみる/きく	無回答
全体	全体	298	2	56	240
		100.0%	0.7%	18.8%	80.5%
障害種別	身体障害	180	2	37	141
		100.0%	1.1%	20.6%	78.3%
	知的障害	60	2	14	44
		100.0%	3.3%	23.3%	73.3%
	精神障害	103	2	17	84
		100.0%	1.9%	16.5%	81.6%
	発達障害	63	2	11	50
		100.0%	3.2%	17.5%	79.4%
	強度行動障害	19	2	2	15
		100.0%	10.5%	10.5%	78.9%
	高次脳機能障害	20	0	4	16
		100.0%	0.0%	20.0%	80.0%
	難病	44	1	8	35
		100.0%	2.3%	18.2%	79.5%
	手帳なし	4	0	0	4
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%

生活文化については、作品をみる方が 9.1%、自分で活動する方が 3.4%となっています。

■【６．生活文化（茶道、華道、書道等）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分で活動する/つくる/演じる/参加する	作品をみる/きく	無回答
全体	全体	298	10	27	266
		100.0%	3.4%	9.1%	89.3%
障害種別	身体障害	180	7	15	161
		100.0%	3.9%	8.3%	89.4%
	知的障害	60	2	6	52
		100.0%	3.3%	10.0%	86.7%
	精神障害	103	3	9	92
		100.0%	2.9%	8.7%	89.3%
	発達障害	63	2	5	56
		100.0%	3.2%	7.9%	88.9%
	強度行動障害	19	1	1	17
		100.0%	5.3%	5.3%	89.5%
	高次脳機能障害	20	0	2	18
		100.0%	0.0%	10.0%	90.0%
	難病	44	4	6	36
		100.0%	9.1%	13.6%	81.8%
	手帳なし	4	1	1	3
		100.0%	25.0%	25.0%	75.0%

演劇については、作品をみる方が 27.9%、自分で演じる方が 1.0%となっています。

■【７．演劇（劇、ミュージカル、人形劇等）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分で活動する/つくる/演じる/参加する	作品をみる/きく	無回答
全体	全体	298	3	83	213
		100.0%	1.0%	27.9%	71.5%
障害種別	身体障害	180	2	50	129
		100.0%	1.1%	27.8%	71.7%
	知的障害	60	1	20	39
		100.0%	1.7%	33.3%	65.0%
	精神障害	103	2	22	79
		100.0%	1.9%	21.4%	76.7%
	発達障害	63	2	14	47
		100.0%	3.2%	22.2%	74.6%
	強度行動障害	19	1	3	15
		100.0%	5.3%	15.8%	78.9%
	高次脳機能障害	20	0	6	14
		100.0%	0.0%	30.0%	70.0%
	難病	44	1	16	27
		100.0%	2.3%	36.4%	61.4%
	手帳なし	4	0	3	1
		100.0%	0.0%	75.0%	25.0%

伝統芸能については、作品をみる方が 12.8%、自分で演じる方が 0.3%となっています。

■【８．伝統芸能（能楽、文楽、歌舞伎、雅楽等）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分で活動する/つくる/演じる/参加する	作品をみる/きく	無回答
全体	全体	298	1	38	260
		100.0%	0.3%	12.8%	87.2%
障害種別	身体障害	180	1	25	155
		100.0%	0.6%	13.9%	86.1%
	知的障害	60	0	9	51
		100.0%	0.0%	15.0%	85.0%
	精神障害	103	0	11	92
		100.0%	0.0%	10.7%	89.3%
	発達障害	63	0	6	57
		100.0%	0.0%	9.5%	90.5%
	強度行動障害	19	0	1	18
		100.0%	0.0%	5.3%	94.7%
	高次脳機能障害	20	0	4	16
		100.0%	0.0%	20.0%	80.0%
	難病	44	0	9	35
		100.0%	0.0%	20.5%	79.5%
	手帳なし	4	0	0	4
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%

その他の回答については、読書、俳句作り、ゲーム、枚方宿くらわんか五六市への参加などとなっています。

問３１　あなたが文化・芸術活動に関する活動をしたり、イベントに参加するなかで困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

文化・芸術活動をしたり、イベントに参加するなかで困っていることは、「金銭的な余裕がない」が 33.6%、次いで、「交通機関（移動手段）が利用しにくい」が 18.9%、「情報が得られない」が 15.0%などとなっています。

■【文化・芸術活動、イベント参加のなかで困っていること】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	金銭的な余裕がない	介助・支援が必要だが、手伝ってくれるひとがいない	交通機関（移動手段）が利用しにくい	建物の設備や活動場所の環境が不便	周囲の人の障害や病気への理解・配慮がない	発表の機会・場がない	情報が得られない	その他	無回答
全体	全体	646	217	63	122	58	53	25	97	43	233
		100.0%	33.6%	9.8%	18.9%	9.0%	8.2%	3.9%	15.0%	6.7%	36.1%
障害種別	身体障害	385	122	37	87	43	29	15	47	27	144
		100.0%	31.7%	9.6%	22.6%	11.2%	7.5%	3.9%	12.2%	7.0%	37.4%
	知的障害	184	43	21	26	9	18	10	32	10	72
		100.0%	23.4%	11.4%	14.1%	4.9%	9.8%	5.4%	17.4%	5.4%	39.1%
	精神障害	193	90	15	34	17	17	6	32	11	58
		100.0%	46.6%	7.8%	17.6%	8.8%	8.8%	3.1%	16.6%	5.7%	30.1%
	発達障害	147	53	16	21	10	18	6	25	9	50
		100.0%	36.1%	10.9%	14.3%	6.8%	12.2%	4.1%	17.0%	6.1%	34.0%
	強度行動障害	45	14	12	9	3	9	1	8	2	15
		100.0%	31.1%	26.7%	20.0%	6.7%	20.0%	2.2%	17.8%	4.4%	33.3%
	高次脳機能障害	37	13	6	10	6	4	2	5	3	14
		100.0%	35.1%	16.2%	27.0%	16.2%	10.8%	5.4%	13.5%	8.1%	37.8%
	難病	90	30	17	27	12	10	3	9	7	28
		100.0%	33.3%	18.9%	30.0%	13.3%	11.1%	3.3%	10.0%	7.8%	31.1%
	手帳なし	11	1	0	1	1	0	0	4	1	5
		100.0%	9.1%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	36.4%	9.1%	45.5%

5　障害福祉サービス等の利用

（1）　障害支援区分認定

問３２　あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。（○は１つだけ）

障害程度（支援）区分の認定については、「受けていない」が 65.3%と最も多く、「区分 1」～「区分 6」を合わせた『受けている』は 23.4 %となっています。『受けている』は強度行動障害者（57.8%）や知的障害者（47.8%）、発達障害（30.6%）で多くなっています。

■【障害支援区分認定】

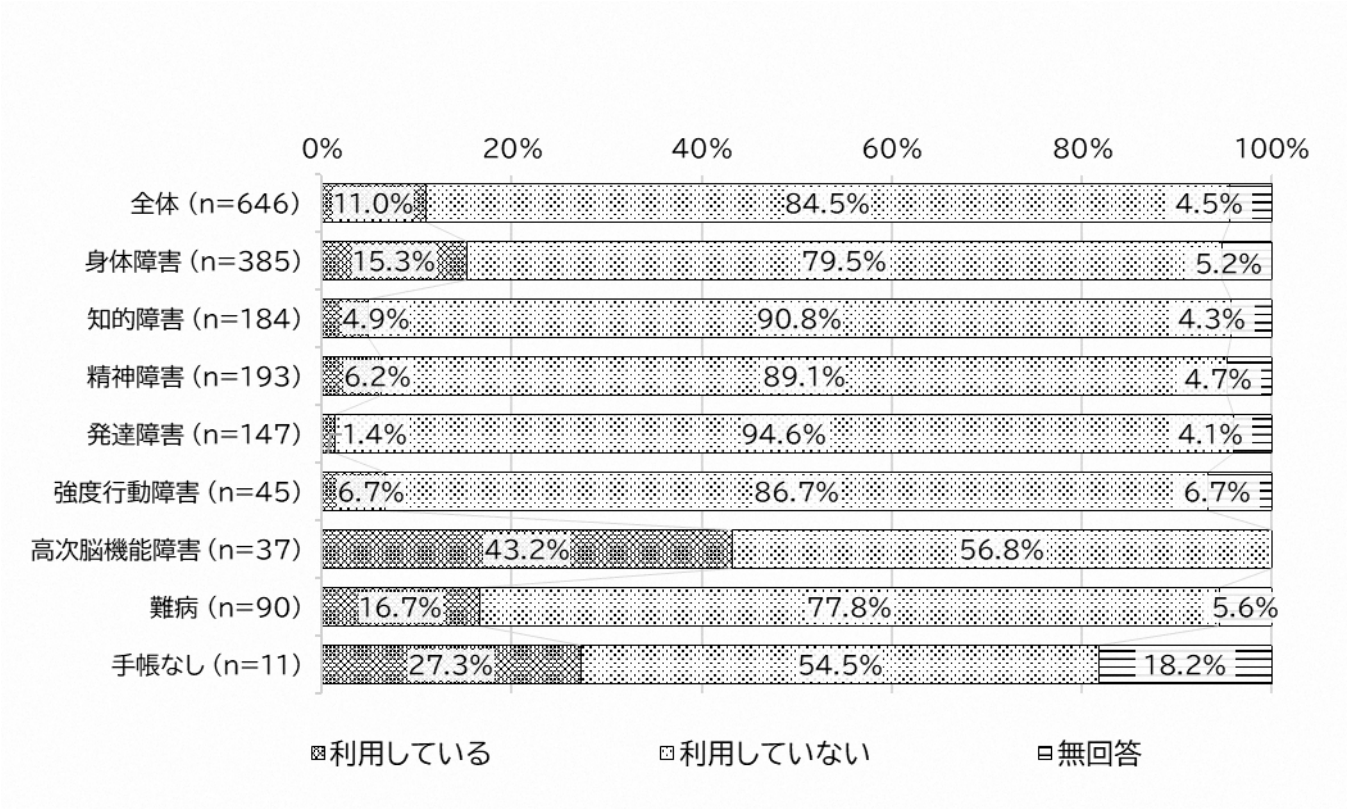
上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	受けていない	無回答
全体	全体	646	11	37	21	29	19	34	422	73
		100.0%	1.7%	5.7%	3.3%	4.5%	2.9%	5.3%	65.3%	11.3%
障害種別	身体障害	385	8	12	8	11	10	21	266	49
		100.0%	2.1%	3.1%	2.1%	2.9%	2.6%	5.5%	69.1%	12.7%
	知的障害	184	5	16	8	23	14	22	76	20
		100.0%	2.7%	8.7%	4.3%	12.5%	7.6%	12.0%	41.3%	10.9%
	精神障害	193	2	15	6	5	2	1	138	24
		100.0%	1.0%	7.8%	3.1%	2.6%	1.0%	0.5%	71.5%	12.4%
	発達障害	147	2	11	5	6	7	14	89	13
		100.0%	1.4%	7.5%	3.4%	4.1%	4.8%	9.5%	60.5%	8.8%
	強度行動障害	45	0	3	1	5	5	12	15	4
		100.0%	0.0%	6.7%	2.2%	11.1%	11.1%	26.7%	33.3%	8.9%
	高次脳機能障害	37	2	1	2	1	2	2	25	2
		100.0%	5.4%	2.7%	5.4%	2.7%	5.4%	5.4%	67.6%	5.4%
	難病	90	4	4	3	5	1	9	54	10
		100.0%	4.4%	4.4%	3.3%	5.6%	1.1%	10.0%	60.0%	11.1%
	手帳なし	11	0	0	1	0	0	0	6	4
		100.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	54.5%	36.4%

（２）　介護保険サービスの利用

問３３　あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。（○は１つだけ）

介護保険によるサービスの利用の有無について、「利用している」が 11.0%、「利用していない」が 84.5%となっています。高次脳機能障害者では、「利用している」が 43.2%と４割を超えており、身体障害者や難病患者では１割を超えています。

■【介護保険サービスの利用】



（３）　要介護度

問３３－１　該当する要介護度はどれですか。（○は１つだけ）

介護保険サービスを利用している方の、要介護度については、「要支援２」が 22.5%と最も多く、次いで、「要介護２」が 18.3%、「要支援１」が 15.5%などとなっています。

■【要介護度】

上段：回答者数 下段：構成比		(n)	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	無回答
全体	全体	71	11	16	4	13	6	6	10	5
		100.0%	15.5%	22.5%	5.6%	18.3%	8.5%	8.5%	14.1%	7.0%
障害種別	身体障害	59	9	15	2	11	4	5	9	4
		100.0%	15.3%	25.4%	3.4%	18.6%	6.8%	8.5%	15.3%	6.8%
	知的障害	9	2	0	1	0	0	1	3	2
		100.0%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	22.2%
	精神障害	12	2	0	3	3	1	0	2	1
		100.0%	16.7%	0.0%	25.0%	25.0%	8.3%	0.0%	16.7%	8.3%
	発達障害	2	1	0	0	0	0	1	0	0
		100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	強度行動障害	3	0	0	0	0	1	1	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
	高次脳機能障害	16	1	2	1	3	2	1	5	1
		100.0%	6.3%	12.5%	6.3%	18.8%	12.5%	6.3%	31.3%	6.3%
	難病	15	1	5	0	2	2	0	4	1
		100.0%	6.7%	33.3%	0.0%	13.3%	13.3%	0.0%	26.7%	6.7%
	手帳なし	3	0	1	0	0	2	0	0	0
		100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%

（４）　サービスの利用状況と今後の利用意向

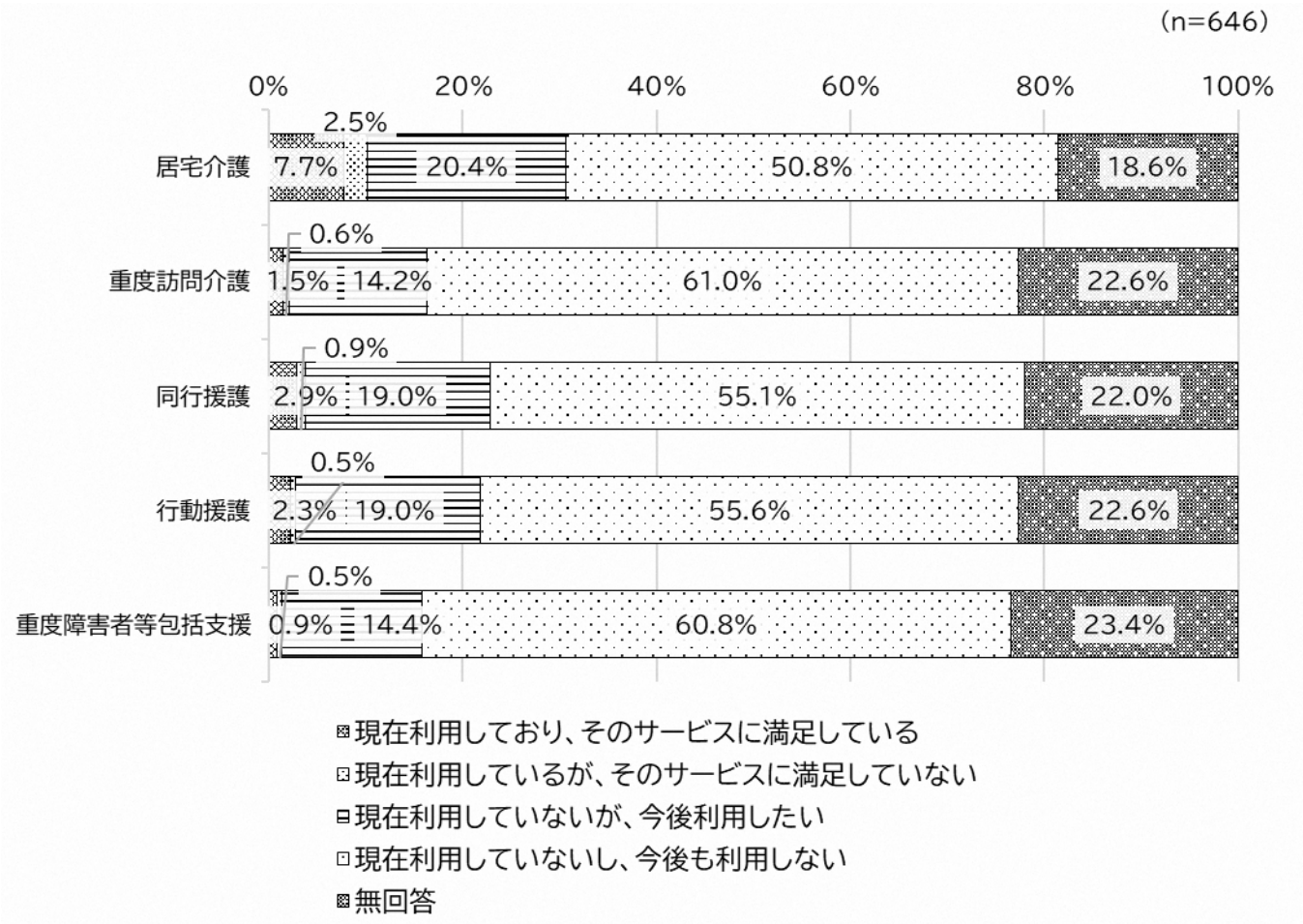
問３４　あなたは、次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。①から㉔について、現在利用しているサービスはそのサービスの評価を、現在利用していないサービスはそのサービスを今後利用したいかを、回答（１・２・３・４のいずれか一つに○）してください。

訪問系サービス

訪問系サービスの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、居宅介護（ホームヘルプ）で 10.2%、重度訪問介護で 2.1%、同行援護で 3.8%、行動援護で 2.8%、重度障害者等包括支援で 1.4%となっています。

また、訪問系サービスを現在利用していない理由については、「利用しなくても本人のことは本人ができるから」が 43.9%と最も多く、次いで、「利用しなくても家族の介助があるから」が 27.8%となっています。

■【訪問系サービスの利用状況と今後の利用意向】



■【訪問系サービスを利用しない理由（複数回答）】

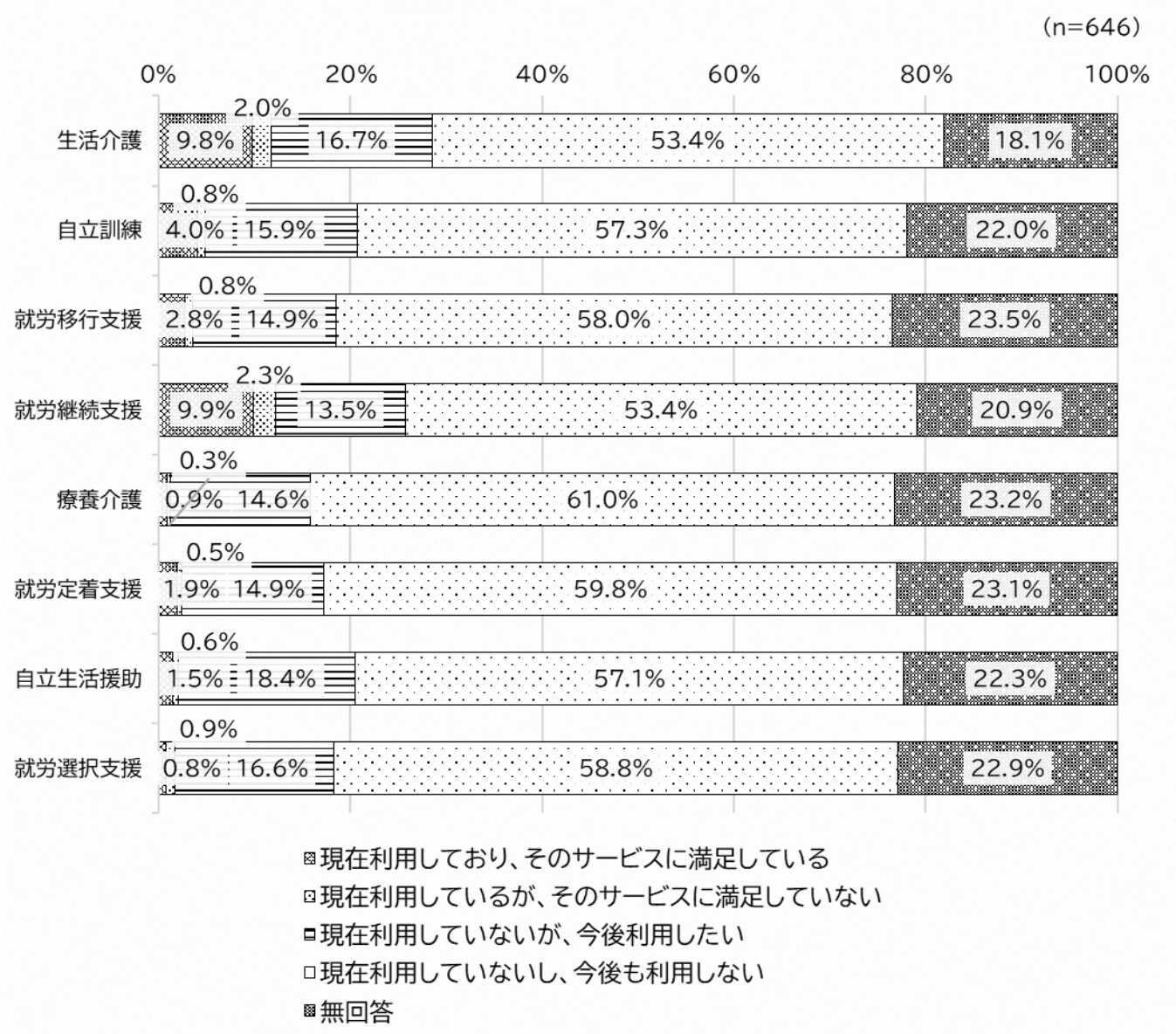
上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	利用しなくてもあなた自身のことはあなた自身ができるから	利用しなくても家族の介助があるから	どんなサービスか知らないから	利用したくても、引き受けてくれる事業所が見つからないから	利用したくても費用負担が大きいから	医療的ケアに対応できないと言われたから	その他	無回答
全体	全体	643	282	179	99	26	59	9	21	163
		100.0%	43.9%	27.8%	15.4%	4.0%	9.2%	1.4%	3.3%	25.3%
障害種別	身体障害	382	183	91	45	7	29	5	11	109
		100.0%	47.9%	23.8%	11.8%	1.8%	7.6%	1.3%	2.9%	28.5%
	知的障害	184	41	61	33	14	11	4	7	58
		100.0%	22.3%	33.2%	17.9%	7.6%	6.0%	2.2%	3.8%	31.5%
	精神障害	191	92	54	37	12	29	4	5	38
		100.0%	48.2%	28.3%	19.4%	6.3%	15.2%	2.1%	2.6%	19.9%
	発達障害	146	54	60	32	10	15	4	5	24
		100.0%	37.0%	41.1%	21.9%	6.8%	10.3%	2.7%	3.4%	16.4%
	強度行動障害	44	8	19	12	9	6	2	2	14
		100.0%	18.2%	43.2%	27.3%	20.5%	13.6%	4.5%	4.5%	31.8%
	高次脳機能障害	35	11	16	5	1	3	3	1	6
		100.0%	31.4%	45.7%	14.3%	2.9%	8.6%	8.6%	2.9%	17.1%
	難病	88	35	27	16	4	7	1	7	24
		100.0%	39.8%	30.7%	18.2%	4.5%	8.0%	1.1%	8.0%	27.3%
	手帳なし	11	1	2	1	0	1	0	1	7
		100.0%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%	63.6%

日中活動系サービス

日中活動系サービスの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、生活介護で 11.8%、自立訓練（機能訓練、生活訓練）で 4.8%、就労移行支援で 3.6%、就労継続支援（A型、B型）で 12.2%、療養介護で 1.2%、就労定着支援で 2.4%、自立生活援助で 2.1%、就労選択支援で 1.7%となっています。

また、日中活動系サービスを現在利用していない理由については、「通う必要を感じないから」が 34.5%と最も多く、次いで、「昼間、通う場所が別にあるから」が 21.0%となっています。

■【日中活動系サービスの利用状況と今後の利用意向】



■【日中活動系サービスを利用しない理由（複数回答）】

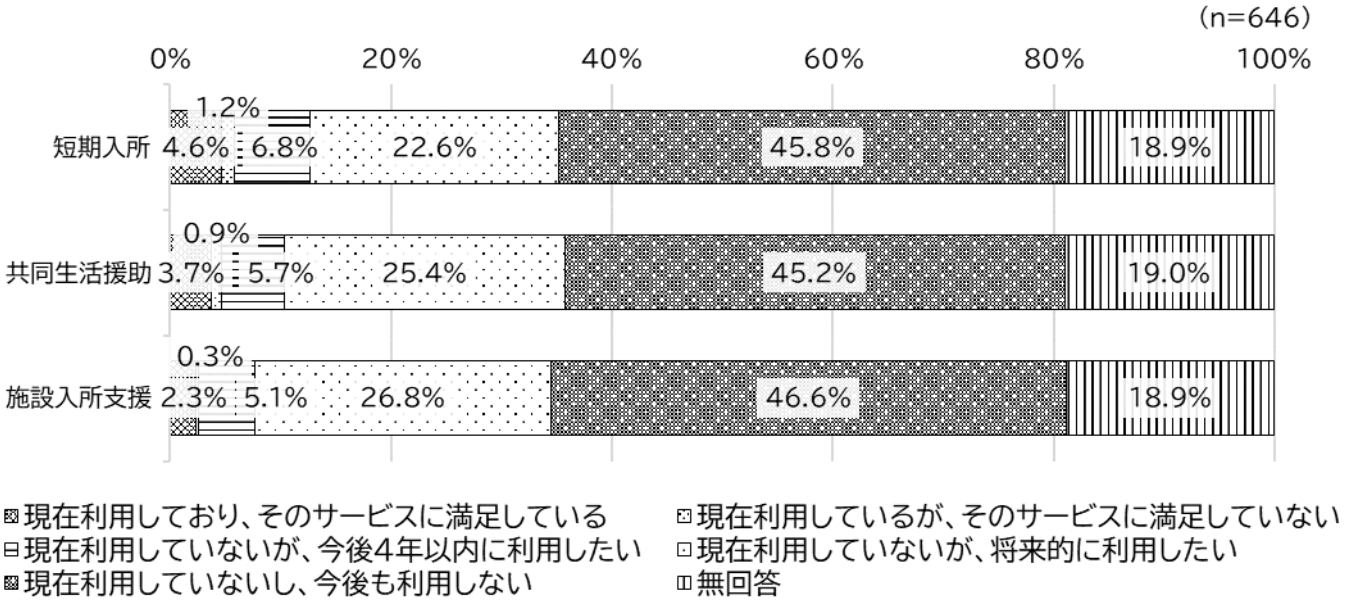
上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	昼間、通う場所が別にあるから	通う必要を感じないから	どんなサービスか知らないから	利用したくても費用負担が大きいから	利用したくても空きがないから	利用したくても引き受けてくれる事業所が見つからないから	医療的ケアに対応できないと言われたから	その他	無回答
全体	全体	644	135	222	116	49	14	20	13	32	204
		100.0%	21.0%	34.5%	18.0%	7.6%	2.2%	3.1%	2.0%	5.0%	31.7%
障害種別	身体障害	383	54	150	63	28	8	12	6	14	124
		100.0%	14.1%	39.2%	16.4%	7.3%	2.1%	3.1%	1.6%	3.7%	32.4%
	知的障害	184	55	33	29	12	2	5	3	8	80
		100.0%	29.9%	17.9%	15.8%	6.5%	1.1%	2.7%	1.6%	4.3%	43.5%
	精神障害	192	39	67	40	20	6	8	9	14	55
		100.0%	20.3%	34.9%	20.8%	10.4%	3.1%	4.2%	4.7%	7.3%	28.6%
	発達障害	146	52	37	26	13	4	8	8	8	43
		100.0%	35.6%	25.3%	17.8%	8.9%	2.7%	5.5%	5.5%	5.5%	29.5%
	強度行動障害	45	13	8	9	3	1	4	3	2	18
		100.0%	28.9%	17.8%	20.0%	6.7%	2.2%	8.9%	6.7%	4.4%	40.0%
	高次脳機能障害	36	5	13	5	4	1	4	3	1	8
		100.0%	13.9%	36.1%	13.9%	11.1%	2.8%	11.1%	8.3%	2.8%	22.2%
	難病	89	18	33	19	8	3	5	2	5	29
		100.0%	20.2%	37.1%	21.3%	9.0%	3.4%	5.6%	2.2%	5.6%	32.6%
	手帳なし	11	1	1	3	0	0	0	0	1	6
		100.0%	9.1%	9.1%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	54.5%

居住系サービス

居住系サービスの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は短期入所（ショートステイ）で 5.8%、共同生活援助（グループホーム）で 4.6%、施設入所支援で 2.6%となっています。

また、居住系サービスを現在利用していない理由については、「家族の支援があり、自宅で生活できるから」が 40.6%と最も多く、次いで、「自分ひとりで生活することができるから」が 36.4%となっています。

■【居住系サービスの利用状況と今後の利用意向】



■【居住系サービスを利用しない理由（複数回答）】

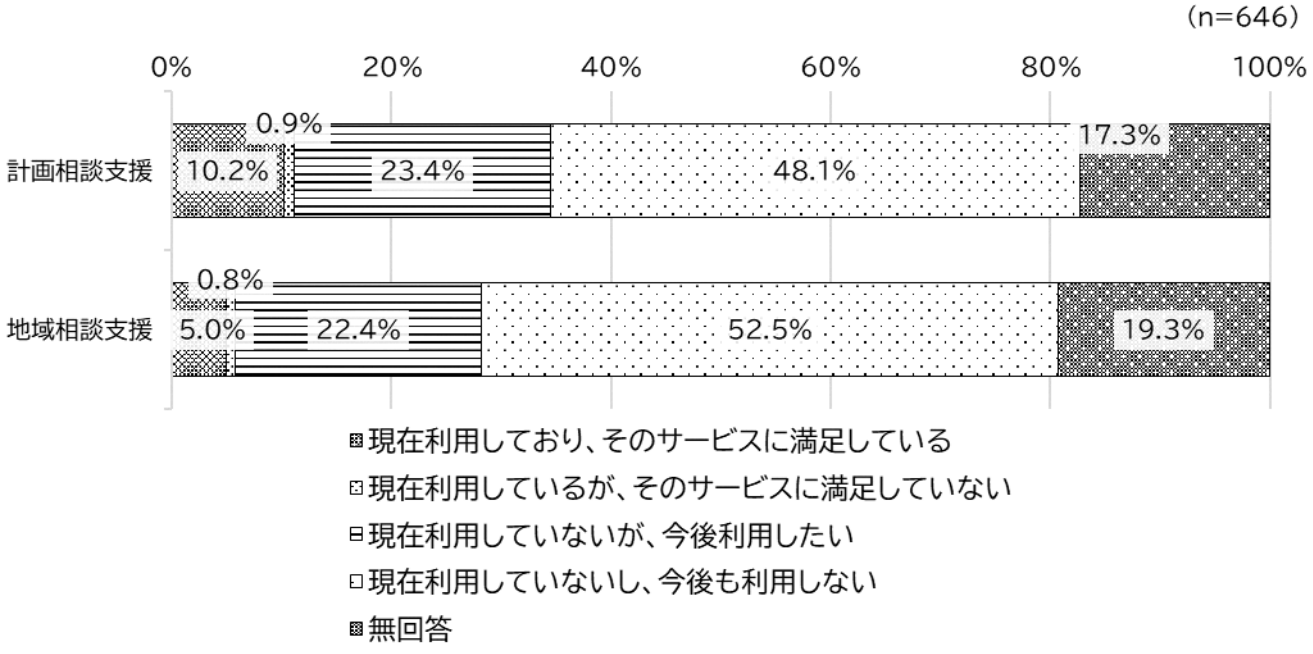
上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分ひとりで生活することができるから	家族の支援があり、自宅で生活できるから	どんなサービスか知らないから	利用したくても費用負担が大きいから	利用したくても空きがないから	医療的ケアに対応できないと言われたから	利用する必要性を感じないから	その他	無回答
全体	全体	645	235	262	70	70	35	11	58	27	140
		100.0%	36.4%	40.6%	10.9%	10.9%	5.4%	1.7%	9.0%	4.2%	21.7%
障害種別	身体障害	384	165	136	36	42	14	6	30	10	91
		100.0%	43.0%	35.4%	9.4%	10.9%	3.6%	1.6%	7.8%	2.6%	23.7%
	知的障害	184	31	73	15	18	23	4	8	14	56
		100.0%	16.8%	39.7%	8.2%	9.8%	12.5%	2.2%	4.3%	7.6%	30.4%
	精神障害	193	70	94	26	22	6	2	25	6	35
		100.0%	36.5%	49.0%	13.5%	11.5%	3.1%	1.0%	13.0%	3.1%	18.2%
	発達障害	147	31	80	19	19	18	4	10	7	25
		100.0%	21.2%	54.8%	13.0%	13.0%	12.3%	2.7%	6.8%	4.8%	17.1%
	強度行動障害	45	6	17	6	4	9	2	1	3	18
		100.0%	13.3%	37.8%	13.3%	8.9%	20.0%	4.4%	2.2%	6.7%	40.0%
	高次脳機能障害	36	8	19	4	4	0	2	3	0	7
		100.0%	22.2%	52.8%	11.1%	11.1%	0.0%	5.6%	8.3%	0.0%	19.4%
	難病	89	33	41	11	12	4	1	10	8	15
		100.0%	37.1%	46.1%	12.4%	13.5%	4.5%	1.1%	11.2%	9.0%	16.9%
	手帳なし	11	1	4	1	1	0	1	0	0	6
		100.0%	9.1%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	54.5%

相談支援

相談支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、計画相談支援で 11.1%、地域相談支援で 5.8%となっています。

また、相談支援を現在利用していない理由については、「利用しなくても困らないから」が 37.4%と最も多く、次いで、「どんな内容を相談すればよいか、わからないから」が 23.2%となっています。

■【相談支援の利用状況と今後の利用意向】



■【相談支援を利用しない理由（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	利用しなくても困らないから	相談する内容がないから	どんな内容を相談すればよいか、わからないから	利用したくても、引き受けてくれる相談支援事業所が見つからないから	どんなサービスか知らないから	セルフプランで計画を作れるから	その他	無回答
全体	全体	625	234	123	145	27	109	32	17	153
		100.0%	37.4%	19.7%	23.2%	4.3%	17.4%	5.1%	2.7%	24.5%
障害種別	身体障害	376	167	75	74	12	49	9	8	99
		100.0%	44.4%	19.9%	19.7%	3.2%	13.0%	2.4%	2.1%	26.3%
	知的障害	176	37	22	42	11	24	19	9	55
		100.0%	21.0%	12.5%	23.9%	6.3%	13.6%	10.8%	5.1%	31.3%
	精神障害	187	58	39	51	8	53	9	4	44
		100.0%	31.0%	20.9%	27.3%	4.3%	28.3%	4.8%	2.1%	23.5%
	発達障害	144	37	30	47	7	32	14	6	29
		100.0%	25.7%	20.8%	32.6%	4.9%	22.2%	9.7%	4.2%	20.1%
	強度行動障害	44	5	5	13	5	9	2	3	17
		100.0%	11.4%	11.4%	29.5%	11.4%	20.5%	4.5%	6.8%	38.6%
	高次脳機能障害	36	14	12	8	1	5	0	3	8
		100.0%	38.9%	33.3%	22.2%	2.8%	13.9%	0.0%	8.3%	22.2%
	難病	85	29	18	20	7	10	5	4	21
		100.0%	34.1%	21.2%	23.5%	8.2%	11.8%	5.9%	4.7%	24.7%
	手帳なし	11	2	2	1	0	0	0	1	6
		100.0%	18.2%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	54.5%

補装具

補装具の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は 9.6%で、高次脳機能障害では 21.6%と特に多くなっています。

■【補装具の利用状況と今後の利用意向】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	現在利用しており、そのサービスに満足している	現在利用しているが、そのサービスに満足していない	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用していないし、今後も利用しない	無回答
全体	全体	646	43	19	76	318	190
		100.0%	6.7%	2.9%	11.8%	49.2%	29.4%
障害種別	身体障害	385	43	16	53	149	124
		100.0%	11.2%	4.2%	13.8%	38.7%	32.2%
	知的障害	184	9	2	15	94	64
		100.0%	4.9%	1.1%	8.2%	51.1%	34.8%
	精神障害	193	1	4	18	120	50
		100.0%	0.5%	2.1%	9.3%	62.2%	25.9%
	発達障害	147	3	1	11	101	31
		100.0%	2.0%	0.7%	7.5%	68.7%	21.1%
	強度行動障害	45	0	1	5	21	18
		100.0%	0.0%	2.2%	11.1%	46.7%	40.0%
	高次脳機能障害	37	7	1	3	17	9
		100.0%	18.9%	2.7%	8.1%	45.9%	24.3%
	難病	90	10	4	15	38	23
		100.0%	11.1%	4.4%	16.7%	42.2%	25.6%
	手帳なし	11	0	0	2	1	8
		100.0%	0.0%	0.0%	18.2%	9.1%	72.7%

移動支援（ガイドヘルパー）

移動支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は10.0%で、強度行動障害では 20.0%、知的障害者では 19.6%、高次脳機能障害では16.2%と特に多くなっています。

また、移動支援を現在利用していない理由については、「自分ひとりで外出することができるから」が 55.2%と最も多く、次いで、「家族の支援で外出することができるから」が 33.2%となっています。

■【移動支援の利用状況と今後の利用意向】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	現在利用しており、そのサービスに満足している	現在利用しているが、そのサービスに満足していない	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用していないし、今後も利用しない	無回答
全体	全体	646	50	15	149	338	94
		100.0%	7.7%	2.3%	23.1%	52.3%	14.6%
障害種別	身体障害	385	26	8	86	197	68
		100.0%	6.8%	2.1%	22.3%	51.2%	17.7%
	知的障害	184	25	11	51	68	29
		100.0%	13.6%	6.0%	27.7%	37.0%	15.8%
	精神障害	193	14	1	41	117	20
		100.0%	7.3%	0.5%	21.2%	60.6%	10.4%
	発達障害	147	14	2	35	82	14
		100.0%	9.5%	1.4%	23.8%	55.8%	9.5%
	強度行動障害	45	5	4	14	14	8
		100.0%	11.1%	8.9%	31.1%	31.1%	17.8%
	高次脳機能障害	37	6	0	8	21	2
		100.0%	16.2%	0.0%	21.6%	56.8%	5.4%
	難病	90	6	3	28	38	15
		100.0%	6.7%	3.3%	31.1%	42.2%	16.7%
	手帳なし	11	0	0	2	3	6
		100.0%	0.0%	0.0%	18.2%	27.3%	54.5%

■【移動支援を利用しない理由（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分ひとりで外出することができるから	家族の支援で外出することができるから	どんなサービスか知らないから	利用したくても費用負担が大きいから	利用したくても事業所が見つからないから	医療的ケアに対応できないと言われたから	その他	無回答
全体	全体	581	321	193	64	38	24	8	11	101
		100.0%	55.2%	33.2%	11.0%	6.5%	4.1%	1.4%	1.9%	17.4%
障害種別	身体障害	351	202	103	33	23	11	5	7	67
		100.0%	57.5%	29.3%	9.4%	6.6%	3.1%	1.4%	2.0%	19.1%
	知的障害	148	53	59	12	8	10	4	3	39
		100.0%	35.8%	39.9%	8.1%	5.4%	6.8%	2.7%	2.0%	26.4%
	精神障害	178	108	59	28	11	8	3	2	27
		100.0%	60.7%	33.1%	15.7%	6.2%	4.5%	1.7%	1.1%	15.2%
	発達障害	131	62	59	16	8	10	4	1	23
		100.0%	47.3%	45.0%	12.2%	6.1%	7.6%	3.1%	0.8%	17.6%
	強度行動障害	36	5	15	7	2	6	2	0	16
		100.0%	13.9%	41.7%	19.4%	5.6%	16.7%	5.6%	0.0%	44.4%
	高次脳機能障害	31	15	18	3	2	2	1	1	2
		100.0%	48.4%	58.1%	9.7%	6.5%	6.5%	3.2%	3.2%	6.5%
	難病	81	37	30	7	9	7	2	3	16
		100.0%	45.7%	37.0%	8.6%	11.1%	8.6%	2.5%	3.7%	19.8%
	手帳なし	11	4	2	0	1	0	0	1	5
		100.0%	36.4%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	45.5%

日中一時支援

日中一時支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は 4.1%で、高次脳機能障害では 16.2%と特に多くなっています。

また、日中一時支援を現在利用していない理由については、「利用しなくても本人のことは本人ができるから」が 50.2%と最も多く、次いで、「利用しなくても家族の介助があるから」が 26.3%となっています。

■【日中一時支援の利用状況と今後の利用意向】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	現在利用しており、そのサービスに満足している	現在利用しているが、そのサービスに満足していない	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用していないし、今後も利用しない	無回答
全体	全体	646	19	8	99	377	143
		100.0%	2.9%	1.2%	15.3%	58.4%	22.1%
障害種別	身体障害	385	11	2	60	213	99
		100.0%	2.9%	0.5%	15.6%	55.3%	25.7%
	知的障害	184	11	5	26	90	52
		100.0%	6.0%	2.7%	14.1%	48.9%	28.3%
	精神障害	193	3	1	34	123	32
		100.0%	1.6%	0.5%	17.6%	63.7%	16.6%
	発達障害	147	8	3	20	96	20
		100.0%	5.4%	2.0%	13.6%	65.3%	13.6%
	強度行動障害	45	1	3	9	18	14
		100.0%	2.2%	6.7%	20.0%	40.0%	31.1%
	高次脳機能障害	37	5	1	5	21	5
		100.0%	13.5%	2.7%	13.5%	56.8%	13.5%
	難病	90	4	1	18	47	20
		100.0%	4.4%	1.1%	20.0%	52.2%	22.2%
	手帳なし	11	0	0	1	3	7
		100.0%	0.0%	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%

■【日中一時支援事業を利用しない理由（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	利用しなくてもあなた自身のことはあなた自身でできるから	利用しなくても家族の介助があるから	通う場所が別にあるから	どんなサービスか知らないから	利用したくても費用負担が大きいから	利用したくても事業所が見つからないから	医療的ケアに対応できないと言われたから	その他	無回答
全体	全体	619	311	163	32	74	33	16	9	19	134
		100.0%	50.2%	26.3%	5.2%	12.0%	5.3%	2.6%	1.5%	3.1%	21.6%
障害種別	身体障害	372	195	94	13	34	16	8	6	8	91
		100.0%	52.4%	25.3%	3.5%	9.1%	4.3%	2.2%	1.6%	2.2%	24.5%
	知的障害	168	51	43	16	16	5	8	4	8	53
		100.0%	30.4%	25.6%	9.5%	9.5%	3.0%	4.8%	2.4%	4.8%	31.5%
	精神障害	189	101	49	10	38	12	6	5	7	30
		100.0%	53.4%	25.9%	5.3%	20.1%	6.3%	3.2%	2.6%	3.7%	15.9%
	発達障害	136	54	46	15	19	5	7	4	7	24
		100.0%	39.7%	33.8%	11.0%	14.0%	3.7%	5.1%	2.9%	5.1%	17.6%
	強度行動障害	41	3	13	6	8	2	5	2	1	16
		100.0%	7.3%	31.7%	14.6%	19.5%	4.9%	12.2%	4.9%	2.4%	39.0%
	高次脳機能障害	31	15	12	3	1	2	1	3	1	5
		100.0%	48.4%	38.7%	9.7%	3.2%	6.5%	3.2%	9.7%	3.2%	16.1%
	難病	85	38	30	5	8	5	5	2	6	17
		100.0%	44.7%	35.3%	5.9%	9.4%	5.9%	5.9%	2.4%	7.1%	20.0%
	手帳なし	11	3	2	0	0	1	1	0	1	5
		100.0%	27.3%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	45.5%

意思疎通支援事業

意思疎通支援事業の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は 1.2%で、高次脳機能障害では 8.1%と特に多くなっています。

また、意思疎通支援事業を現在利用していない理由については、「利用しなくても困らないから」が 56.9%と最も多くなっています。

■【意思疎通支援事業の利用状況と今後の利用意向】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	現在利用しており、そのサービスに満足している	現在利用しているが、そのサービスに満足していない	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用していないし、今後も利用しない	無回答
全体	全体	646	6	2	79	451	108
		100.0%	0.9%	0.3%	12.2%	69.8%	16.7%
障害種別	身体障害	385	5	2	40	263	75
		100.0%	1.3%	0.5%	10.4%	68.3%	19.5%
	知的障害	184	3	1	25	117	38
		100.0%	1.6%	0.5%	13.6%	63.6%	20.7%
	精神障害	193	2	0	27	139	25
		100.0%	1.0%	0.0%	14.0%	72.0%	13.0%
	発達障害	147	1	0	20	109	17
		100.0%	0.7%	0.0%	13.6%	74.1%	11.6%
	強度行動障害	45	2	0	9	23	11
		100.0%	4.4%	0.0%	20.0%	51.1%	24.4%
	高次脳機能障害	37	2	1	6	24	4
		100.0%	5.4%	2.7%	16.2%	64.9%	10.8%
	難病	90	1	0	9	66	14
		100.0%	1.1%	0.0%	10.0%	73.3%	15.6%
	手帳なし	11	0	0	1	4	6
		100.0%	0.0%	0.0%	9.1%	36.4%	54.5%

■【意思疎通支援事業を利用しない理由（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	利用しなくても困らないから	利用しなくても家族の支援があるから	どんなサービスか知らないから	その他	無回答
全体	全体	638	363	136	95	12	117
		100.0%	56.9%	21.3%	14.9%	1.9%	18.3%
障害種別	身体障害	378	228	71	38	8	81
		100.0%	60.3%	18.8%	10.1%	2.1%	21.4%
	知的障害	180	64	52	33	5	46
		100.0%	35.6%	28.9%	18.3%	2.8%	25.6%
	精神障害	191	114	36	40	4	26
		100.0%	59.7%	18.8%	20.9%	2.1%	13.6%
	発達障害	146	65	39	41	3	21
		100.0%	44.5%	26.7%	28.1%	2.1%	14.4%
	強度行動障害	43	7	10	18	1	12
		100.0%	16.3%	23.3%	41.9%	2.3%	27.9%
	高次脳機能障害	34	16	16	4	2	4
		100.0%	47.1%	47.1%	11.8%	5.9%	11.8%
	難病	89	48	16	13	2	19
		100.0%	53.9%	18.0%	14.6%	2.2%	21.3%
	手帳なし	11	4	3	0	0	5
		100.0%	36.4%	27.3%	0.0%	0.0%	45.5%

地域活動支援センター事業

地域活動支援センター事業の利用については、現在利用している(「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は 5.0%となっています。

また、地域活動支援センター事業を現在利用していない理由については、「どんなサービスか知らないから」が 37.0%と最も多く、次いで、「通う場所が別にあるから」が 23.5%となっています。「どんなサービスか知らないから」の 37.0%は、他のサービスと比べても特に多くなっており、サービス自体の認知向上が課題となっていることが考えられます。

■【地域活動支援センター事業の利用状況と今後の利用意向】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	現在利用しており、そのサービスに満足している	現在利用しているが、そのサービスに満足していない	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用していないし、今後も利用しない	無回答
全体	全体	646	27	5	112	375	127
		100.0%	4.2%	0.8%	17.3%	58.0%	19.7%
障害種別	身体障害	385	8	1	50	235	91
		100.0%	2.1%	0.3%	13.0%	61.0%	23.6%
	知的障害	184	12	1	40	86	45
		100.0%	6.5%	0.5%	21.7%	46.7%	24.5%
	精神障害	193	14	3	40	109	27
		100.0%	7.3%	1.6%	20.7%	56.5%	14.0%
	発達障害	147	10	2	38	80	17
		100.0%	6.8%	1.4%	25.9%	54.4%	11.6%
	強度行動障害	45	2	0	9	21	13
		100.0%	4.4%	0.0%	20.0%	46.7%	28.9%
	高次脳機能障害	37	1	0	7	23	6
		100.0%	2.7%	0.0%	18.9%	62.2%	16.2%
	難病	90	4	0	14	55	17
		100.0%	4.4%	0.0%	15.6%	61.1%	18.9%
	手帳なし	11	0	0	2	2	7
		100.0%	0.0%	0.0%	18.2%	18.2%	63.6%

■【地域活動支援センターでの創作や作業を利用しない理由（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	通う場所が別にあるから	どんなサービスか知らないから	自分がしてみたいこととセンターでしていることが違うから	毎日、決まったことをしたいから	その他	無回答
全体	全体	614	144	227	34	53	36	162
		100.0%	23.5%	37.0%	5.5%	8.6%	5.9%	26.4%
障害種別	身体障害	376	76	121	20	36	24	119
		100.0%	20.2%	32.2%	5.3%	9.6%	6.4%	31.6%
	知的障害	171	49	55	8	11	7	51
		100.0%	28.7%	32.2%	4.7%	6.4%	4.1%	29.8%
	精神障害	176	38	79	13	16	8	38
		100.0%	21.6%	44.9%	7.4%	9.1%	4.5%	21.6%
	発達障害	135	40	58	14	10	7	25
		100.0%	29.6%	43.0%	10.4%	7.4%	5.2%	18.5%
	強度行動障害	43	9	13	5	3	3	14
		100.0%	20.9%	30.2%	11.6%	7.0%	7.0%	32.6%
	高次脳機能障害	36	5	12	4	2	6	9
		100.0%	13.9%	33.3%	11.1%	5.6%	16.7%	25.0%
	難病	86	24	32	5	5	2	25
		100.0%	27.9%	37.2%	5.8%	5.8%	2.3%	29.1%
	手帳なし	11	0	4	0	0	1	6
		100.0%	0.0%	36.4%	0.0%	0.0%	9.1%	54.5%

日常生活用具

日常生活用具の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は 5.9%とで、難病患者では 10.0%、身体障害者で 9.6%、高次脳機能障害者で 8.1%と特に多くなっています。

■【日常生活用具の利用状況と今後の利用意向】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	現在利用しており、そのサービスに満足している	現在利用しているが、そのサービスに満足していない	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用していないし、今後も利用しない	無回答
全体	全体	646	26	12	101	346	161
		100.0%	4.0%	1.9%	15.6%	53.6%	24.9%
障害種別	身体障害	385	25	12	67	168	113
		100.0%	6.5%	3.1%	17.4%	43.6%	29.4%
	知的障害	184	4	4	20	99	57
		100.0%	2.2%	2.2%	10.9%	53.8%	31.0%
	精神障害	193	1	1	31	122	38
		100.0%	0.5%	0.5%	16.1%	63.2%	19.7%
	発達障害	147	4	1	15	102	25
		100.0%	2.7%	0.7%	10.2%	69.4%	17.0%
	強度行動障害	45	1	1	5	21	17
		100.0%	2.2%	2.2%	11.1%	46.7%	37.8%
	高次脳機能障害	37	2	1	8	16	10
		100.0%	5.4%	2.7%	21.6%	43.2%	27.0%
	難病	90	4	5	20	39	22
		100.0%	4.4%	5.6%	22.2%	43.3%	24.4%
	手帳なし	11	0	0	3	1	7
		100.0%	0.0%	0.0%	27.3%	9.1%	63.6%

（５）　サービスに満足していない理由

問３５　問３４で、一つでも「２．現在利用しているがそのサービスに満足していない」と回答された方に、お聞きします。満足していない理由について回答してください。（あてはまるものすべてに○）

サービスを利用しているが満足していない方の、満足していないサービスについては「生活介護」が 18%と最も多く、次いで、「居宅介護」が 10%となっています。

■【満足していないサービス】

上段：回答者数 下段：構成比		合計	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等包括支援	生活介護	自立訓練	就労移行支援
全体	全体	226	22	3	8	5	6	41	4	7
		100%	10%	1%	4%	2%	3%	18%	2%	3%
障害種別	身体障害	62	9	1	3	1	1	9	2	1
		0%	15%	2%	5%	2%	2%	15%	3%	2%
	知的障害	53	3	1	1	1	1	9	1	2
		0%	6%	2%	2%	2%	2%	17%	2%	4%
	精神障害	22	2	0	1	0	1	2	0	1
		0%	9%	0%	5%	0%	5%	9%	0%	5%
	発達障害	29	1	0	1	1	1	6	0	2
		0%	3%	0%	3%	3%	3%	21%	0%	7%
	強度行動障害	19	1	0	1	1	1	7	0	0
		0%	5%	0%	5%	5%	5%	37%	0%	0%
	高次脳機能障害	10	1	0	0	1	0	2	0	0
		0%	10%	0%	0%	10%	0%	20%	0%	0%
	難病	31	5	1	1	0	1	6	1	1
		0%	16%	3%	3%	0%	3%	19%	3%	3%

上段：回答者数 下段：構成比		就労継続支援	療養介護	就労定着支援	自立生活援助	就労選択支援	短期入所	共同生活援助	施設入所支援	計画相談支援
全体	全体	20	4	5	2	0	19	4	0	5
		9%	2%	2%	1%	0%	8%	2%	0%	2%
障害種別	身体障害	3	1	0	1	0	1	1	0	1
		5%	2%	0%	2%	0%	2%	2%	0%	2%
	知的障害	5	1	2	0	0	5	2	0	1
		9%	2%	4%	0%	0%	9%	4%	0%	2%
	精神障害	5	1	1	0	0	1	0	0	0
		23%	5%	5%	0%	0%	5%	0%	0%	0%
	発達障害	5	0	2	0	0	5	0	0	1
		17%	0%	7%	0%	0%	17%	0%	0%	3%
	強度行動障害	1	0	0	0	0	3	1	0	1
		5%	0%	0%	0%	0%	16%	5%	0%	5%
	高次脳機能障害	0	0	0	1	0	1	0	0	1
		0%	0%	0%	10%	0%	10%	0%	0%	10%
	難病	1	1	0	0	0	3	0	0	0
		3%	3%	0%	0%	0%	10%	0%	0%	0%

上段：回答者数 下段：構成比		地域相談支援	補装具	移動支援	日中一時支援	意思疎通支援事業	地域活動支援センター事業	日常生活用具
全体	全体	0	17	20	6	2	11	15
		0%	8%	9%	3%	1%	5%	7%
障害種別	身体障害	0	10	6	0	1	3	7
		0%	16%	10%	0%	2%	5%	11%
	知的障害	0	1	8	3	0	3	3
		0%	2%	15%	6%	0%	6%	6%
	精神障害	0	2	1	0	1	2	1
		0%	9%	5%	0%	5%	9%	5%
	発達障害	0	0	1	1	0	2	0
		0%	0%	3%	3%	0%	7%	0%
	強度行動障害	0	0	1	1	0	0	0
		0%	0%	5%	5%	0%	0%	0%
	高次脳機能障害	0	1	0	0	0	1	1
		0%	10%	0%	0%	0%	10%	10%
	難病	0	3	3	1	0	0	3
		0%	10%	10%	3%	0%	0%	10%

サービスに満足していない理由については、「その他」を除くと「時間や日数、給付量」が 31.3%と最も多く、次いで「サービスの提供内容」が 28.6%となっています。

■【サービスに満足していない理由（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員の対応	その他
合計	合計	112	32	35	16	43
			28.6%	31.3%	14.3%	38.4%
訪問系サービス	居宅介護	11	4	3	1	3
			36.4%	27.3%	9.1%	27.3%
	重度訪問介護	1	1	0	0	0
			100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	同行援護	3	1	2	0	0
			33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	行動援護	2	0	2	0	0
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	重度障害者等包括支援	5	1	0	0	3
			20.0%	0.0%	0.0%	60.0%
日中活動系サービス	生活介護	17	4	5	4	5
			23.5%	29.4%	23.5%	29.4%
	自立訓練	2	0	1	1	0
			0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	就労移行支援	3	1	1	0	3
			33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
	就労継続支援	14	2	4	5	8
			14.3%	28.6%	35.7%	57.1%
	療養介護	1	0	0	0	0
			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	就労定着支援	4	0	0	0	4
			0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	自立生活援助	1	0	1	0	0
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	就労選択支援	0	0	0	0	0
			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住系サービス	短期入所	5	1	3	2	2
			20.0%	60.0%	40.0%	40.0%
	共同生活援助	2	2	1	2	1
			100.0%	50.0%	100.0%	50.0%
	施設入所支援	0	0	0	0	0
			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
相談支援	計画相談支援	2	1	1	0	0
			50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	地域相談支援	0	0	0	0	0
			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	補装具	11	5	1	0	4
			45.5%	9.1%	0.0%	36.4%
地域生活支援事業	移動支援	11	1	3	0	6
			9.1%	27.3%	0.0%	54.5%
	日中一時支援	3	2	2	0	0
			66.7%	66.7%	0.0%	0.0%
	意思疎通支援事業	1	0	0	0	1
			0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	地域活動支援センター事業	5	1	3	1	2
			20.0%	60.0%	20.0%	40.0%
	日常生活用具	8	5	2	0	1
			62.5%	25.0%	0.0%	12.5%

6　相談相手

（1）　悩みや困ったことを相談する相手

問３６　あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

悩みや困ったことなどを相談する人については、「家族や親せき」が 77.2%と最も多く、次いで、「友人・知人」が 31.6%、「かかりつけの医師や看護師」が 27.2%となっています。

■【悩みや困ったことを相談する相手（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	家族や親せき	友人・知人	近所の人	職場の上司や同僚	グループホームや施設の指導員など	ホームヘルパー等サービス事業所の人	障害者団体や家族会	かかりつけの医師や看護師	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	民生委員・児童委員	障害者相談支援センター等の民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	その他	無回答
全体	全体	646	499	204	28	79	56	65	15	176	35	11	39	45	33	41
		100.0%	77.2%	31.6%	4.3%	12.2%	8.7%	10.1%	2.3%	27.2%	5.4%	1.7%	6.0%	7.0%	5.1%	6.3%
障害種別	身体障害	385	299	136	24	40	20	36	7	98	24	9	10	29	15	29
		100.0%	77.7%	35.3%	6.2%	10.4%	5.2%	9.4%	1.8%	25.5%	6.2%	2.3%	2.6%	7.5%	3.9%	7.5%
	知的障害	184	130	26	2	22	41	10	7	25	4	1	17	12	13	18
		100.0%	70.7%	14.1%	1.1%	12.0%	22.3%	5.4%	3.8%	13.6%	2.2%	0.5%	9.2%	6.5%	7.1%	9.8%
	精神障害	193	143	68	6	28	11	26	5	86	14	7	21	16	14	8
		100.0%	74.1%	35.2%	3.1%	14.5%	5.7%	13.5%	2.6%	44.6%	7.3%	3.6%	10.9%	8.3%	7.3%	4.1%
	発達障害	147	111	38	4	25	17	11	6	47	5	3	15	14	13	12
		100.0%	75.5%	25.9%	2.7%	17.0%	11.6%	7.5%	4.1%	32.0%	3.4%	2.0%	10.2%	9.5%	8.8%	8.2%
	強度行動障害	45	24	7	2	4	13	2	1	10	0	0	3	3	4	9
		100.0%	53.3%	15.6%	4.4%	8.9%	28.9%	4.4%	2.2%	22.2%	0.0%	0.0%	6.7%	6.7%	8.9%	20.0%
	高次脳機能障害	37	27	12	3	5	4	4	3	11	10	2	2	3	4	1
		100.0%	73.0%	32.4%	8.1%	13.5%	10.8%	10.8%	8.1%	29.7%	27.0%	5.4%	5.4%	8.1%	10.8%	2.7%
	難病	90	69	29	4	6	5	17	3	28	4	1	4	5	7	7
		100.0%	76.7%	32.2%	4.4%	6.7%	5.6%	18.9%	3.3%	31.1%	4.4%	1.1%	4.4%	5.6%	7.8%	7.8%
	手帳なし	11	8	3	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	1	2
		100.0%	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	18.2%

（２）　障害や福祉サービス等に関する情報の入手先

問３７　あなたは障害のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

障害や福祉サービス等に関する情報の入手先については、「広報ひらかた」が 35.9%と最も多く、次いで、「家族や親せき、友人・知人」が 33.0%、「インターネット」が 31.3%となっています。知的障害者・発達障害・強度行動障害者では「家族や親せき、友人・知人」、精神障害者・難病患者では「インターネット」がそれぞれ最も多くなっています。

■【障害や福祉サービス等に関する情報の入手先（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	広報ひらかた	インターネット	家族や親せき、友人・知人	サービス事業所の人や施設職員	障害者団体や家族会（団体の機関誌等）	かかりつけの医師や看護師	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	民生委員・児童委員	障害者相談支援センター等の民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	福祉のてびき	その他	無回答
全体	全体	646	143	232	202	213	104	23	131	58	7	38	53	134	20	45
		100.0%	22.1%	35.9%	31.3%	33.0%	16.1%	3.6%	20.3%	9.0%	1.1%	5.9%	8.2%	20.7%	3.1%	7.0%
障害種別	身体障害	385	92	159	121	122	48	11	77	45	5	10	30	78	8	32
		100.0%	23.9%	41.3%	31.4%	31.7%	12.5%	2.9%	20.0%	11.7%	1.3%	2.6%	7.8%	20.3%	2.1%	8.3%
	知的障害	184	28	44	29	76	54	12	16	8	1	20	12	37	8	16
		100.0%	15.2%	23.9%	15.8%	41.3%	29.3%	6.5%	8.7%	4.3%	0.5%	10.9%	6.5%	20.1%	4.3%	8.7%
	精神障害	193	42	61	77	57	27	6	60	17	3	20	24	45	8	11
		100.0%	21.8%	31.6%	39.9%	29.5%	14.0%	3.1%	31.1%	8.8%	1.6%	10.4%	12.4%	23.3%	4.1%	5.7%
	発達障害	147	28	37	47	57	29	9	31	5	2	15	14	35	9	9
		100.0%	19.0%	25.2%	32.0%	38.8%	19.7%	6.1%	21.1%	3.4%	1.4%	10.2%	9.5%	23.8%	6.1%	6.1%
	強度行動障害	45	7	11	12	16	15	5	8	2	0	1	3	9	4	7
		100.0%	15.6%	24.4%	26.7%	35.6%	33.3%	11.1%	17.8%	4.4%	0.0%	2.2%	6.7%	20.0%	8.9%	15.6%
	高次脳機能障害	37	7	15	12	15	6	4	10	10	2	2	4	9	2	3
		100.0%	18.9%	40.5%	32.4%	40.5%	16.2%	10.8%	27.0%	27.0%	5.4%	5.4%	10.8%	24.3%	5.4%	8.1%
	難病	90	22	34	36	28	19	4	26	11	1	4	8	25	3	4
		100.0%	24.4%	37.8%	40.0%	31.1%	21.1%	4.4%	28.9%	12.2%	1.1%	4.4%	8.9%	27.8%	3.3%	4.4%
	手帳なし	11	1	3	2	4	0	0	2	2	0	0	0	2	0	3
		100.0%	9.1%	27.3%	18.2%	36.4%	0.0%	0.0%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%	27.3%

問３８　あなたは生活に必要な情報を得ることがむずかしく、困ることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

生活に必要な情報を得ることがむずかしく、困ることについては、「物を買うときの契約などで申込書の内容がむずかしく分からない」が 33.7%と最も多く、次いで、「タブレットなど情報機器の扱いが難しい」が 21.4%となっています。

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	物を買うときの契約などで申込書の内容がむずかしく分からない	点字や音声の書籍が少ない	テレビ放送で字幕や手話、解説付き放送が少ない	筆談による対応をしてもらったが、理解がむずかしい	案内やお知らせにFAX番号が書かれていないため、問い合わせできない	タブレットなど情報機器の扱いが難しい	その他	無回答
全体	全体	646	218	15	30	31	22	138	66	282
		100.0%	33.7%	2.3%	4.6%	4.8%	3.4%	21.4%	10.2%	43.7%
障害種別	身体障害	385	83	5	22	18	13	77	38	199
		100.0%	21.6%	1.3%	5.7%	4.7%	3.4%	20.0%	9.9%	51.7%
	知的障害	184	86	5	6	13	6	38	22	66
		100.0%	46.7%	2.7%	3.3%	7.1%	3.3%	20.7%	12.0%	35.9%
	精神障害	193	85	6	7	10	6	46	17	71
		100.0%	44.0%	3.1%	3.6%	5.2%	3.1%	23.8%	8.8%	36.8%
	発達障害	147	80	7	8	14	4	31	10	48
		100.0%	54.4%	4.8%	5.4%	9.5%	2.7%	21.1%	6.8%	32.7%
	強度行動障害	45	20	1	1	4	1	9	8	17
		100.0%	44.4%	2.2%	2.2%	8.9%	2.2%	20.0%	17.8%	37.8%
	高次脳機能障害	37	14	2	3	4	2	11	7	13
		100.0%	37.8%	5.4%	8.1%	10.8%	5.4%	29.7%	18.9%	35.1%
	難病	90	26	3	4	4	4	14	16	40
		100.0%	28.9%	3.3%	4.4%	4.4%	4.4%	15.6%	17.8%	44.4%
	手帳なし	11	4	1	0	1	0	4	2	4
		100.0%	36.4%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	36.4%	18.2%	36.4%

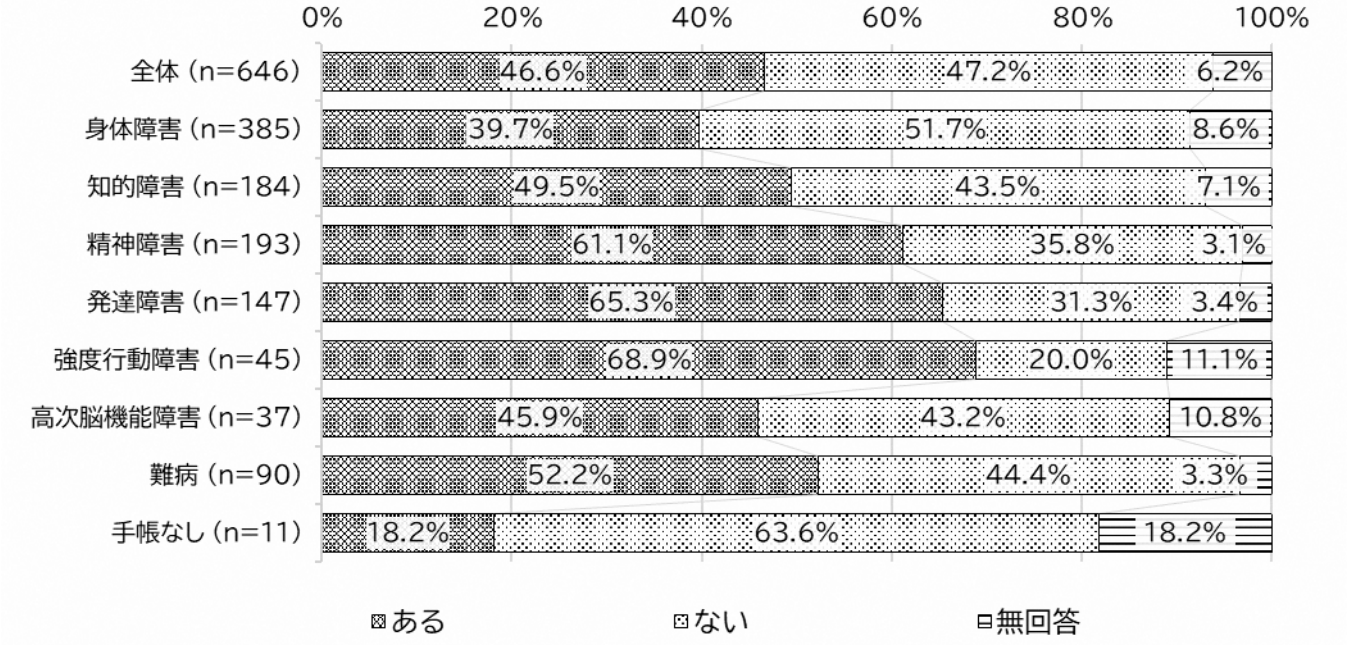
7　権利擁護

（1）　障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすること

問３９　あなたは、障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることは、ありますか。（○は１つだけ）

障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがあるかについては、「ある」が46.6%、「ない」が47.2%となっています。

■【障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすること】



（２）　嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）

問３９－１　どのような場所で嫌な思いをしたり、困ったりしましたか。また、その嫌な思いをしたり、困ったりすることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることがある方の、差別や嫌な思いをした内容については、学校では「無視されたり、仲間はずれにされた」、職場では「障害に配慮してもらえなかった」、仕事を探すときでは「障害を理由に断られた」、外出先・余暇を楽しむとき・公共交通機関・病院等の医療機関・住んでいる地域では「じろじろ見られた」がそれぞれ最も多くなっています。

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　①学校】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	35	57	62	35	28	8	32	37	18	166
		100.0%	11.6%	18.9%	20.6%	11.6%	9.3%	2.7%	10.6%	12.3%	6.0%	55.1%
障害種別	身体障害	153	10	15	17	14	7	3	11	13	6	108
		100.0%	6.5%	9.8%	11.1%	9.2%	4.6%	2.0%	7.2%	8.5%	3.9%	70.6%
	知的障害	91	16	27	32	20	12	4	14	14	8	26
		100.0%	17.6%	29.7%	35.2%	22.0%	13.2%	4.4%	15.4%	15.4%	8.8%	28.6%
	精神障害	118	15	27	28	10	14	3	11	18	10	61
		100.0%	12.7%	22.9%	23.7%	8.5%	11.9%	2.5%	9.3%	15.3%	8.5%	51.7%
	発達障害	96	21	32	36	14	18	5	14	21	7	30
		100.0%	21.9%	33.3%	37.5%	14.6%	18.8%	5.2%	14.6%	21.9%	7.3%	31.3%
	強度行動障害	31	4	9	6	7	3	1	6	3	1	13
		100.0%	12.9%	29.0%	19.4%	22.6%	9.7%	3.2%	19.4%	9.7%	3.2%	41.9%
	高次脳機能障害	17	0	2	2	0	1	0	2	1	0	14
		100.0%	0.0%	11.8%	11.8%	0.0%	5.9%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%	82.4%
	難病	47	4	7	6	5	3	1	5	4	1	31
		100.0%	8.5%	14.9%	12.8%	10.6%	6.4%	2.1%	10.6%	8.5%	2.1%	66.0%
	手帳なし	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1
		100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　②職場】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	32	44	27	13	32	18	48	46	29	163
		100.0%	10.6%	14.6%	9.0%	4.3%	10.6%	6.0%	15.9%	15.3%	9.6%	54.2%
障害種別	身体障害	153	15	15	9	5	8	12	22	19	13	91
		100.0%	9.8%	9.8%	5.9%	3.3%	5.2%	7.8%	14.4%	12.4%	8.5%	59.5%
	知的障害	91	5	13	10	6	12	6	13	12	7	50
		100.0%	5.5%	14.3%	11.0%	6.6%	13.2%	6.6%	14.3%	13.2%	7.7%	54.9%
	精神障害	118	19	25	16	5	18	6	23	25	11	52
		100.0%	16.1%	21.2%	13.6%	4.2%	15.3%	5.1%	19.5%	21.2%	9.3%	44.1%
	発達障害	96	16	22	13	6	14	6	21	16	11	43
		100.0%	16.7%	22.9%	13.5%	6.3%	14.6%	6.3%	21.9%	16.7%	11.5%	44.8%
	強度行動障害	31	1	4	4	1	4	2	3	2	1	20
		100.0%	3.2%	12.9%	12.9%	3.2%	12.9%	6.5%	9.7%	6.5%	3.2%	64.5%
	高次脳機能障害	17	0	1	2	0	1	2	2	3	1	12
		100.0%	0.0%	5.9%	11.8%	0.0%	5.9%	11.8%	11.8%	17.6%	5.9%	70.6%
	難病	47	8	6	3	4	6	4	6	4	5	28
		100.0%	17.0%	12.8%	6.4%	8.5%	12.8%	8.5%	12.8%	8.5%	10.6%	59.6%
	手帳なし	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　③仕事を探すとき】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	18	9	3	2	10	34	21	20	23	200
		100.0%	6.0%	3.0%	1.0%	0.7%	3.3%	11.3%	7.0%	6.6%	7.6%	66.4%
障害種別	身体障害	153	9	5	1	1	5	18	9	8	6	108
		100.0%	5.9%	3.3%	0.7%	0.7%	3.3%	11.8%	5.9%	5.2%	3.9%	70.6%
	知的障害	91	4	3	1	0	3	7	7	4	10	62
		100.0%	4.4%	3.3%	1.1%	0.0%	3.3%	7.7%	7.7%	4.4%	11.0%	68.1%
	精神障害	118	7	5	1	1	5	17	10	9	12	67
		100.0%	5.9%	4.2%	0.8%	0.8%	4.2%	14.4%	8.5%	7.6%	10.2%	56.8%
	発達障害	96	6	4	2	0	4	11	10	7	9	57
		100.0%	6.3%	4.2%	2.1%	0.0%	4.2%	11.5%	10.4%	7.3%	9.4%	59.4%
	強度行動障害	31	2	1	0	0	0	2	2	2	1	22
		100.0%	6.5%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	6.5%	6.5%	3.2%	71.0%
	高次脳機能障害	17	0	1	0	0	0	1	1	0	0	14
		100.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	82.4%
	難病	47	4	3	1	1	2	5	3	2	4	34
		100.0%	8.5%	6.4%	2.1%	2.1%	4.3%	10.6%	6.4%	4.3%	8.5%	72.3%
	手帳なし	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　④外出先・余暇を楽しむとき】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	17	16	6	69	3	11	34	19	26	157
		100.0%	5.6%	5.3%	2.0%	22.9%	1.0%	3.7%	11.3%	6.3%	8.6%	52.2%
障害種別	身体障害	153	8	7	2	33	1	3	27	10	9	79
		100.0%	5.2%	4.6%	1.3%	21.6%	0.7%	2.0%	17.6%	6.5%	5.9%	51.6%
	知的障害	91	5	10	3	34	2	7	5	5	9	39
		100.0%	5.5%	11.0%	3.3%	37.4%	2.2%	7.7%	5.5%	5.5%	9.9%	42.9%
	精神障害	118	9	7	2	20	1	5	9	9	14	62
		100.0%	7.6%	5.9%	1.7%	16.9%	0.8%	4.2%	7.6%	7.6%	11.9%	52.5%
	発達障害	96	10	10	3	23	2	7	9	8	12	41
		100.0%	10.4%	10.4%	3.1%	24.0%	2.1%	7.3%	9.4%	8.3%	12.5%	42.7%
	強度行動障害	31	3	6	3	13	1	2	3	3	3	9
		100.0%	9.7%	19.4%	9.7%	41.9%	3.2%	6.5%	9.7%	9.7%	9.7%	29.0%
	高次脳機能障害	17	1	3	1	5	1	1	3	1	0	9
		100.0%	5.9%	17.6%	5.9%	29.4%	5.9%	5.9%	17.6%	5.9%	0.0%	52.9%
	難病	47	2	3	2	11	1	3	4	2	1	30
		100.0%	4.3%	6.4%	4.3%	23.4%	2.1%	6.4%	8.5%	4.3%	2.1%	63.8%
	手帳なし	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　⑤公共交通機関】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	5	10	2	53	3	3	25	22	30	171
		100.0%	1.7%	3.3%	0.7%	17.6%	1.0%	1.0%	8.3%	7.3%	10.0%	56.8%
障害種別	身体障害	153	3	6	0	24	1	2	20	14	11	84
		100.0%	2.0%	3.9%	0.0%	15.7%	0.7%	1.3%	13.1%	9.2%	7.2%	54.9%
	知的障害	91	1	5	2	30	1	1	3	3	8	46
		100.0%	1.1%	5.5%	2.2%	33.0%	1.1%	1.1%	3.3%	3.3%	8.8%	50.5%
	精神障害	118	3	3	0	17	1	0	9	7	14	68
		100.0%	2.5%	2.5%	0.0%	14.4%	0.8%	0.0%	7.6%	5.9%	11.9%	57.6%
	発達障害	96	3	4	1	21	2	1	7	6	15	47
		100.0%	3.1%	4.2%	1.0%	21.9%	2.1%	1.0%	7.3%	6.3%	15.6%	49.0%
	強度行動障害	31	1	3	1	12	1	1	1	2	3	13
		100.0%	3.2%	9.7%	3.2%	38.7%	3.2%	3.2%	3.2%	6.5%	9.7%	41.9%
	高次脳機能障害	17	0	1	0	4	0	0	2	0	0	11
		100.0%	0.0%	5.9%	0.0%	23.5%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%	64.7%
	難病	47	1	4	1	8	1	2	5	4	3	27
		100.0%	2.1%	8.5%	2.1%	17.0%	2.1%	4.3%	10.6%	8.5%	6.4%	57.4%
	手帳なし	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　⑥病院等の医療機関】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	15	10	2	27	6	7	18	22	27	204
		100.0%	5.0%	3.3%	0.7%	9.0%	2.0%	2.3%	6.0%	7.3%	9.0%	67.8%
障害種別	身体障害	153	8	5	1	14	3	3	9	11	10	104
		100.0%	5.2%	3.3%	0.7%	9.2%	2.0%	2.0%	5.9%	7.2%	6.5%	68.0%
	知的障害	91	3	5	1	14	1	3	6	6	10	58
		100.0%	3.3%	5.5%	1.1%	15.4%	1.1%	3.3%	6.6%	6.6%	11.0%	63.7%
	精神障害	118	9	4	1	4	5	3	6	9	14	76
		100.0%	7.6%	3.4%	0.8%	3.4%	4.2%	2.5%	5.1%	7.6%	11.9%	64.4%
	発達障害	96	4	5	1	9	2	4	6	6	15	59
		100.0%	4.2%	5.2%	1.0%	9.4%	2.1%	4.2%	6.3%	6.3%	15.6%	61.5%
	強度行動障害	31	2	3	1	7	1	2	4	4	2	17
		100.0%	6.5%	9.7%	3.2%	22.6%	3.2%	6.5%	12.9%	12.9%	6.5%	54.8%
	高次脳機能障害	17	2	1	0	4	1	1	1	0	0	10
		100.0%	11.8%	5.9%	0.0%	23.5%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	58.8%
	難病	47	3	3	2	5	2	3	4	4	1	34
		100.0%	6.4%	6.4%	4.3%	10.6%	4.3%	6.4%	8.5%	8.5%	2.1%	72.3%
	手帳なし	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　⑦住んでいる地域】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	15	10	8	37	1	1	18	18	27	205
		100.0%	5.0%	3.3%	2.7%	12.3%	0.3%	0.3%	6.0%	6.0%	9.0%	68.1%
障害種別	身体障害	153	4	2	3	14	1	1	7	9	9	115
		100.0%	2.6%	1.3%	2.0%	9.2%	0.7%	0.7%	4.6%	5.9%	5.9%	75.2%
	知的障害	91	6	5	3	18	1	1	5	4	9	56
		100.0%	6.6%	5.5%	3.3%	19.8%	1.1%	1.1%	5.5%	4.4%	9.9%	61.5%
	精神障害	118	7	5	3	13	0	0	10	9	15	73
		100.0%	5.9%	4.2%	2.5%	11.0%	0.0%	0.0%	8.5%	7.6%	12.7%	61.9%
	発達障害	96	9	5	4	14	0	0	10	7	12	55
		100.0%	9.4%	5.2%	4.2%	14.6%	0.0%	0.0%	10.4%	7.3%	12.5%	57.3%
	強度行動障害	31	3	3	1	9	0	0	4	2	1	16
		100.0%	9.7%	9.7%	3.2%	29.0%	0.0%	0.0%	12.9%	6.5%	3.2%	51.6%
	高次脳機能障害	17	1	1	1	5	1	1	3	2	0	10
		100.0%	5.9%	5.9%	5.9%	29.4%	5.9%	5.9%	17.6%	11.8%	0.0%	58.8%
	難病	47	0	2	0	6	0	0	2	0	1	37
		100.0%	0.0%	4.3%	0.0%	12.8%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	2.1%	78.7%
	手帳なし	2	1	1	1	0	0	0	1	2	0	0
		100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　⑧福祉サービス（通所事業所・グループホーム・施設）など】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	7	7	5	2	7	4	8	14	33	234
		100.0%	2.3%	2.3%	1.7%	0.7%	2.3%	1.3%	2.7%	4.7%	11.0%	77.7%
障害種別	身体障害	153	3	4	1	1	1	3	4	8	14	123
		100.0%	2.0%	2.6%	0.7%	0.7%	0.7%	2.0%	2.6%	5.2%	9.2%	80.4%
	知的障害	91	1	4	1	0	2	0	2	2	12	71
		100.0%	1.1%	4.4%	1.1%	0.0%	2.2%	0.0%	2.2%	2.2%	13.2%	78.0%
	精神障害	118	4	4	3	1	5	2	1	5	16	84
		100.0%	3.4%	3.4%	2.5%	0.8%	4.2%	1.7%	0.8%	4.2%	13.6%	71.2%
	発達障害	96	4	3	1	0	4	2	3	4	17	64
		100.0%	4.2%	3.1%	1.0%	0.0%	4.2%	2.1%	3.1%	4.2%	17.7%	66.7%
	強度行動障害	31	2	3	2	1	2	1	3	2	3	20
		100.0%	6.5%	9.7%	6.5%	3.2%	6.5%	3.2%	9.7%	6.5%	9.7%	64.5%
	高次脳機能障害	17	1	1	0	1	1	1	1	0	0	13
		100.0%	5.9%	5.9%	0.0%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	76.5%
	難病	47	0	1	0	0	0	3	2	2	4	38
		100.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	6.4%	4.3%	4.3%	8.5%	80.9%
	手帳なし	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　⑨住まいを探すとき】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	自分だけ違う対応をされた	暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた	無視されたり、仲間はずれにされた	じろじろ見られた	自分の意見をきいてもらえなかった	障害を理由に断られた	障害に配慮してもらえなかった	不親切・冷たい態度をとられた	その他	無回答
全体	全体	301	4	2	2	3	2	6	5	7	31	253
		100.0%	1.3%	0.7%	0.7%	1.0%	0.7%	2.0%	1.7%	2.3%	10.3%	84.1%
障害種別	身体障害	153	2	2	1	2	1	2	4	3	14	131
		100.0%	1.3%	1.3%	0.7%	1.3%	0.7%	1.3%	2.6%	2.0%	9.2%	85.6%
	知的障害	91	1	2	1	1	1	2	1	2	11	77
		100.0%	1.1%	2.2%	1.1%	1.1%	1.1%	2.2%	1.1%	2.2%	12.1%	84.6%
	精神障害	118	2	1	1	1	1	3	2	4	16	91
		100.0%	1.7%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	2.5%	1.7%	3.4%	13.6%	77.1%
	発達障害	96	0	1	0	0	0	0	2	1	16	76
		100.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	1.0%	16.7%	79.2%
	強度行動障害	31	0	1	0	1	0	2	0	1	1	26
		100.0%	0.0%	3.2%	0.0%	3.2%	0.0%	6.5%	0.0%	3.2%	3.2%	83.9%
	高次脳機能障害	17	1	1	1	2	1	1	2	1	0	14
		100.0%	5.9%	5.9%	5.9%	11.8%	5.9%	5.9%	11.8%	5.9%	0.0%	82.4%
	難病	47	1	1	1	0	1	1	2	1	1	42
		100.0%	2.1%	2.1%	2.1%	0.0%	2.1%	2.1%	4.3%	2.1%	2.1%	89.4%
	手帳なし	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）　10. その他】

その他の、嫌な思いをしたり、困ったりする場所については、役所や警察署、優先座席や優先駐車場などの回答がありました。内容については「障害に配慮してもらえなかった」「暴言や嫌味を言われる」などの回答がありました。また、家庭内において家族からの暴言や理解の得られない態度をとられることがあるとの回答も複数ありました。

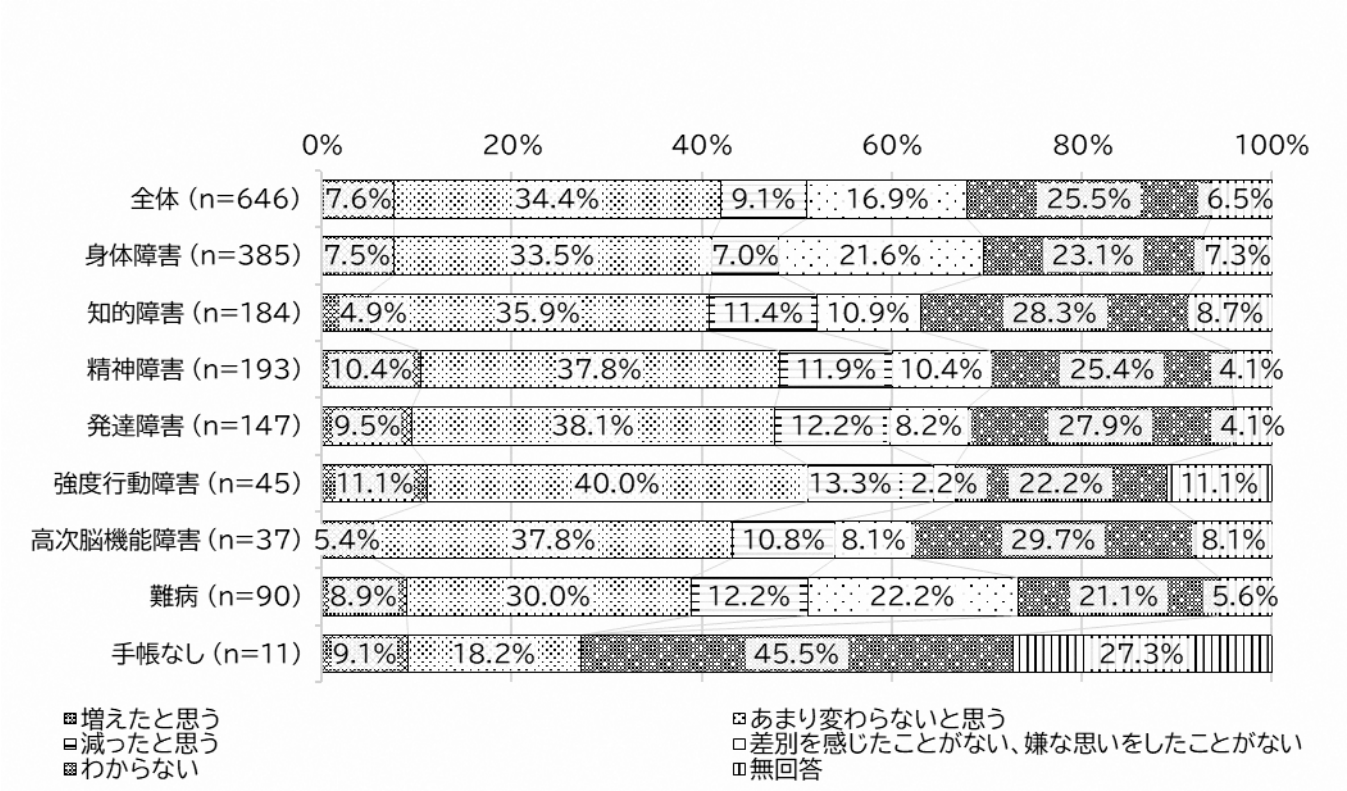
（３）　障害があることで差別や嫌な思いをすること

問４０　あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをすることは、この３年間で変わったように思いますか。（○は１つだけ）

障害があることで差別や嫌な思いをすることについては、この３年間で「あまり変わらないと思う」が 34.4%で最も多く、次いで、「わからない」が 25.5%となっています。この 3 年間で「減ったと思う」「差別を感じたことがない、嫌な思いをしたことがない」を合わせると 26.0%であり、前回調査の 18.5%から増加しています。

身体障害・難病では「差別を感じたことがない、嫌な思いをしたことがない」が比較的多くなっています。

■【障害があることで差別や嫌な思いをすること】



（４）　成年後見制度を利用の際の不安、または利用を考えていない理由

問４１　成年後見制度を利用している場合や利用を考えておられる場合、不安に考えておられること、また、利用を考えておられない理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

成年後見制度の利用にあたって不安なこと・利用を考えない理由については、「制度がよくわからない」が 32.8％と最も多く、次いで、「あなた自身に代わって財産等を管理できる親族がいるから」が 25.2%、「あなた自身が契約行為等をすることができるから」が 21.7%などとなっています。

「制度がよくわからない」の 32.8%は、前回調査の 29.4%から増加しており、制度のさらなる周知が必要であると考えられます。

■【成年後見制度を利用の際の不安、または利用を考えていない理由（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	制度がよくわからないから	あなた自身が契約行為等をすることができるから	あなた自身に代わって財産等を管理できる親族がいるから	後見人等を見ず知らずの人がすることに不安があるから	後見人等に支払う報酬の負担ができないから	手続きが複雑そうでわからないから	あなた自身の意志で物事を決められなくなるから	その他	無回答
全体	全体	646	212	140	163	100	90	91	85	13	149
		100.0%	32.8%	21.7%	25.2%	15.5%	13.9%	14.1%	13.2%	2.0%	23.1%
障害種別	身体障害	385	102	97	86	45	42	43	31	9	114
		100.0%	26.5%	25.2%	22.3%	11.7%	10.9%	11.2%	8.1%	2.3%	29.6%
	知的障害	184	64	11	69	44	34	33	30	2	31
		100.0%	34.8%	6.0%	37.5%	23.9%	18.5%	17.9%	16.3%	1.1%	16.8%
	精神障害	193	81	42	45	32	34	39	40	5	36
		100.0%	42.0%	21.8%	23.3%	16.6%	17.6%	20.2%	20.7%	2.6%	18.7%
	発達障害	147	66	24	46	38	28	32	30	3	15
		100.0%	44.9%	16.3%	31.3%	25.9%	19.0%	21.8%	20.4%	2.0%	10.2%
	強度行動障害	45	16	4	12	12	7	12	8	2	10
		100.0%	35.6%	8.9%	26.7%	26.7%	15.6%	26.7%	17.8%	4.4%	22.2%
	高次脳機能障害	37	12	3	14	7	6	4	6	2	10
		100.0%	32.4%	8.1%	37.8%	18.9%	16.2%	10.8%	16.2%	5.4%	27.0%
	難病	90	20	26	25	17	12	11	11	1	21
		100.0%	22.2%	28.9%	27.8%	18.9%	13.3%	12.2%	12.2%	1.1%	23.3%
	手帳なし	11	3	1	1	2	2	0	1	0	4
		100.0%	27.3%	9.1%	9.1%	18.2%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	36.4%

8　災害時の避難等

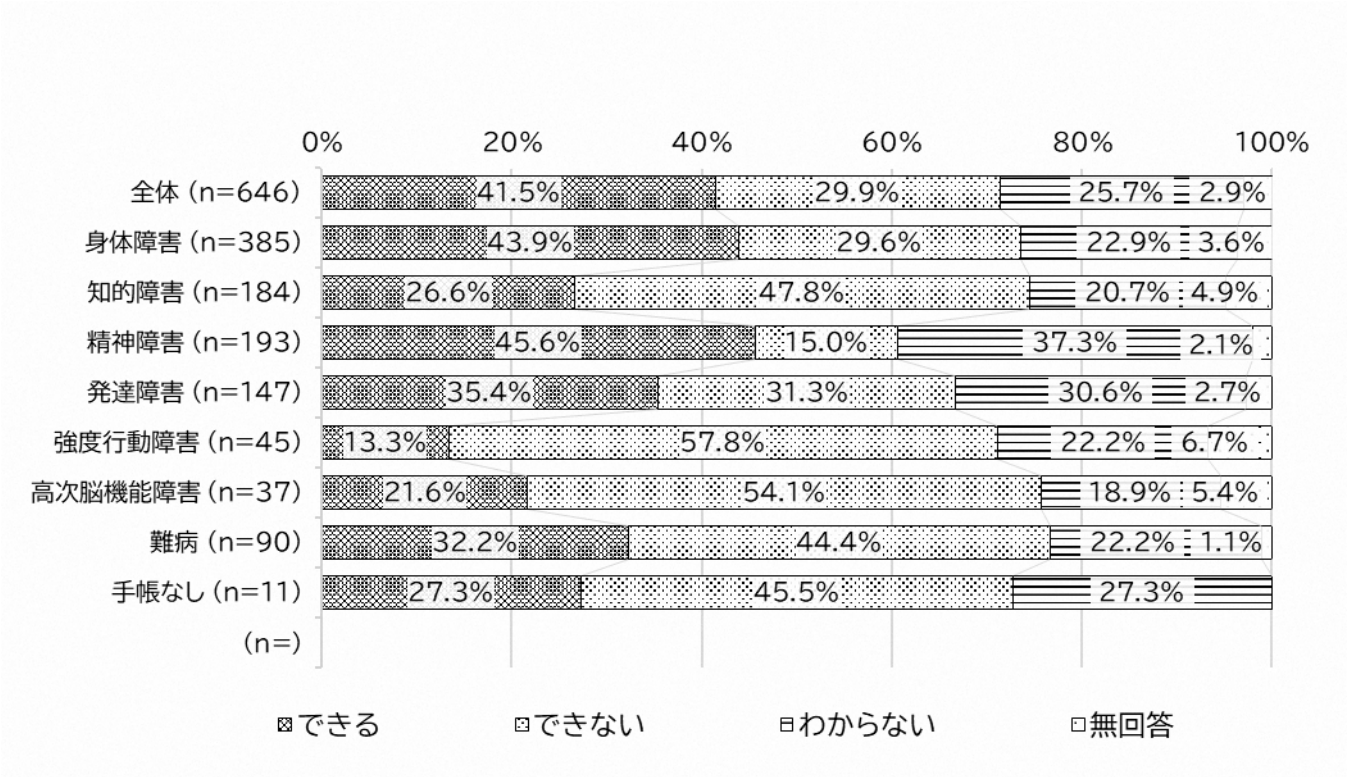
（１）　災害時に一人で避難できるか

問４２　あなたは、地震等の災害時に一人で避難できますか。（○は１つだけ）

地震等の災害時に一人で避難できるかについては、「できる」が 41.5%、「できない」が 29.9%、「わからない」が 25.7%となっています。「できる」の 41.5%は、前回調査の 39.9%より多くなっていますが、「できない」が約３割の割合となっており、災害時の避難が課題になっていることがうかがえます。

強度行動障害者、高次脳機能障害では「できない」がともに５割を超えています。

■【災害時に一人で避難できるか】

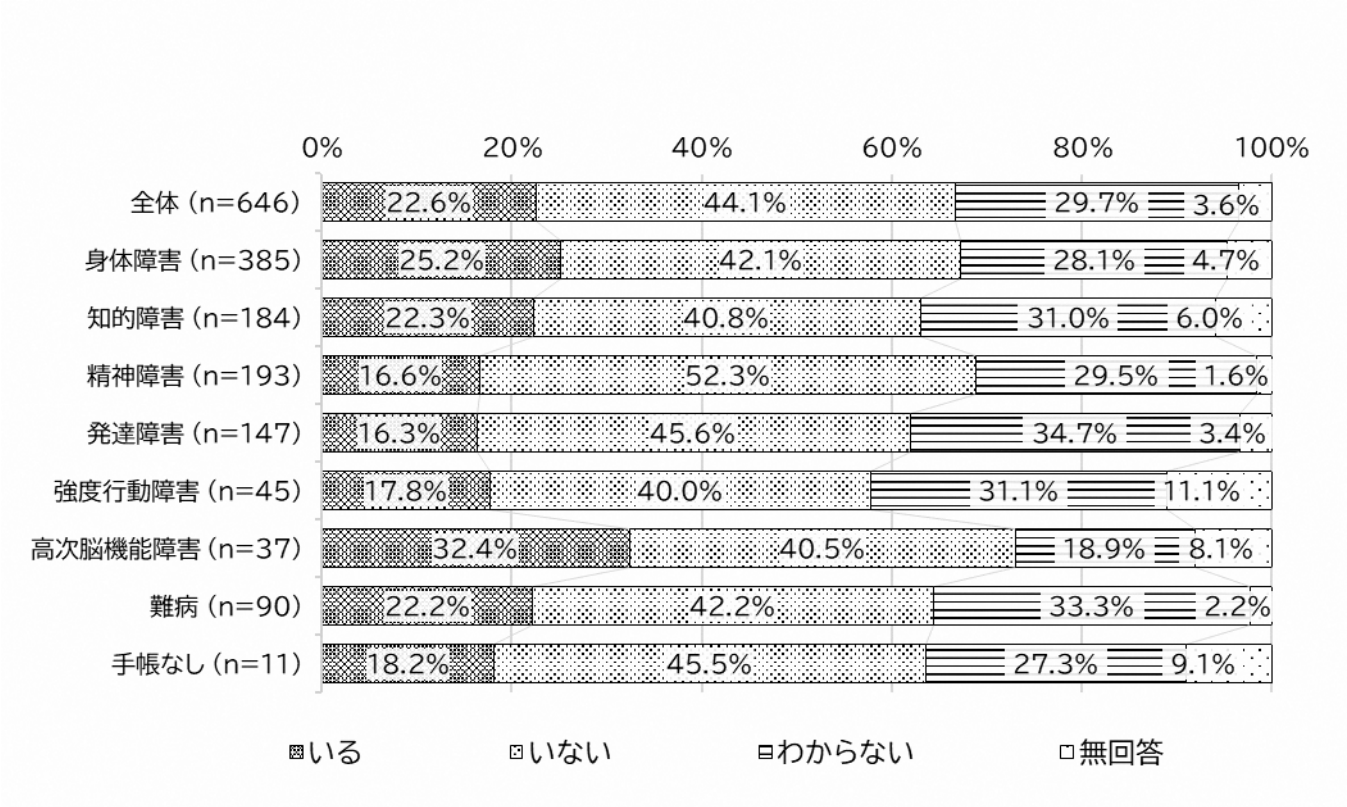


（２）　災害時に助けてくれる人はいるか

問４３　家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に避難する時、あなたを助けてくれる人はいますか。（○は１つだけ）

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に避難する時、助けてくれる人がいるかについては、「いる」が 22.6%、「いない」が 44.1%、「わからない」が 29.7%となっています。

■【災害時に助けてくれる人はいるか】



（３）　災害時に助けてくれる人（複数回答）

問４３－１　助けてくれる人は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

助けてくれる人がいる方の、助けてくれる相手については、「近所の人」が 46.6%と最も多く、次いで、「友人・知人」が 30.8%「ヘルパーなど事業所の職員」が 26.0%、となっています。

■【災害時に助けてくれる人（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	近所の人	ヘルパーなど事業所の職員	病院の職員	友人・知人	その他	無回答
全体	全体	146	68	38	11	45	16	5
		100.0%	46.6%	26.0%	7.5%	30.8%	11.0%	3.4%
障害種別	身体障害	97	49	25	8	34	8	1
		100.0%	50.5%	25.8%	8.2%	35.1%	8.2%	1.0%
	知的障害	41	10	15	3	5	9	2
		100.0%	24.4%	36.6%	7.3%	12.2%	22.0%	4.9%
	精神障害	32	17	8	1	11	5	3
		100.0%	53.1%	25.0%	3.1%	34.4%	15.6%	9.4%
	発達障害	24	9	5	1	8	4	1
		100.0%	37.5%	20.8%	4.2%	33.3%	16.7%	4.2%
	強度行動障害	8	5	2	1	1	1	0
		100.0%	62.5%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%
	高次脳機能障害	12	3	5	3	3	0	0
		100.0%	25.0%	41.7%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	難病	20	8	6	1	6	1	1
		100.0%	40.0%	30.0%	5.0%	30.0%	5.0%	5.0%
	手帳なし	2	1	0	0	1	0	0
		100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%

（４）　災害時の避難や避難生活で困ることや不安（複数回答）

問４４　地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことについては、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が 53.3%と最も多く、次いで、「投薬や治療が受けられない」が 52.5%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が 42.4%となっています。

なお、18 歳未満へのアンケートにおいても、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が 56.2%と最も多くなっています。

■【災害時の避難や避難生活で困ることや不安（複数回答）】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる（入手が困難になるなども含む）	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難することができない	被害状況や配給・炊き出し等の情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	避難場所の雑音、騒音に耐えられない	他の避難者から叱られると思うと不安（大声をあげる等をすることにより）	配給のお弁当が食べられない	コロナウイルス感染症などへの感染が不安	プライバシーの配慮がされない	避難する場所がわからない	その他	無回答
全体	全体	646	339	63	149	274	185	206	344	166	107	57	153	222	156	25	52
		100.0%	52.5%	9.8%	23.1%	42.4%	28.6%	31.9%	53.3%	25.7%	16.6%	8.8%	23.7%	34.4%	24.1%	3.9%	8.0%
障害種別	身体障害	385	214	54	77	180	96	81	203	70	42	38	98	121	78	14	36
		100.0%	55.6%	14.0%	20.0%	46.8%	24.9%	21.0%	52.7%	18.2%	10.9%	9.9%	25.5%	31.4%	20.3%	3.6%	9.4%
	知的障害	184	63	10	72	89	71	93	90	47	41	15	34	51	66	7	22
		100.0%	34.2%	5.4%	39.1%	48.4%	38.6%	50.5%	48.9%	25.5%	22.3%	8.2%	18.5%	27.7%	35.9%	3.8%	12.0%
	精神障害	193	127	12	40	60	58	79	103	83	52	19	51	90	54	11	9
		100.0%	65.8%	6.2%	20.7%	31.1%	30.1%	40.9%	53.4%	43.0%	26.9%	9.8%	26.4%	46.6%	28.0%	5.7%	4.7%
	発達障害	147	69	5	46	52	49	81	84	67	53	18	34	62	49	7	10
		100.0%	46.9%	3.4%	31.3%	35.4%	33.3%	55.1%	57.1%	45.6%	36.1%	12.2%	23.1%	42.2%	33.3%	4.8%	6.8%
	強度行動障害	45	26	1	23	24	17	25	30	19	19	8	10	19	15	2	7
		100.0%	57.8%	2.2%	51.1%	53.3%	37.8%	55.6%	66.7%	42.2%	42.2%	17.8%	22.2%	42.2%	33.3%	4.4%	15.6%
	高次脳機能障害	37	22	8	11	23	10	11	23	8	6	3	12	9	11	2	5
		100.0%	59.5%	21.6%	29.7%	62.2%	27.0%	29.7%	62.2%	21.6%	16.2%	8.1%	32.4%	24.3%	29.7%	5.4%	13.5%
	難病	90	62	15	22	58	26	25	59	22	14	13	28	30	20	5	5
		100.0%	68.9%	16.7%	24.4%	64.4%	28.9%	27.8%	65.6%	24.4%	15.6%	14.4%	31.1%	33.3%	22.2%	5.6%	5.6%
	手帳なし	11	4	2	0	6	2	1	9	1	0	0	5	1	5	0	1
		100.0%	36.4%	18.2%	0.0%	54.5%	18.2%	9.1%	81.8%	9.1%	0.0%	0.0%	45.5%	9.1%	45.5%	0.0%	9.1%

（５）　災害時に自宅で過ごせなくなった場合の対処

問４５　災害時に自宅で過ごせなくなった場合、あなたはどのようにされますか。（○は１つだけ）

災害時に自宅で過ごせなくなった場合、どのようにするかについては、「避難所で過ごす」が 40.9%と最も多く、「避難所で過ごせないので、車の中や公園などで過ごす」が 12.1%、「障害の施設で過ごせるよう探す」が 8.5%、「遠方の知り合いを探す」が 6.0%となっています。一方で、「わからない」という回答も 26.3%と多くみられます。また、発達障害・強度行動障害では「避難所で過ごせないので、車の中や公園などで過ごす」が２割を超えています。

■【災害時に自宅で過ごせなくなった場合の対処】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(ｎ)	避難所で過ごす	避難所で過ごせないので車の中などで過ごす	障害の施設で過ごせるよう探す	遠方の知り合いを探す	わからない	その他	無回答
全体	全体	646	264	78	55	39	170	14	26
		100%	40.9%	12.1%	8.5%	6.0%	26.3%	2.2%	4.0%
障害種別	身体障害	385	171	44	30	26	88	9	17
		100%	44.4%	11.4%	7.8%	6.8%	22.9%	2.3%	4.4%
	知的障害	184	60	22	23	8	54	2	15
		100%	32.6%	12.0%	12.5%	4.3%	29.3%	1.1%	8.2%
	精神障害	193	81	20	8	8	65	5	6
		100%	42.0%	10.4%	4.1%	4.1%	33.7%	2.6%	3.1%
	発達障害	147	43	31	8	8	46	2	9
		100%	29.3%	21.1%	5.4%	5.4%	31.3%	1.4%	6.1%
	強度行動障害	45	9	11	8	0	11	1	5
		100%	20.0%	24.4%	17.8%	0.0%	24.4%	2.2%	11.1%
	高次脳機能障害	37	14	3	7	2	9	1	1
		100%	37.8%	8.1%	18.9%	5.4%	24.3%	2.7%	2.7%
	難病	90	34	10	10	7	24	3	2
		100%	37.8%	11.1%	11.1%	7.8%	26.7%	3.3%	2.2%
	手帳なし	11	4	1	1	0	4	0	1
		100%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	36.4%	0.0%	9.1%

（６）　避難場所にあれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物

問４６　避難場所にあれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物はありますか。（あてはまるものすべてに○）

避難場所にあれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物については、「自分だけの空間を作れる簡易な装置（段ボール箱の区切り等）」が 63.0%と最も多く、次いで、「何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンダナなど」が 28.9%、「騒音、雑音を遮断する耳あて（イヤーマフ等）」が 24.9%、「車いすで使用できるトイレ」が 22.1%、「避難所での連絡事項などが文字により伝えられる装置」が 20.6%となっています。

■【避難場所にあれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物（複数回答）】

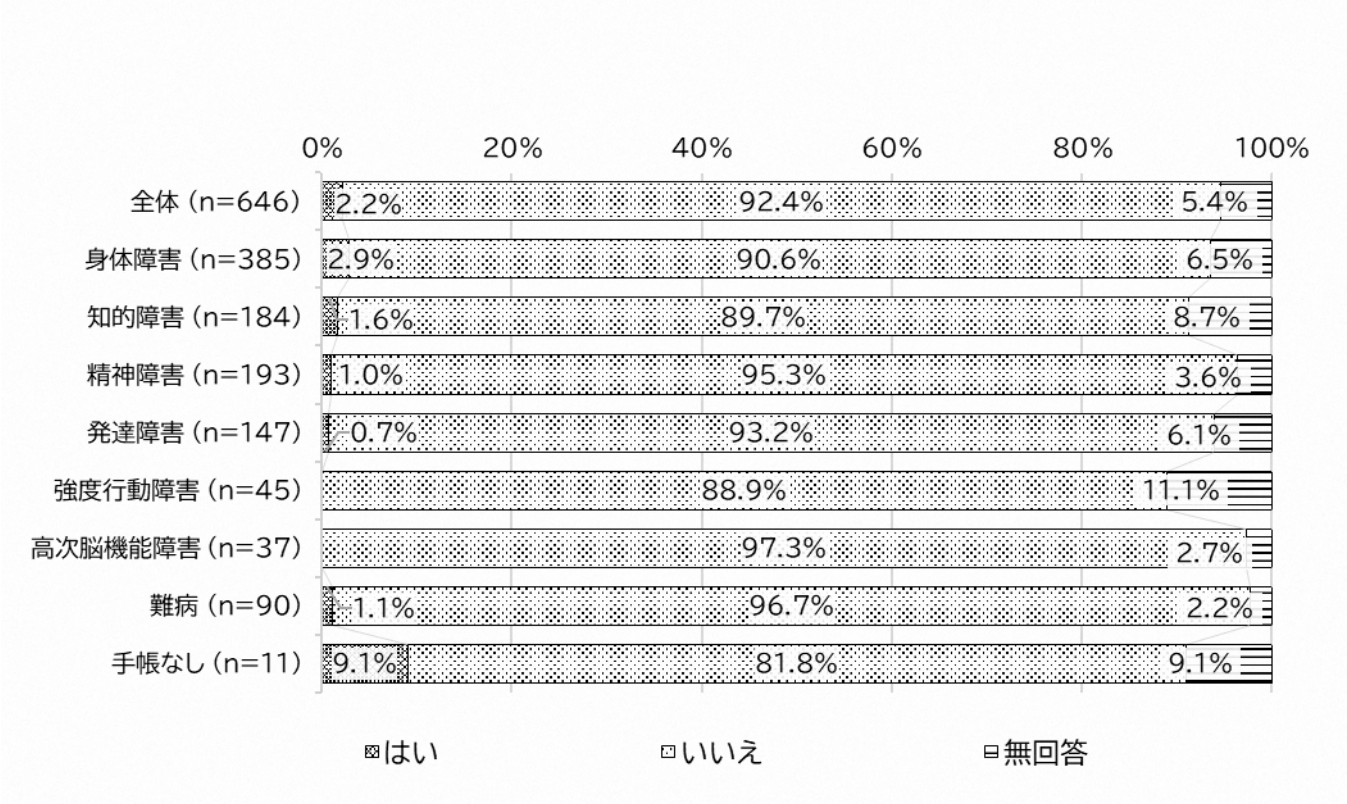
上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	車いすで使用できるトイレ	騒音、雑音を遮断する耳あて（イヤーマフ等）	ストマ装具	自分だけの空間を作れる簡易な装置（段ボール箱の区切り等）	避難所での連絡事項などが音声により伝えられる装置	避難所での連絡事項などが文字により伝えられる装置	利用している医療機器を充分に利用（充電）できるだけの電源	絵カードなどのコミュニケーション支援のための道具	何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンダナなど	その他	無回答
全体	全体	646	143	161	32	407	116	133	120	69	187	26	87
		100.0%	22.1%	24.9%	5.0%	63.0%	18.0%	20.6%	18.6%	10.7%	28.9%	4.0%	13.5%
障害種別	身体障害	385	110	79	20	237	70	72	85	24	105	16	52
		100.0%	28.6%	20.5%	5.2%	61.6%	18.2%	18.7%	22.1%	6.2%	27.3%	4.2%	13.5%
	知的障害	184	27	31	8	101	24	28	17	36	56	8	32
		100.0%	14.7%	16.8%	4.3%	54.9%	13.0%	15.2%	9.2%	19.6%	30.4%	4.3%	17.4%
	精神障害	193	33	77	11	134	41	50	41	21	63	9	24
		100.0%	17.1%	39.9%	5.7%	69.4%	21.2%	25.9%	21.2%	10.9%	32.6%	4.7%	12.4%
	発達障害	147	19	55	8	98	25	39	19	31	57	7	17
		100.0%	12.9%	37.4%	5.4%	66.7%	17.0%	26.5%	12.9%	21.1%	38.8%	4.8%	11.6%
	強度行動障害	45	8	12	2	29	8	6	4	6	16	2	9
		100.0%	17.8%	26.7%	4.4%	64.4%	17.8%	13.3%	8.9%	13.3%	35.6%	4.4%	20.0%
	高次脳機能障害	37	20	8	2	20	5	9	10	4	10	4	4
		100.0%	54.1%	21.6%	5.4%	54.1%	13.5%	24.3%	27.0%	10.8%	27.0%	10.8%	10.8%
	難病	90	29	25	2	52	20	14	24	6	29	5	12
		100.0%	32.2%	27.8%	2.2%	57.8%	22.2%	15.6%	26.7%	6.7%	32.2%	5.6%	13.3%
	手帳なし	11	3	2	1	6	4	5	2	1	3	0	2
		100.0%	27.3%	18.2%	9.1%	54.5%	36.4%	45.5%	18.2%	9.1%	27.3%	0.0%	18.2%

９　手話によるコミュニケーション

問４７　あなたは手話によるコミュニケーションを必要とする方ですか。（あてはまるものすべてに○）

手話によるコミュニケーションを必要とするかについては、「はい」が 2.2%、「いいえ」が 92.4%となっています。

■【手話によるコミュニケーションを必要とする方】



問４７－１　あなたは手話通訳派遣事業をご存じですか。（あてはまるもの１つに○）

手話通訳派遣事業については、「知っている」が 28.6%、「知っているが使っていない」が 35.7%、「知らない」が 21.4%となっています。

■【手話通訳派遣事業をご存知の方】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	使っている	知っているが使っていない	知らない	無回答
全体	全体	14	4	5	3	2
		100.0%	28.6%	35.7%	21.4%	14.3%
障害種別	身体障害	11	4	4	2	1
		100.0%	36.4%	36.4%	18.2%	9.1%
	知的障害	3	2	0	1	0
		100.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%
	精神障害	2	0	1	0	1
		100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	発達障害	1	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	強度行動障害	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病	1	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	手帳なし	1	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問４７－２　あなたは遠隔手話通訳事業をご存じですか。（あてはまるもの１つに○）

遠隔手話通訳事業については、「知っているが使っていない」「知らない」がともに35.7%と最も多く、次いで、「使っている」が14.3%となっています。

■【遠隔手話通訳事業をご存知の方】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	使っている	知っているが使っていない	知らない	無回答
全体	全体	14	2	5	5	2
		100.0%	14.3%	35.7%	35.7%	14.3%
障害種別	身体障害	11	2	5	3	1
		100.0%	18.2%	45.5%	27.3%	9.1%
	知的障害	3	1	1	1	0
		100.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
	精神障害	2	0	0	1	1
		100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	発達障害	1	0	0	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	強度行動障害	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病	1	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	手帳なし	1	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問４７－３　あなたはどのようにして手話を身につけましたか。（あてはまるものすべてに○）

どのように手話を身につけたかについては、「知人・サークル」が 42.9%と最も多く、次いで、「聴覚支援学校」が 35.7%、「家族」が 14.3%となっています。

■【遠隔手話通訳事業をご存知の方】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	聴覚支援学校	家族	知人・サークル	その他	無回答
全体	全体	14	5	2	6	4	4
		100.0%	35.7%	14.3%	42.9%	28.6%	28.6%
障害種別	身体障害	11	5	2	6	3	2
		100.0%	45.5%	18.2%	54.5%	27.3%	18.2%
	知的障害	3	2	0	1	0	1
		100.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%
	精神障害	2	0	0	0	1	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	発達障害	1	0	0	0	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	強度行動障害	0	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病	1	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	手帳なし	1	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問４７－４　あなたは手話やろう者がほかの人から理解されていると思いますか。（あてはまるものに○）

手話やろう者がほかの人から理解されていると思うかについては、「はい」が 42.9%、「いいえ」が 35.7%となっています。

■【手話やろう者がほかの人から理解されていると思うか】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	はい	いいえ	無回答
全体	全体	14	6	5	3
		100.0%	42.9%	35.7%	21.4%
障害種別	身体障害	11	5	4	2
		100.0%	45.5%	36.4%	18.2%
	知的障害	3	1	2	0
		100.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	精神障害	2	1	0	1
		100.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	発達障害	1	1	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	強度行動障害	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病	1	0	1	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	手帳なし	1	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問４７－５　あなたはどうすれば手話やろう者がほかの人から理解されると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

どうすれば手話やろう者がほかの人から理解されるかについては、「イベント等での啓発活動」が64.3%と最も多く、次いで、「学校で手話にふれる機会をつくること」が57.1%となっています。

■【どうすれば手話やろう者がほかの人から理解されると思うか】

上段：回答者数 下段：構成比		全体(n)	学校で手話にふれる機会をつくること	イベント等での啓発活動	その他	無回答
全体	全体	14	8	9	3	1
		100%	57.1%	64.3%	21.4%	7.1%
障害種別	身体障害	11	6	6	2	1
		100.0%	54.5%	54.5%	18.2%	9.1%
	知的障害	3	3	2	0	0
		100.0%	100.0%	66.7%	0.0%	0.0%
	精神障害	2	1	1	2	0
		100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%
	発達障害	1	1	1	1	0
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	強度行動障害	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病	1	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	手帳なし	1	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

第３章　「18 歳未満」調査結果

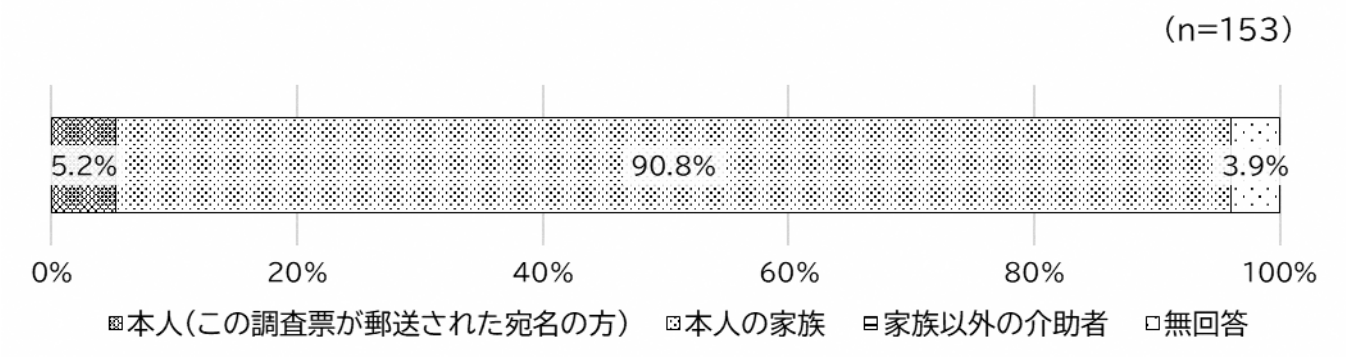
１　属性

（１）　回答者

問１　お答えいただくのは、どなたですか。（○は１つだけ）

回答者は、「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」が 5.2%、「本人の家族」が 90.8%となっています。

■【回答者】

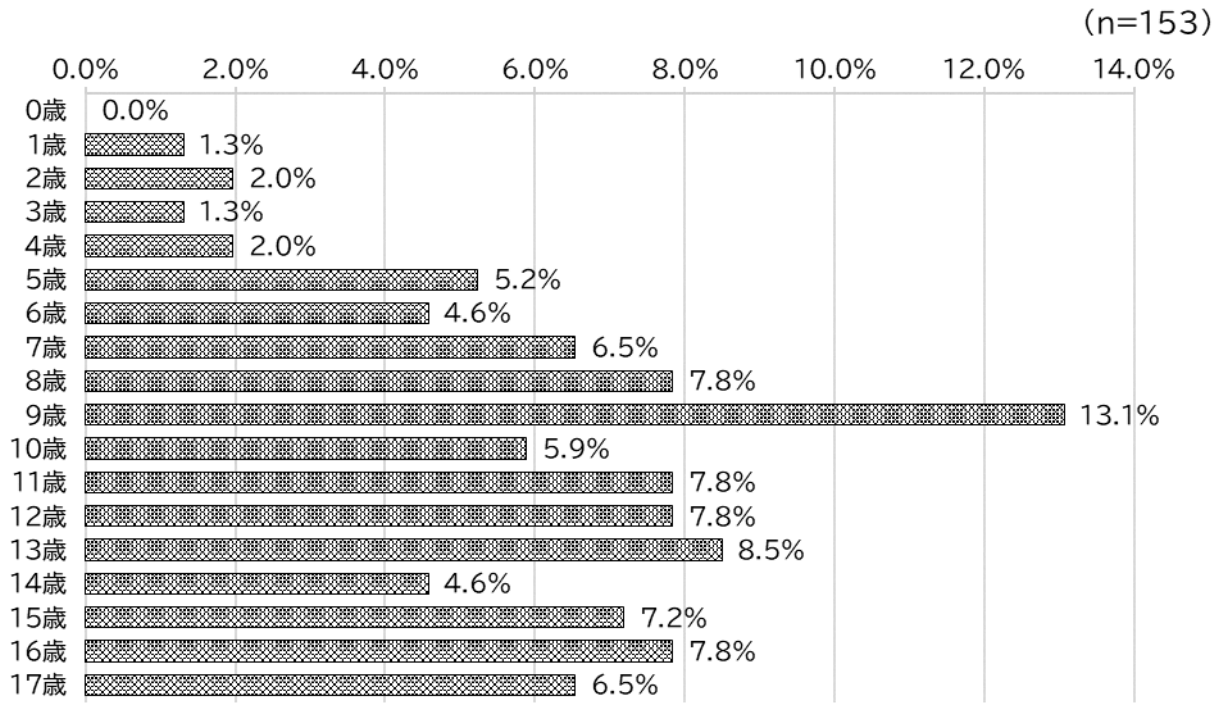


（２）　年齢（令和７年７月１日現在）

問２　あなたの年齢をお答えください。（令和７年７月１日現在）

年齢は、「9 歳」が 13.1%と最も多く、次いで、「13 歳」が 8.5%となっています。

■【年齢】

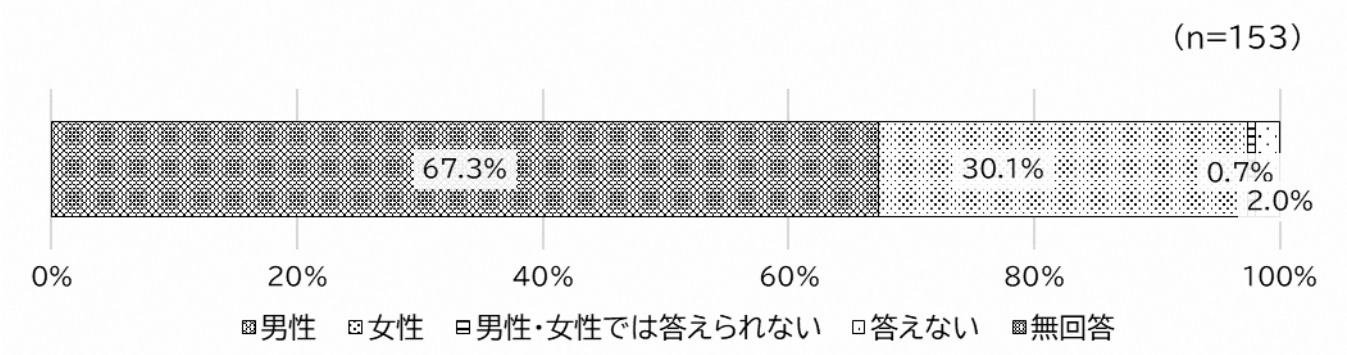


（３）　性別

問３　あなたが思う性別をお答えください。（○は１つだけ）

性別は、「男性」が 67.3%、「女性」が 30.1%となっています。

■【性別】



2　障害の状況

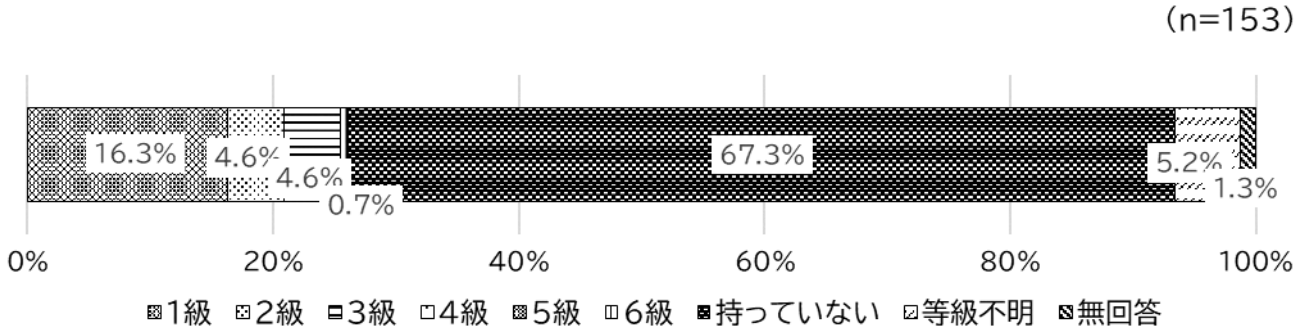
（1）　身体障害者手帳の所持状況

問４　あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。（○は総合等級に応じた１つだけ） 　　また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

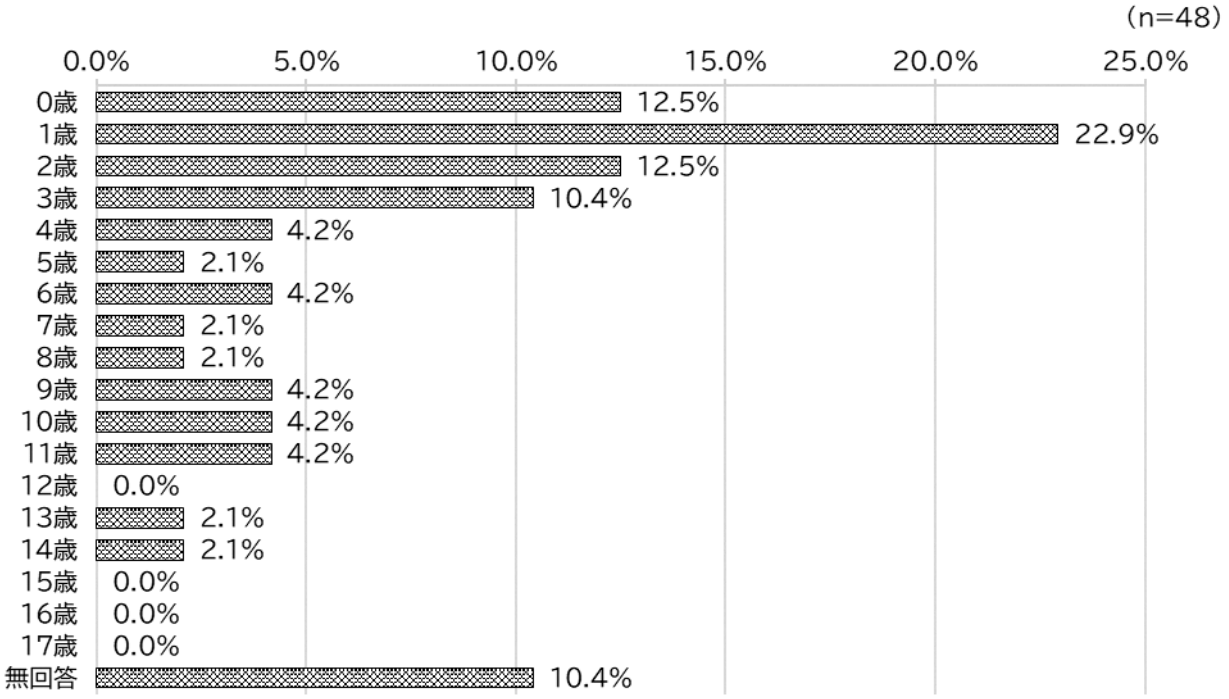
身体障害者手帳の有無については、「1 級」～「6 級」を合わせた『持っている』が 26.1%、「持っていない」が 67.3%となっています。また、身体障害者等級表による級別は、「1 級」が 16.3%と最も多く、次いで、「２級」「3 級」がともに 4.6%となっています。

身体障害者手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「１歳」が 22.9%と最も多く、次いで、「0 歳」「2 歳」が 12.5%、「３歳」が 10.4%などとなっています。

■【身体障害者手帳の所持状況】



■【身体障害者手帳取得年齢】

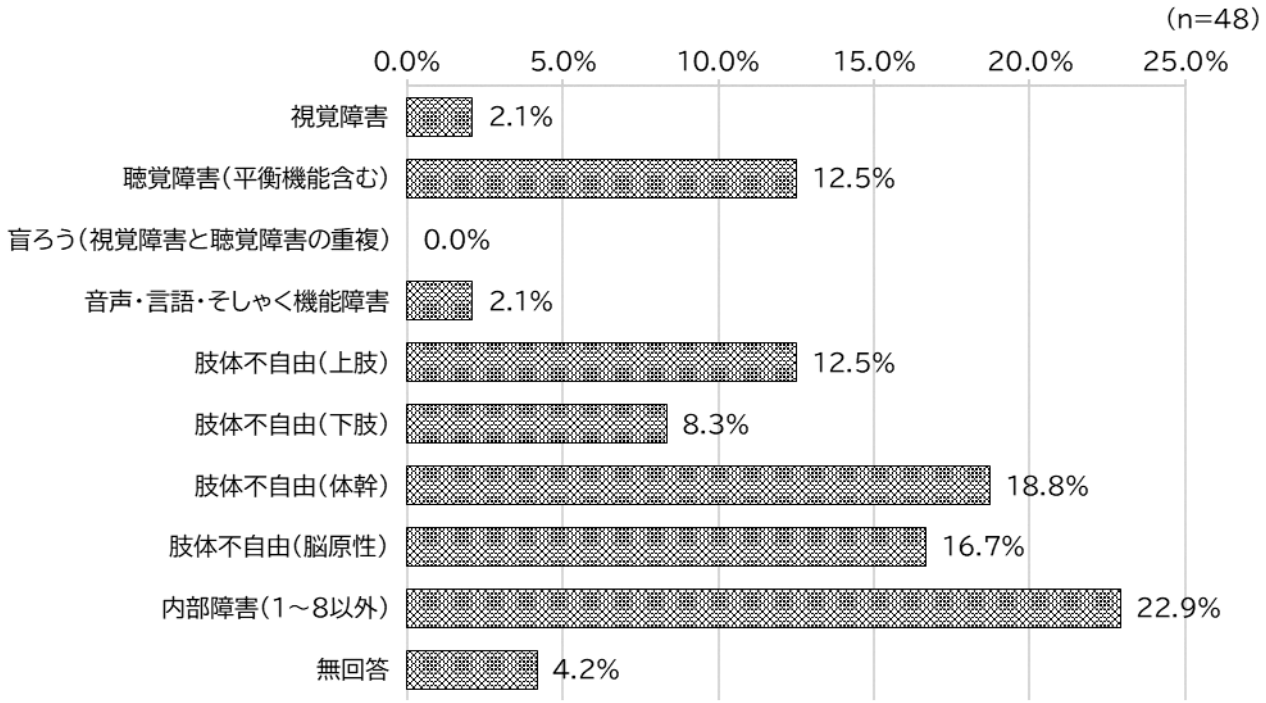


（２）　主たる障害

問５　身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。（複数の障害認定を受けている場合は、等級が最も高いものに○をつけてください）

身体障害者手帳をお持ちの方の、身体障害の障害名については、「内部障害」が 22.9%と最も多く、次いで、「肢体不自由（体幹）」が 18.8%、「肢体不自由（脳原性）」が 16.7%などとなっています。

■【主たる障害（複数回答）】



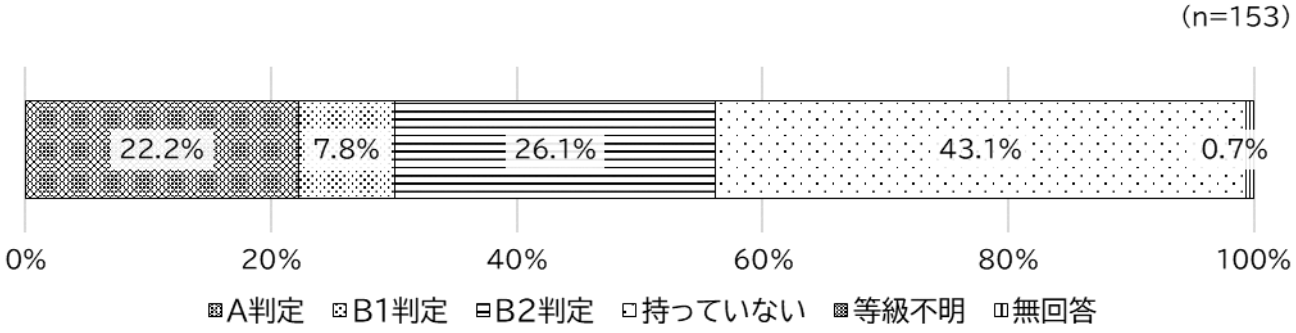
（３）　療育手帳の所持状況

問６　あなたは療育手帳をお持ちですか。（○は１つだけ）また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

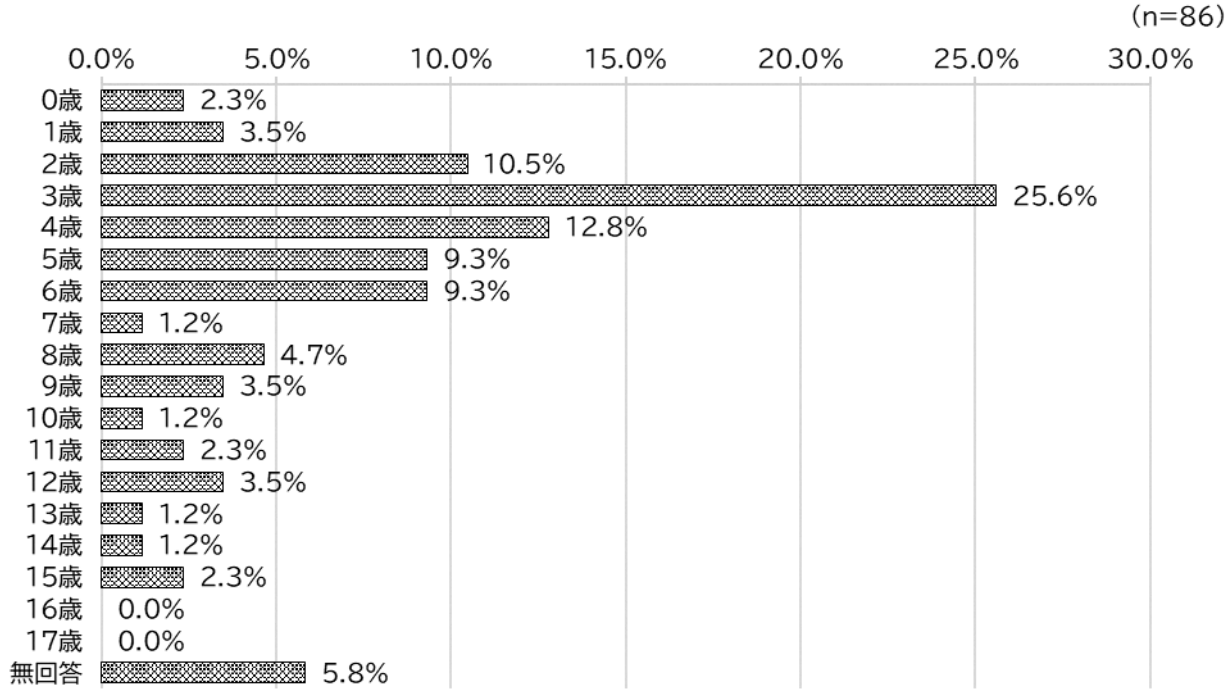
療育手帳の有無については、「A 判定」「B1 判定」「B2 判定」を合わせた『持っている』が 56.2%、「持っていない」が 43.1%となっています。また、療育手帳所持者の総合判定は、「B2 判定」が 26.1%と最も多く、次いで、「A 判定」が 22.2%、「B1 判定」が 7.8%となっています。

療育手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「３歳」が 25.6%と最も多く、次いで、「４歳」が 12.8%、「２歳」10.5%などとなっています。

■【療育手帳の所持状況】



■【療育手帳取得年齢】



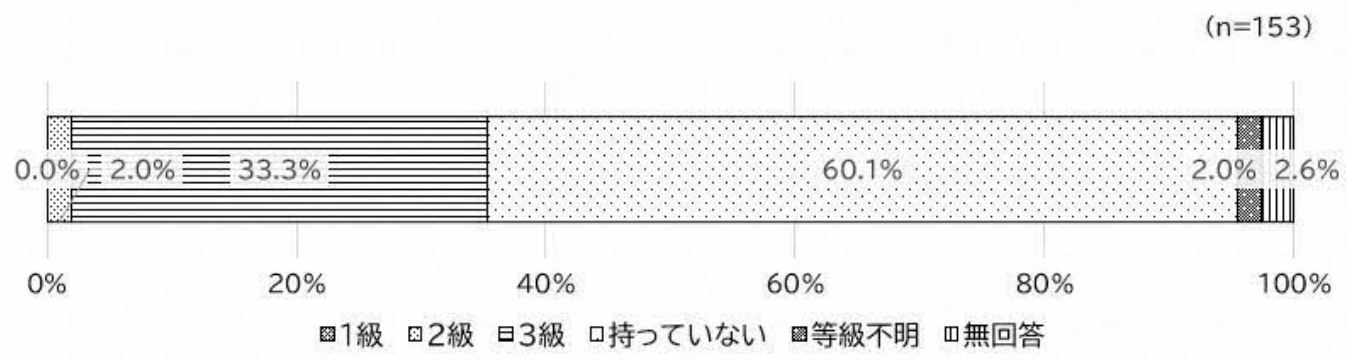
（４）　精神障害者保健福祉手帳の所持状況

問７　あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。（○は１つだけ）また、手帳を取得された時の年齢をお答えください。

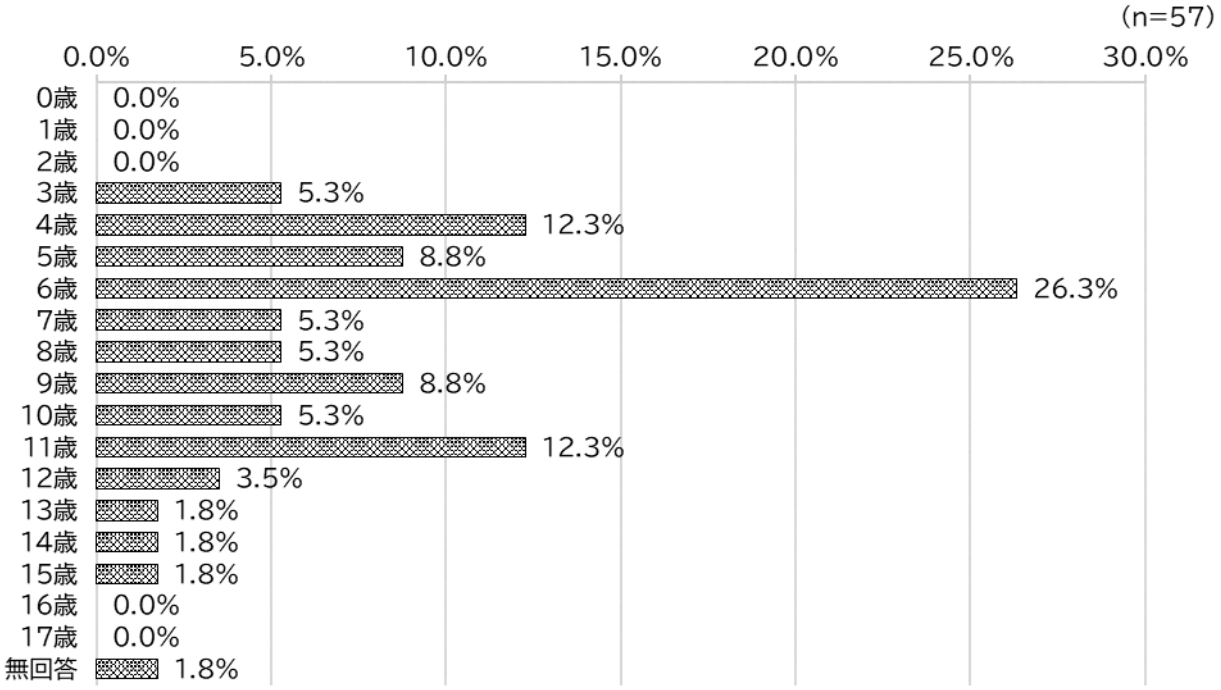
精神障害者保健福祉手帳の有無については、「１級」「２級」「３級」を合わせた『持っている』が 35.3%、「持っていない」が 60.1%となっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者の等級は、「３級」が 33.3%と最も多くなっています。

精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方の、手帳を取得した年齢については、「６歳」が 26.3%と最も多く、次いで、「４歳」と「11 歳」がともに 12.3%となっています。

■【精神障害者保健福祉手帳の所持状況】



■【精神障害者保健福祉手帳取得年齢】

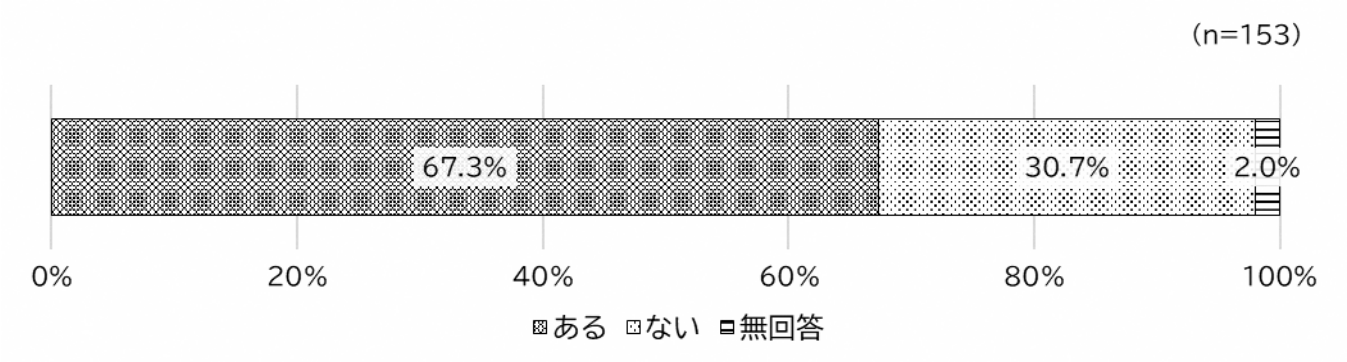


（５）　発達障害の診断

問８　あなたは発達障害として診断されたことがありますか。（○は１つだけ）

発達障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が 67.3%、「ない」が 30.7%となっています。

■【発達障害の診断】

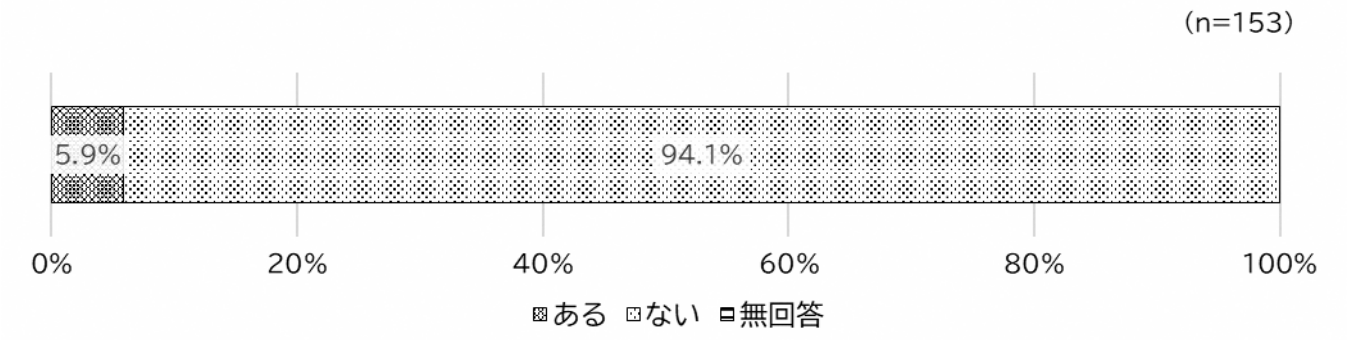


（６）　強度行動障害の診断

問９　あなたは強度行動障害として診断されたことがありますか。（○は１つだけ）

強度行動障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が 5.9%、「ない」が 94.1%となっています。

■【強度行動障害の診断】

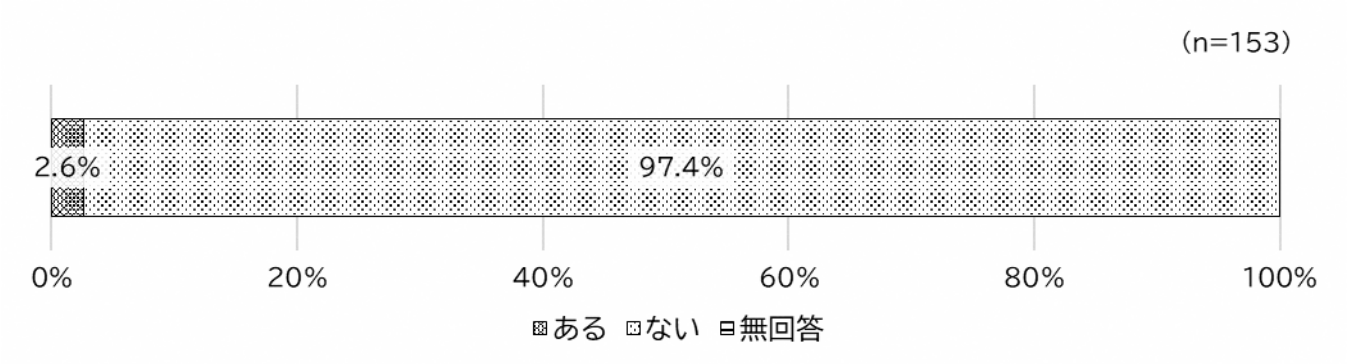


（７）　高次脳機能障害の診断

問１０　あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。（○は１つだけ）

高次脳機能障害と診断されたことがあるかについては、「ある」が 2.6%、「ない」が 97.4%となっています。

■【高次脳機能障害の診断】

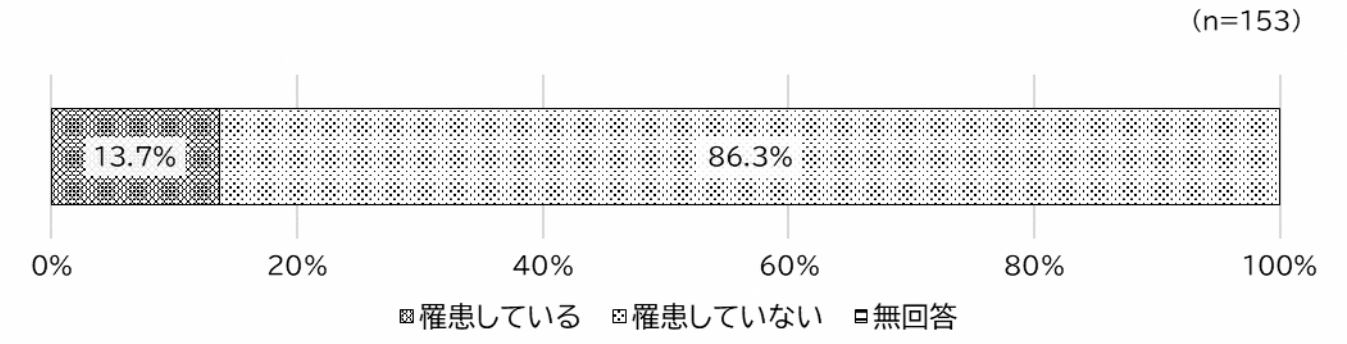


（８）　難病の罹患

問１１　あなたは難病に罹患していますか。（○は１つだけ）

難病に罹患しているかについては、「罹患している」が 13.7%、「罹患していない」が 86.3%となっています。

■【難病の罹患】

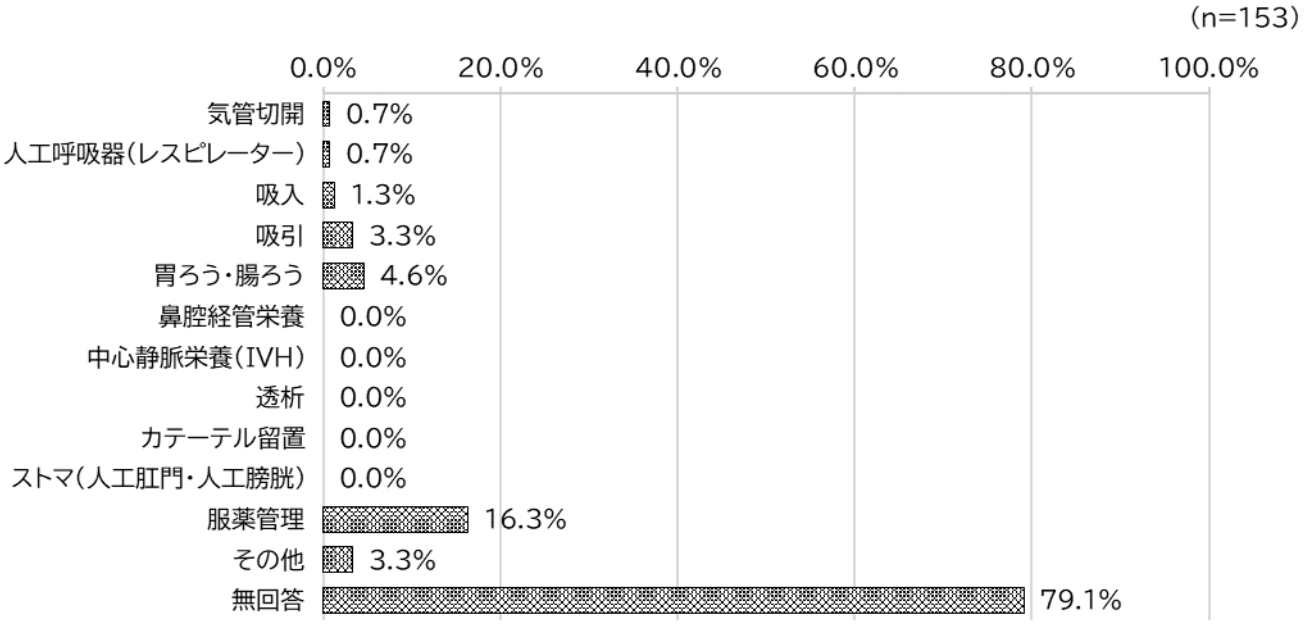


（９）　現在受けている医療ケア

問１２　あなたが現在受けている医療ケアをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

現在受けている医療ケアについては、「無回答」を除いて、「服薬管理」が 16.3%と最も多くなっています。

■【現在受けている医療ケア（複数回答）】



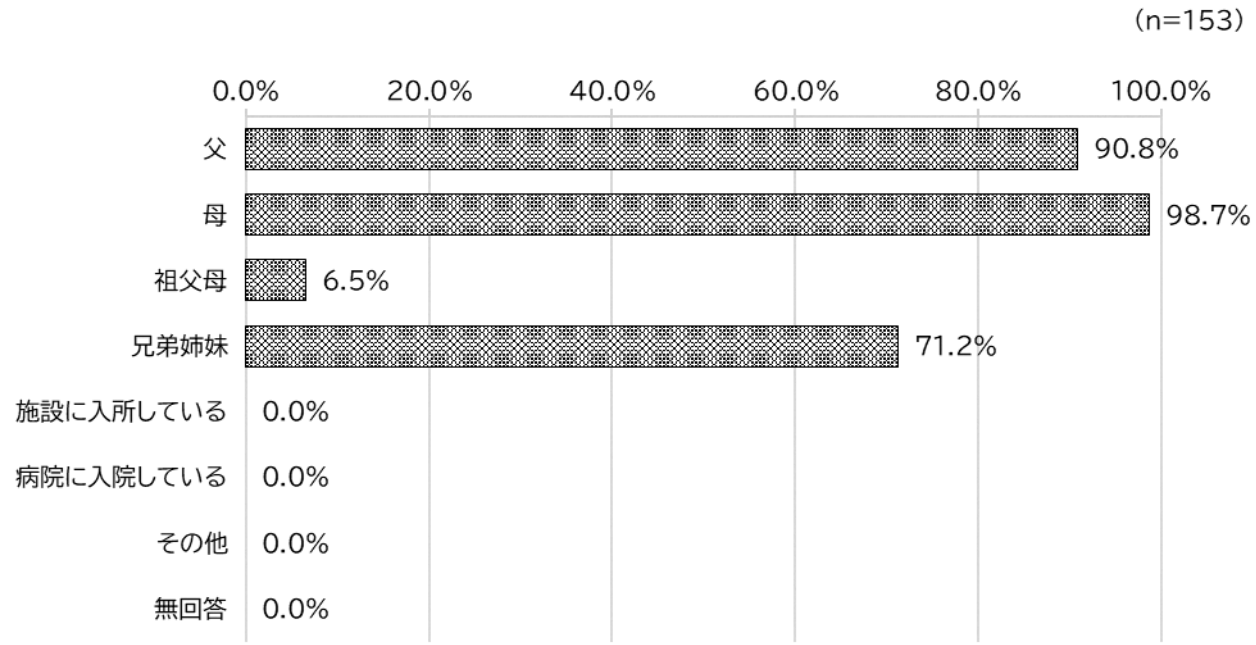
3　住まいや暮らし

（1）　同居家族

問13　現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。
（あてはまるものすべてに○）

回答者の同居家族は、「母」が 98.7%と最も多く、次いで「父」が 90.8%、「兄弟姉妹」が 71.2%となっています。

■【同居家族（複数回答）】

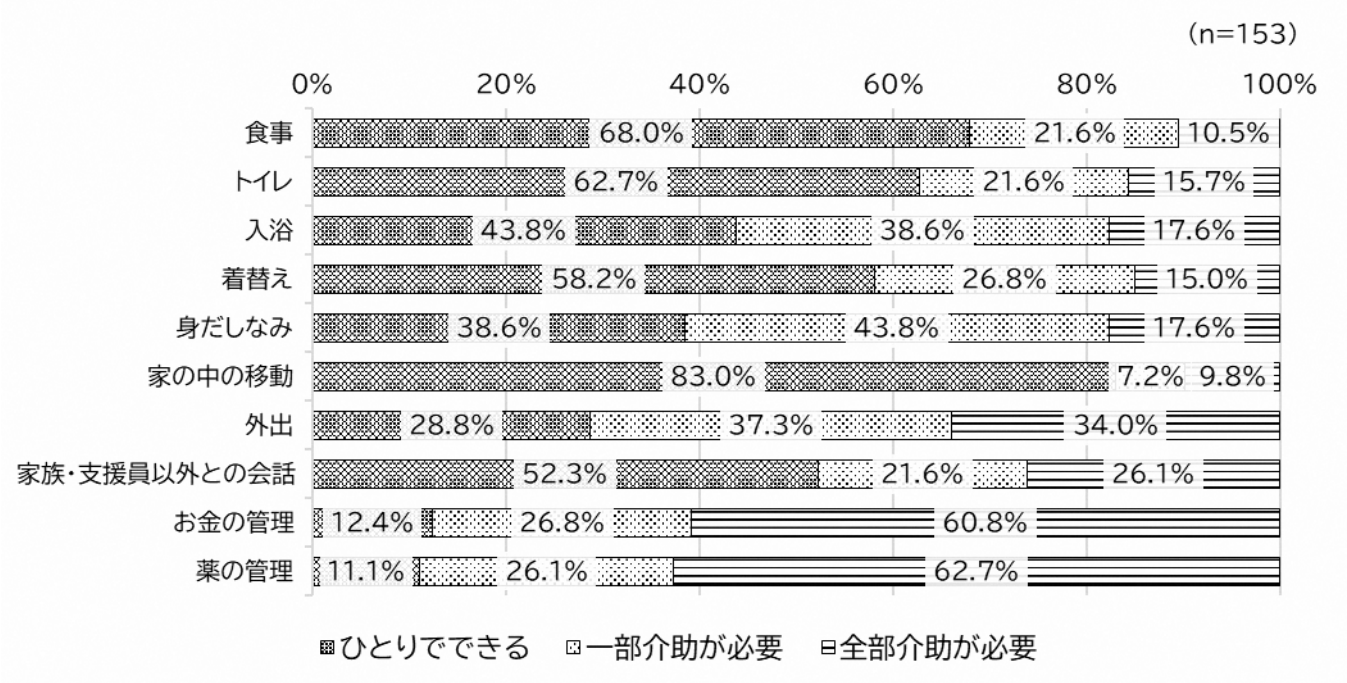


（２）　日常生活の状況

問１４　あなたは日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。（①から⑩それぞれに○を１つ）

日常生活におけるさまざまな行動について、①食事、②トイレ、④着替え、⑥家の中の移動、⑧家族・支援者以外の人との会話の５項目は「ひとりでできる」が５割以上と多く、とくに、⑥家の中の移動は 83.0%と最も多くなっています。⑨お金の管理、⑩薬の管理を除くと、介助が必要（「一部介助が必要」と「全部介助が必要」の合計）が最も多いのは⑦外出で 71.3%、次いで⑤身だしなみで 61.4%となっています。

■【日常生活の状況】

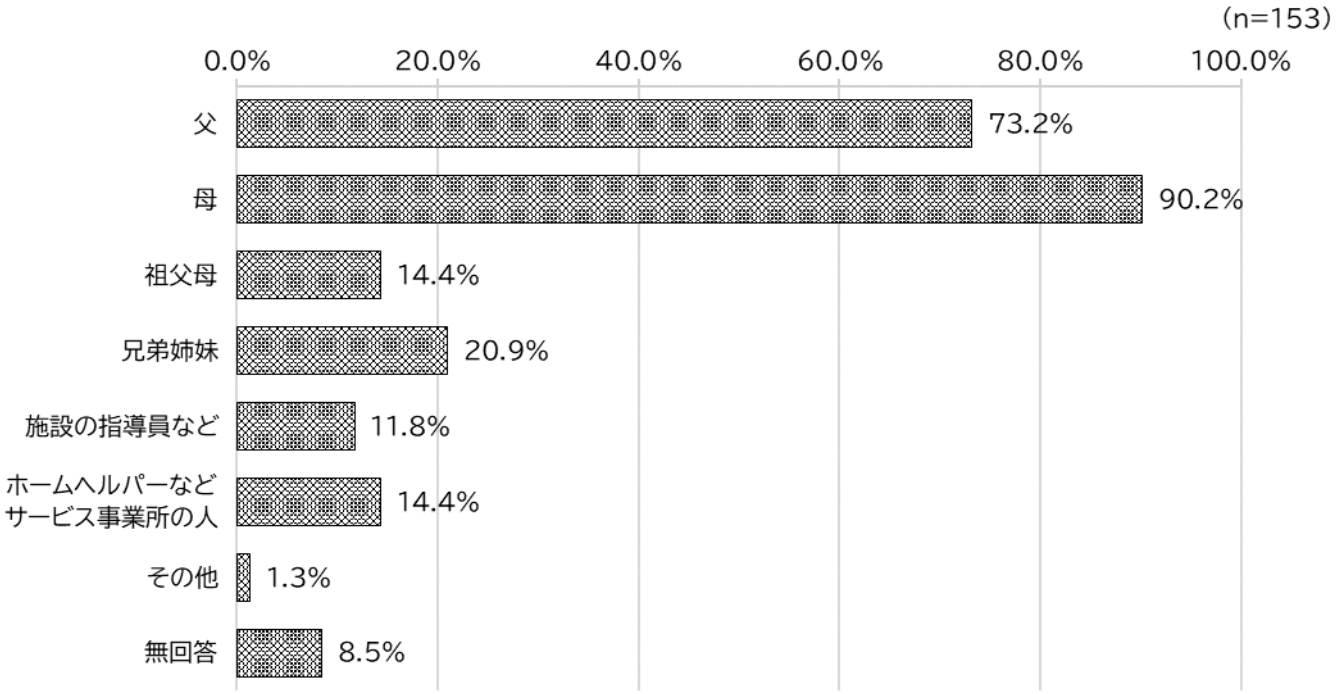


（３）　主な介助者

問１５　あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

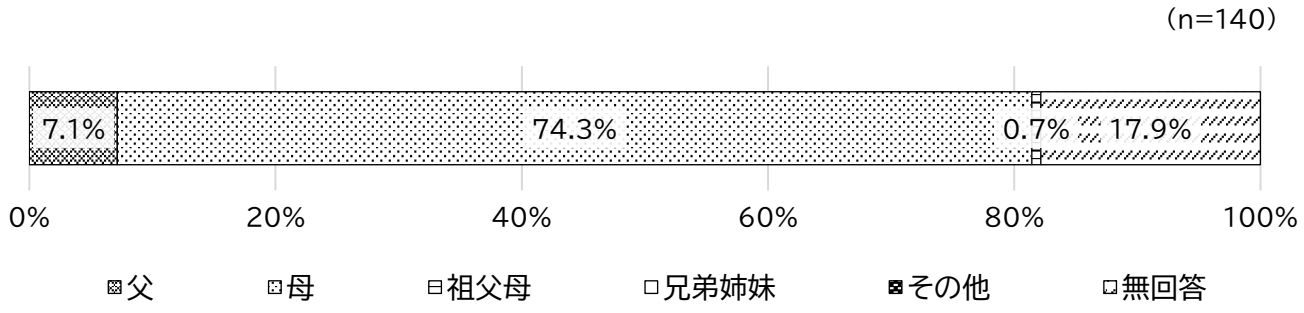
主な介助・介護者については、「母」が 90.2%と最も多く、次いで、「父」が 73.2%、「兄弟姉妹」が 20.9%となっています。

■【主な介助者（複数回答）】



問１５―１　あなたを介助してくれる家族で、主に介助をしてくれる方の番号を記入してください。

介助者が複数いる場合でも、主な介助者は「母」が 74.3%と最も多くなっています。

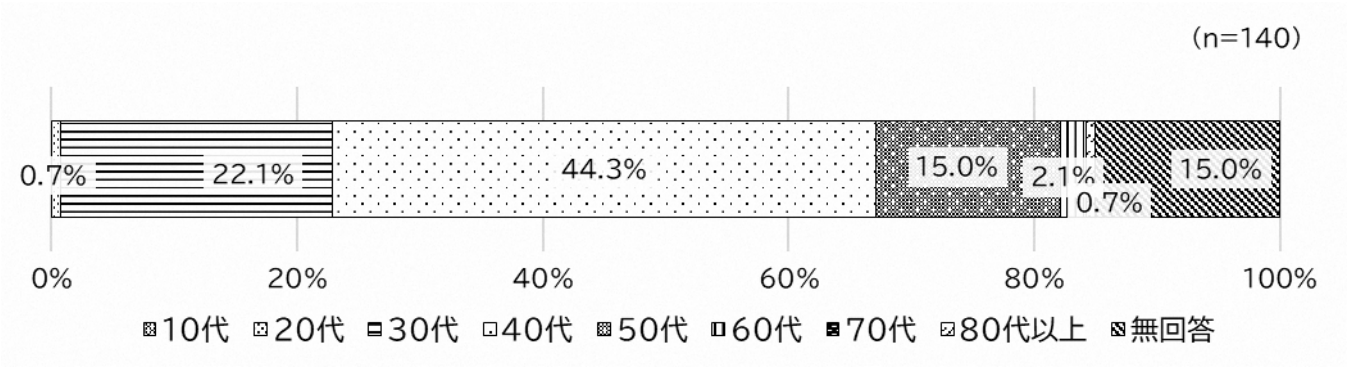


（４）　介助者の状況

問１６　あなたを介助してくれる家族で、主に介助をしてくれる方についてお答えください。①　年齢（令和７年７月１日現在）
②　健康状態（○は１つだけ）

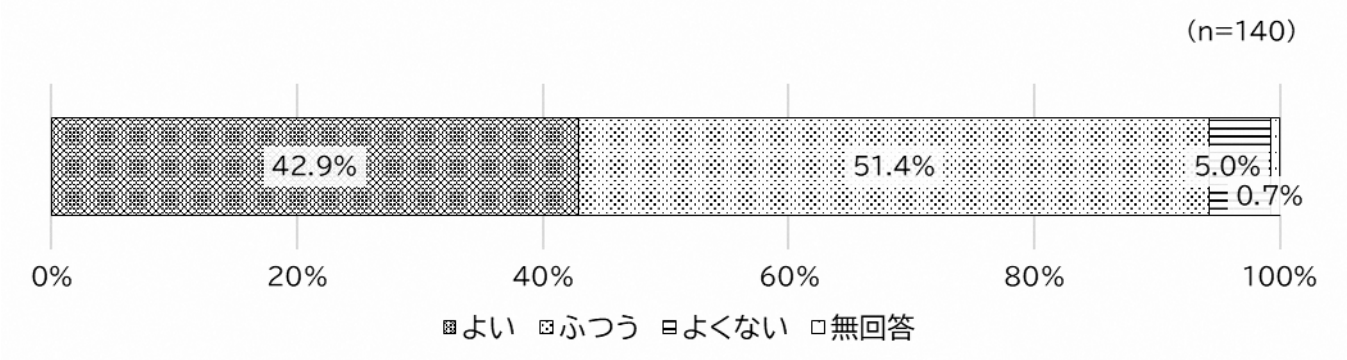
主な介助者の年齢については、「40 代」が 44.3%と最も多く、次いで、「30 代」が 22.1%で、30～40 代が約６割を占めています。

■【介助者の年齢】



主な介助者の健康状態については、「ふつう」が 51.4%と最も多く、次いで、「よい」が 42.9%となっています。

■【介助者の健康状態】

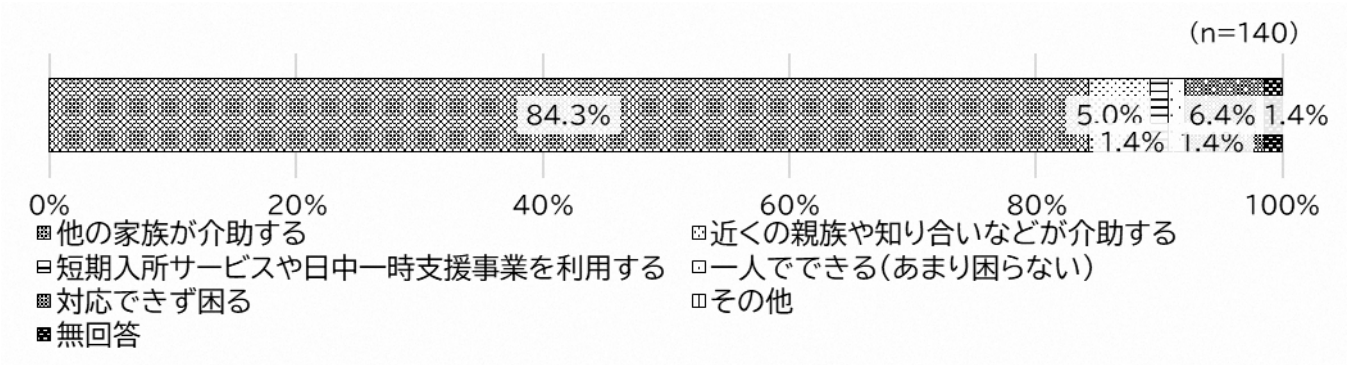


（５）　介助者が一時的に介助ができなくなった場合の対応

問１６③　主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合の対応についてどのようにされますか。（○は１つだけ）

主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合については、「他の家族が介助する」が 84.3%と最も多く、次いで、「対応できず困る」が 6.4%、「近くの親族や知り合いなどが介助する」が 5.0%となっています。

■【介助者が一時的に介助ができなくなった場合の対応】

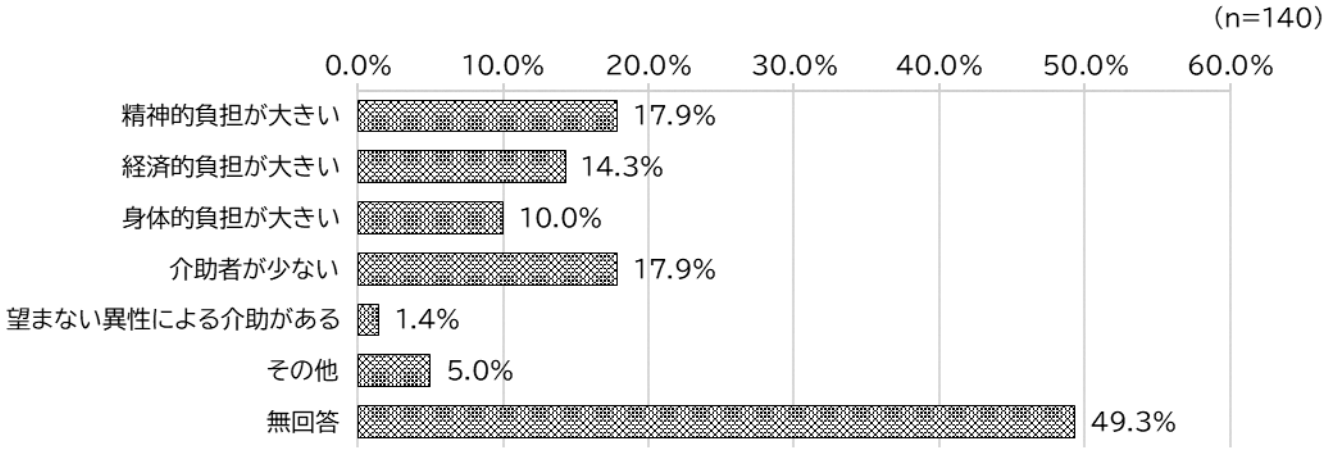


（６）　介助で困っていること

問１６④　介助で困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

介助で困っていることについては、「精神的負担が大きい」と「介助者が少ない」が 17.9%と最も多く、次いで、「経済的負担が大きい」が 14.3%、「身体的負担が大きい」が 10.0%となっています。

■【介助で困っていること（複数回答）】

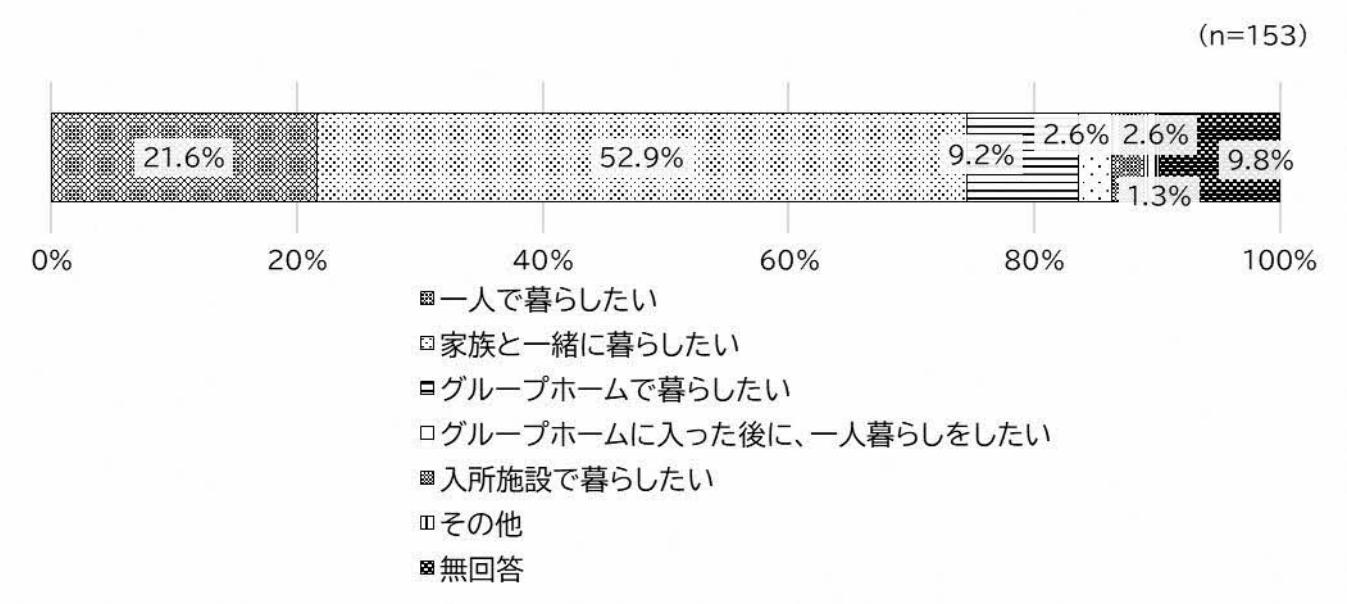


（７）　将来の暮らしの希望

問１７　あなたは将来どのように暮らせたらよいと思いますか。（○は１つだけ）

将来どのように暮らしたいかについては、「家族と一緒に暮らしたい」が 52.9%と最も多く、次いで、「一人で暮らしたい」が 21.6%、「グループホームで暮らしたい」が 9.2%などとなっています。

■【将来の暮らしの希望】

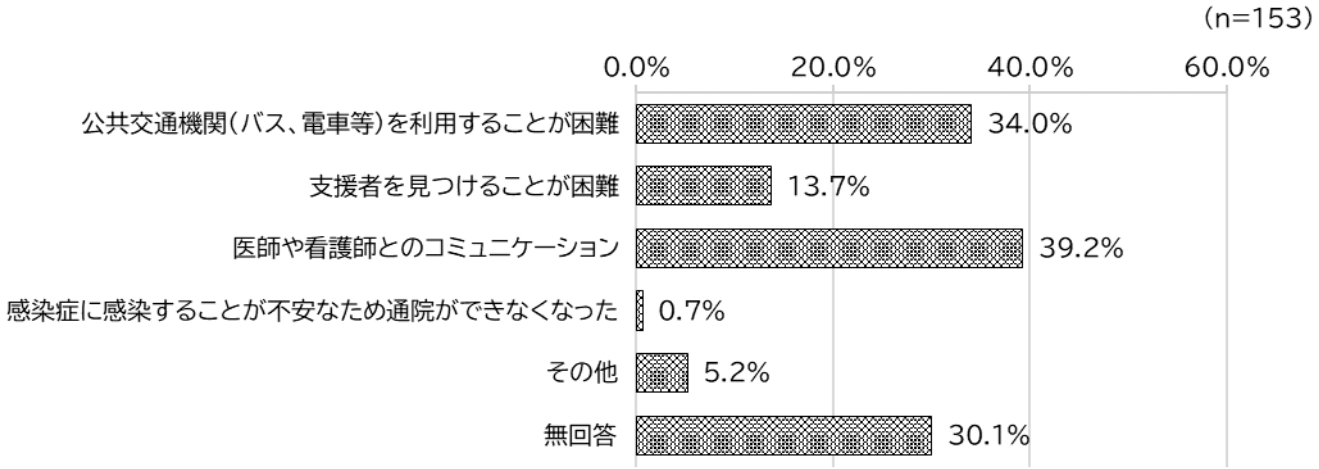


（８）　通院時や医療を受けるにあたって困っていること

問１８　あなたの通院時や医療を受ける際に困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

通院時や医療を受けるにあたって困っていることについては、「医者や看護師とのコミュニケーション」が 39.2%と最も多く、次いで「公共交通機関（バス・電車等）を利用することが困難」が 34.0%となっています。

■【通院時や医療を受けるにあたって困っていること（複数回答）】

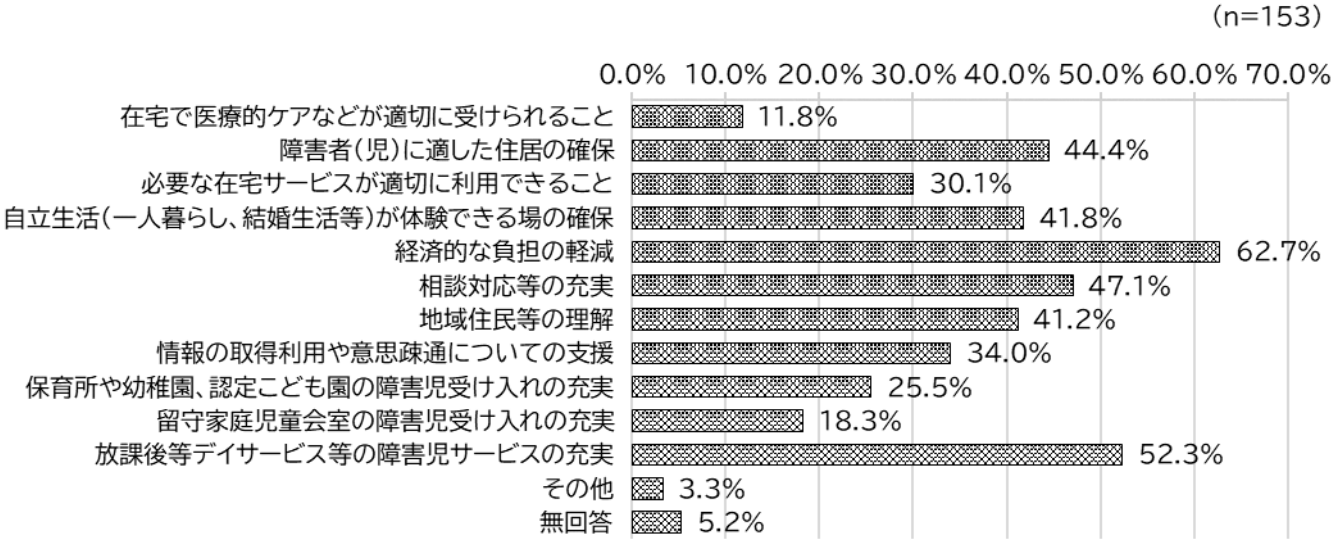


（９）　地域で生活するために必要な支援

問１９　あなたが地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思うかについては、「経済的な負担の軽減」が 62.7%と最も多く、次いで、「放課後等デイサービスなどの障害児サービスの充実」が 52.3%、「相談対応等の充実」が 47.1%、などとなっています。

■【地域で生活するために必要な支援（複数回答）】



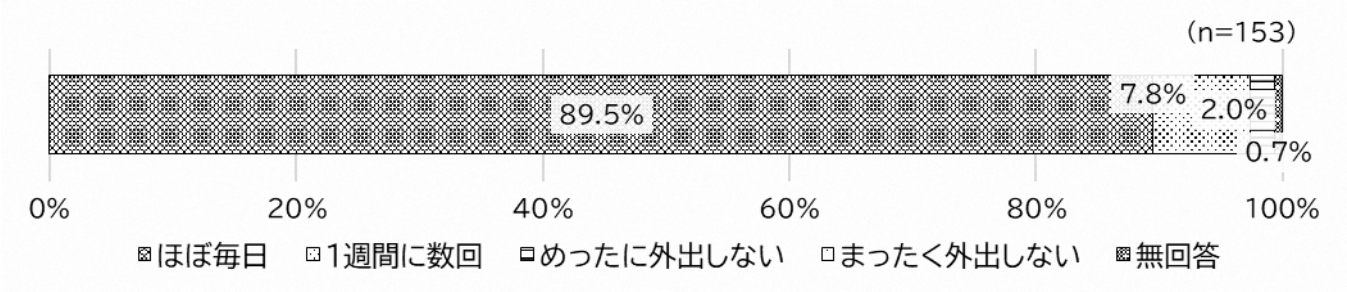
４　日中活動や就労

（１）　外出の頻度

問２０　あなたは１週間にどの程度の外出をしますか。（○は１つだけ）

外出頻度については、「ほぼ毎日」が 89.5%で最も多く、次いで、「１週間に数回」が 7.8%、「めったに外出しない」が 2.0%となっています。

■【外出頻度】

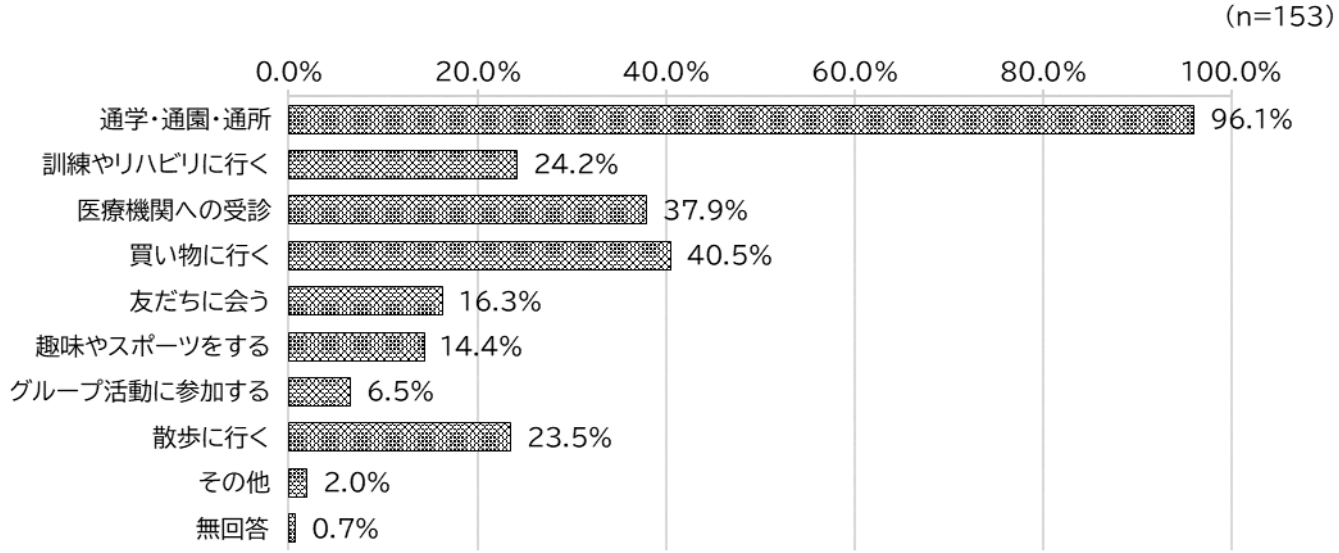


（２）　外出の目的

問２１　あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。
（あてはまるものすべてに○）

外出する目的については、「通学・通園・通所」が 96.1%と最も多く、次いで、「買い物に行く」が 40.5%、「医療機関への受診」が 37.9%などとなっています。

■【外出の目的（複数回答）】

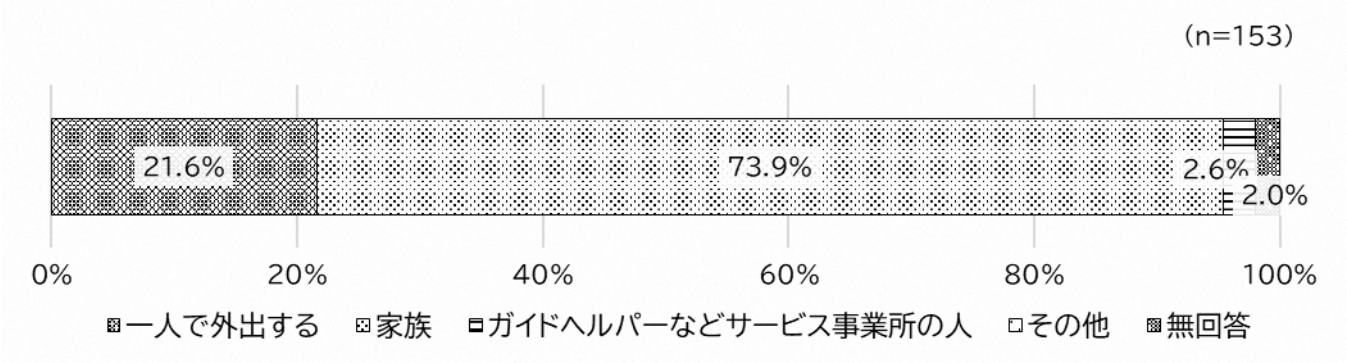


（３）　外出時の同行者

問２２　あなたが外出する時、最も多く一緒に外出する方の番号を記入してください。
（○は１つだけ）

外出時の同行者については、「家族」が 73.9%で最も多く、次いで、「一人で外出する」が 21.6%となっています。

■【外出時の同行者】

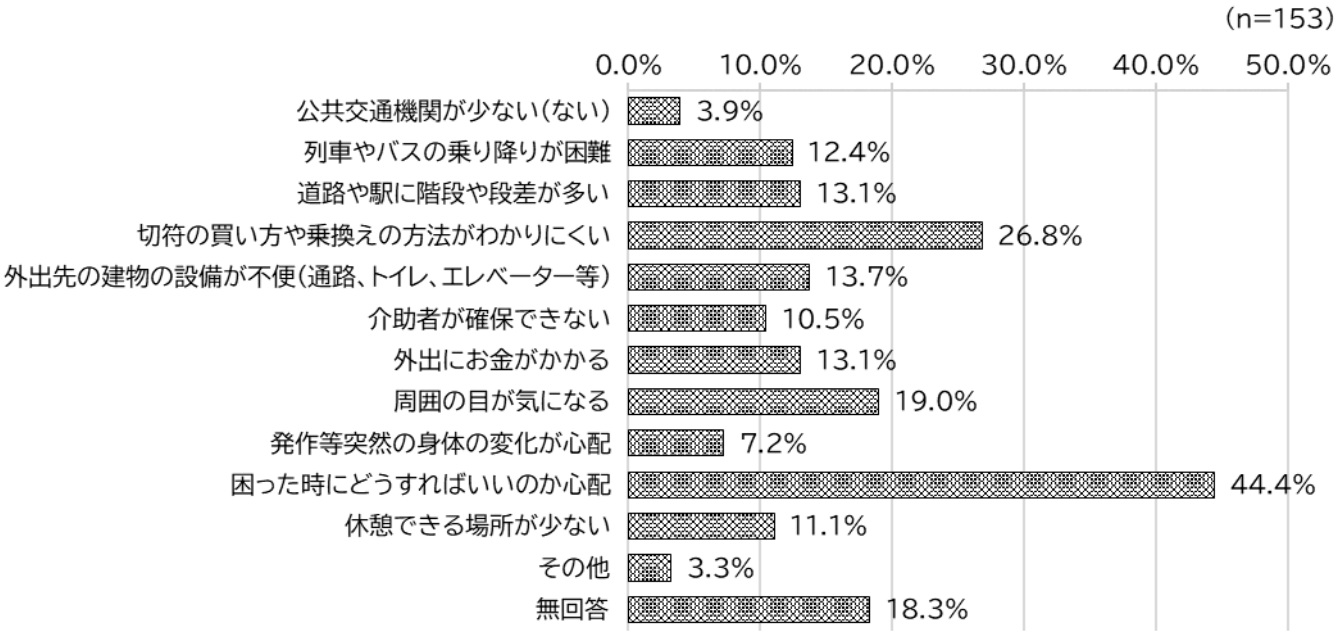


（４）　外出について困ること

問２３　外出について困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

外出について困ることについては、「困った時にどうすればいいのか心配」が 44.4%と最も多く、次いで、「切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい」が 26.8%、「周囲の目が気になる」が 19.0%などとなっています。

■【外出について困ること（複数回答）】

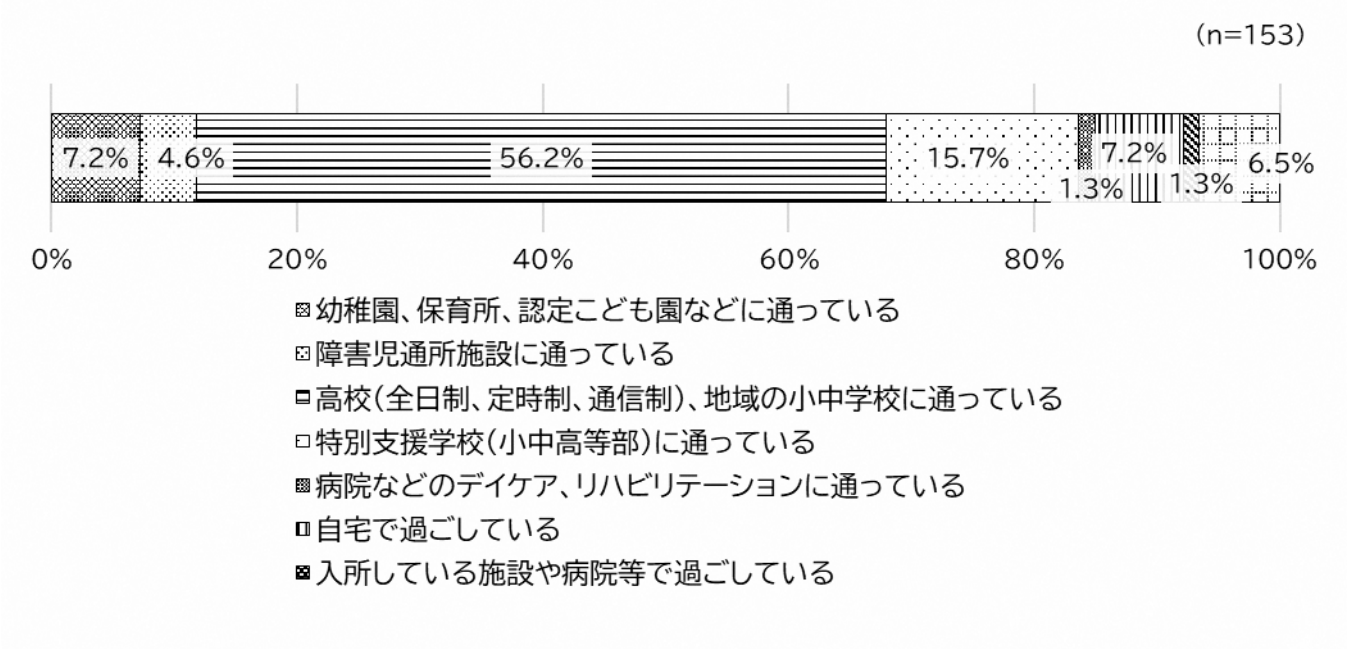


（５）　平日日中の過ごし方

問２４　あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（○は１つだけ）

平日の日中の過ごし方については、「高校（全日制、定時制、通信制）、地域の小中学校に通っている」が 56.2%と最も多く、次いで、「特別支援学校（小中高等部）に通っている」が 15.7%、「幼稚園、保育所、認定こども園などに通っている」と「自宅で過ごしている」がともに 7.2%などとなっています。

■【平日日中の過ごし方】

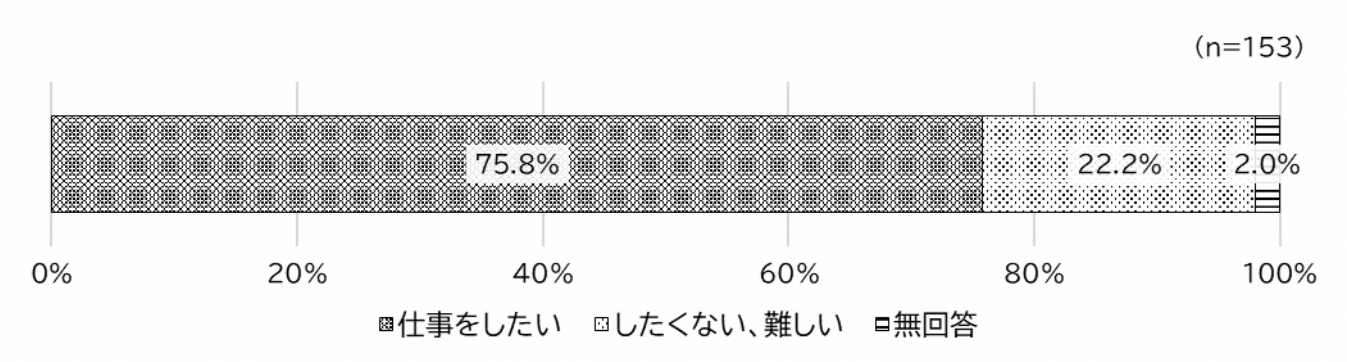


（６）　一般就労の希望

問２５　あなたは今後、一般就労（収入を得る仕事）をしたいと思いますか。（○は１つだけ）

今後の就労意向については、「したい」が 75.8%、「したくない、難しい」が 22.2%となっています。

■【一般就労の希望】

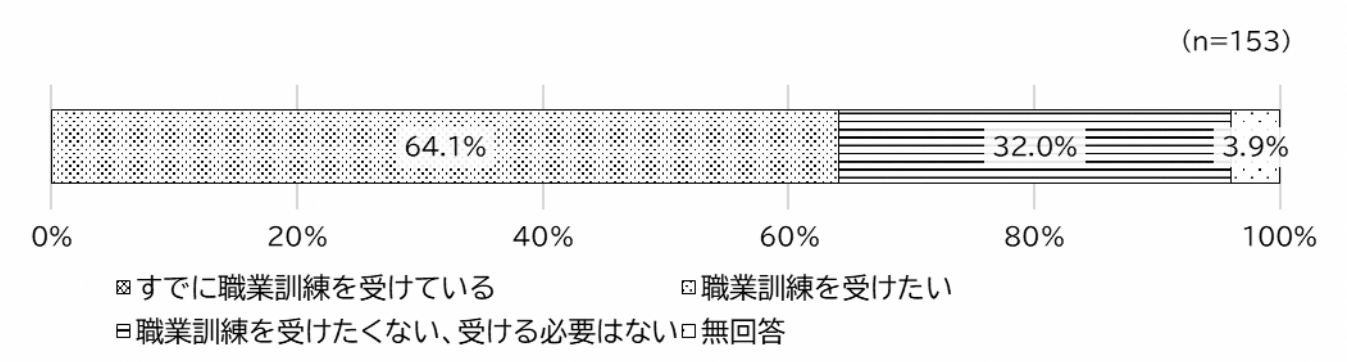


（７）　職業訓練等の意向

問２６　一般就労をするために、職業訓練等を受けたいと思いますか。（○は１つだけ）

職業訓練等の意向については、「職業訓練を受けたい」が 64.1%と最も多く、次いで、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が 32.0%となっています。

■【職業訓練等の意向】

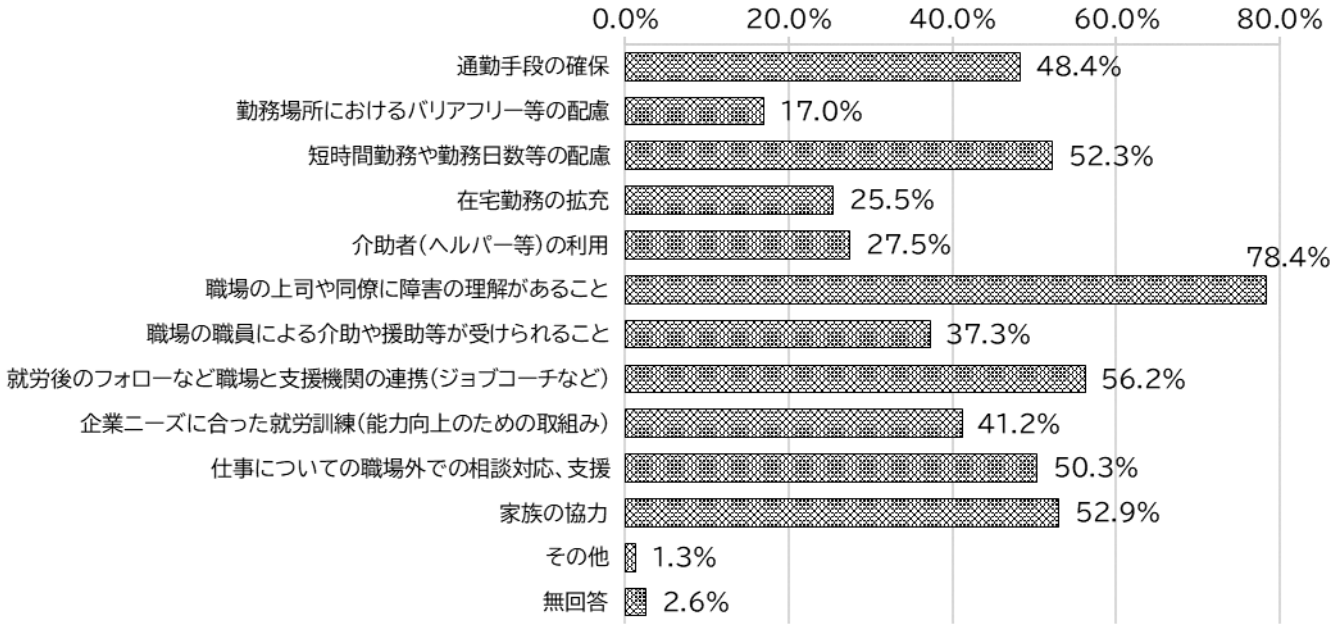


（８）　障害者の就労支援として必要なこと

問２７　あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

障害者の就労支援として必要なことについては、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が 78.4%と最も多く、次いで、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（ジョブコーチなど）」が 56.2%、「家族の協力」が 52.9%などとなっています。

■【障害者の就労支援として必要なこと（複数回答）】

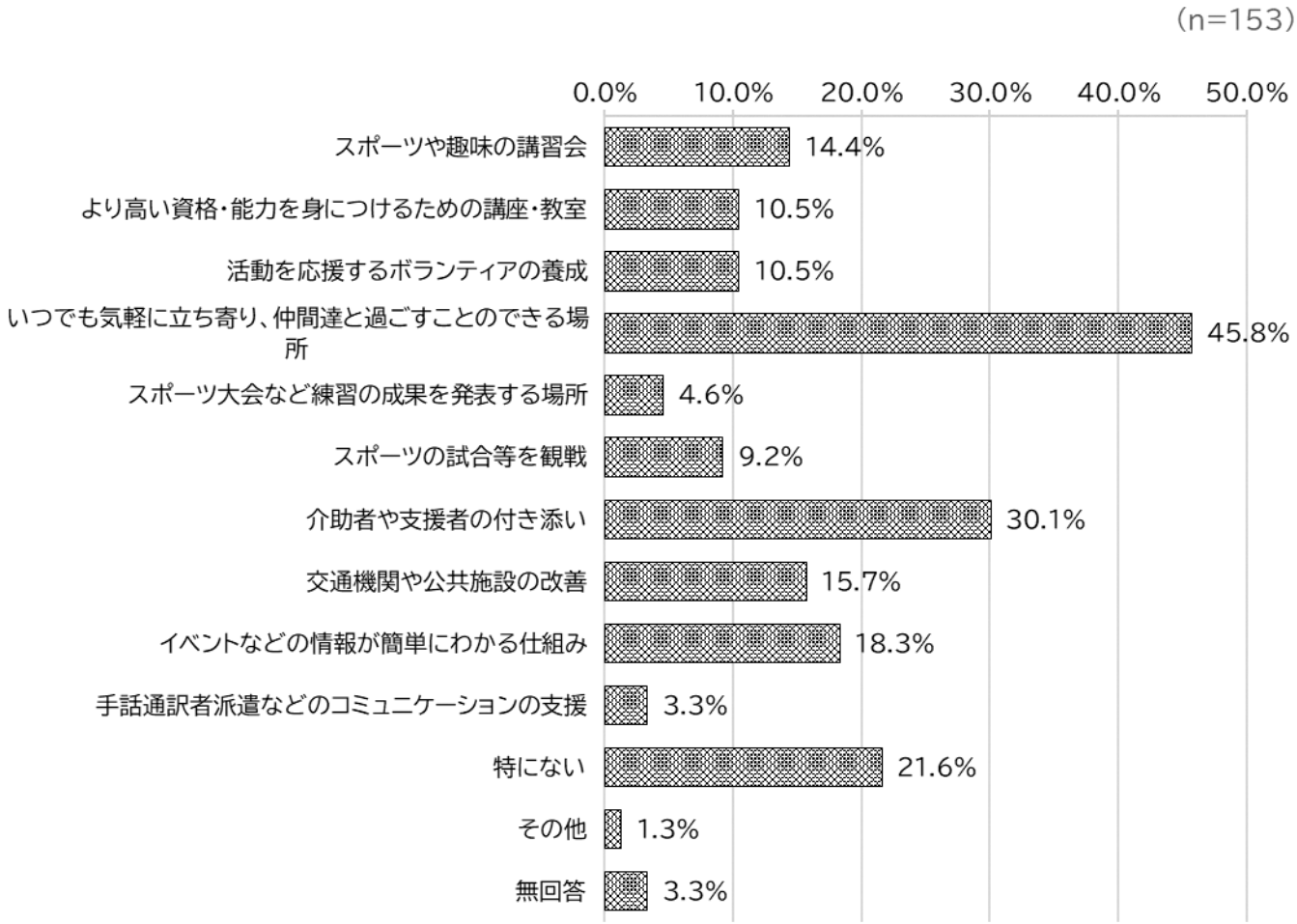


（９）　余暇活動をするために必要なこと

問２８　あなたが余暇にしたい活動をするために何が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

余暇にしたい活動をするために必要なことについては、「いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所」が 45.8%と最も多く、次いで、「介助者や支援者の付き添い」が 30.1%となっています。

■【余暇活動をするために必要なこと（複数回答）】

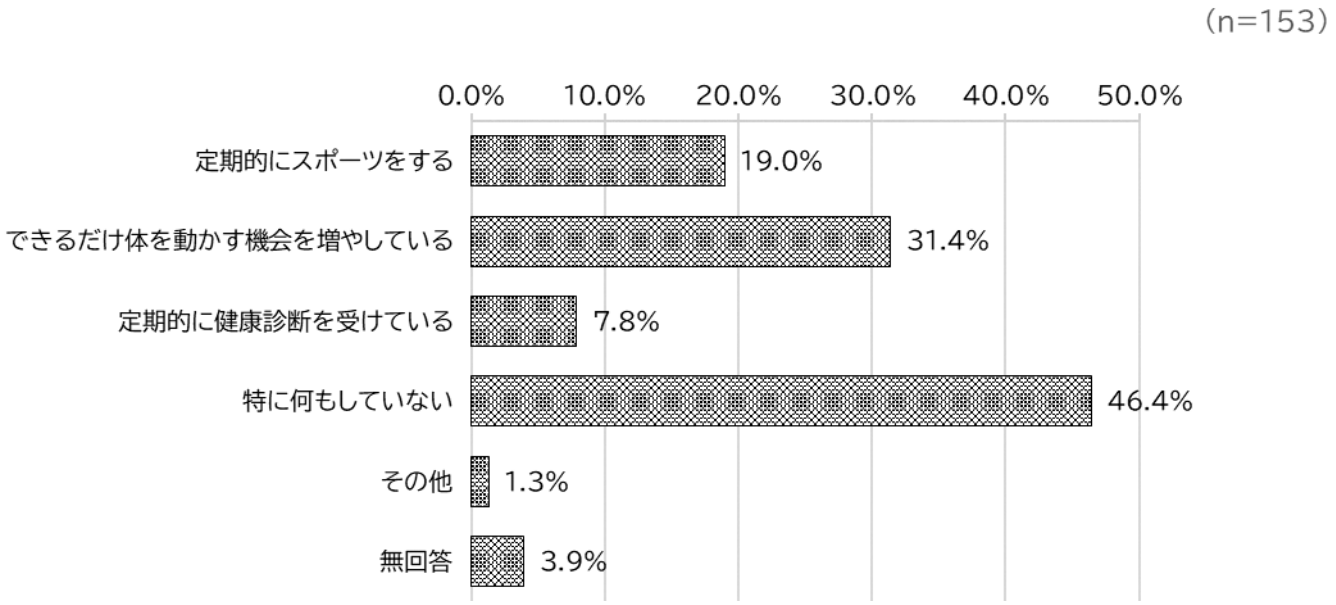


（10）　健康のために取り組んでいる活動

問２９　あなたが健康のために取り組んでいる活動はありますか。（あてはまるものすべてに○）

健康のために取り組んでいる活動については、「できるだけ体を動かす機会を増やしている」が 31.4%と多く、次いで、「定期的にスポーツをする」が 19.0%となっています。

■【健康のために取り組んでいる活動（複数回答）】

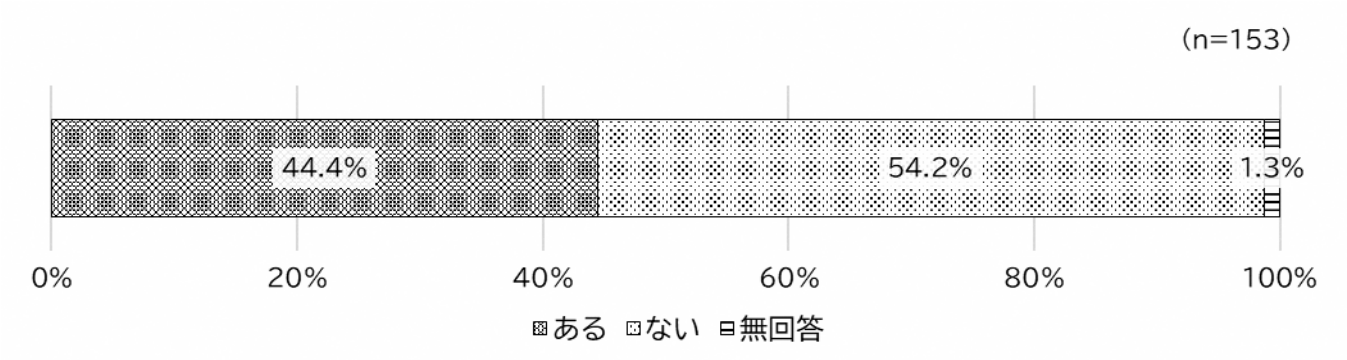


（11）　文化・芸術活動

問３０　あなたは文化・芸術活動に関する活動をしたり、イベントに参加したことはありますか。

文化・芸術活動をしたり、イベントに参加したことがあるかについては、「ある」が44.4%、「ない」が54.2%となっています。

■【文化・芸術活動やイベント参加経験の有無】

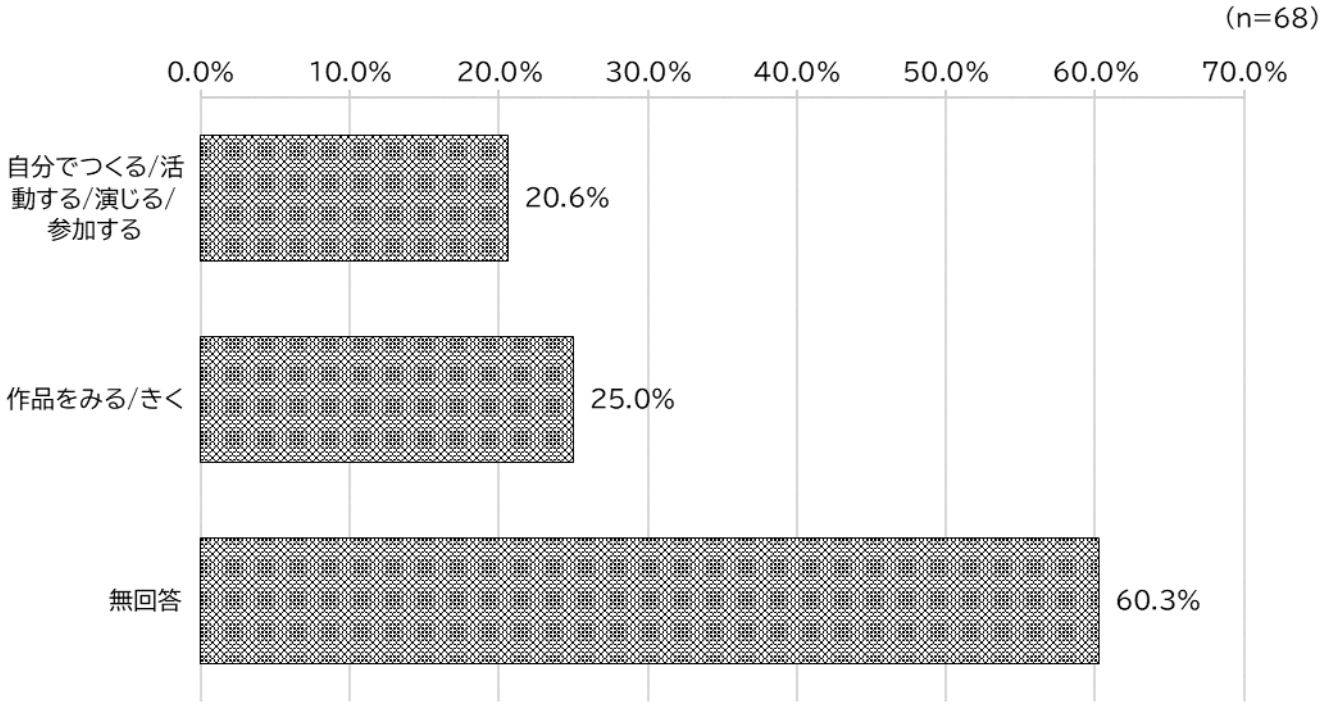


問３０－１　活動したり鑑賞したものはどれですか。

活動や鑑賞したことのあるものについては、「作品をみる/きく」「自分でつくる/活動する/演じる/参加する」を合わせると、「音楽（合唱、吹奏楽、オーケストラ等）」が 66.2%と最も多く、次いで、「映画」が 61.7%などとなっています。

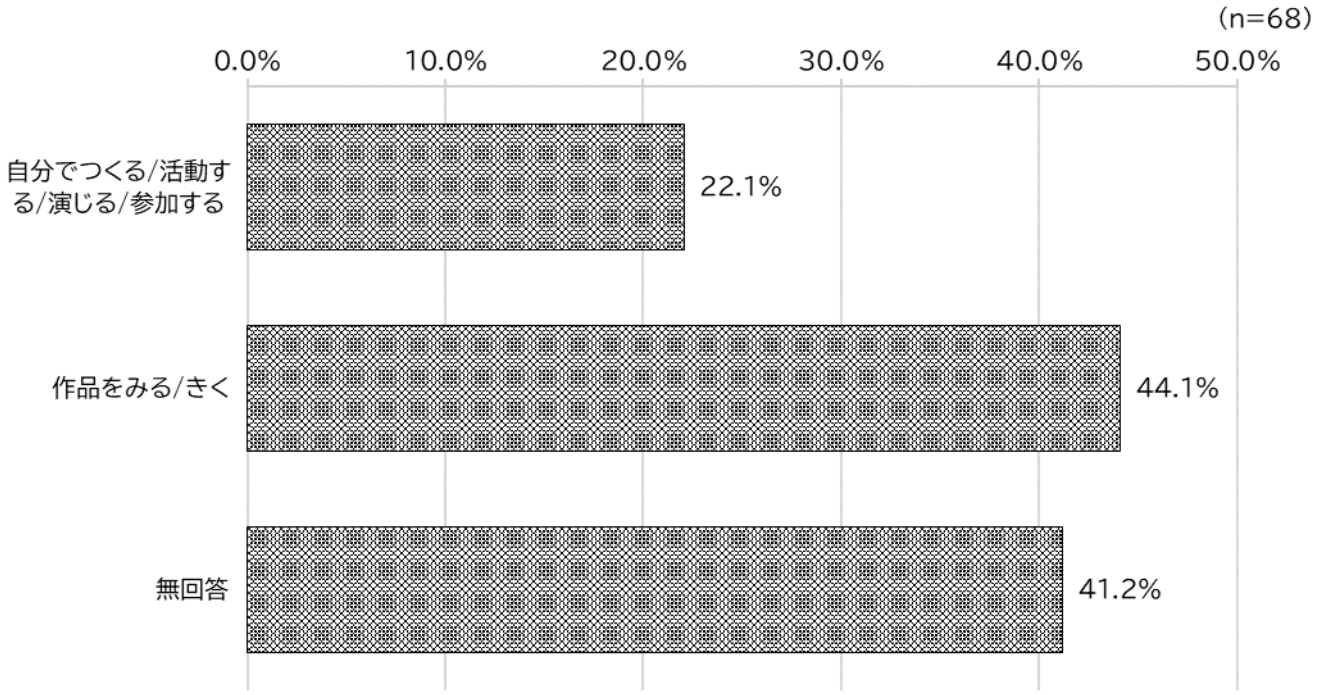
■【１．美術（絵画、彫刻、工芸、書画、写真等）】

美術については、「作品をみる」が 25.0%、「自分でつくる」が 20.6%となっています。



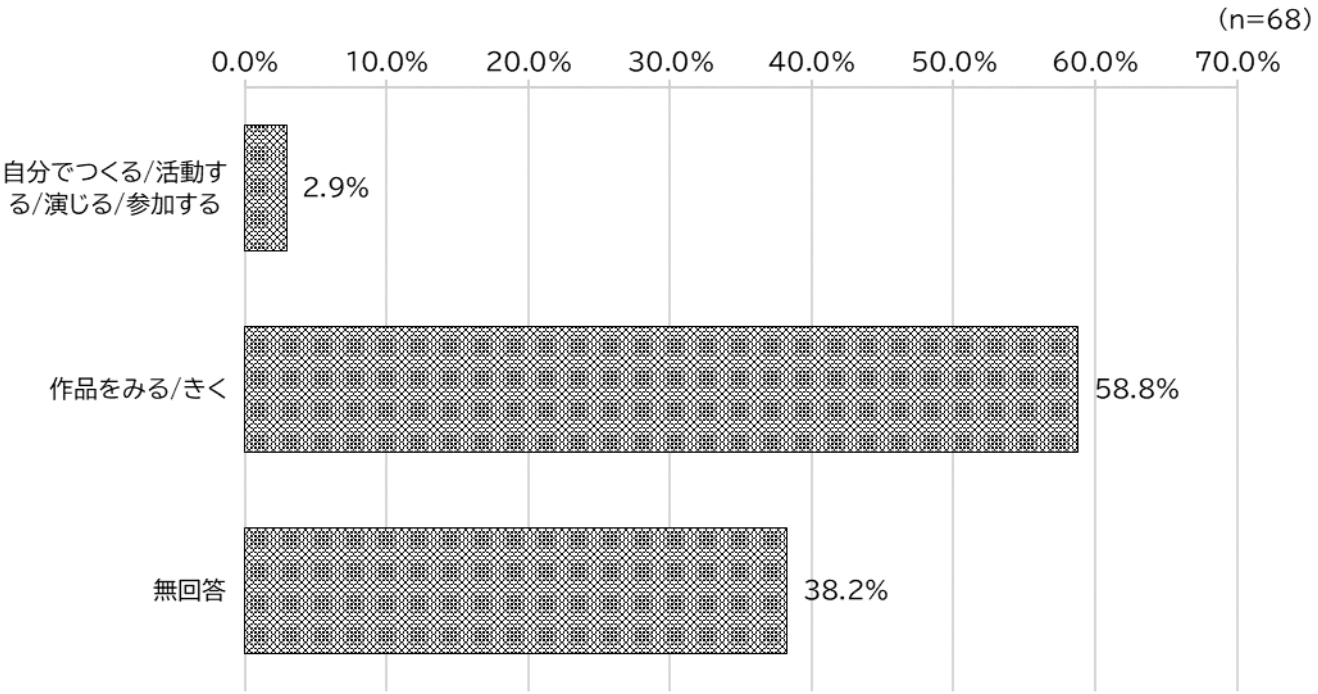
■【２．音楽（合唱、吹奏楽、オーケストラ等）】

音楽については、「作品をきく」が 44.1%、「作曲や演奏をする」が 22.1%となっています。



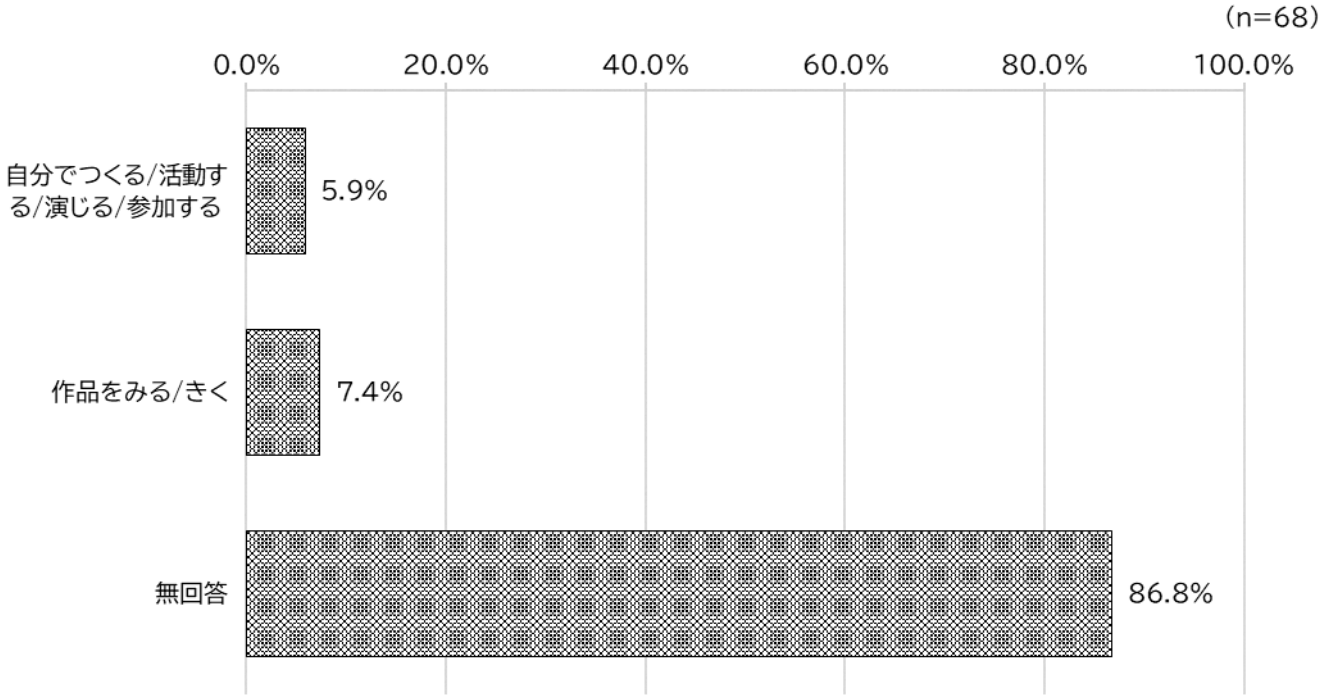
■【３．映画】

映画については、「作品をみる」が 58.8%、「自分でつくる」が 2.9%となっています。



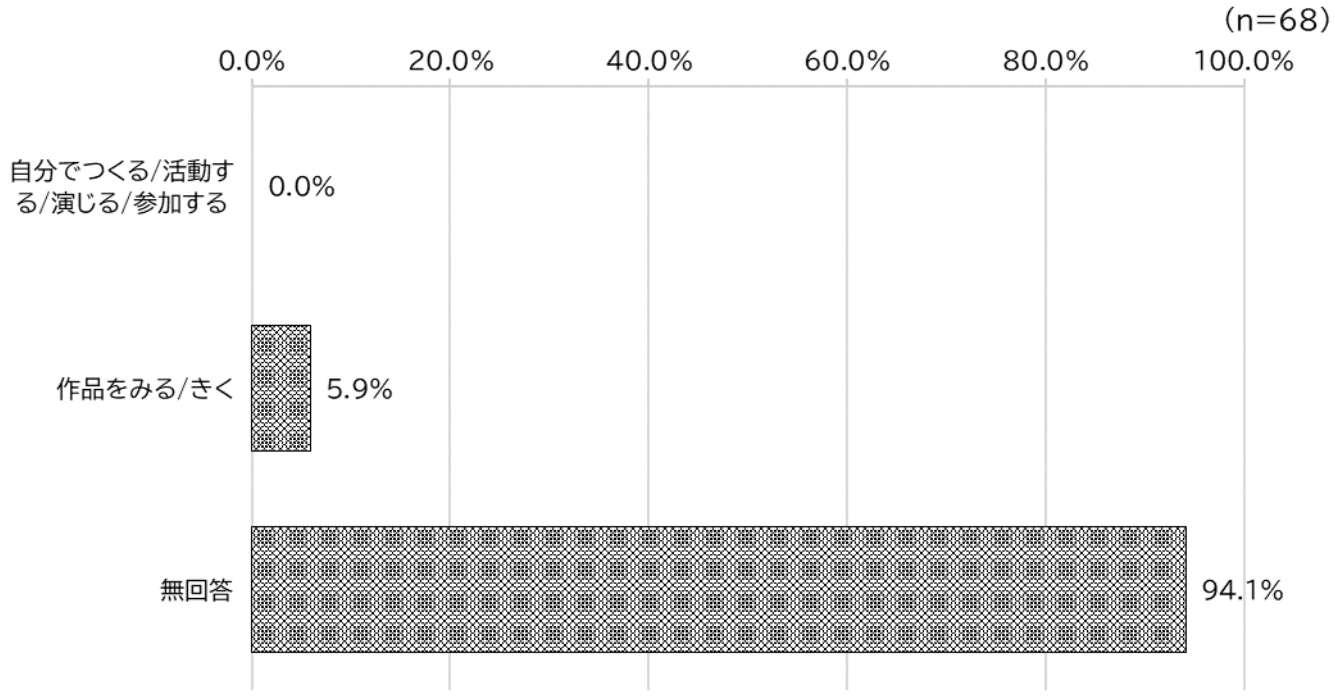
■【４．舞踊（日本舞踊、ダンス、バレエ等）】

舞踊については、「作品をみる」が 7.4%、「自分で演じる」が 5.9%となっています。



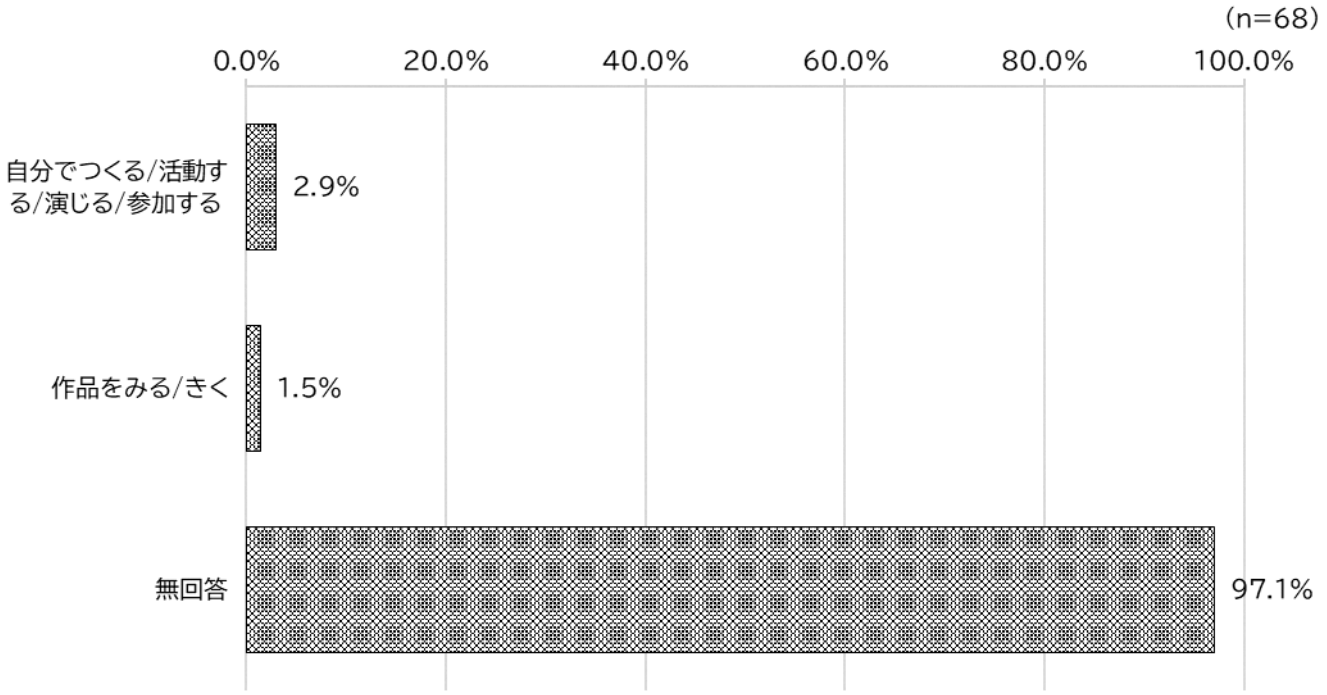
■【５．芸能（講談、落語、漫才、浪曲等）】

芸能については、「作品をみる」が 5.9%、「自分で演じる」は 0.0%となっています。



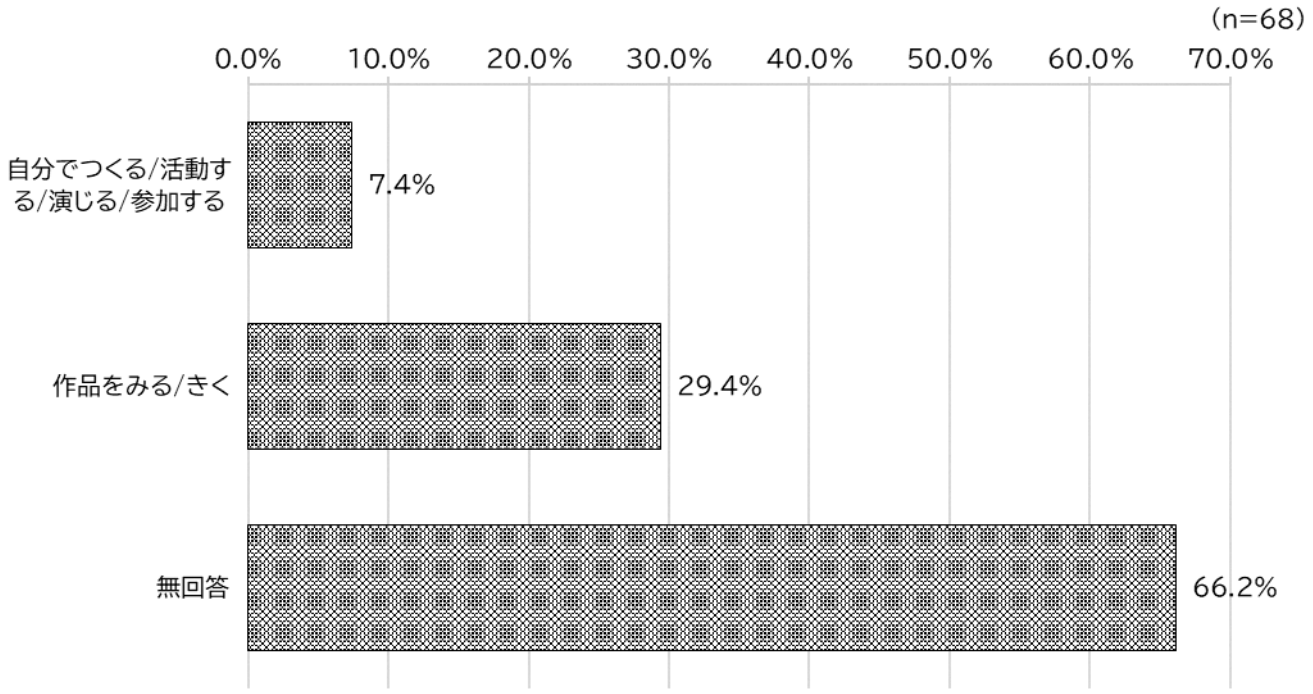
■【６．生活文化（茶道、華道、書道等）】

生活文化については、「作品をみる」が 1.5%、「自分で活動する」が 2.9%となっています。



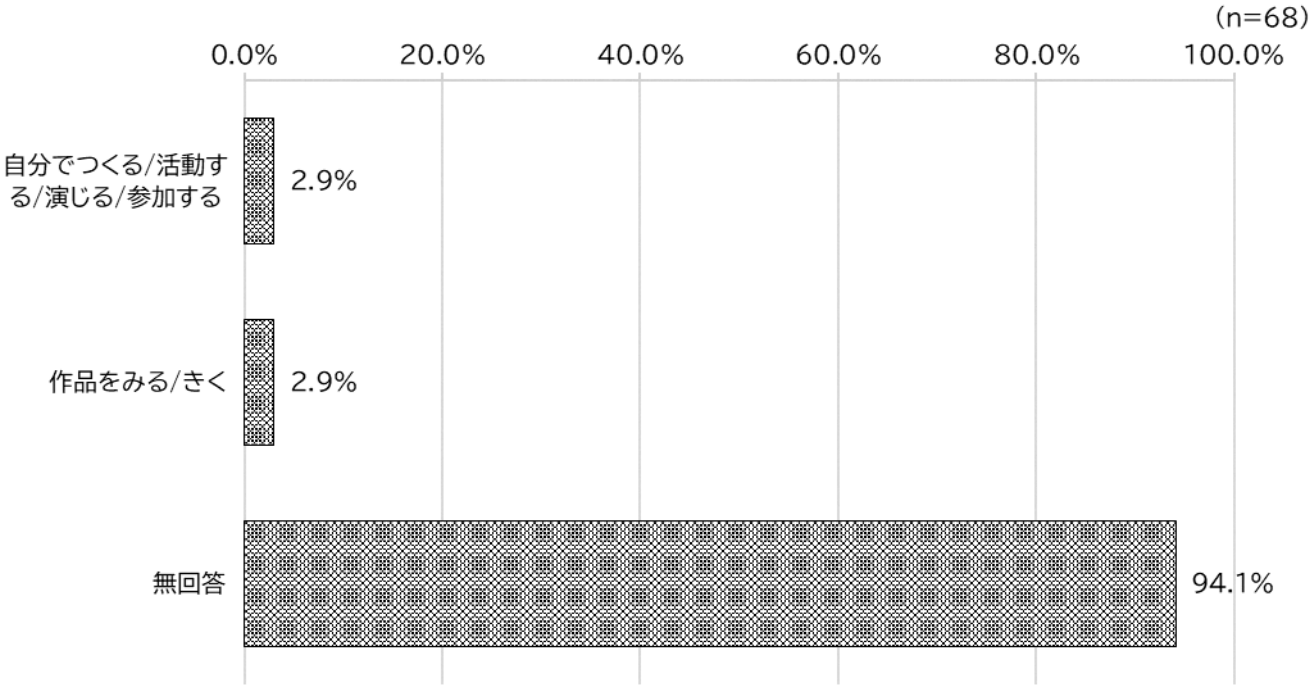
■【７．演劇（劇、ミュージカル、人形劇等）】

演劇については、「作品をみる」が 29.4%、「自分で演じる」が 7.2%となっています。



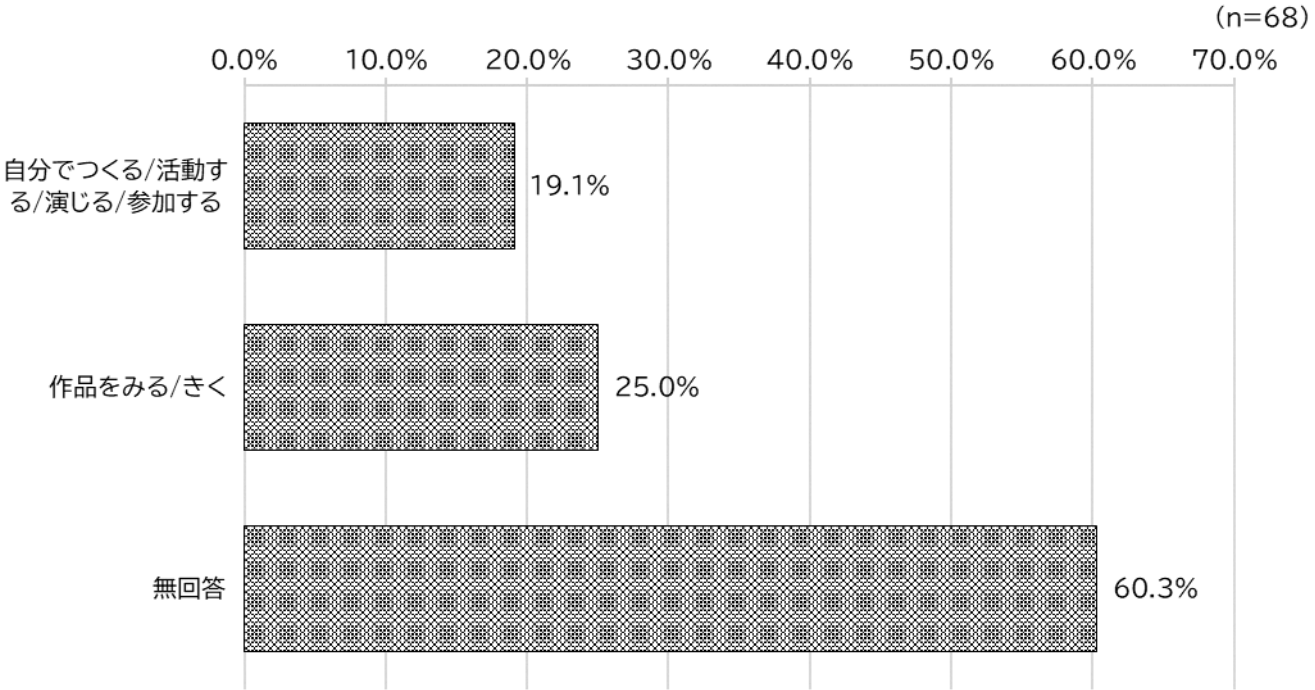
■【８．伝統芸能（能楽、文楽、歌舞伎、雅楽等）】

伝統芸能については、「作品をみる」、「自分で演じる」がともに 2.9%となっています。



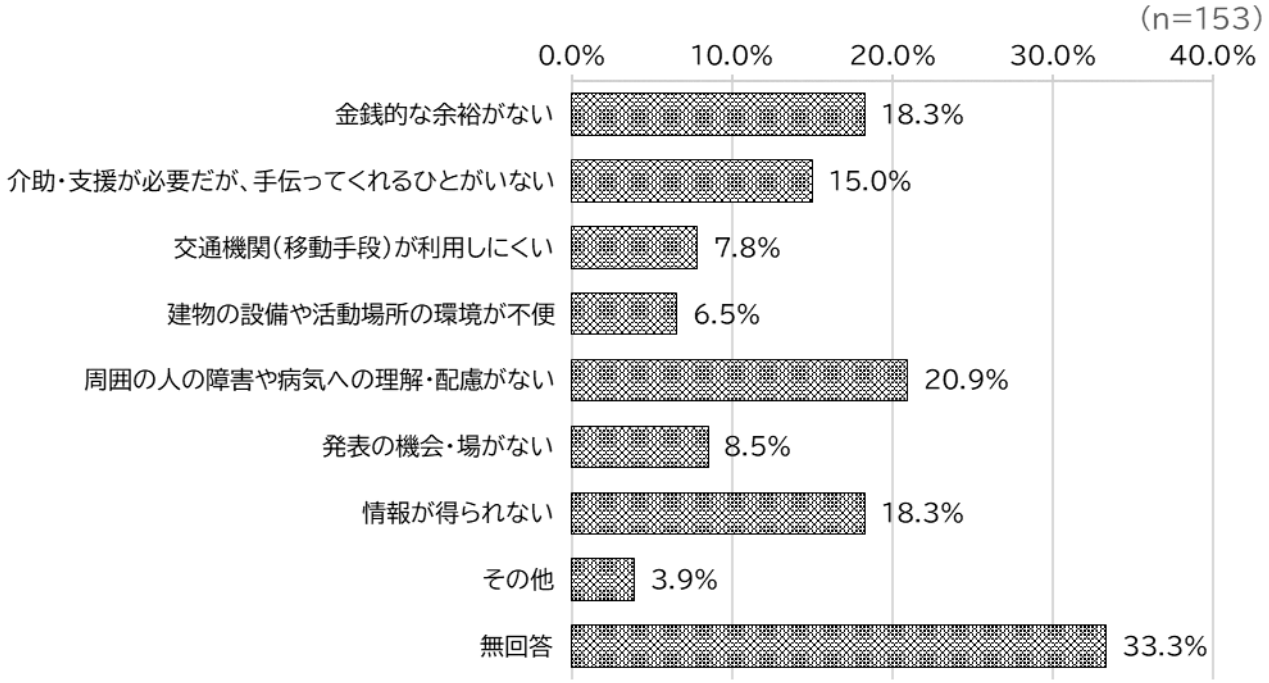
■【９．その他】

その他の回答については、ファッションショー、地域でのアートイベントへの参加などとなっています。



問３１　あなたが文化・芸術活動に関する活動をしたり、イベントに参加するなかで困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

文化・芸術活動をしたり、イベントに参加するなかで困っていることは、「周囲の人の障害や病気への理解・配慮がない」が 20.9%と最も多く、次いで、「金銭的な余裕がない」と「情報が得られない」がともに 18.3%、「介助・支援が必要だが、手伝ってくれる人がいない」が 15.0%などとなっています。



5　障害福祉サービス等の利用

（1）　サービスの利用状況と今後の利用意向

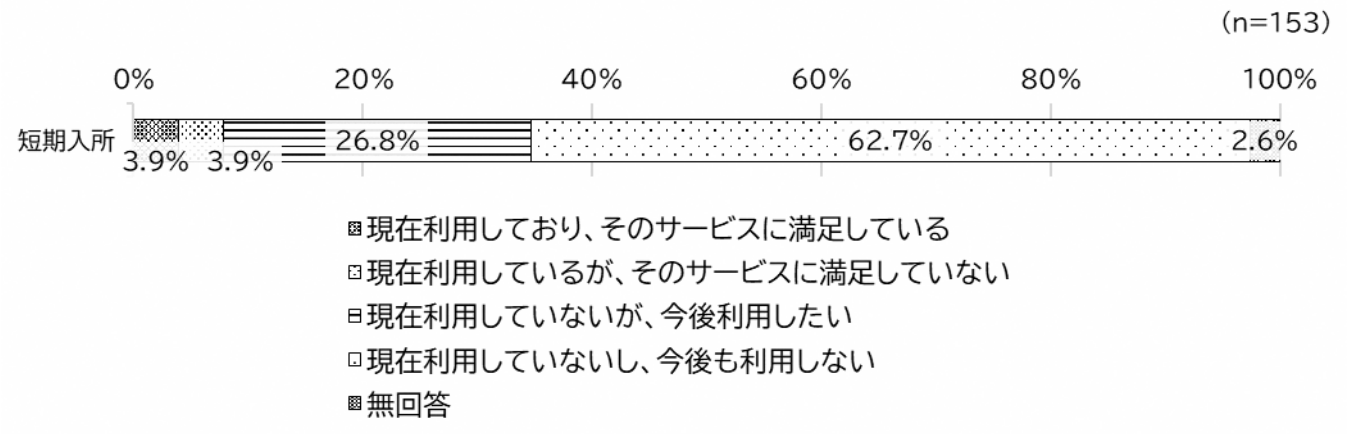
問３２　あなたは、次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと思いますか。①から⑮について、現在利用しているサービスはそのサービスの評価を、現在利用していないサービスはどのサービスを今後利用したいかを、回答（１・２・３・４のいずれか一つに○）してください。

短期入所

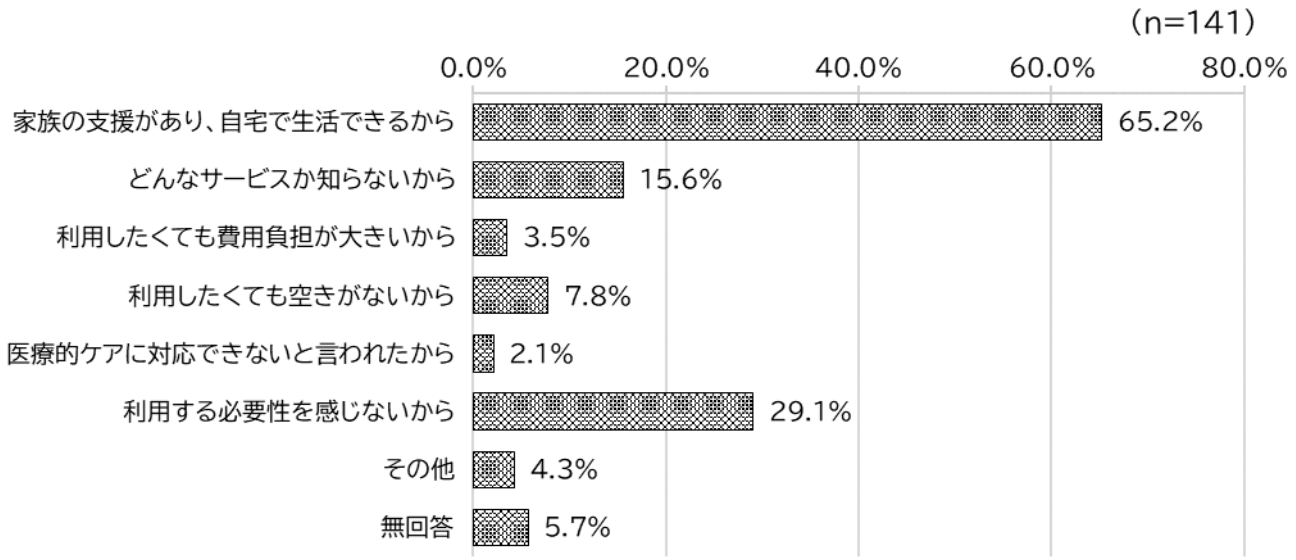
短期入所の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は7.8%となっています。

また、短期入所を現在利用していない理由については、「家族の支援があり、自宅で生活できるから」が 65.2%と最も多く、次いで、「利用する必要性を感じないから」が29.1%となっています。

■【短期入所の利用状況と今後の利用意向】



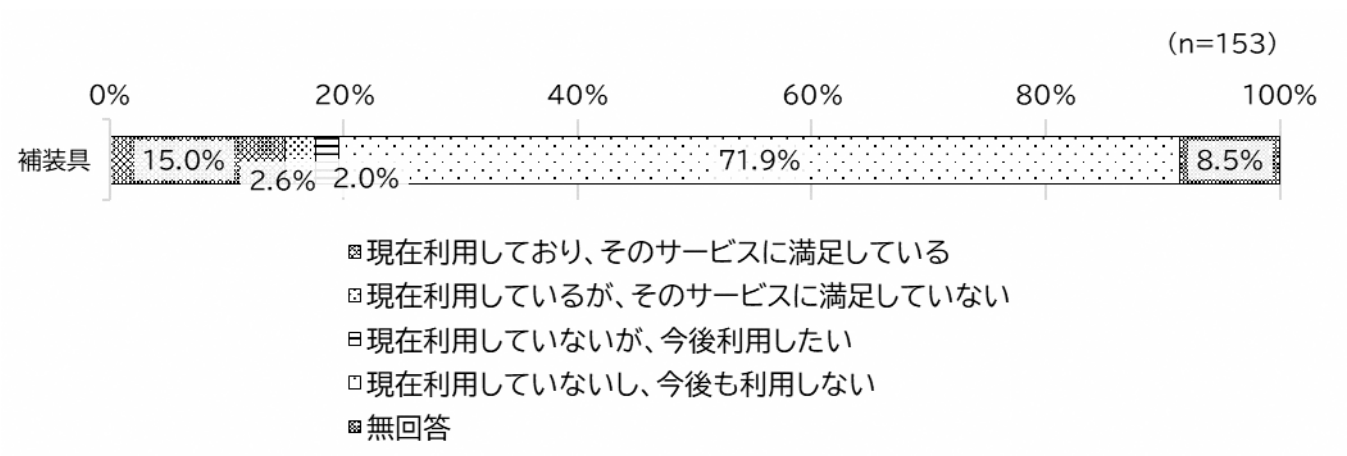
■【短期入所を利用しない理由（複数回答）】



補装具

補装具の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は 17.6%となっています。

■【補装具の利用状況と今後の利用意向】

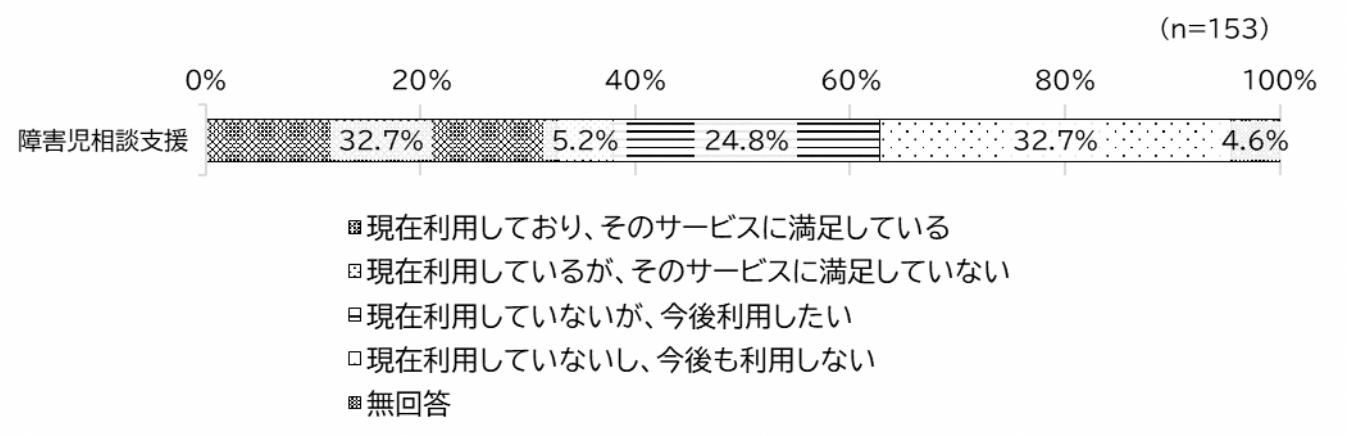


障害児相談支援

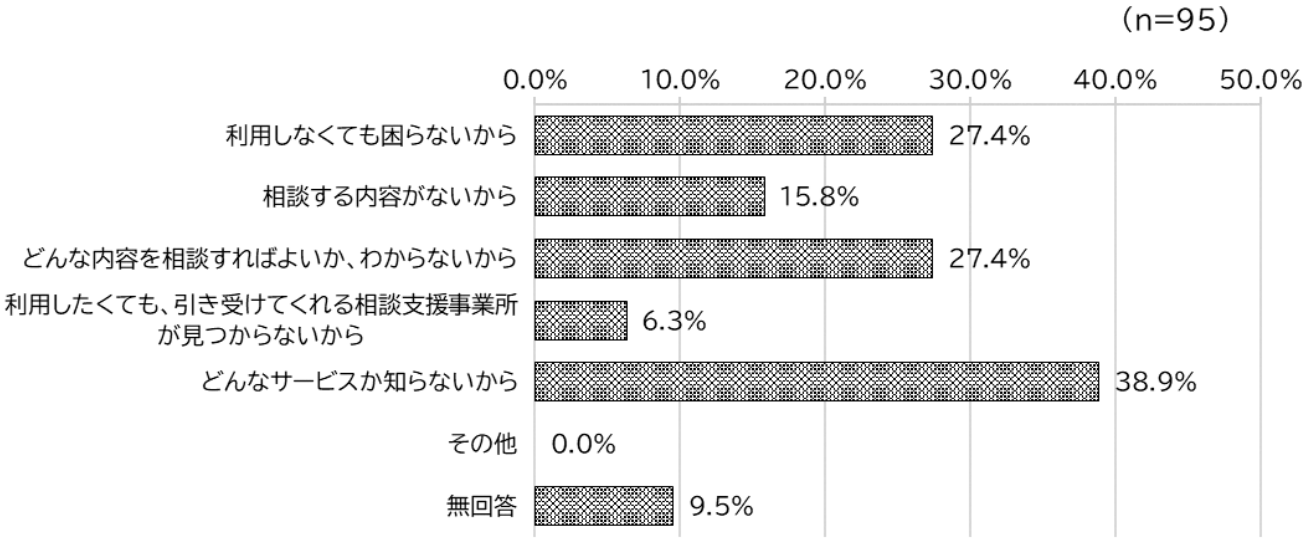
障害児相談支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は 37.9%となっています。

また、障害児相談支援を現在利用していない理由については、「どんなサービスか知らないから」が 38.9%と最も多く、次いで、「どんな内容を相談すればよいか、わからないから」と「利用しなくても困らないから」ともに 27.4%となっています。

■【相談支援の利用状況と今後の利用意向】



■【相談支援を利用しない理由（複数回答）】



障害児サービス

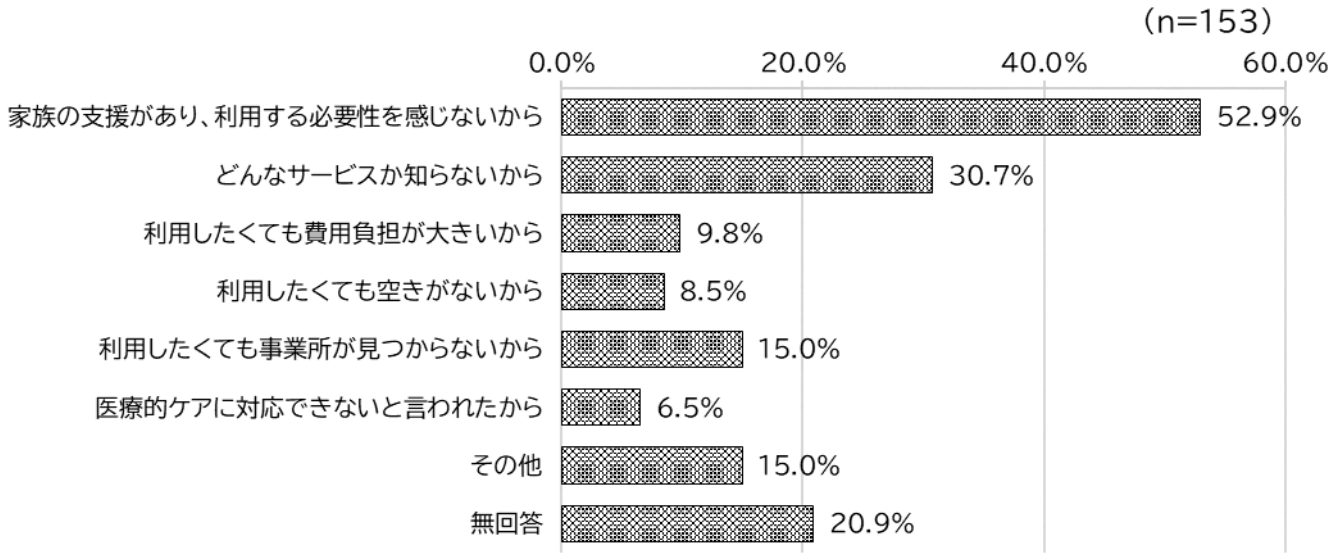
障害児サービスの利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は児童発達支援で 24.8%、放課後等デイサービスで 59.5%、保育所等訪問支援で 15.7%、居宅訪問型児童発達支援で 3.3%、福祉型児童入所支援で 1.3%、医療型児童入所支援は 0.7%となっています。

また、障害児サービスを現在利用していない理由については、「家族の支援があり、利用する必要性を感じないから」が 52.9%と最も多く、次いで、「どんなサービスか知らないから」が 30.7%となっています。

■【障害児サービスの利用状況と今後の利用意向】

上段：回答者数 下段：構成比	全体(n)	現在利用しており、そのサービスに満足している	現在利用しているが、そのサービスに満足していない	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用していないし、今後も利用しない	無回答
児童発達支援	153	36	2	22	79	14
	100.0%	23.5%	1.3%	14.4%	51.6%	9.2%
放課後等デイサービス	153	82	9	22	36	4
	100.0%	53.6%	5.9%	14.4%	23.5%	2.6%
保育所等訪問支援	153	22	2	12	102	15
	100.0%	14.4%	1.3%	7.8%	66.7%	9.8%
居宅訪問型児童発達支援	153	5	0	18	116	14
	100.0%	3.3%	0.0%	11.8%	75.8%	9.2%
福祉型児童入所支援	153	2	0	22	116	13
	100.0%	1.3%	0.0%	14.4%	75.8%	8.5%
医療型児童入所支援	153	1	0	11	127	14
	100.0%	0.7%	0.0%	7.2%	83.0%	9.2%

■【障害児サービスを利用しない理由（複数回答）】

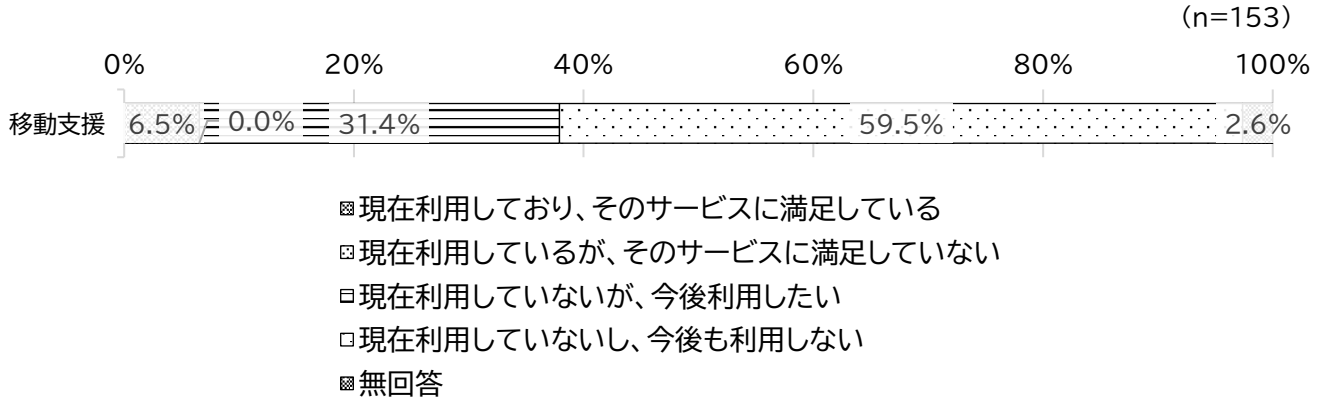


移動支援（ガイドヘルパー）

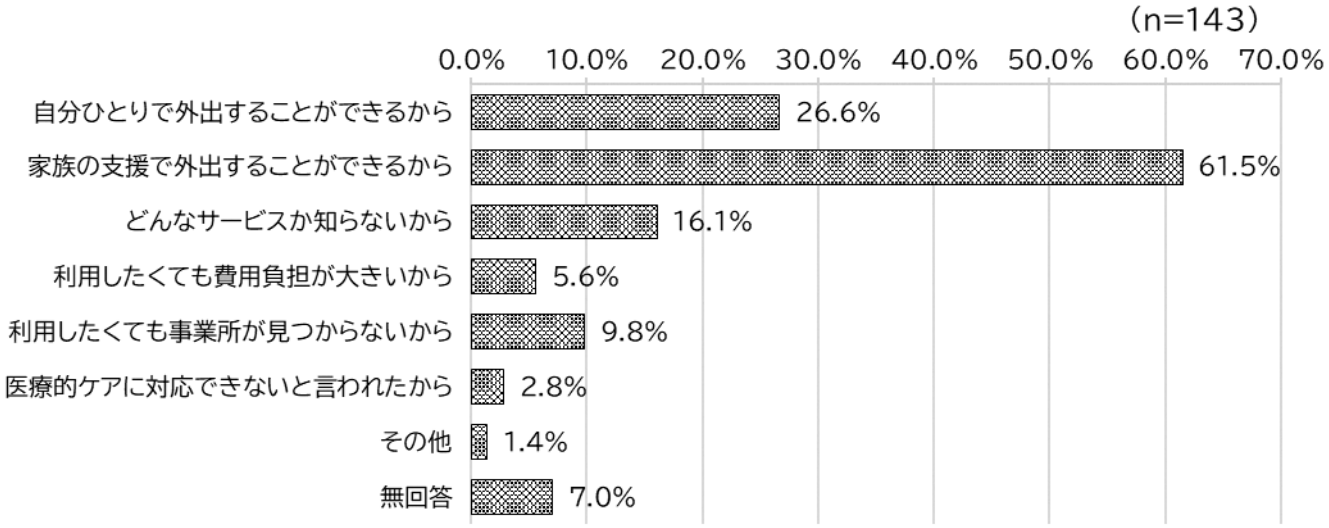
移動支援（ガイドヘルパー）の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は 6.5%となっています。

また、移動支援（ガイドヘルパー）を現在利用していない理由については、「家族の支援で外出することができるから」が 61.5%と最も多く、次いで、「自分ひとりで外出することができるから」が 26.6%となっています。

■【移動支援（ガイドヘルパー）の利用状況と今後の利用意向】



■【移動支援を利用しない理由（複数回答）】

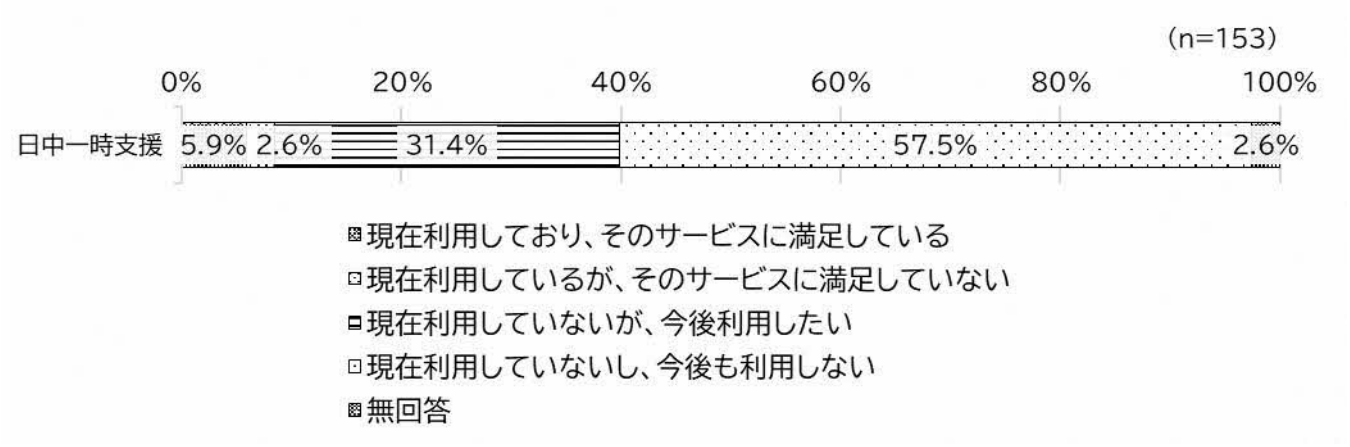


日中一時支援事業

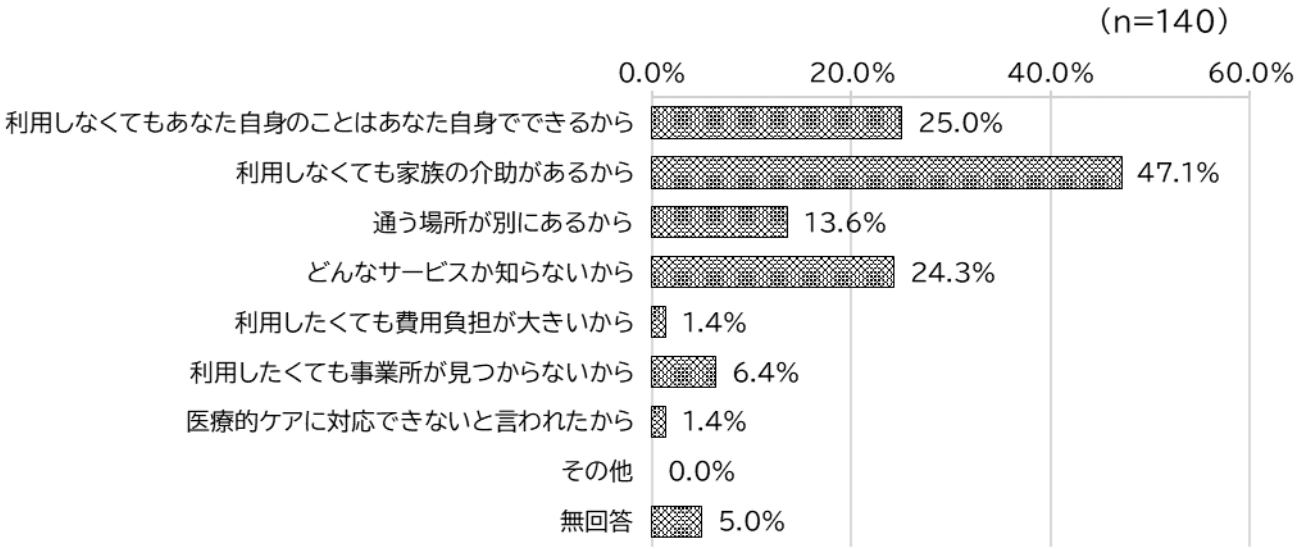
日中一時支援の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、8.5%となっています。

また、日中一時支援を現在利用していない理由については、「利用しなくても家族の介助があるから」が 47.1%と最も多く、次いで、「利用しなくてもあなた自身のことはあなた自身でできるから」が 25.0%となっています。

■【日中一時支援事業の利用状況と今後の利用意向】



■【日中一時支援事業を利用しない理由（複数回答）】

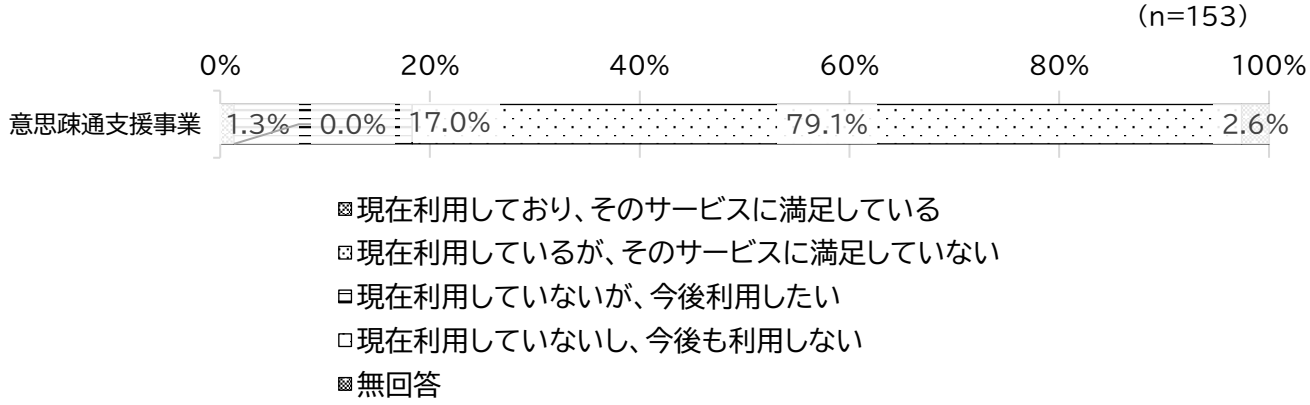


意思疎通支援事業

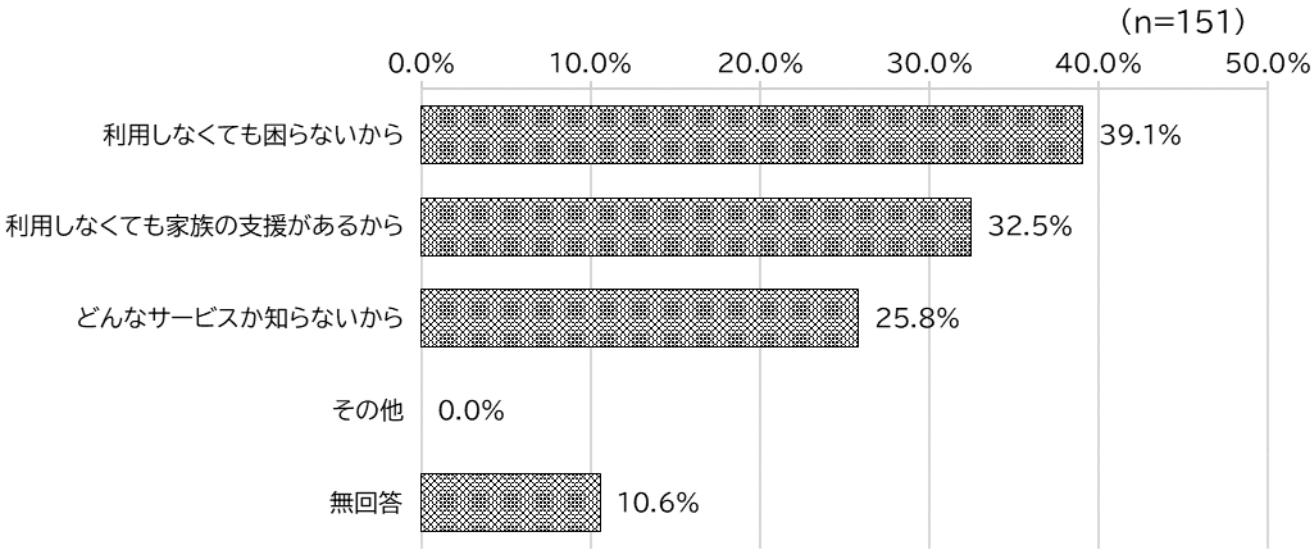
意思疎通支援事業の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、1.3%となっています。

また、意思疎通支援事業を現在利用していない理由については、「利用しなくても困らないから」が 39.1%と最も多く、次いで、「利用しなくても家族の支援があるから」がともに 32.5%となっています。

■【意思疎通支援事業の利用状況と今後の利用意向】



■【意思疎通支援事業を利用しない理由（複数回答）】

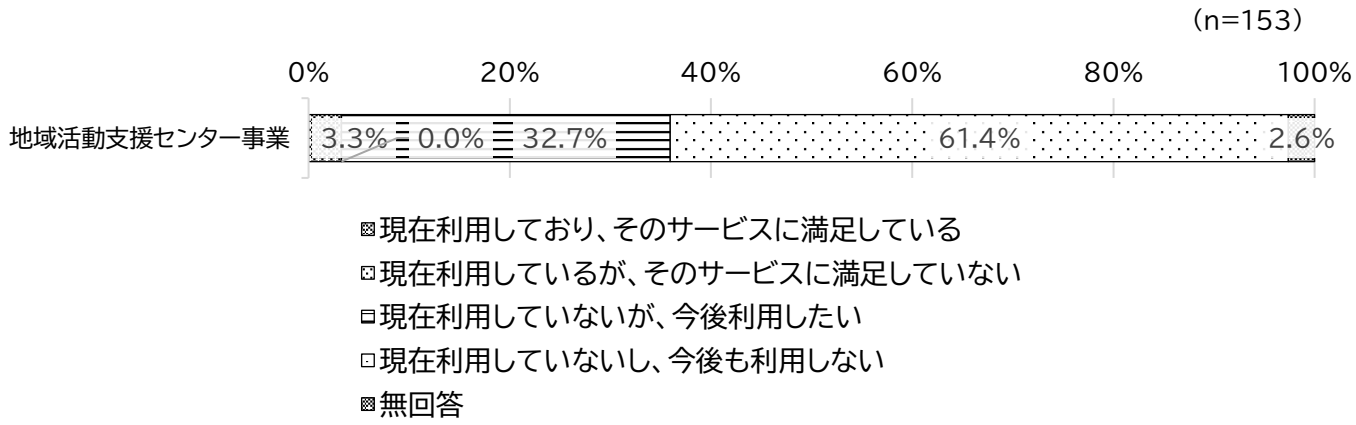


地域活動支援センター

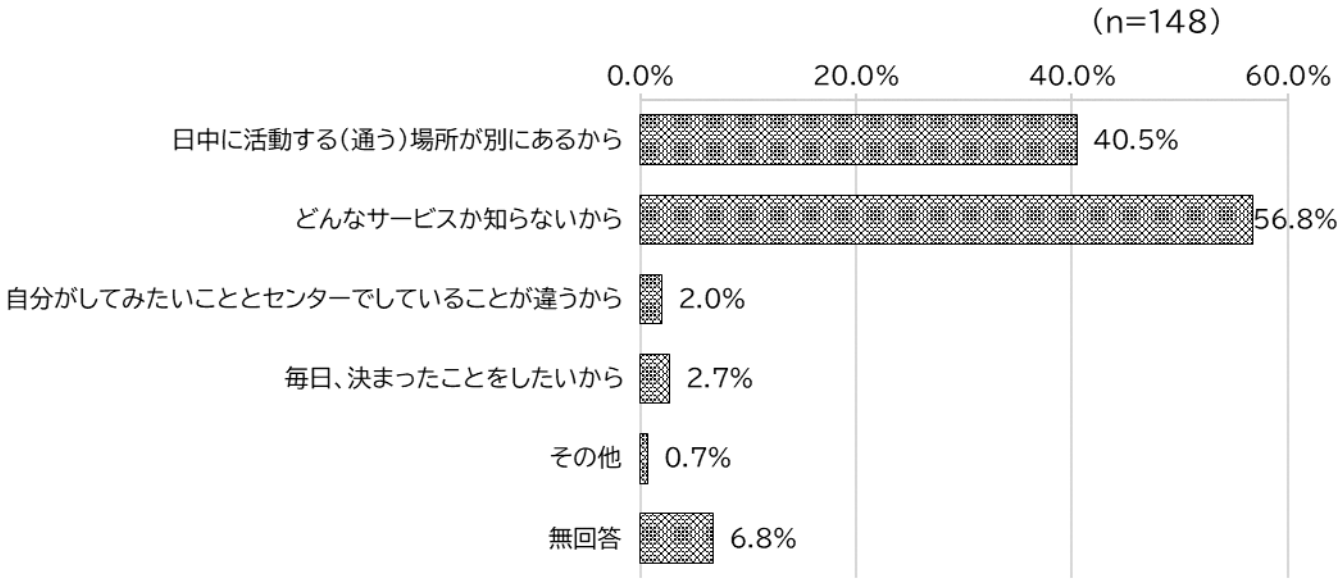
地域活動支援センター事業の利用については、現在利用している(「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、3.3%となっています。

また、地域活動支援センター事業を現在利用していない理由については、「どんなサービスか知らないから」が 56.8%と最も多く、次いで、「日中に活動する（通う）場所が別にあるから」が 40.5%となっています。「どんなサービスか知らないから」の 56.8%は、他のサービスと比べても特に多くなっており、サービス自体の認知向上が課題となっていることが考えられます。

■【地域活動支援センターの利用状況と今後の利用意向】



■【地域活動支援センターでの創作や作業を利用しない理由（複数回答）】

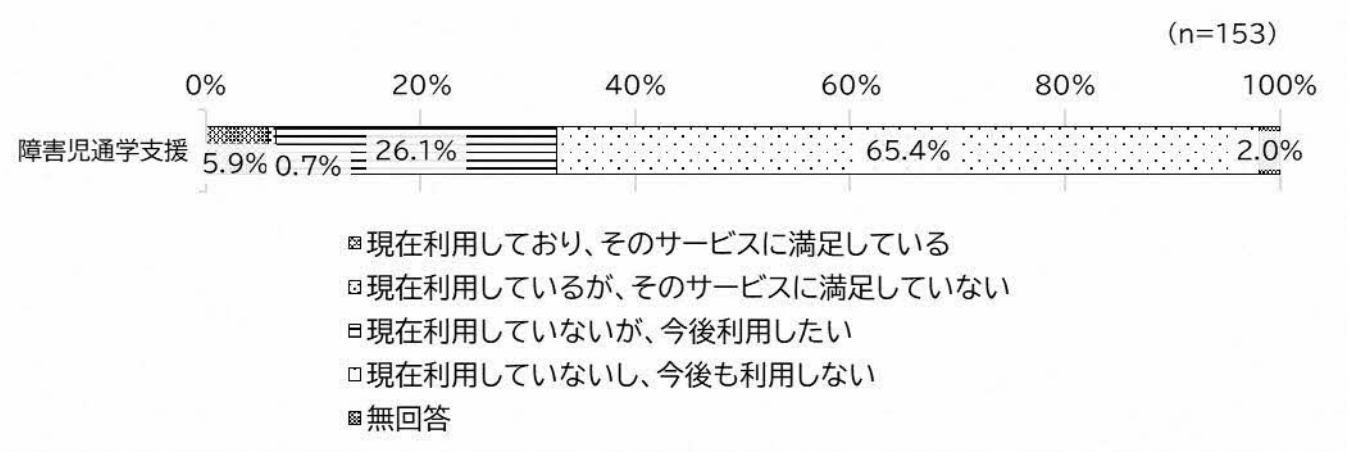


障害児通学支援（通学ガイドヘルパー）

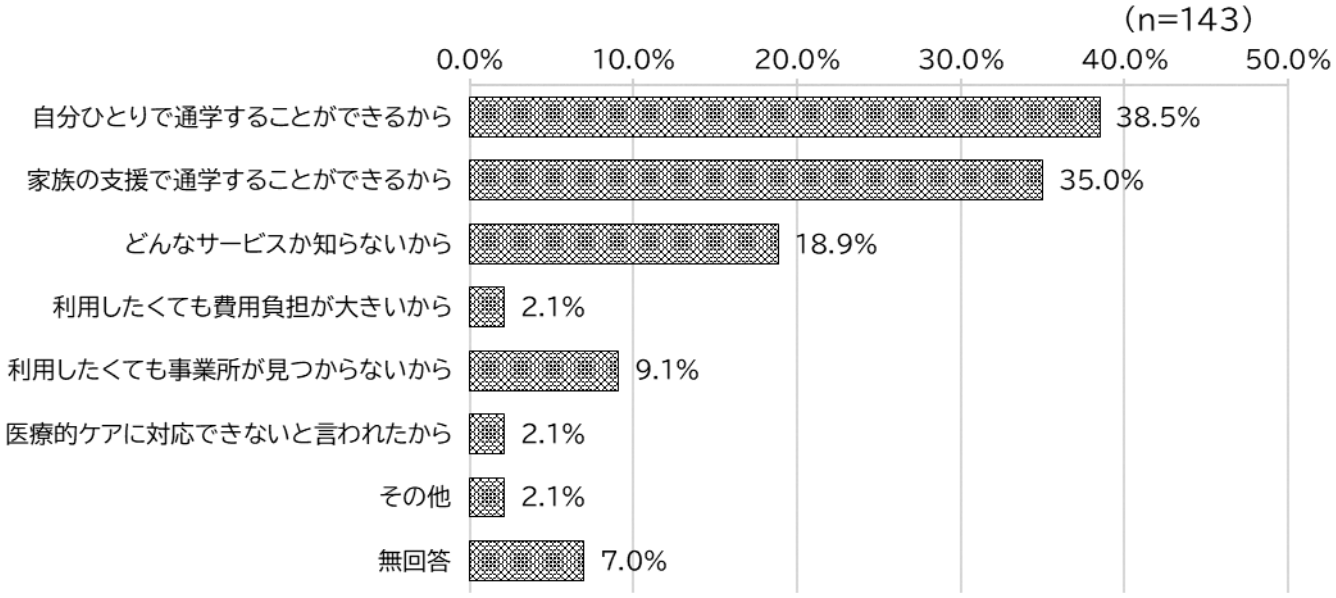
障害児通学支援（通学ガイドヘルパー）の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、6.6%となっています。

また、障害児通学支援（通学ガイドヘルパー）を現在利用していない理由については、「自分ひとりで通学することができるから」が 38.5%と最も多く、次いで、「家族の支援で通学することができるから」が 35.0%となっています。

■【障害児通学支援（通学ガイドヘルパー）の利用状況と今後の利用意向】



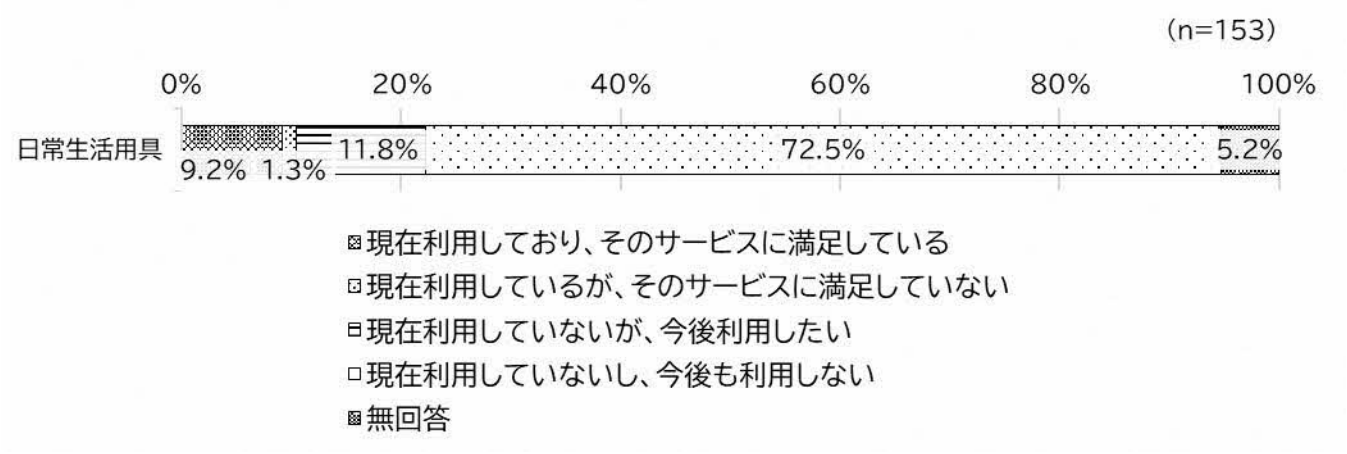
■【通学ガイドヘルパーを利用しない理由（複数回答）】



日常生活用具

日常生活用具の利用については、現在利用している（「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」の合計）は、10.5%となっています。

■【日常生活用具の利用状況と今後の利用意向】

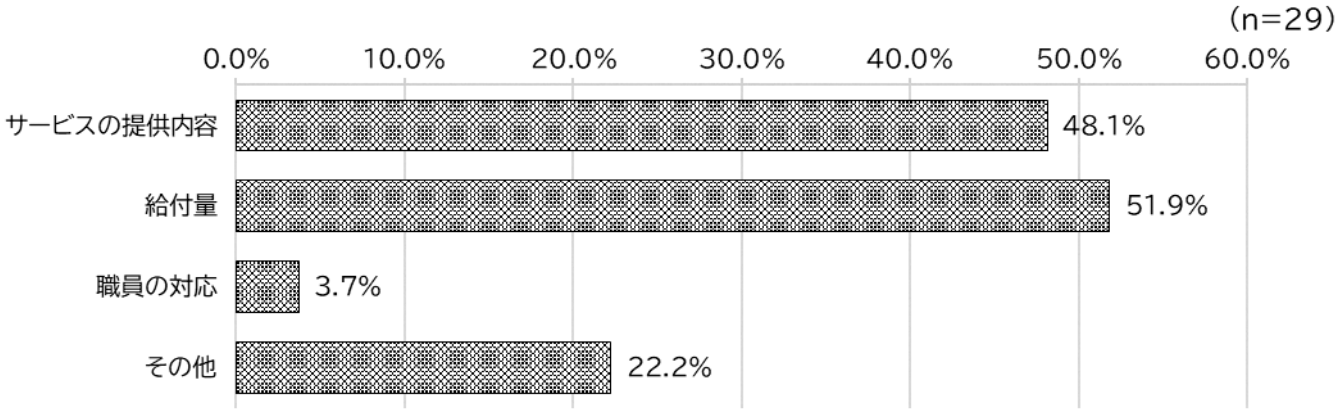


（２）　サービスに満足していない理由

問３３　問３２で、一つでも「２．現在利用しているがそのサービスに満足していない」と回答された方に、お聞きします。満足していない理由について回答してください。（あてはまるものすべてに○）

サービスに満足していない理由については、「時間や日数、給付量」が 51.9%と最も多く、「サービスの提供内容」が 48.1%となっています。

■【サービスに満足していない理由（複数回答）】



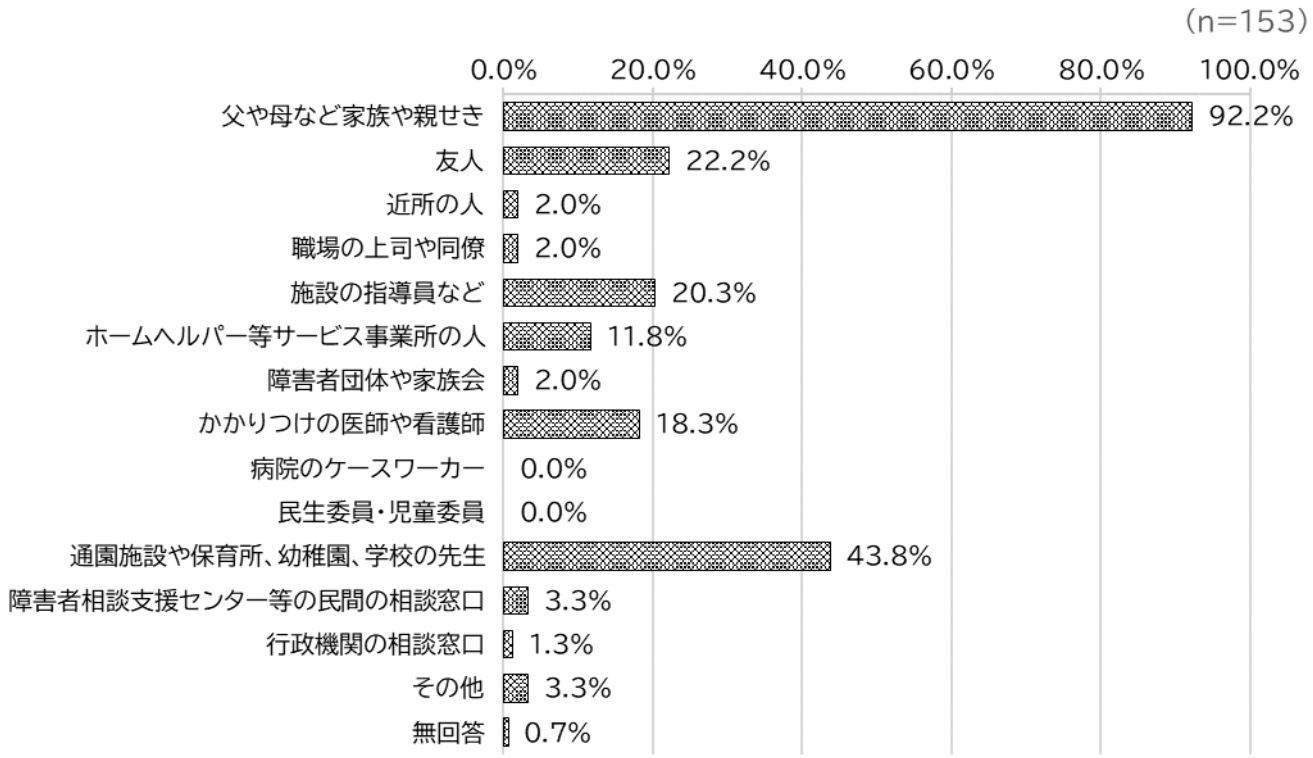
6　相談相手

（１）　悩みや困ったことを相談する相手

問 34　あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

悩みや困ったことなどを相談する人については、「父や母など家族や親せき」が 92.2%と最も多く、次いで、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が 43.8%、「友人」が 22.2%となっています。

■【悩みや困ったことを相談する相手（複数回答）】

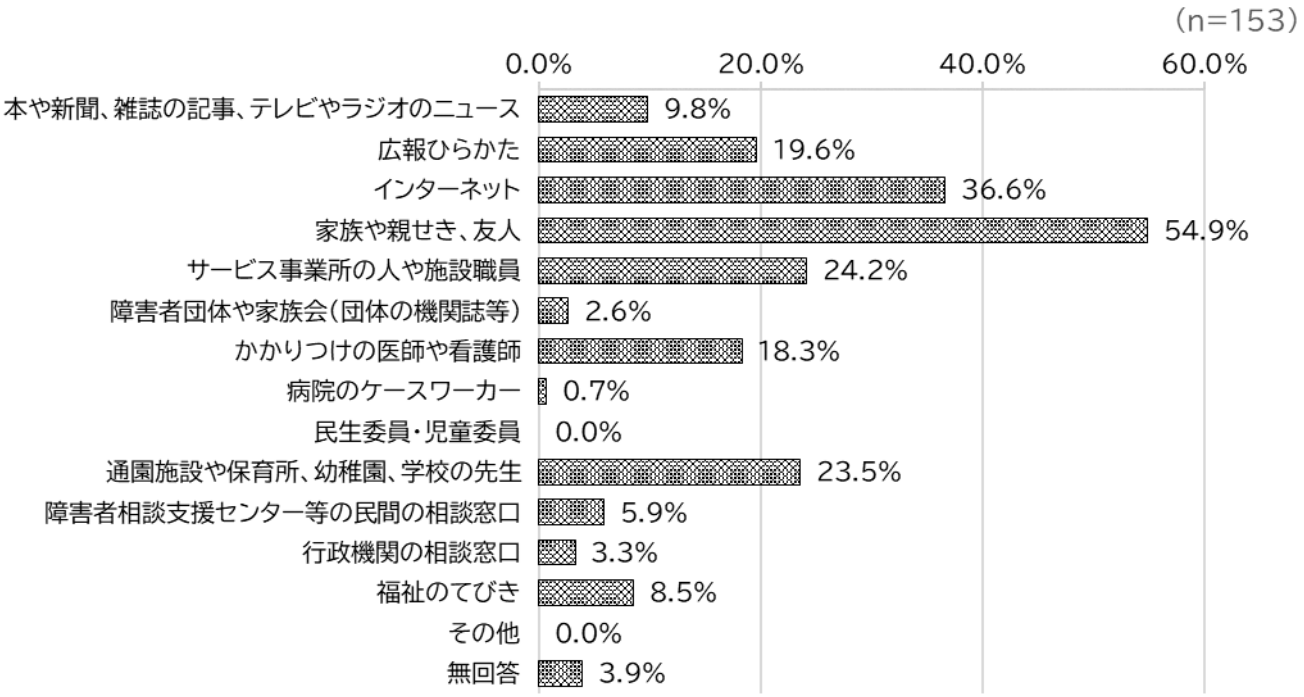

（n=153）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
父や母など家族や親せき
92.2%
友人
22.2%
近所の人
2.0%
職場の上司や同僚
2.0%
施設の指導員など
20.3%
ホームヘルパー等サービス事業所の人
11.8%
障害者団体や家族会
2.0%
かかりつけの医師や看護師
18.3%
病院のケースワーカー
0.0%
民生委員・児童委員
0.0%
通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生
43.8%
障害者相談支援センター等の民間の相談窓口
3.3%
行政機関の相談窓口
1.3%
その他
3.3%
無回答
0.7%

（２）　障害や福祉サービス等に関する情報の入手先

問３５　あなたは障害のことや福祉サービス等に関する情報（じょうほう）を、どこから知ることが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

障害や福祉サービス等に関する情報の入手先については、「家族や親せき、友人」が54.9%と最も多く、次いで、「インターネット」が 36.6%、「サービス事業所の人や施設職員」は 24.2%、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が 23.5%、「広報ひらかた」が 19.6%などとなっています。

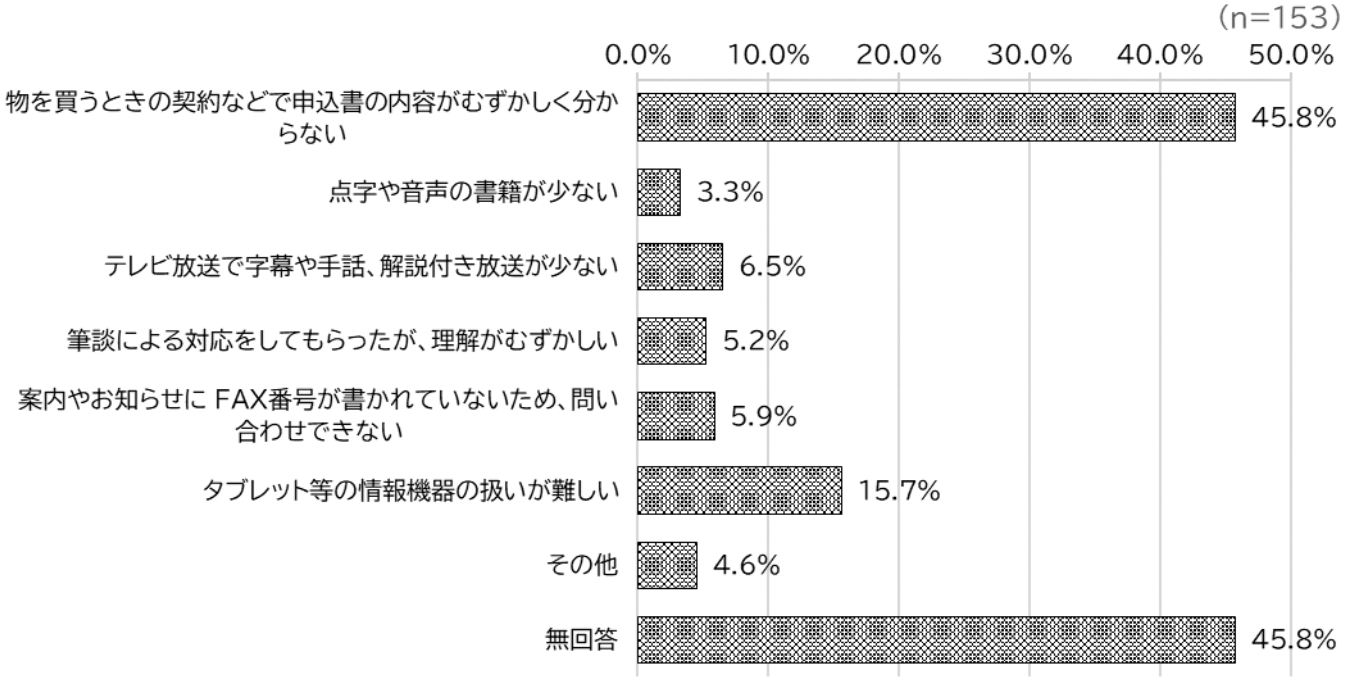
■【障害や福祉サービス等に関する情報の入手先（複数回答）】



問３６　あなたは生活に必要な情報を得ることがむずかしく、困ることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

生活に必要な情報を得ることがむずかしく、困ることについては、「物を買うときの契約などで申込書の内容がむずかしく分からない」が 45.8%と最も多く、次いで、「タブレット等の情報機器の扱いが難しい」が 15.7%となっています。

■【生活に必要な情報を得ることがむずかしく、困ること（複数回答）】



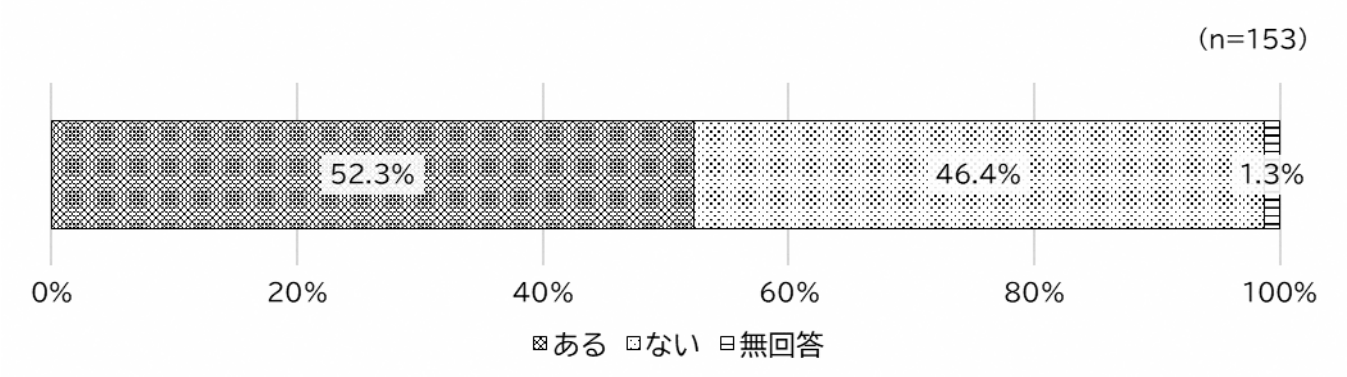
7　権利擁護

（1）　障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすること

問３７　あなたや保護者の方は、あなたに障害があることで嫌(いや)な思いをしたり、困ったりすることは、ありますか。（○は１つだけ）

障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがあるかについては、「ある」が52.3%、「ない」が46.4%となっています。

■【障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすること】

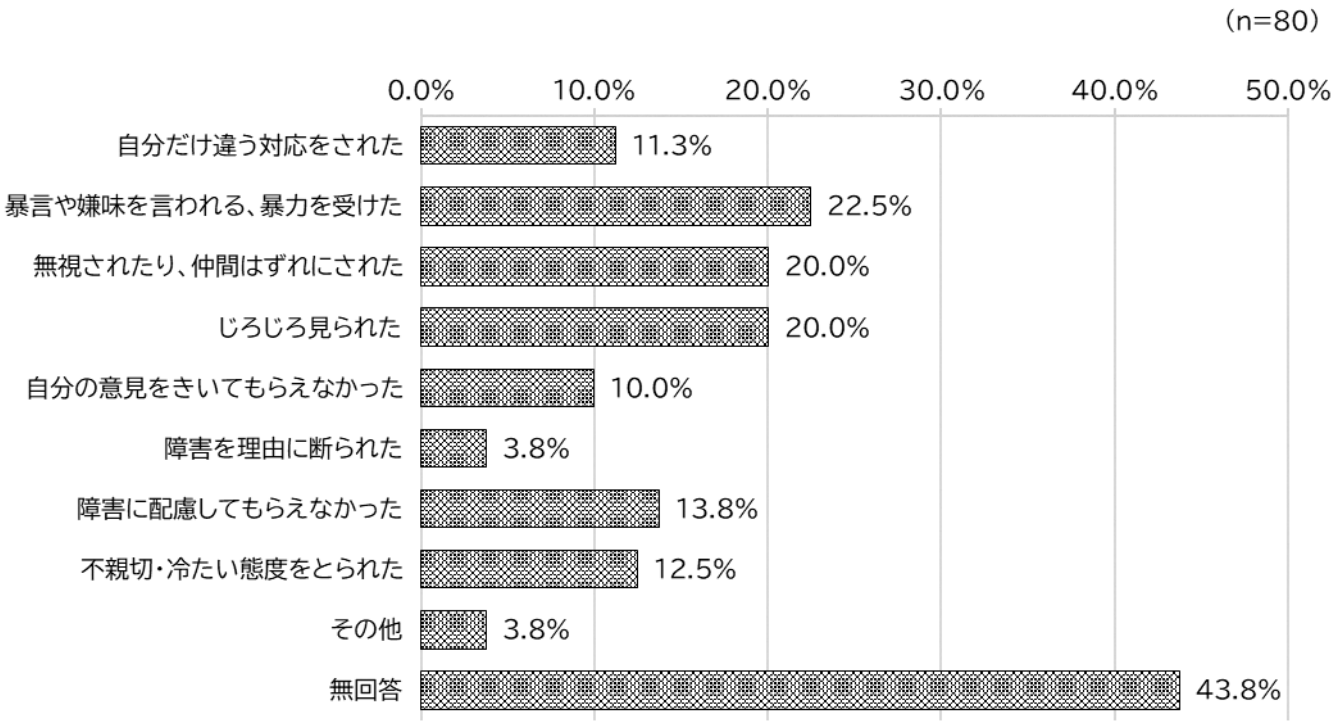


（２）　嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）

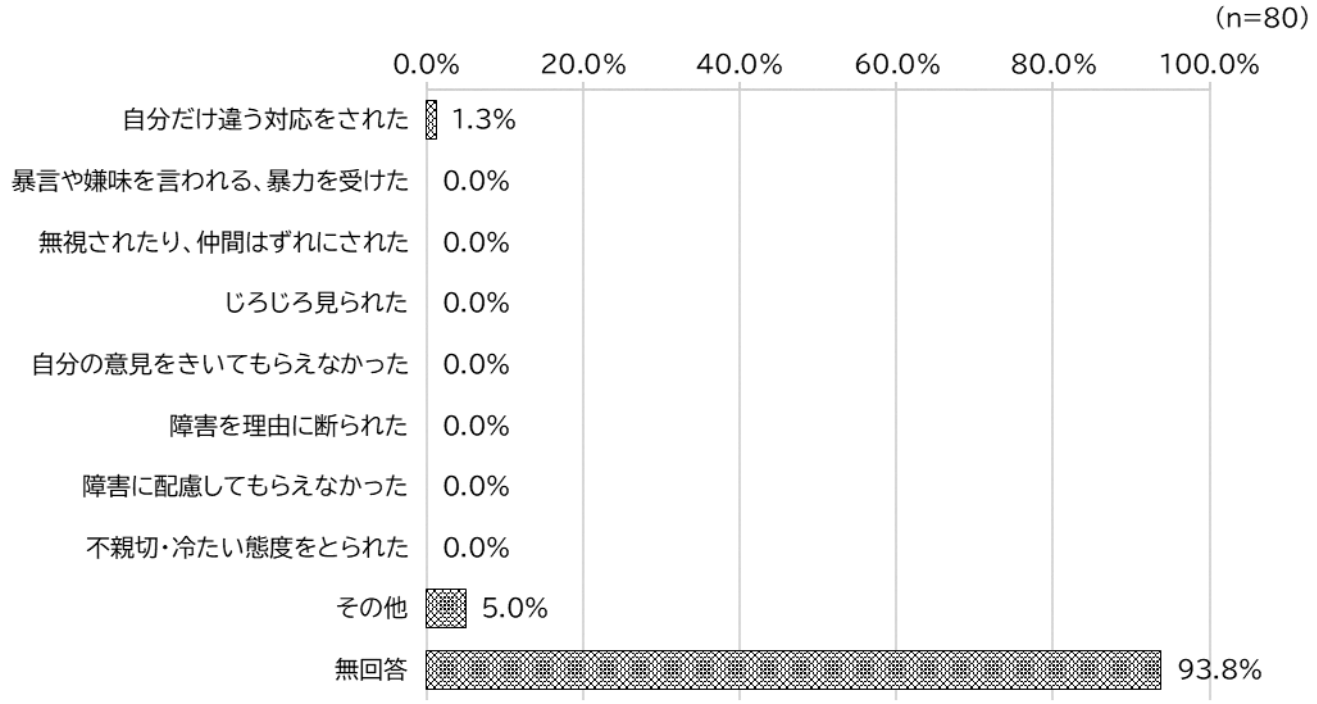
問３７－１　どのような場所で嫌な思いをしたり、困ったりしましたか。また、その嫌な思いをしたり、困ったりすることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることがある方について、回答数が多かった場所は、①学校、④外出先・余暇を楽しむとき、⑤公共交通機関となっています。差別や嫌な思いをした内容としては、④外出先・余暇を楽しむとき、や⑤公共交通機関、⑦住んでいる地域、での「じろじろ見られた」、①学校での「暴言や嫌味を言われる、暴力を受けた」、「無視されたり、仲間はずれにされた」、「じろじろ見られた」などが多くなっています。

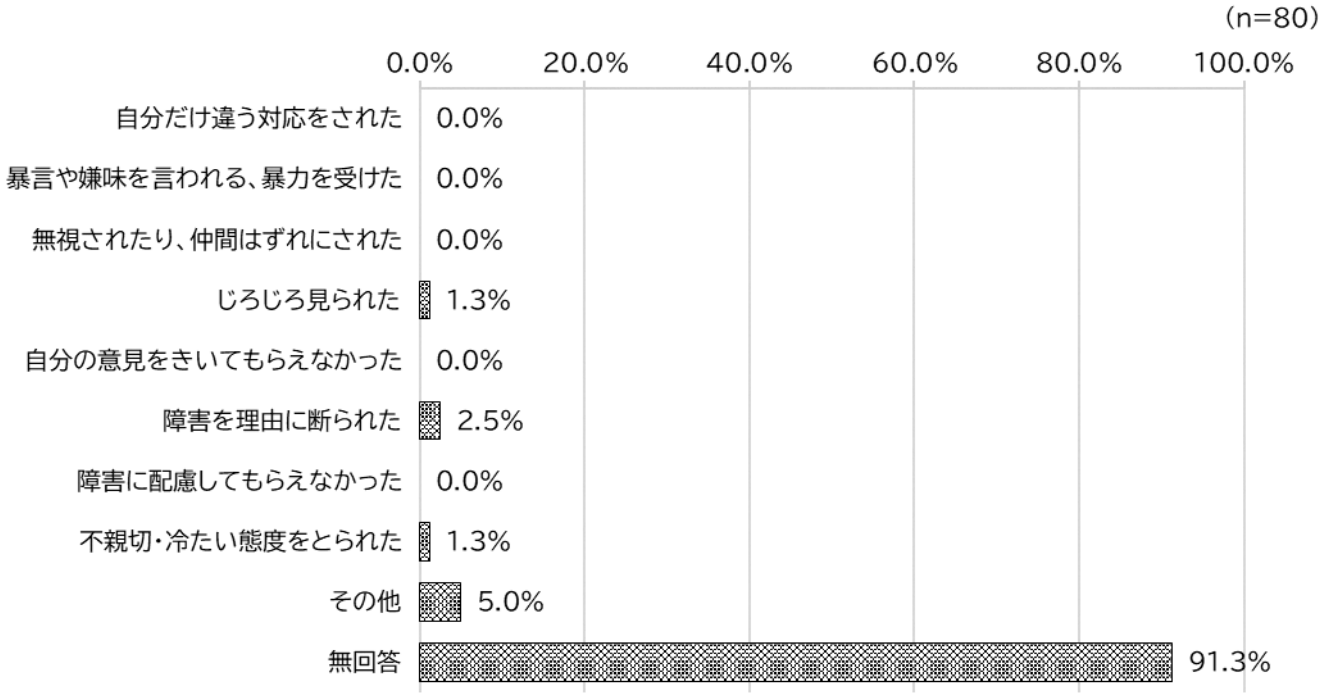
■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）①学校】



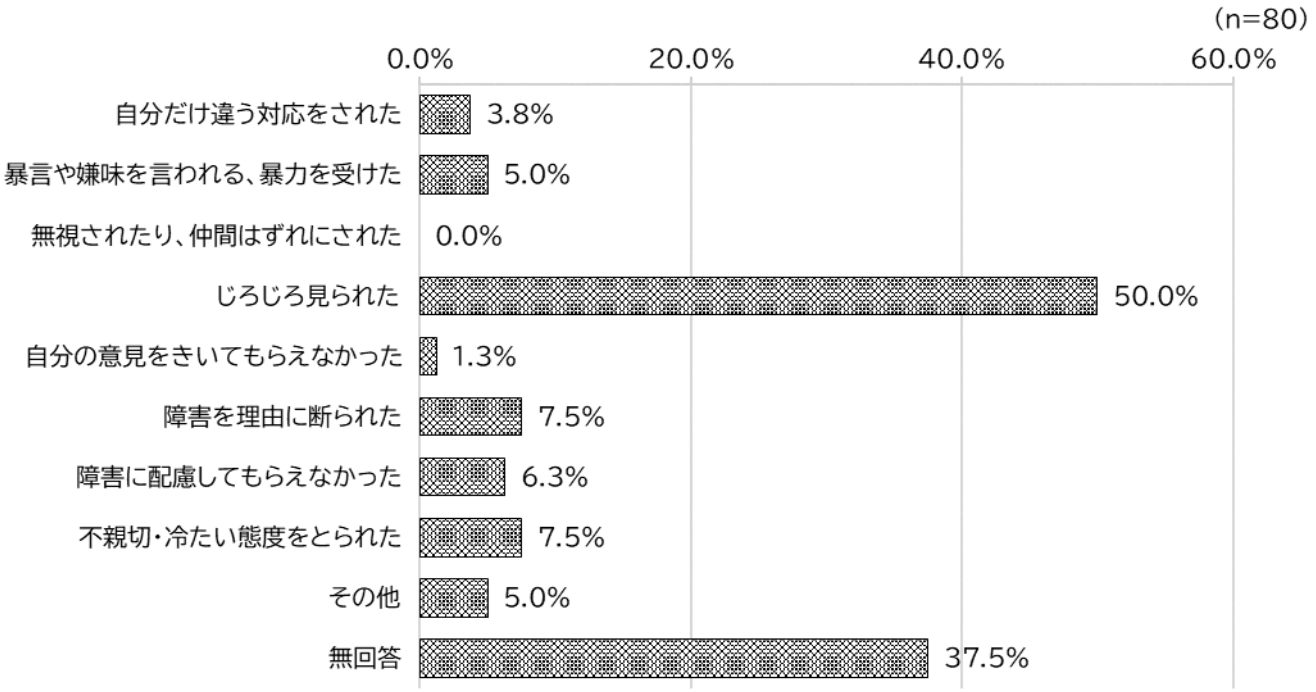
■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）②職場】



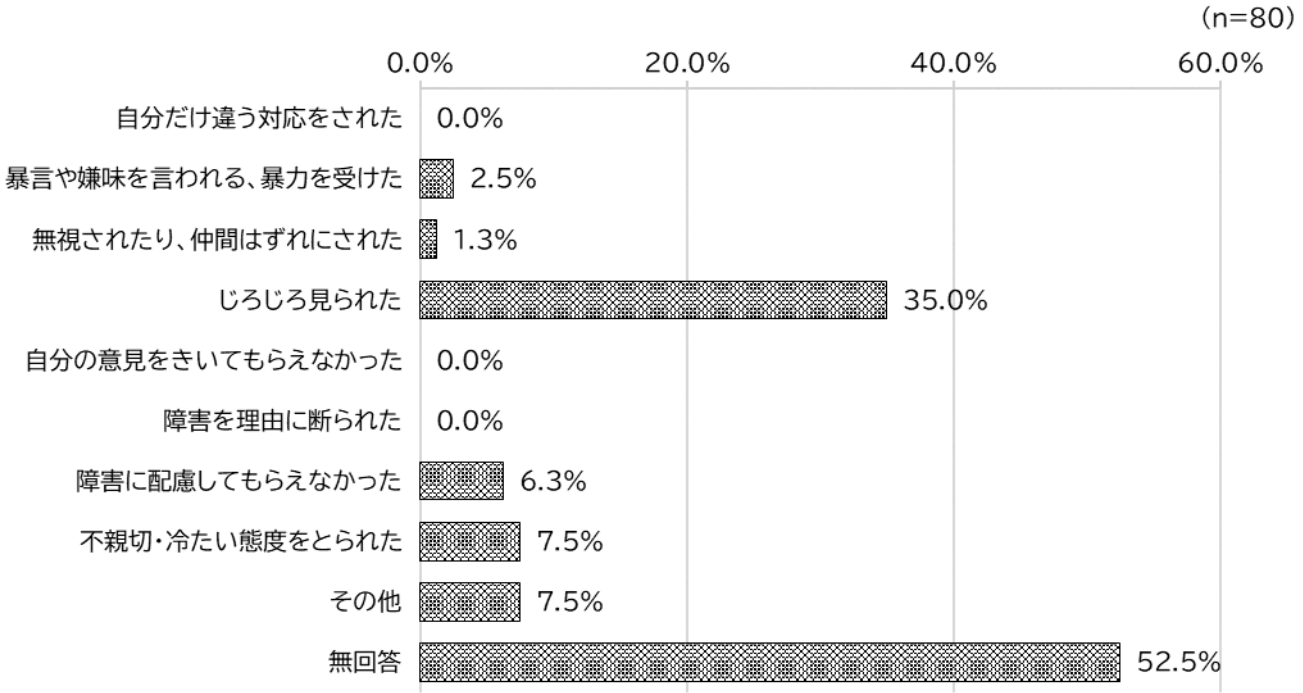
■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）③仕事を探すとき】



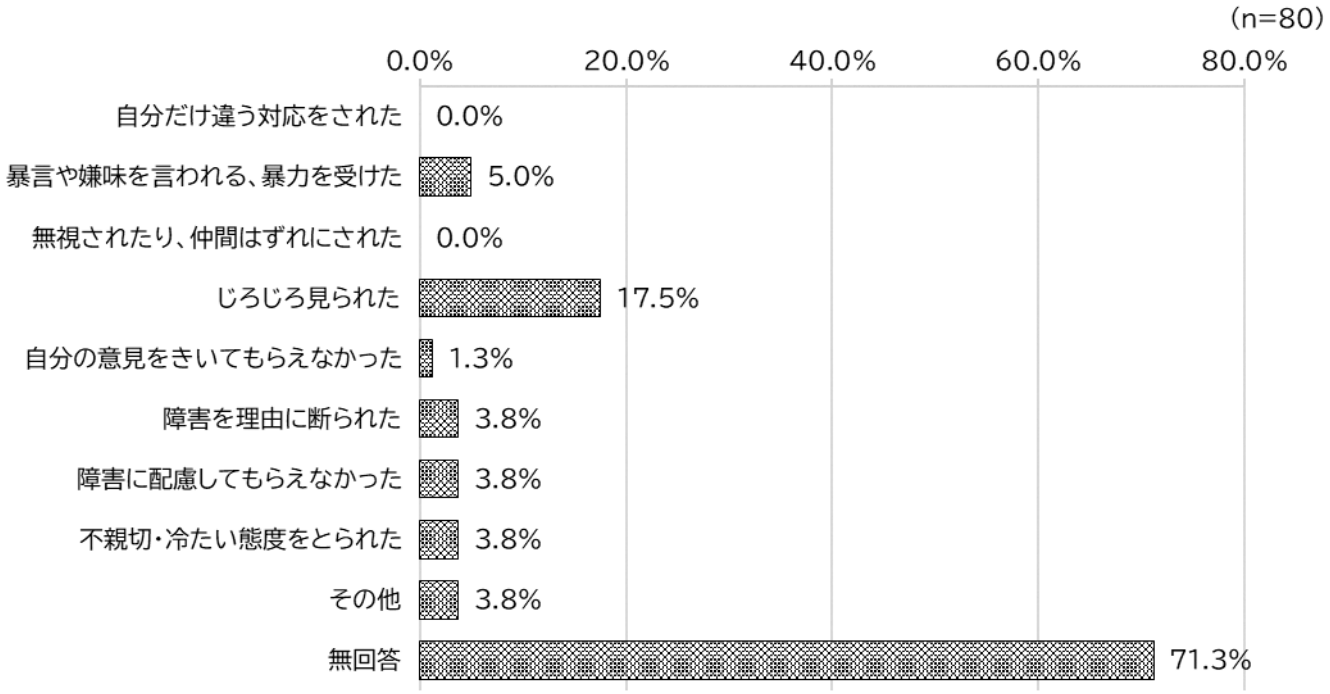
■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）④外出先・余暇を楽しむとき】



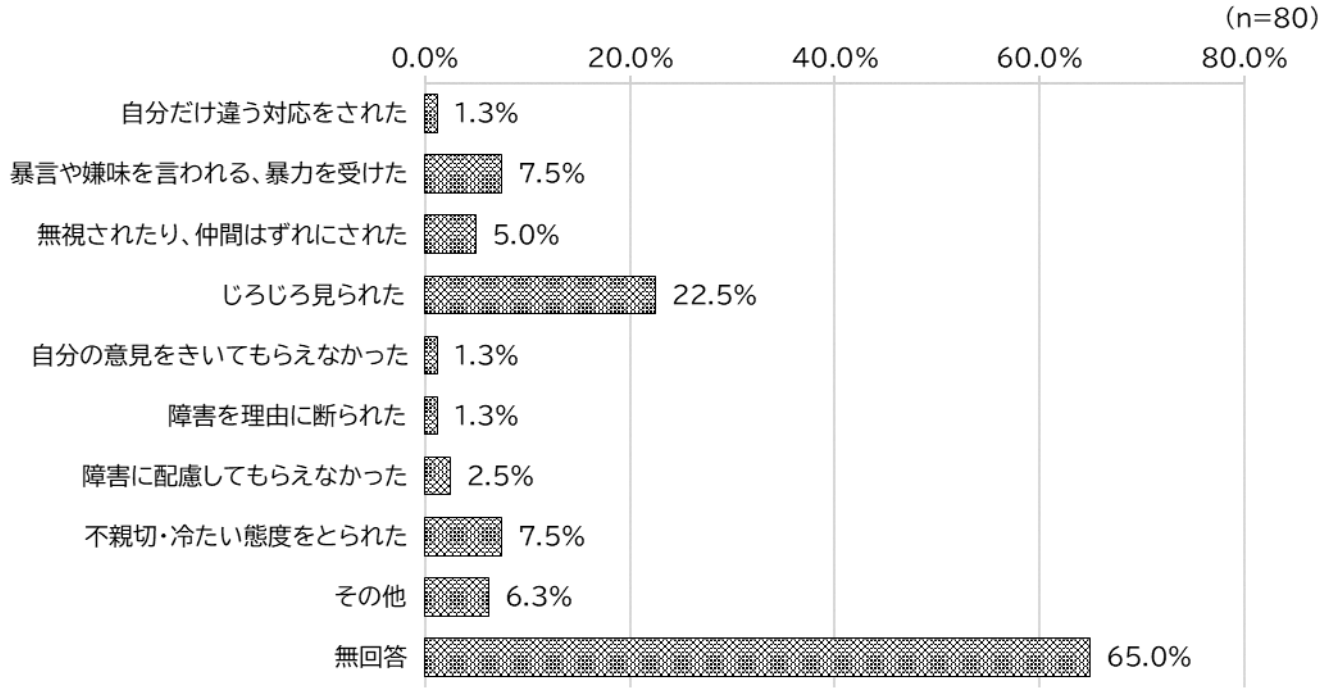
■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）⑤公共交通機関】



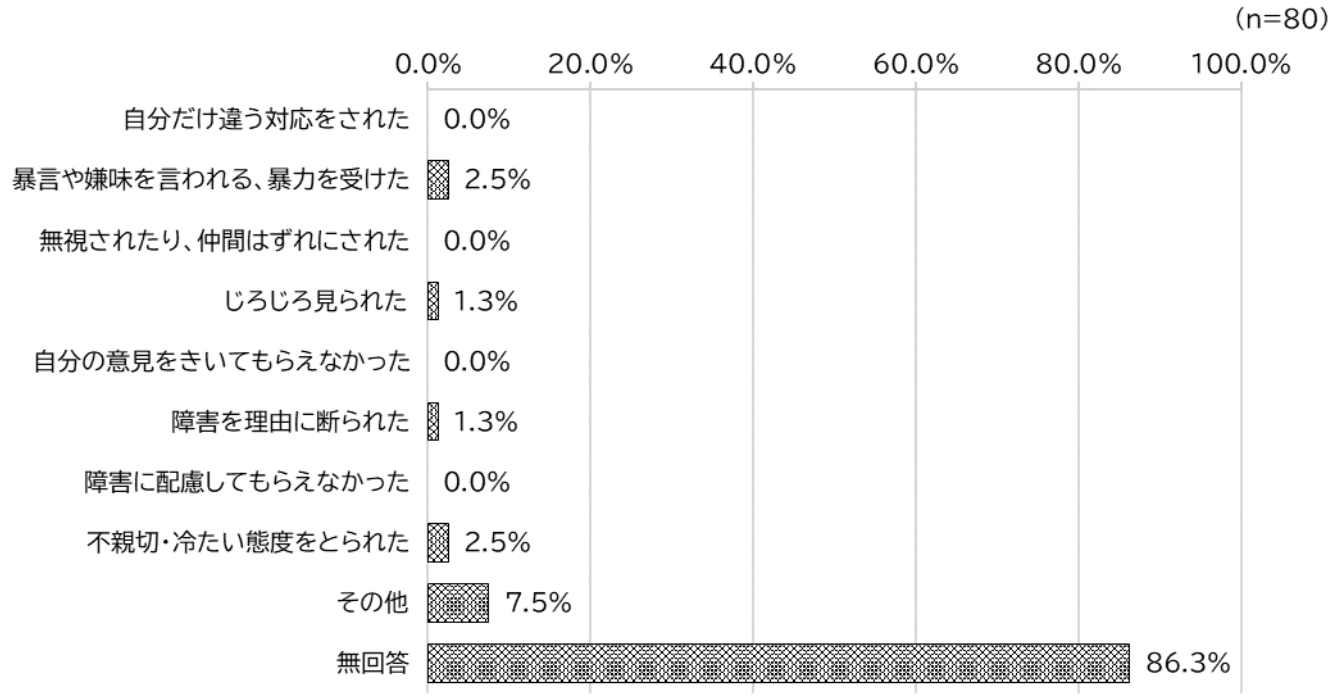
■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）⑥病院等の医療機関】



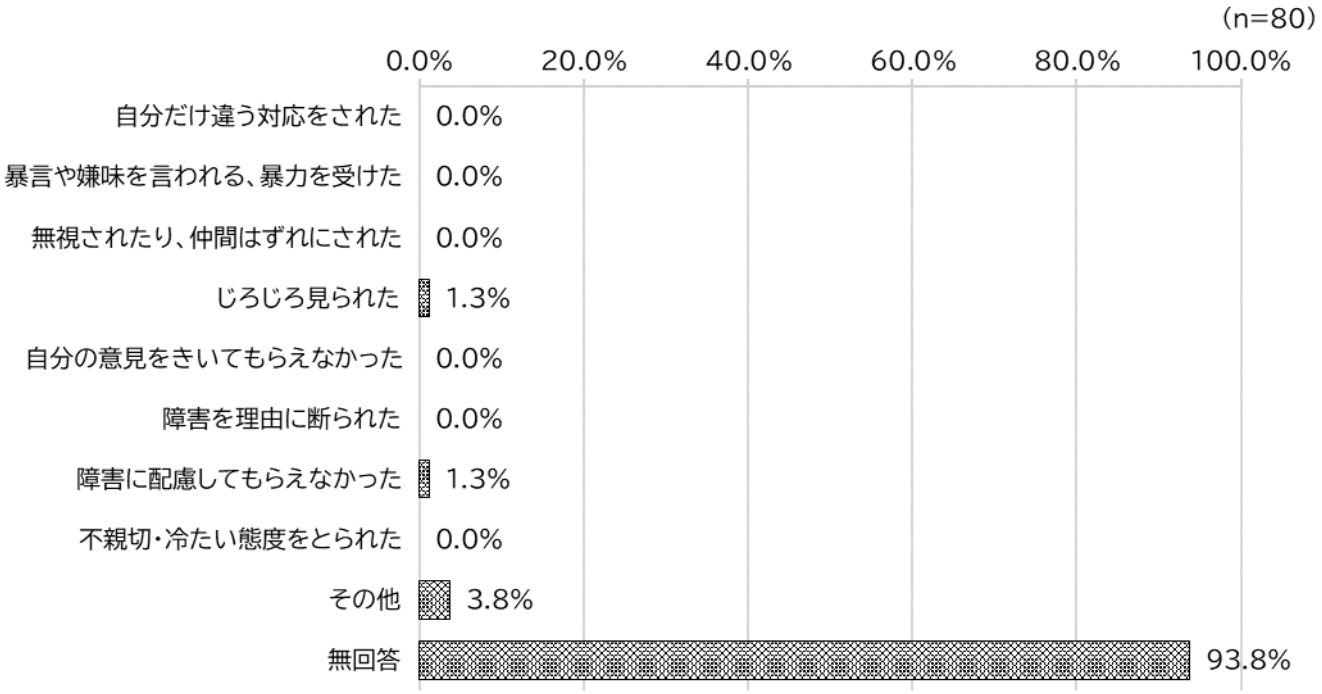
■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）⑦住んでいる地域】



■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）⑧福祉サービス（通所事業所・グループホーム・施設）など)】



■【嫌な思いをしたり、困ったりする場所・内容（複数回答）⑨住まいを探すとき】

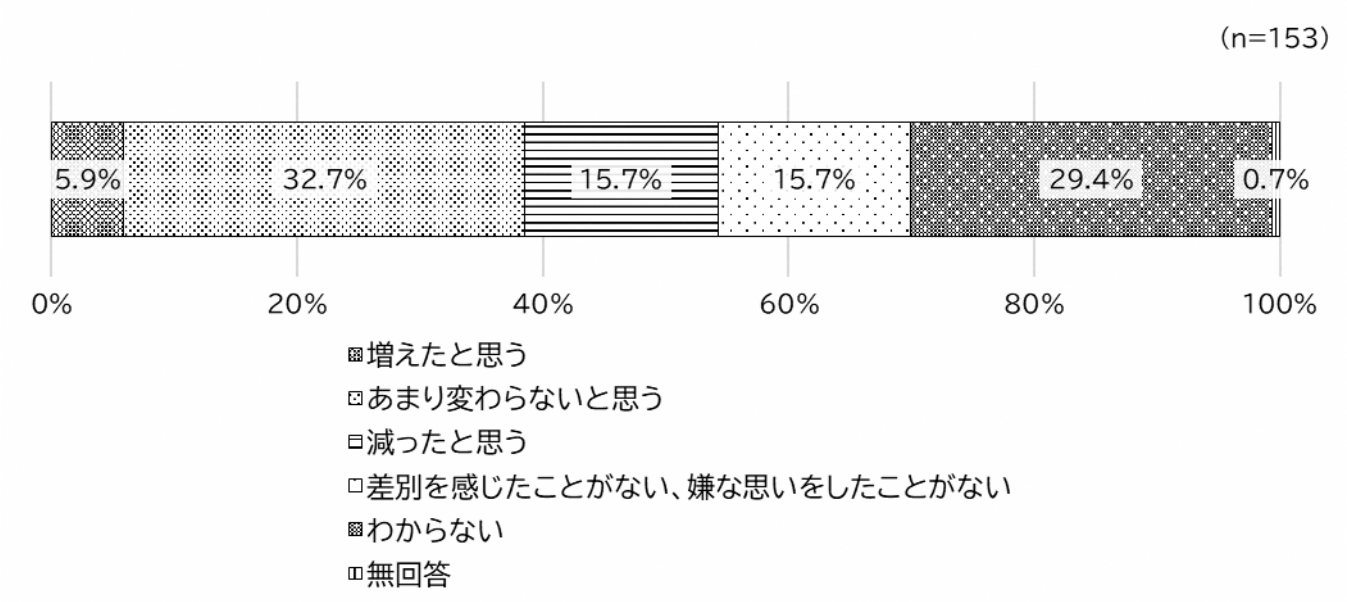


（３）　障害があることで差別や嫌な思いをすること

問３８　あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをすることは、この３年間で変わったように思いますか。（○は１つだけ）

障害があることで差別や嫌な思いをすることについては、この３年間で「あまり変わらないと思う」が 32.7%で最も多く、次いで、「わからない」が 29.4%となっています。

■【障害があることで差別や嫌な思いをすること】



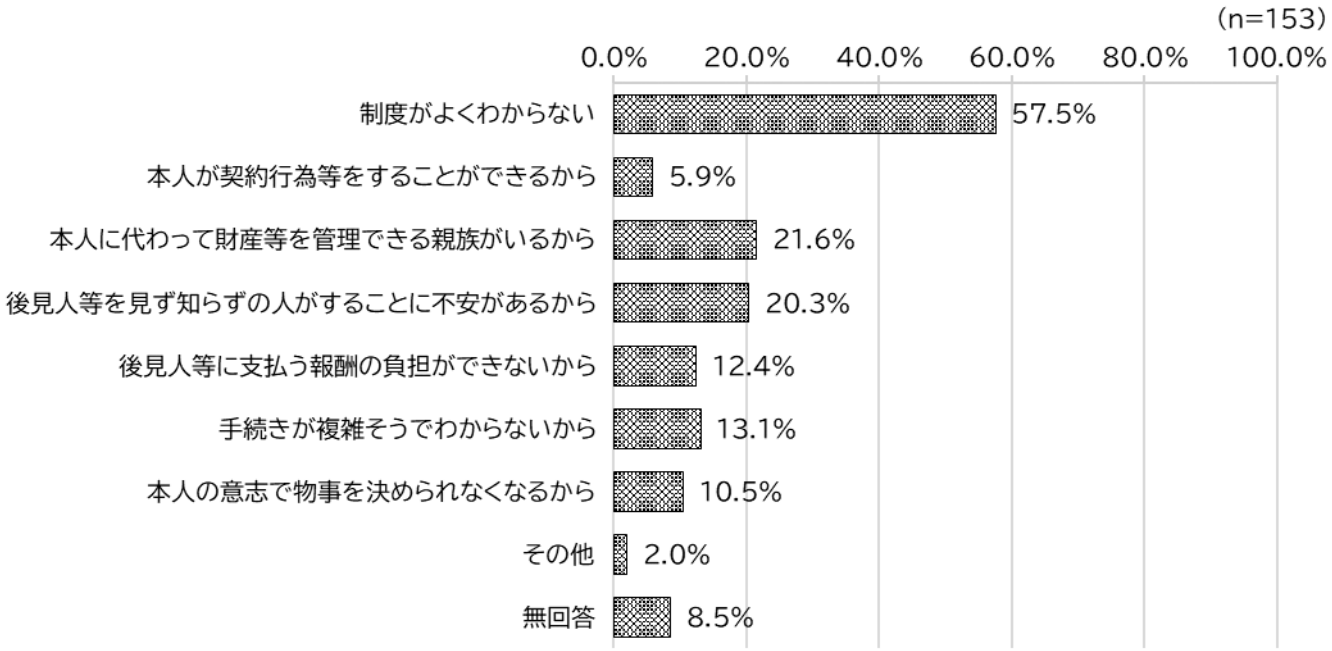
（４）　成年後見制度を利用の際の不安、または利用を考えていない理由

問３９　成年後見制度を利用している場合や利用を考えておられる場合、不安に考えておられること、また、利用を考えておられない理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

成年後見制度の利用にあたって不安なこと・利用を考えない理由については、「制度がよくわからない」が 57.5%と最も多く、次いで、「本人に代わって財産等を管理できる親族がいるから」が 21.6%、「後見人等を見ず知らずの人がすることに不安があるから」が 20.3%などとなっています。

「制度がよくわからない」の 57.5%は前回調査の 47.5%から増加しており、制度のさらなる周知が必要であると考えられます。

■【成年後見制度を利用の際の不安、または利用を考えていない理由（複数回答）】



8　災害時の避難等

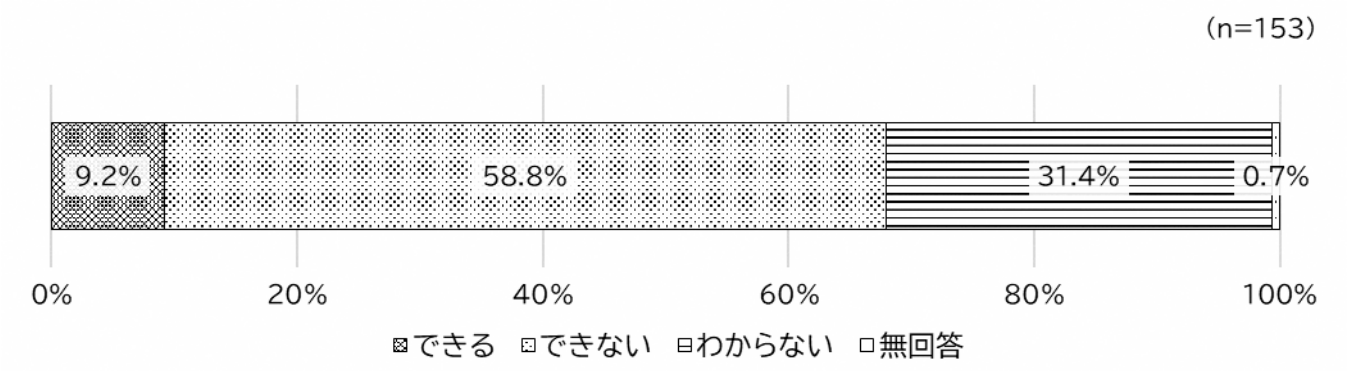
（１）　災害時に一人で避難できるか

問４０　あなたは、地震等の災害時に一人で避難できますか。（○は１つだけ）

地震等の災害時に一人で避難できるかについては、「できる」が 9.2%、「できない」が 58.8%、「わからない」が 31.4%となっています。

「できる」の 9.2%は、前回調査の 12.1%から少なくなっています。

■【災害時に一人で避難できるか】

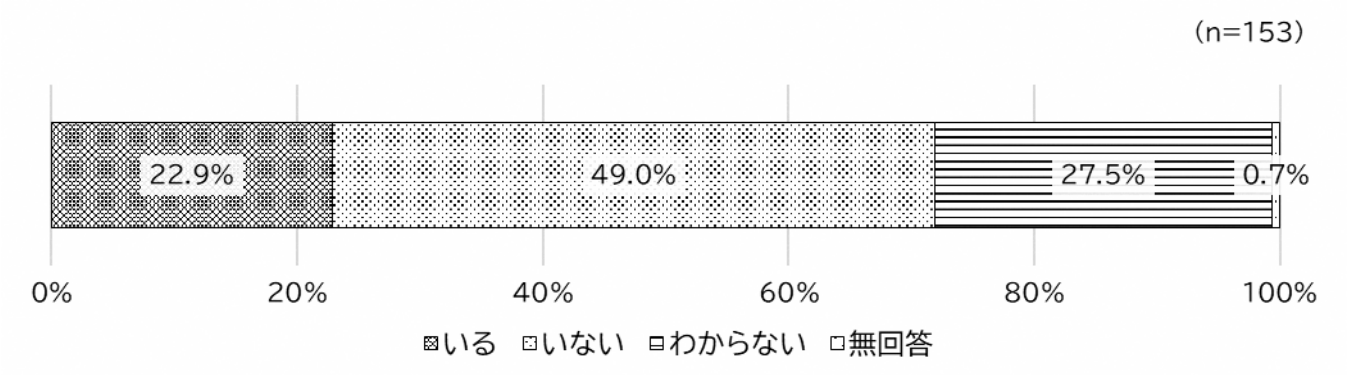


（２）　災害時に助けてくれる人はいるか

問４１　家族が不在の場合、災害時に避難する時、あなたを助けてくれる人はいますか。
（○は１つだけ）

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に避難する時、助けてくれる人がいるかについては、「いる」が 22.9%、「いない」が 49.0%、「わからない」が 27.5%となっています。

■【災害時に助けてくれる人はいるか】

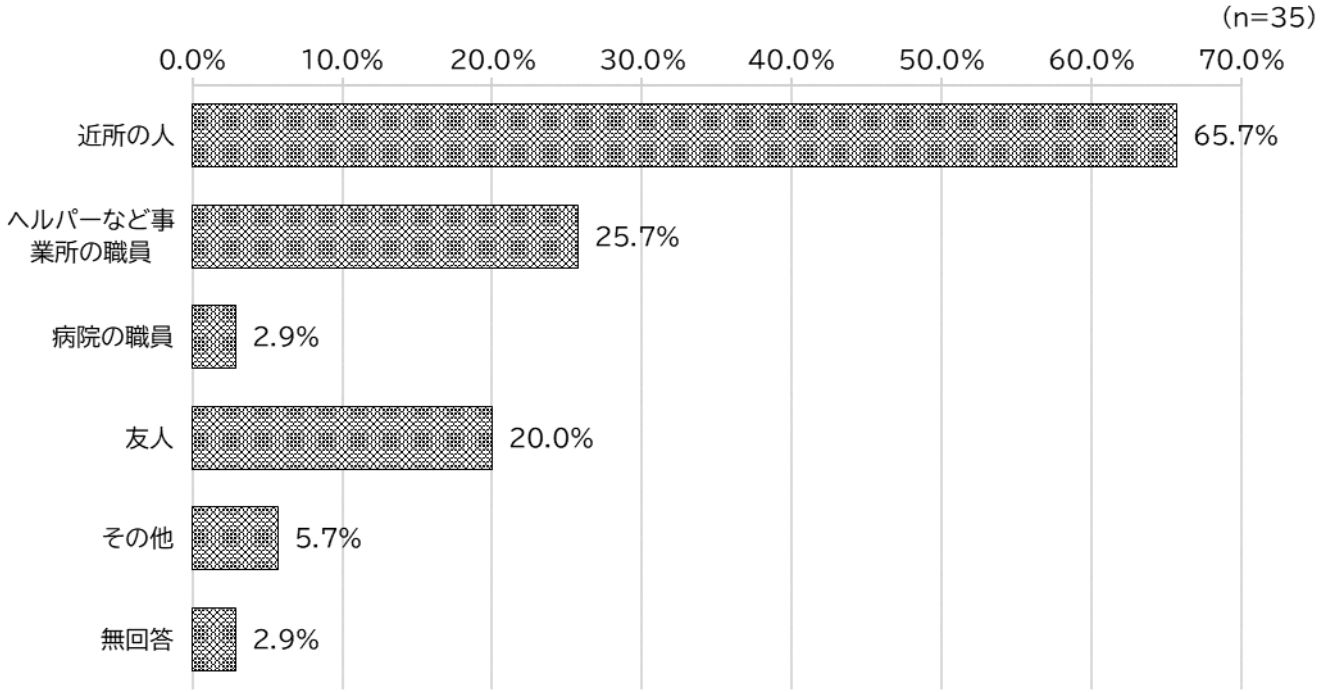


（３）　災害時に助けてくれる人

問４１―１　助けてくれる人は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

助けてくれる人がいる方の、助けてくれる相手については、「近所の人」が 65.7%と最も多く、次いで、「ヘルパーなど事業所の職員」が 25.7%「友人」が 20.0%、となっています。

■【災害時に助けてくれる人（複数回答）】



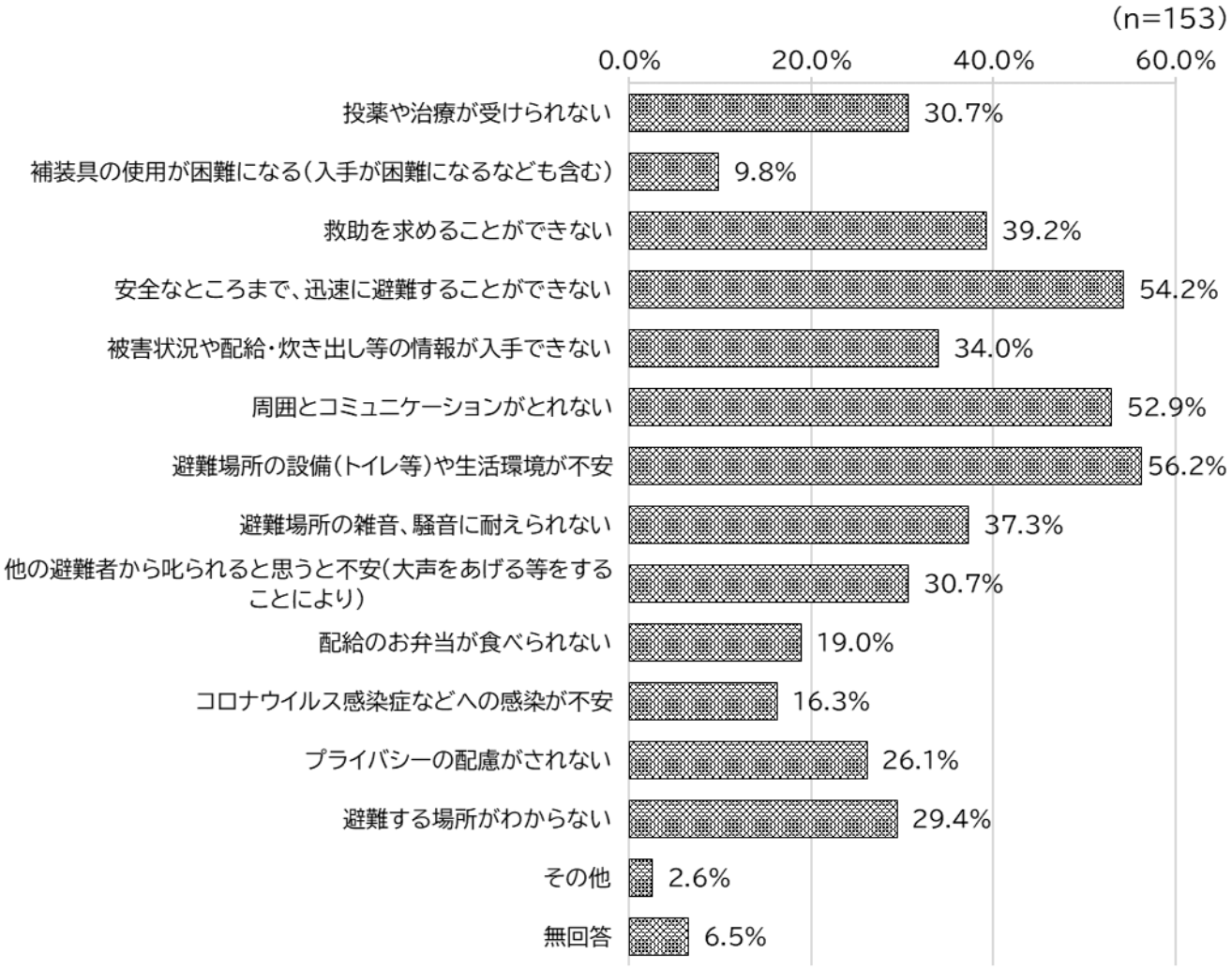
（４）　災害時の避難や避難生活で困ることや不安

問４２　地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことについては、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が 56.2%と最も多く、次いで、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が 54.2%、「周囲とコミュニケーションがとれない」が 52.9%となっています。

なお、18 歳以上へのアンケートにおいても、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が 53.3%と最も多くなっています。

■【災害時の避難や避難生活で困ることや不安（複数回答）】

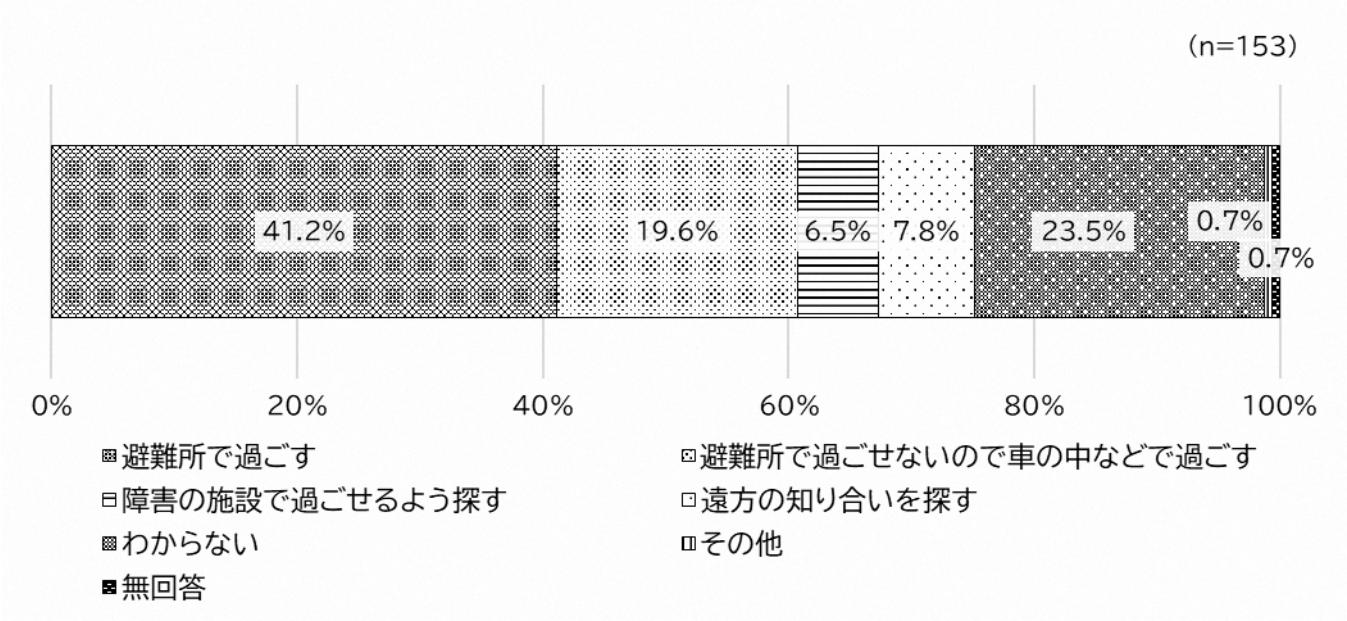


（５）　災害時に自宅で過ごせなくなった場合の対処

問４３　災害時に自宅で過ごせなくなった場合、あなたはどのようにされますか。（○は１つだけ）

災害時に自宅で過ごせなくなった場合、どのようにするかについては、「避難所で過ごす」が 41.2%と最も多く、「避難所で過ごせないので、車の中や公園などで過ごす」が 19.6%、「遠方の知り合いを探す」が 7.8%、「障害の施設で過ごせるよう探す」が 6.5%となっています。一方で、「わからない」という回答も 23.5%と多くみられます。

■【災害時に自宅で過ごせなくなった場合の対処】

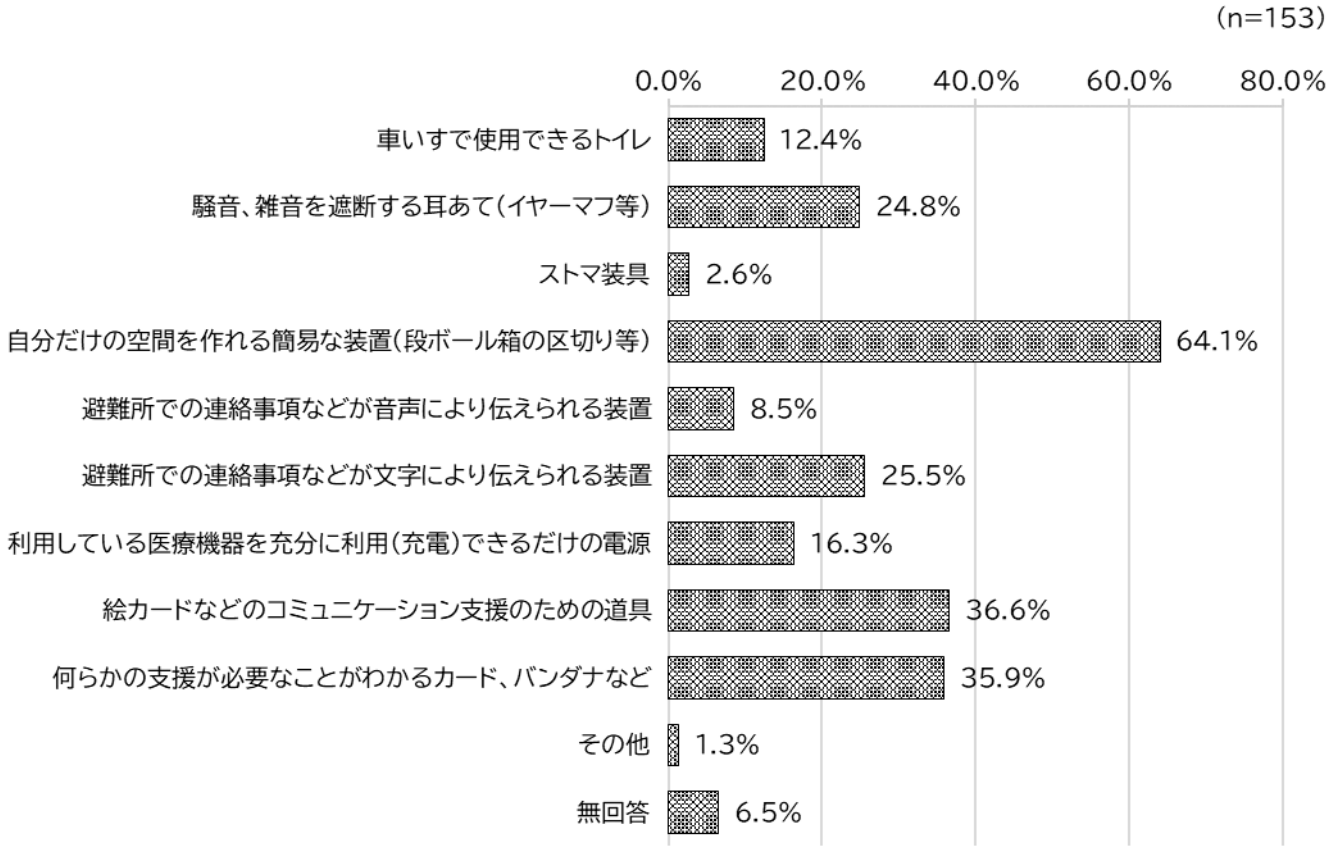


（６）　避難場所にあれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物

問４４　避難場所にあれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物はありますか。（食料など、長く保存できないものは除いて、お答えください。）（あてはまるものすべてに○）

避難場所にあれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物については、「自分だけの空間を作れる簡易な装置（段ボール箱の区切り等）」が 64.1%と最も多く、次いで、「絵カードなどのコミュニケーション支援のための道具」が 36.6%、「何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンダナなど」が 35.9%などとなっています。

■【避難場所にあれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物（複数回答）】

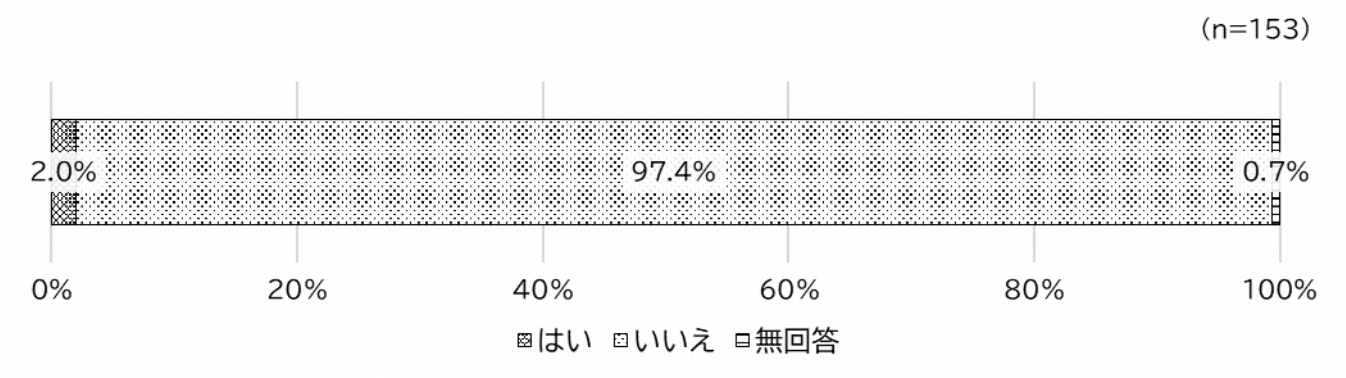


９　手話によるコミュニケーション

問４５　あなたは手話によるコミュニケーションを必要とする方ですか。（あてはまるものに○）

手話によるコミュニケーションを必要とするかについては、「はい」が 2.0%、「いいえ」が 97.4%となっています。

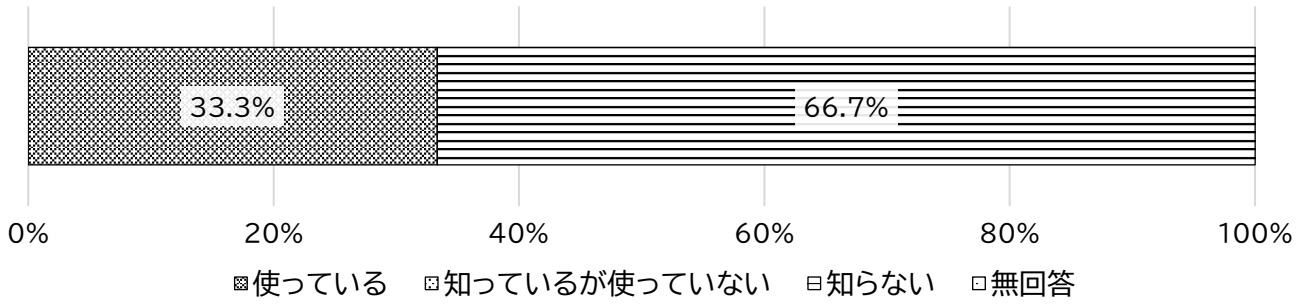
■【手話によるコミュニケーションを必要とする方】



問４５－１　あなたは手話通訳派遣事業をご存じですか。（あてはまるもの１つに○）

手話通訳派遣事業については、「使っている」が 33.3%、「知らない」が 66.7%」となっています。

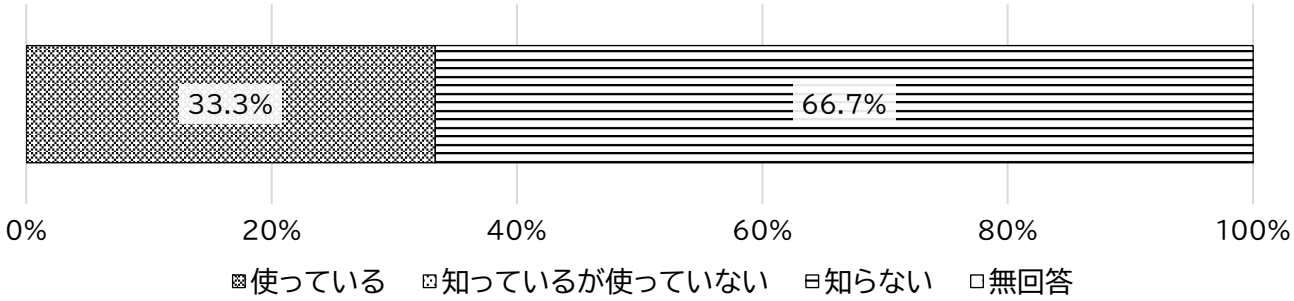
■【手話通訳派遣事業をご存知の方】



問４５－２　あなたは遠隔手話通訳事業をご存じですか。（あてはまるもの１つに○）

遠隔手話通訳事業については、「知っている」が 33.3%、「知らない」が 66.7%となっています。

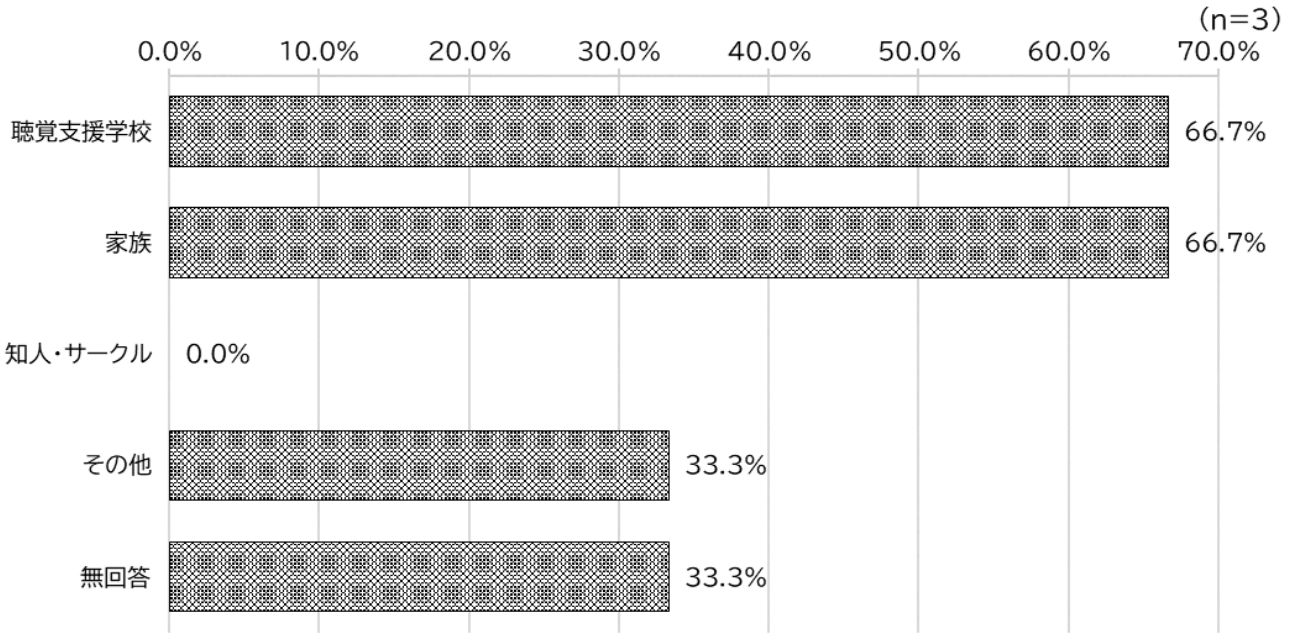
■【遠隔手話通訳事業をご存知の方】



問４５－３　あなたはどのようにして手話を身につけましたか。（あてはまるものすべてに○）

どのように手話を身につけたかについては、「聴覚支援学校」と「家族」がともに 66.7%と最多となっています。

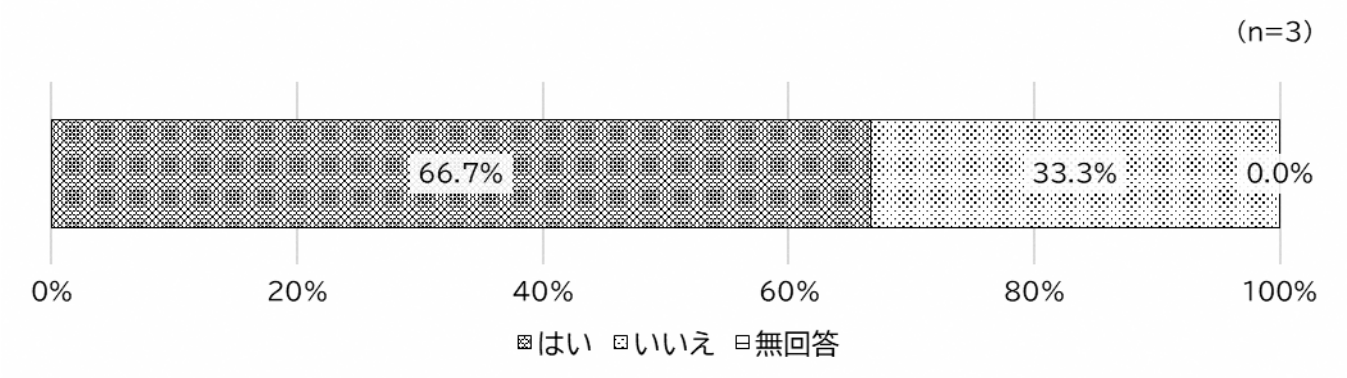
■【どのようにして手話を身につけたか】



問４５－４　あなたは手話やろう者がほかの人から理解されていると思いますか。（あてはまるものに○）

あなたの手話やろう者がほかの人から理解されていると思うかについては、「はい」が 66.7%、「いいえ」が 33.3%となっています。

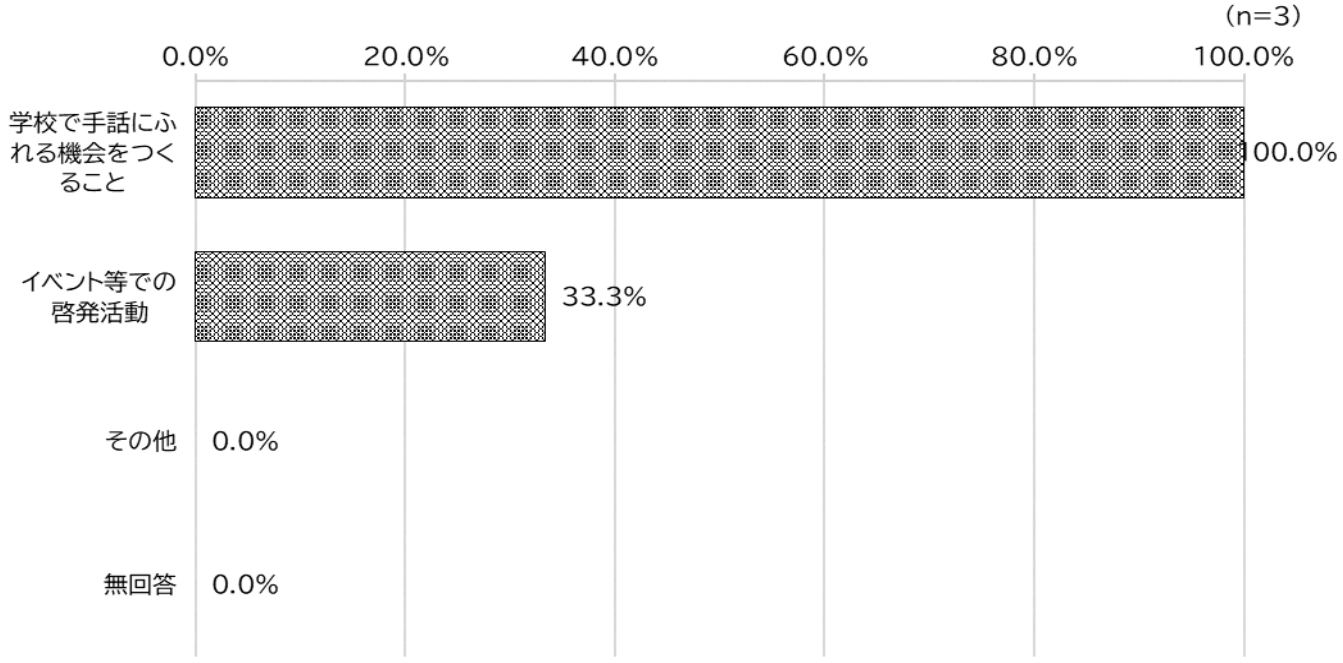
■【手話やろう者がほかの人から理解されていると思うか】



問４５－５　あなたはどうすれば手話やろう者がほかの人から理解されると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

どうすれば手話やろう者がほかの人から理解されると思うかについては、「学校内で手話にふれる機会をつくること」が 100%、「イベント等での啓発活動」が 33.3%となっています。

■【どうすれば手話やろう者がほかの人から理解されると思うか】



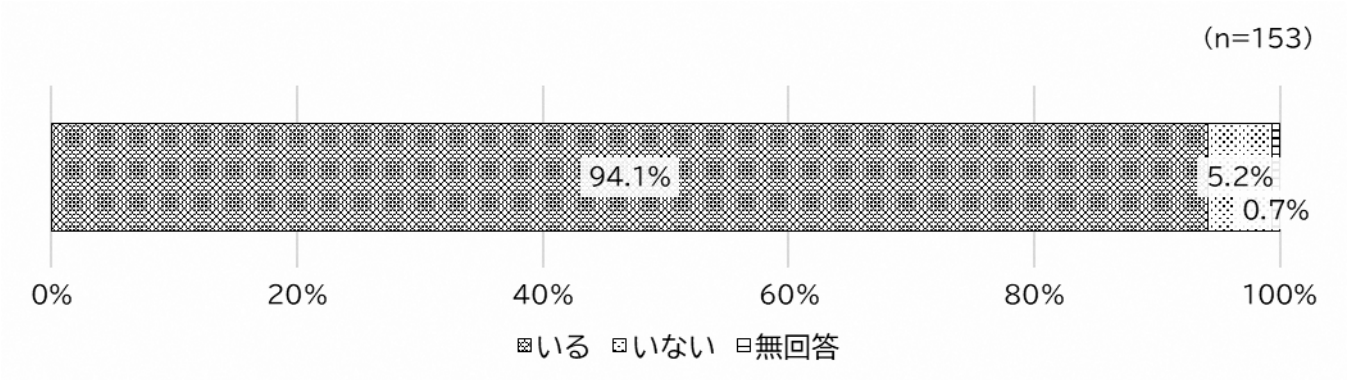
１０　保護者への設問

（１）　保護者の相談相手

問４６　お子さんの心身（しんしん）の発達への課題（かだい）について相談できる方はいますか。（○は１つだけ）

保護者の相談相手については、「いる」が 94.1%となっています。

■【保護者の相談相手】

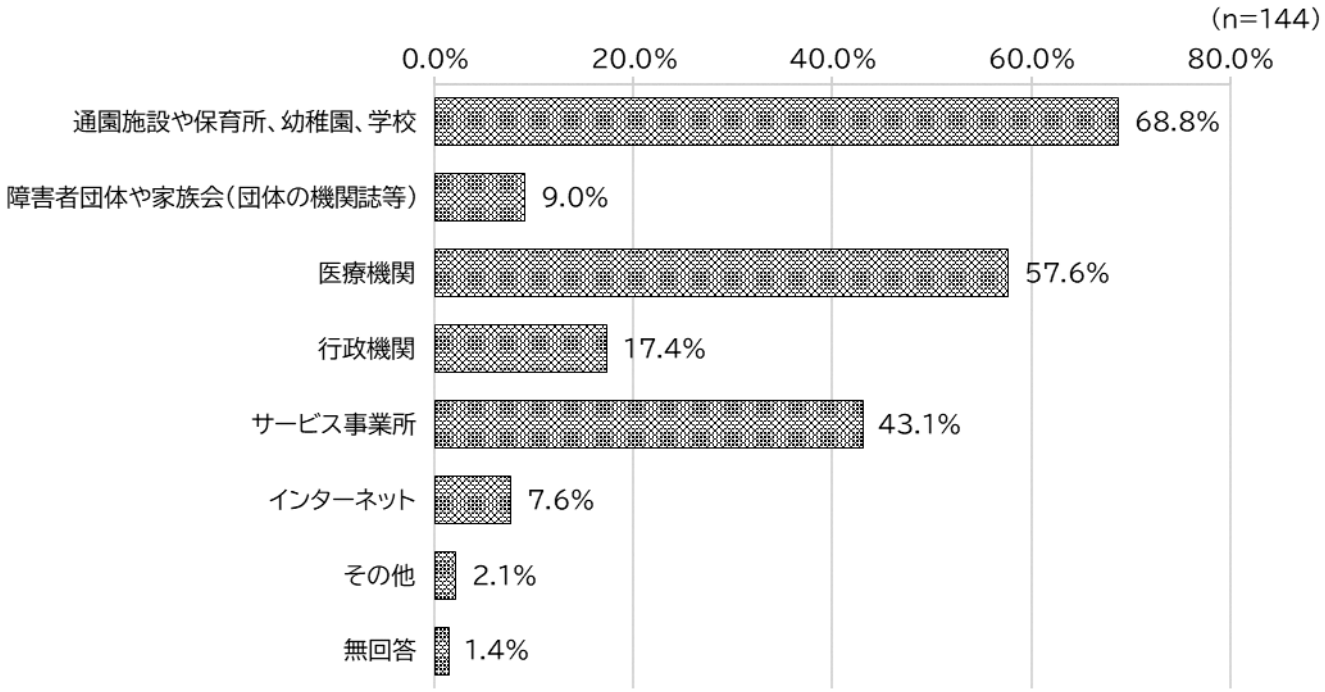


（２）　保護者の相談相手と知り合った場所

問４６―１　その相談相手とはどこで知り合いましたか。（あてはまるものすべてに○）

相談相手がいる保護者の、知り合った場所については、「通園施設や保育所、幼稚園、学校」が 68.8%と最も多く、次いで「医療機関」が 57.6%となっています。

■【保護者の相談相手と知り合った場所（複数回答）】

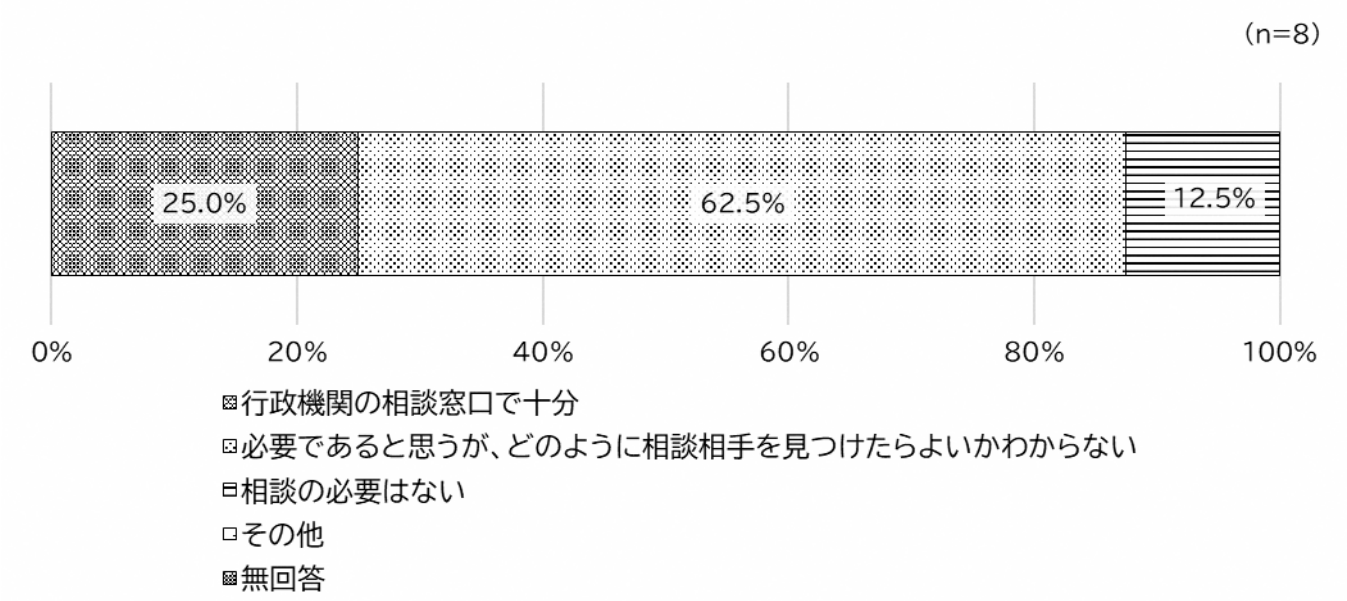


（３）　相談相手がいない方の相談についての考え

問４６－２　相談についてどのようにお考えですか。（○はひとつだけ）

相談相手がいない保護者の、相談についての考えは、「必要であると思うが、どのように相談相手を見つけたらよいかわからない」が 62.5%で最も多く、次いで、「行政機関の相談窓口で十分」が 25.0%、「相談の必要はない」が 12.5%となっています。

■【相談相手がいない方の相談についての考え】

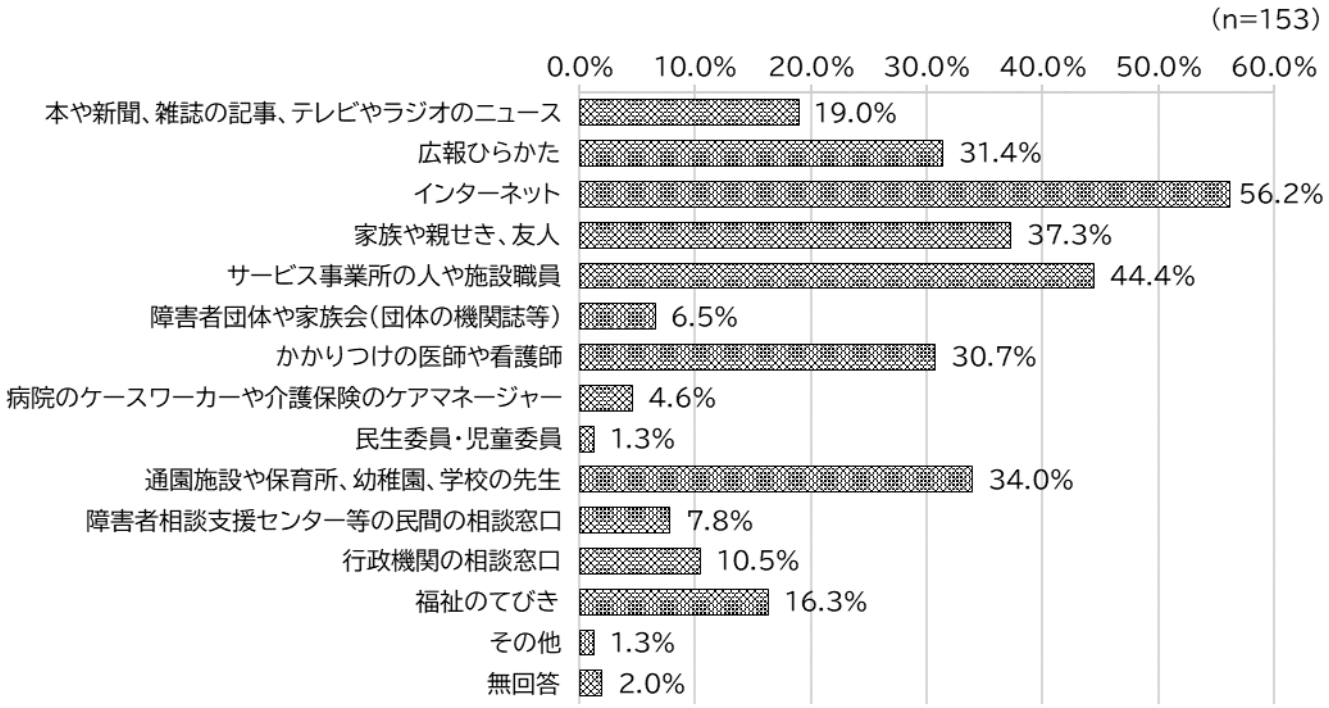


（４）　保護者の情報入手先

問４７　障害のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。
（あてはまるものすべてに○）

保護者の情報入手先については、「インターネット」が 56.2%と最も多く、次いで、「サービス事業所の人や施設職員」が 44.4%、「家族や親せき、友人」が 37.3%などとなっています。

■【保護者の情報入手先（複数回答）】



第４章　「サービス提供事業所」調査結果

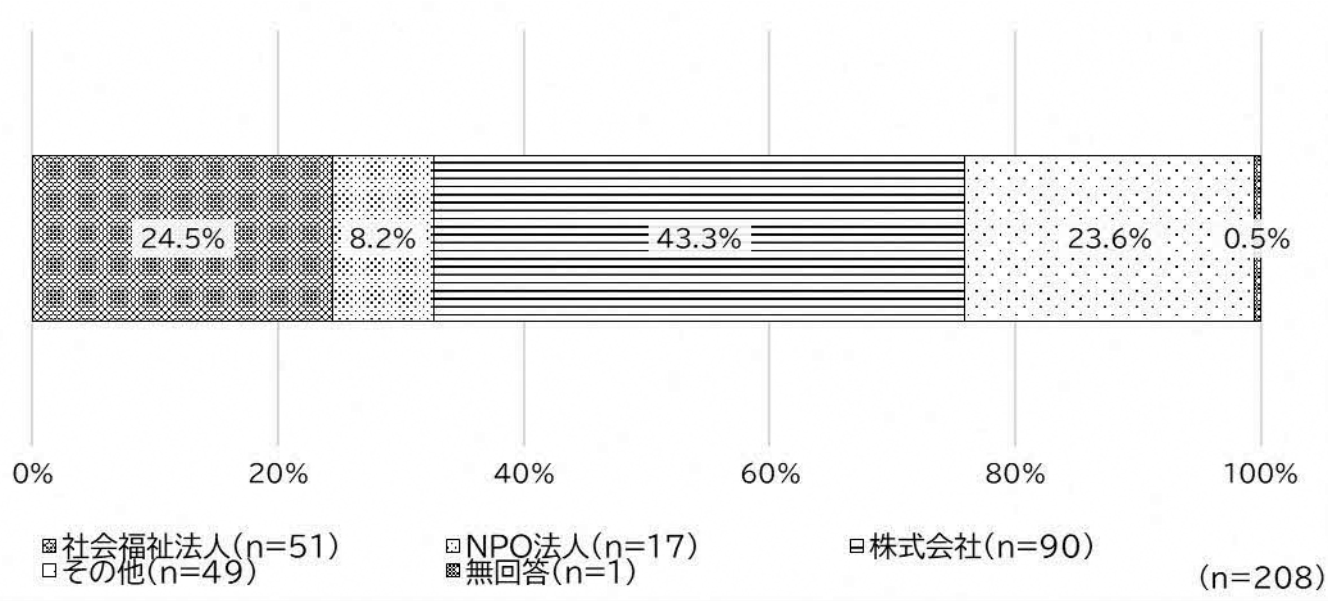
１　提供しているサービスについて

（１）　事業所概要

問１①　法人種別

法人種別については、「株式会社」が 43.3%と最も多く、次いで、「社会福祉法人」が 24.5%、「その他」が 23.6%となっています。

■【法人種別】

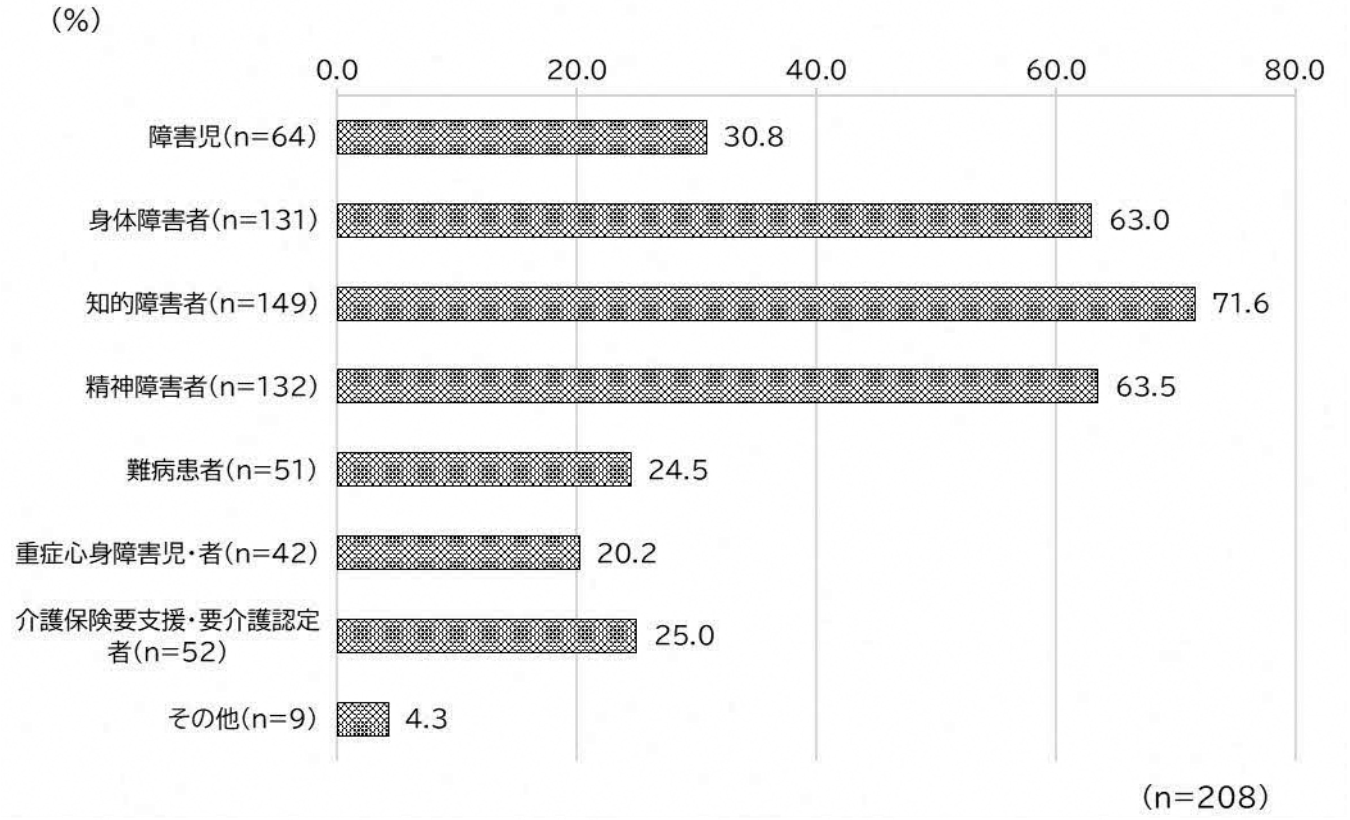


（２）　サービスの対象者

問２　現在、貴事業所が提供するサービスを利用されている方について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

サービス対象者については、「知的障害者」が 71.6%と最も多く、次いで、「精神障害者」が 63.5%、「身体障害者」が 63.0%となっています。

■【サービスの対象者（複数回答）】



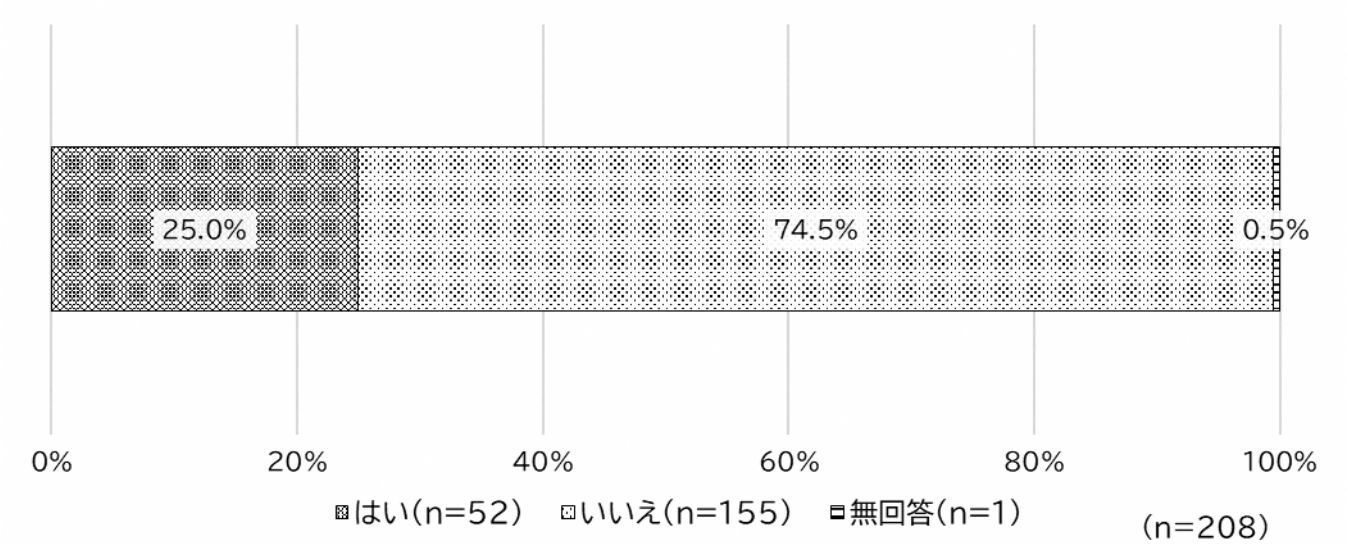
（３）　医療的ケアの対応

問３　現在、貴事業所では医療的ケアが必要な方の受け入れは可能ですか。

医療的ケアが必要な方の受け入れが可能かについては、「いいえ」が 74.5%と最も多く、次いで、「はい」が 25.0%となっています。

「はい」の 25.0%は、前回調査の 12.7%より多くなっており、医療的ケアが必要な方の受入体制の整備が進んでいることが考えられます。

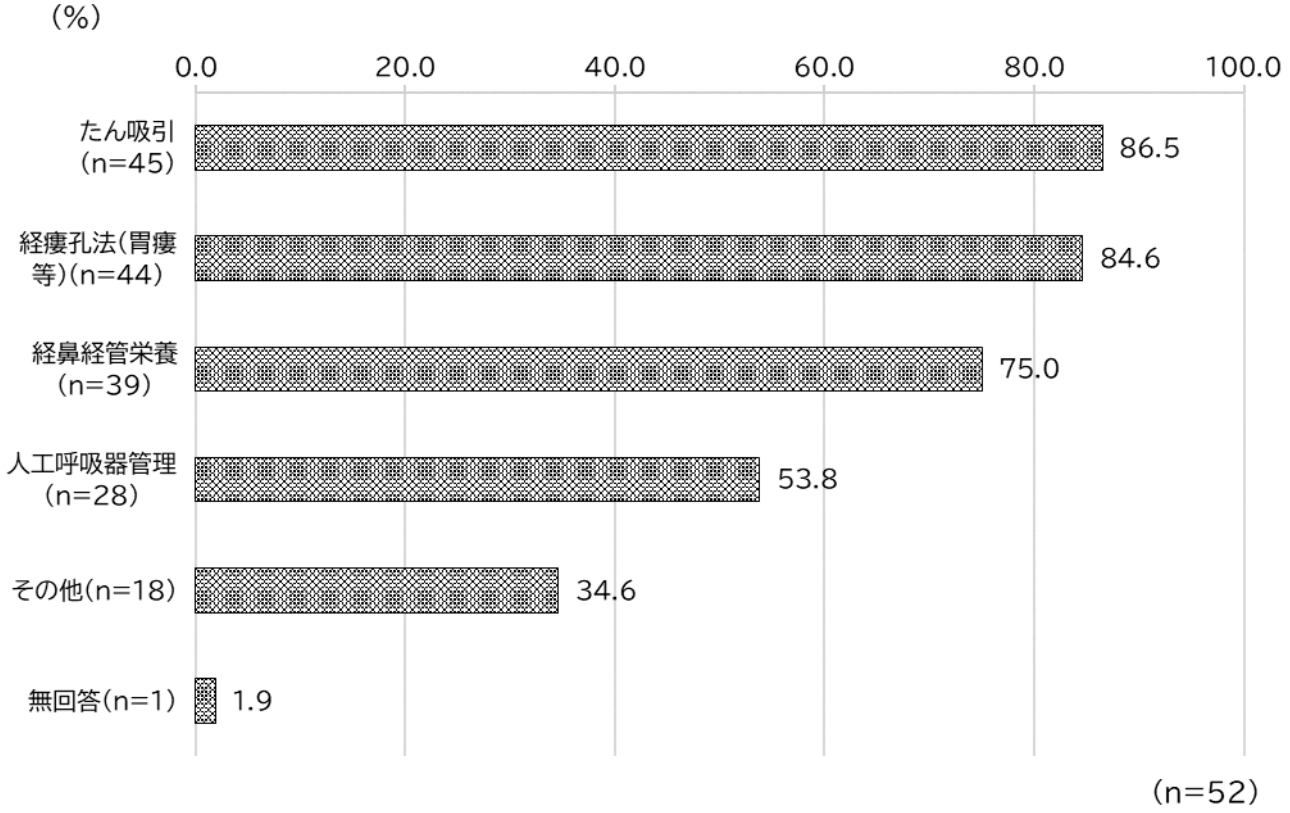
■【医療的ケアの必要な方の受け入れ可否】



問４　【医療的ケアが必要な方の受け入れが可能な事業所】対応出来る医療的ケアは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

対応できる医療的ケアについては、「たん吸引」が 86.5%と最も多く、次いで、「経瘻孔法(胃瘻等)」が 84.6%、「経鼻経管栄養」が 75.0%となっています。

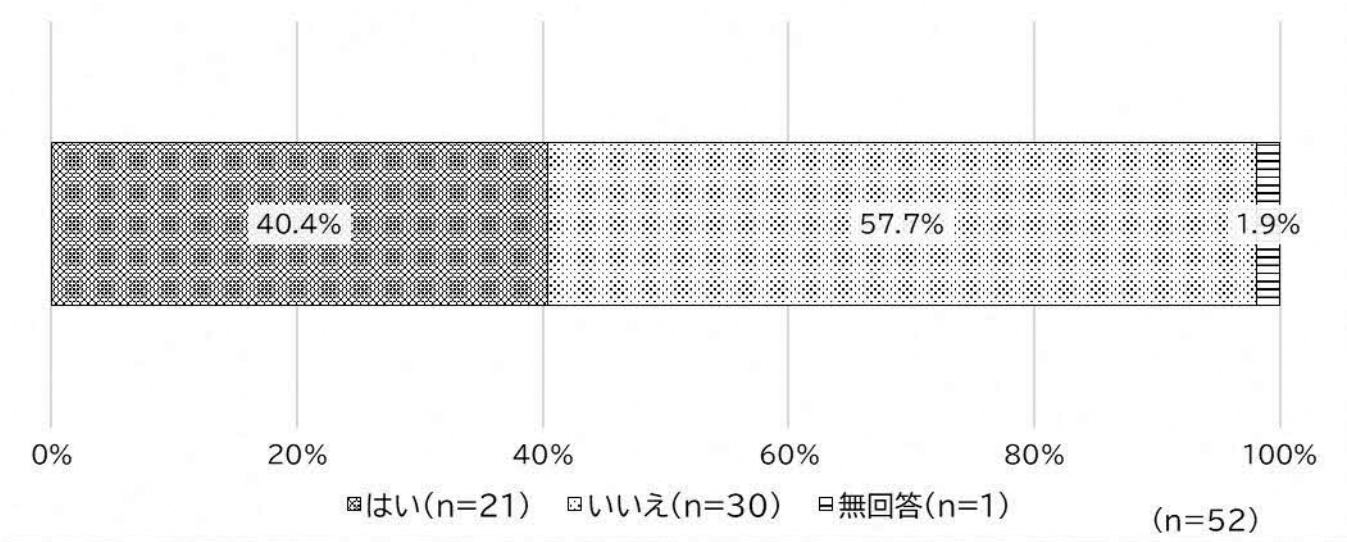
■【対応できる医療的ケア（複数回答)】



問５　【医療的ケアが必要な方の受け入れが可能な事業所】提供が困難なため、医療的ケアが必要な方に対し、貴事業所のサービス利用をお断りしたことはありますか。

医療的ケアが必要な方へのサービス利用のお断りの有無については、「いいえ」が57.7%と最も多く、次いで、「はい」が40.4%となっています。

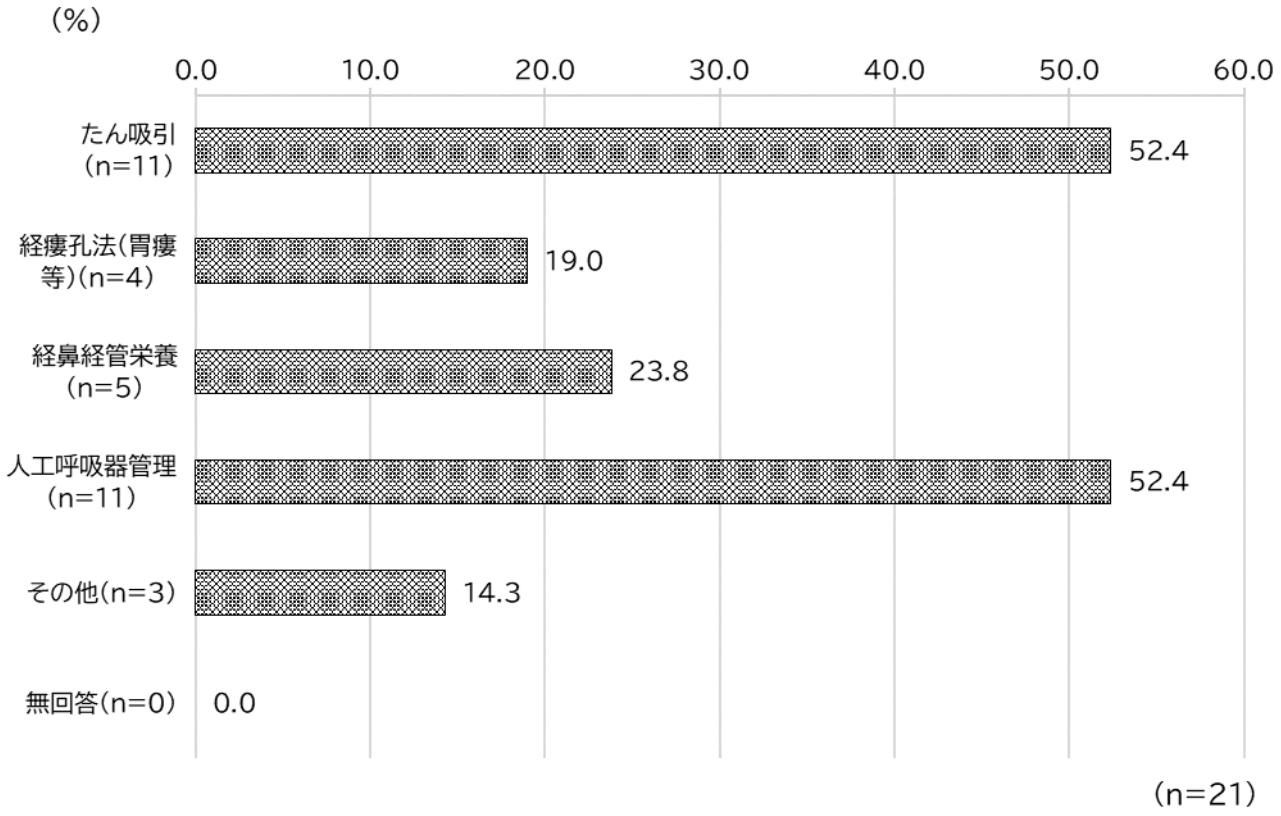
■【医療的ケアが必要な方のサービス利用のお断りの有無】



問６　【医療的ケアが必要な方の受け入れが可能であるが、サービス利用をお断りしたことがある事業所】貴事業所のサービス利用者に対して、対応ができなかった医療的ケアは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

対応ができなかった医療的ケアについては、「たん吸引」、「人工呼吸器管理」がともに52.4%と最も多く、次いで、「経鼻経管栄養」が23.8%となっています。

■【対応できなかった医療的ケア（複数回答）】

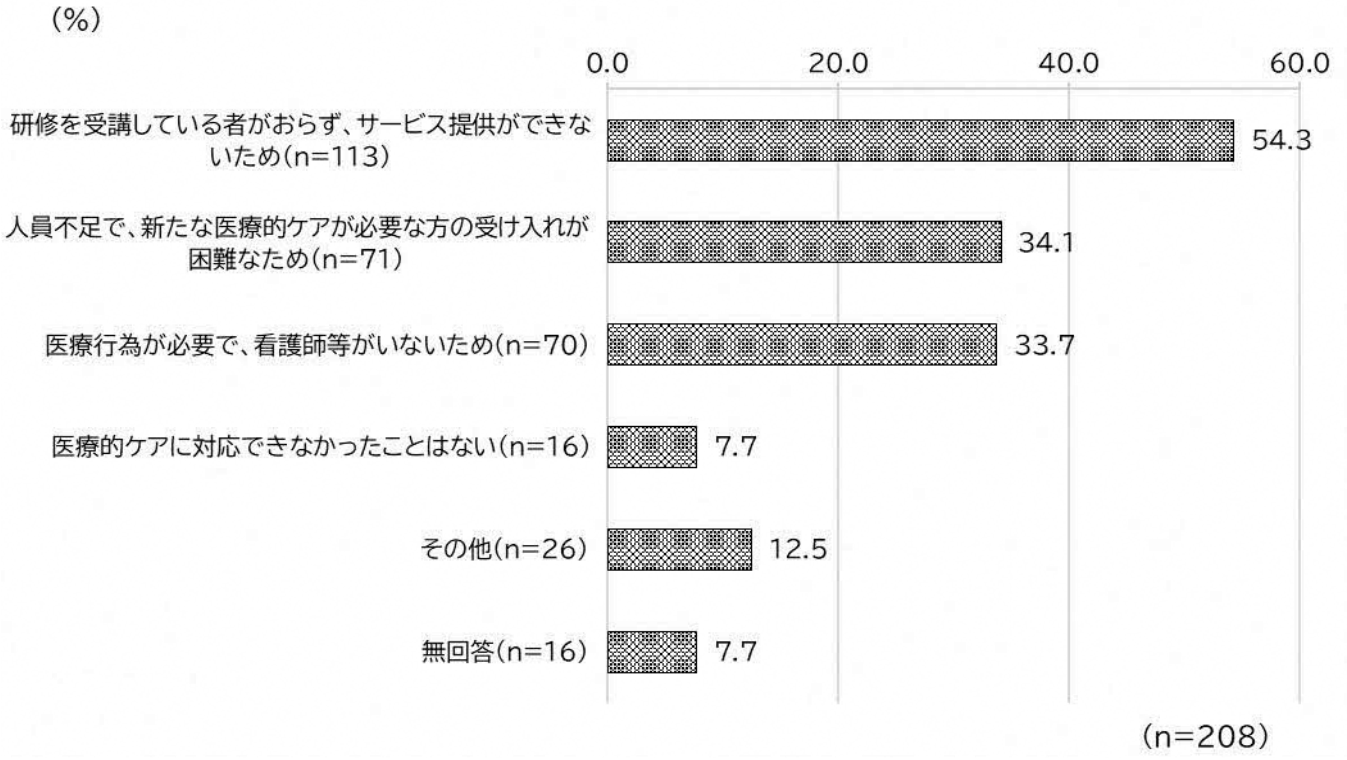


問７　医療的ケアに対応できない（できなかった）理由はなんですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

医療的ケアの対応できない（できなかった）理由については、「研修を受講している者がおらず、サービス提供ができないため」が 54.3%と最も多く、次いで、「人員不足で、新たな医療的ケアが必要な方の受け入れが困難なため」が 34.1%、「医療行為が必要で、看護師等がいないため」が 33.7%となっています。

なお、「研修を受講している者がおらず、サービス提供ができないため」は、前回調査においても 57.2%と最も多い理由となっていました。

■【医療的ケアの対応できない理由（複数回答）】



（４）　提供しているサービス

問８　次に掲げる各サービスについて、現在、貴事業所が提供している（事業者指定を受けている等）場合は、
①欄に○印をつけ、
②定員、
③令和７年６月の実利用人数、
④うち枚方市（が援護の実施者である利用者）の実人数、
⑤ 令和７年６月の延べ利用量、
⑥うち枚方市（同）の延べ利用量を各欄に記入してください。

■【サービス種別の事業所数、定員、実利用人数、延べ利用量（複数回答）】

No	サービス種別	①事業所数	②定員合計	③実利用人数(全体)		⑤延べ利用量(全体)	
					④うち市内		⑥うち市内
1	居宅介護（ホームヘルプ）	62		623	536	12163.75	10334
2	重度訪問介護	34		37	28	6358	5835.5
3	行動援護	4		22	17	471	304.5
4	重度障害者等包括支援	4		4	3	203	135.5
5	同行援護	22		48	42	1244.65	1070.95
6	短期入所	31	274	382	251	1457	771
7	生活介護	42	941	2417	1107	14323	10825
8	療養介護	6	1600	1600	184	48000	5520
9	施設入所支援	6	218	1933	71	3123	1170
10	自立訓練（生活訓練）	4	26	26	19	375	301
11	自立訓練（機能訓練）	3	5	0	0	0	0
12	就労移行支援	8	59	57	39	828	610
13	就労継続支援 (A型)	9	125	139	70	1904	1125
14	就労継続支援 (B型)	35	610	871	710	8539	7409
15	就労定着支援	10	100	39	32	40	33
16	就労選択支援	2	0	0	0	0	0
17	共同生活援助	18	249	213	160	11299	7850
18	自立生活援助	2	0	0	0	0	0
19	移動支援	29		463	381	8174.4	7241.9
20	地域活動支援センター	7		220	217	657	652
21	日中一時支援	7	20	55	50	586	537
22	地域相談支援	6		57	51	191	172
23	計画相談支援	14		79	61	94	64
24	児童発達支援	23	291	258	235	498	385
25	居宅訪問型児童発達支援	3	5	1	1	0	0
26	放課後等デイサービス	32	267	1387	1269	4497	3883
27	保育所等訪問支援	7		23	7	46	13
28	障害児相談支援	10		379	365	25	11
29	福祉型障害児入所施設	2	0	0	0	0	0
30	医療型障害児入所施設	5	800	794	92	23820	2760

※①事業所数に含まれるものの、②③④⑤⑥が無回答の場合は０として集計しています。

問９　**【利用者数が定員を満たしていない事業所】**現在の受け入れ状況はどのようになっていますか。（事業所種別ごとにつき、あてはまる番号１つに○）

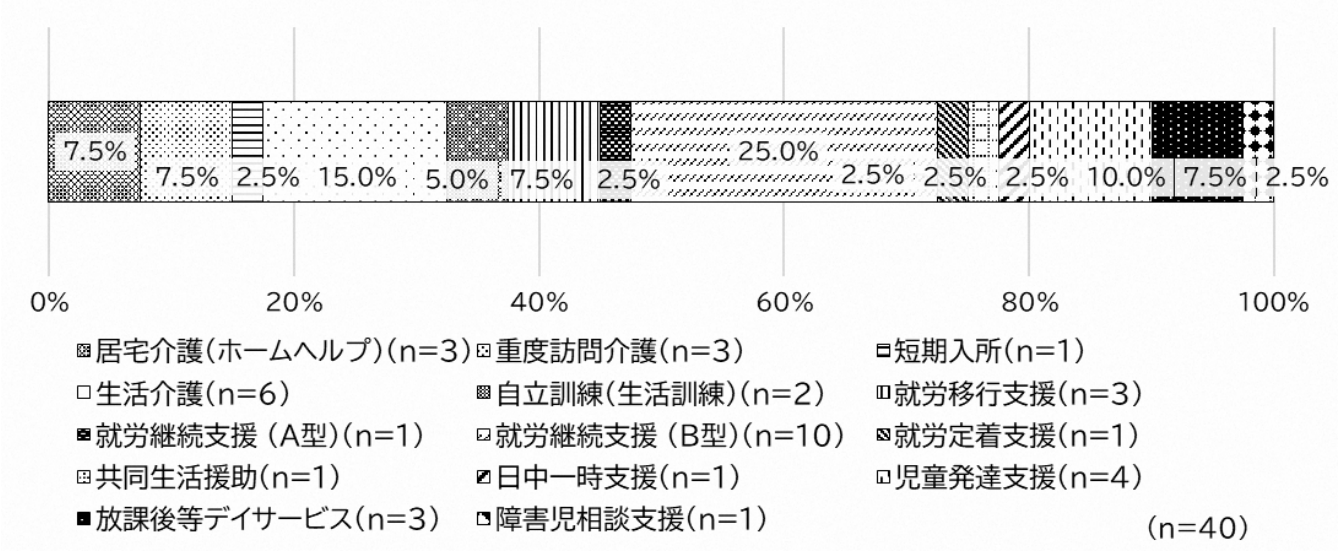
さらなる利用者の受け入れが可能であるサービス区分については、「就労継続支援（B型）」が 25.0%と最も多く、次いで、「生活介護」が 15.0%、「児童発達支援」が 10.0%となっています。

条件により受け入れ可能なサービス区分については、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 17.4%と最も多く、次いで、「重度訪問介護」、「生活介護」がともに 13.0%となっています。主な条件としては、曜日や時間を調整すれば受け入れ可能という意見が多くあげられています。

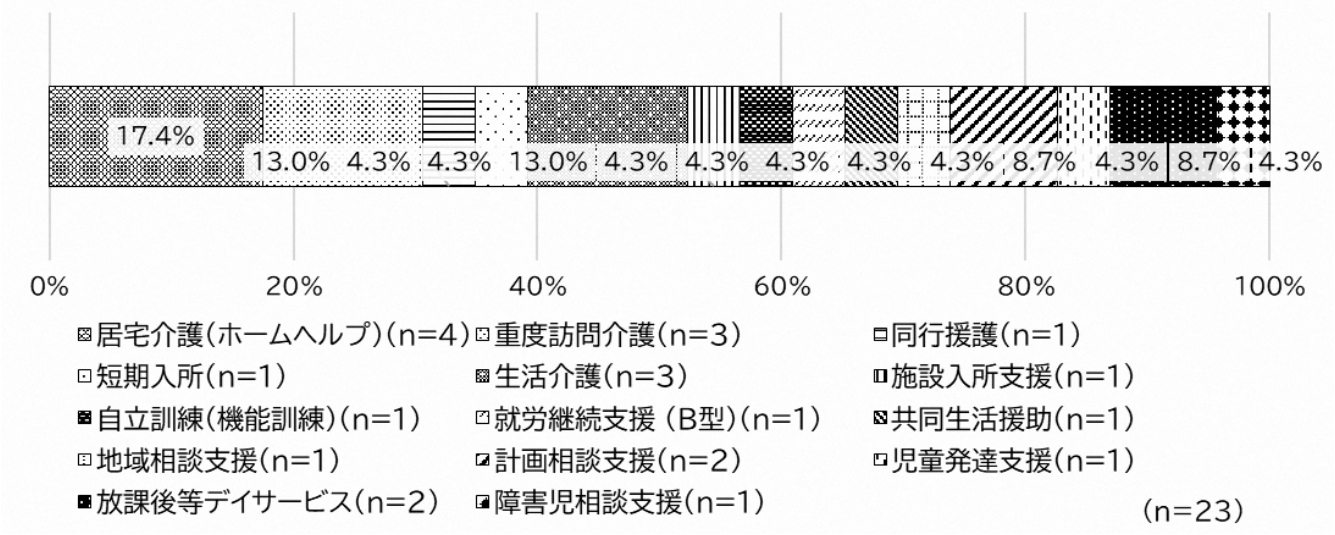
現状より多く受け入れるだけの余力がないサービス区分については、「居宅介護（ホームヘルプ）」、「移動支援」がともに 17.6%と最も多く、次いで、「短期入所」、「生活介護」、「児童発達支援」がともに 11.8%となっています。

利用相談が少ないサービス区分については、「居宅介護（ホームヘルプ）」、「生活介護」がともに 28.6%と最も多く、次いで、「重度訪問介護」が 14.3%となっています。

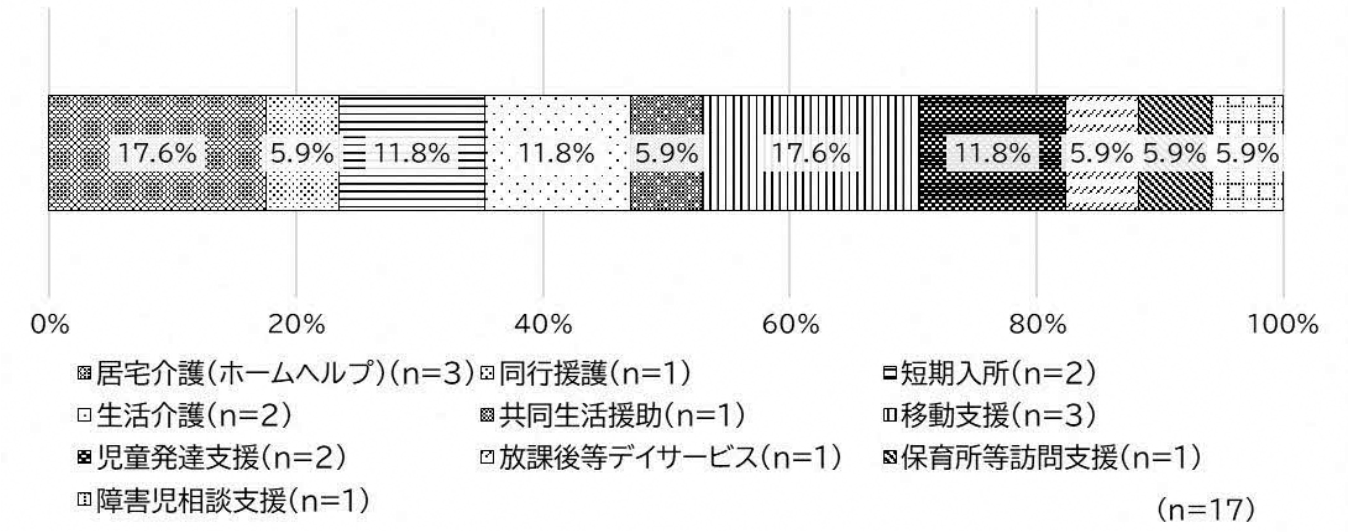
■【さらなる利用者の受け入れが可能】



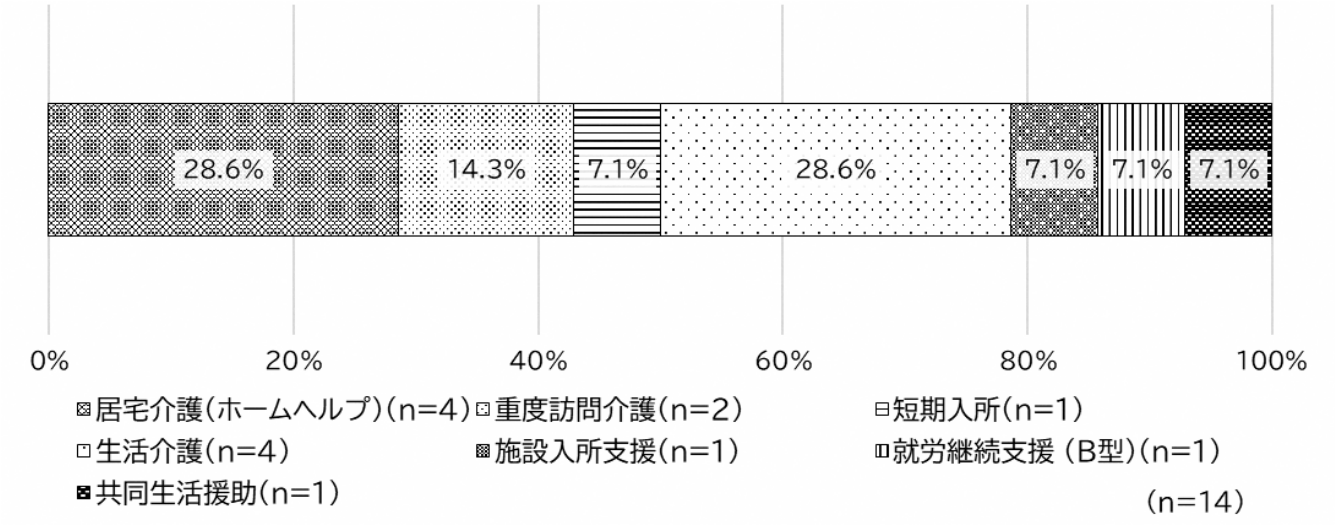
■【条件により受け入れ可能】



■【現状より多く受け入れるだけの余力がない】



■【利用相談が少ない】



（５）　提供しているサービスごとの利用状況と今後の対策

問 10　各サービスについて、①利用者数の増減（令和６年３月末から 1 年半の間の推移）、②貴事業所が考えている利用者ニーズに対する方策、③その方策の実施予定時期、④従業員または定員の増減予定人数について、各選択肢から一つだけ選んで記入してください。

提供しているサービスごとの利用者数の増減については、「増えている」が多いサービスは医療型障害児入所施設（60.0%）、行動援護・療養介護・就労定着支援・放課後等デイサービス（50.0%）などとなっています。

方策については、比較的回答数の多いサービスでは「変更なし」が最も多い傾向にあります（居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、生活介護、就労継続支援Ｂ型、移動支援、放課後等デイサービス）。一方、同行援護のように方策として「従業員増」が 40.9%と最も多くなっているサービスもあります。

■【①利用者数の増減】

上段：回答者数 下段：構成比	全体(n)	増えている	減っている	変わらない	わからない	無回答
居宅介護（ホームヘルプ）	62	19	9	30	0	3
	100%	30.6%	14.5%	48.4%	0.0%	4.8%
重度訪問介護	34	6	4	22	1	1
	100%	17.6%	11.8%	64.7%	2.9%	2.9%
行動援護	4	2	0	1	1	0
	100%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%
重度障害者等包括支援	4	0	0	2	2	0
	100%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
同行援護	22	4	3	13	1	1
	100%	18.2%	13.6%	59.1%	4.5%	4.5%
短期入所	31	3	1	13	2	12
	100%	9.7%	3.2%	41.9%	6.5%	38.7%
生活介護	42	8	12	18	2	2
	100%	19.0%	28.6%	42.9%	4.8%	4.8%
療養介護	6	3	0	0	2	1
	100%	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%
施設入所支援	6	0	4	0	2	0
	100%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%
自立訓練（生活訓練）	4	1	0	0	2	1
	100%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%
自立訓練（機能訓練）	3	0	1	1	1	0
	100%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
就労移行支援	8	0	5	1	2	0
	100%	0.0%	62.5%	12.5%	25.0%	0.0%
就労継続支援(A型)	9	2	2	3	2	0
	100%	22.2%	22.2%	33.3%	22.2%	0.0%
就労継続支援(B型)	35	14	7	12	2	0
	100%	40.0%	20.0%	34.3%	5.7%	0.0%
就労定着支援	10	5	1	0	2	2
	100%	50.0%	10.0%	0.0%	20.0%	20.0%
就労選択支援	2	0	0	0	2	0
	100%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
共同生活援助	18	7	5	3	3	0
	100%	38.9%	27.8%	16.7%	16.7%	0.0%
自立生活援助	2	0	0	0	2	0
	100%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
移動支援	29	9	5	12	0	3
	100%	31.0%	17.2%	41.4%	0.0%	10.3%
地域活動支援センター	7	2	0	3	2	0
	100%	28.6%	0.0%	42.9%	28.6%	0.0%
日中一時支援	7	1	0	3	2	1
	100%	14.3%	0.0%	42.9%	28.6%	14.3%
地域相談支援	6	2	0	2	2	0
	100%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
計画相談支援	14	4	1	7	2	0
	100%	28.6%	7.1%	50.0%	14.3%	0.0%
児童発達支援	23	11	4	5	2	1
	100%	47.8%	17.4%	21.7%	8.7%	4.3%
居宅訪問型児童発達支援	3	0	0	1	2	0
	100%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
放課後等デイサービス	32	16	3	10	2	1
	100%	50.0%	9.4%	31.3%	6.3%	3.1%
保育所等訪問支援	7	3	0	2	2	0
	100%	42.9%	0.0%	28.6%	28.6%	0.0%
障害児相談支援	10	3	0	5	2	0
	100%	30.0%	0.0%	50.0%	20.0%	0.0%
福祉型障害児入所施設	2	0	0	0	2	0
	100%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
医療型障害児入所施設	5	3	0	0	2	0
	100%	60.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%

■【②利用者ニーズに対する方策】

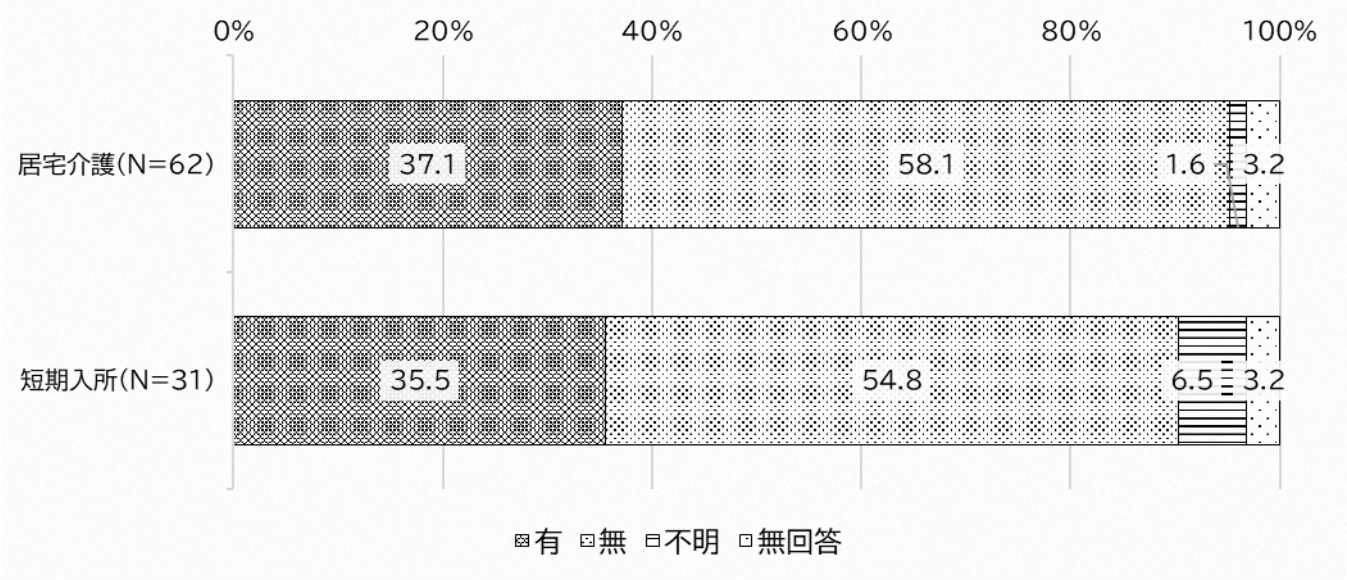
上段：回答者数 下段：構成比	全体(n)	従業員増	従業員減	新規開設	多機能化	廃止	変更なし	その他	無回答
居宅介護（ホームヘルプ）	62	26	1	1		0	30	0	4
	100%	41.9%	1.6%	1.6%		0.0%	48.4%	0.0%	6.5%
重度訪問介護	34	12	0	0		0	18	1	3
	100%	35.3%	0.0%	0.0%		0.0%	52.9%	2.9%	8.8%
行動援護	4	2	0	1		0	1	0	0
	100%	50.0%	0.0%	25.0%		0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
重度障害者等包括支援	4	0	0	0		0	2	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
同行援護	22	9	1	0		1	7	0	4
	100%	40.9%	4.5%	0.0%		4.5%	31.8%	0.0%	18.2%
短期入所	31	0	0	0		0	17	0	14
	100%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	54.8%	0.0%	45.2%
生活介護	42	5	0	1	2	0	25	4	5
	100%	11.9%	0.0%	2.4%	4.8%	0.0%	59.5%	9.5%	11.9%
療養介護	6	0	0	0		0	3	0	3
	100%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
施設入所支援	6	0	0	0		0	4	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
自立訓練（生活訓練）	4	0	0	0	0	0	2	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
自立訓練（機能訓練）	3	0	0	0	0	0	1	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%
就労移行支援	8	0	1	0	0	0	5	0	2
	100%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	0.0%	25.0%
就労継続支援 (A型)	9	2	0	0	0	0	3	0	4
	100%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	44.4%
就労継続支援 (B型)	35	1	0	3	1	0	25	2	3
	100%	2.9%	0.0%	8.6%	2.9%	0.0%	71.4%	5.7%	8.6%
就労定着支援	10	1	0	0	0	0	4	0	5
	100%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	50.0%
就労選択支援	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
共同生活援助	18	4	2	1		0	9	0	2
	100%	22.2%	11.1%	5.6%		0.0%	50.0%	0.0%	11.1%
自立生活援助	2	0	0	0		0	0	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
移動支援	29	10	2	0		0	14	0	3
	100%	34.5%	6.9%	0.0%		0.0%	48.3%	0.0%	10.3%
地域活動支援センター	7	1	0	0	0	0	4	0	2
	100%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	0.0%	28.6%
日中一時支援	7	1	0	0		0	2	1	3
	100%	14.3%	0.0%	0.0%		0.0%	28.6%	14.3%	42.9%
地域相談支援	6	1	0	0		0	3	0	2
	100%	16.7%	0.0%	0.0%		0.0%	50.0%	0.0%	33.3%
計画相談支援	14	2	0	0		0	10	0	2
	100%	14.3%	0.0%	0.0%		0.0%	71.4%	0.0%	14.3%
児童発達支援	23	2	0	5	1	0	11	1	3
	100%	8.7%	0.0%	21.7%	4.3%	0.0%	47.8%	4.3%	13.0%
居宅訪問型児童発達支援	3	0	0	0		0	1	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	33.3%	0.0%	66.7%
放課後等デイサービス	32	2	0	7	2	0	12	5	4
	100%	6.3%	0.0%	21.9%	6.3%	0.0%	37.5%	15.6%	12.5%
保育所等訪問支援	7	0	0	2		0	3	0	2
	100%	0.0%	0.0%	28.6%		0.0%	42.9%	0.0%	28.6%
障害児相談支援	10	2	0	0		0	6	0	2
	100%	20.0%	0.0%	0.0%		0.0%	60.0%	0.0%	20.0%
福祉型障害児入所施設	2	0	0	0		0	0	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
医療型障害児入所施設	5	0	0	0		0	3	0	2
	100%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	60.0%	0.0%	40.0%

（６）　緊急利用の受け入れ実績と今後の対応状況

問 11　【居宅介護、または短期入所を提供している事業所】緊急利用（居宅介護におけるケアプラン以外の対応など）について、①過去１年間の受け入れ実績の有無につい てあてはまる番号１つだけに○を、②受け入れ実績がある場合は、その曜日及び時間帯についてはあてはまる番 号すべてに○を③今後の緊急利用の対応について、あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

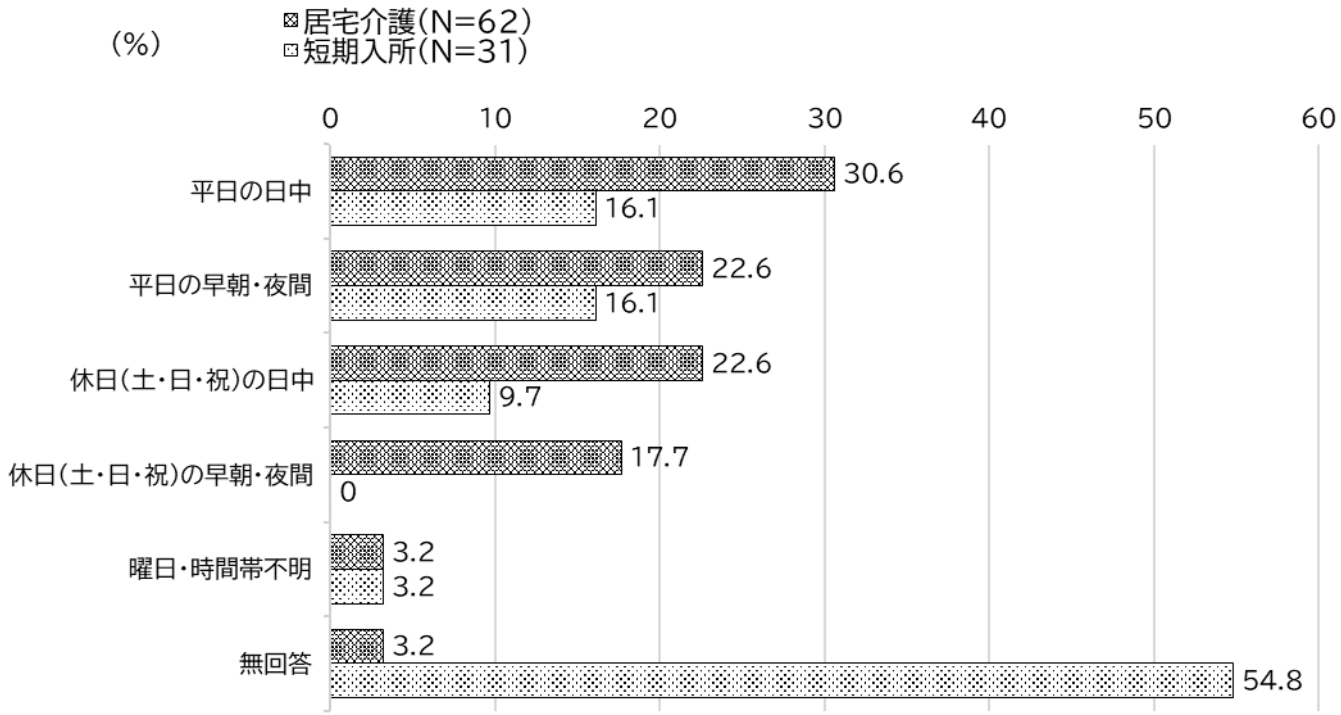
緊急利用について、過去 1 年間の受け入れ実績については、実績有りは居宅介護で 37.1%、短期入所で 35.5%となっています。

■【過去１年間の受け入れ実績の有無】



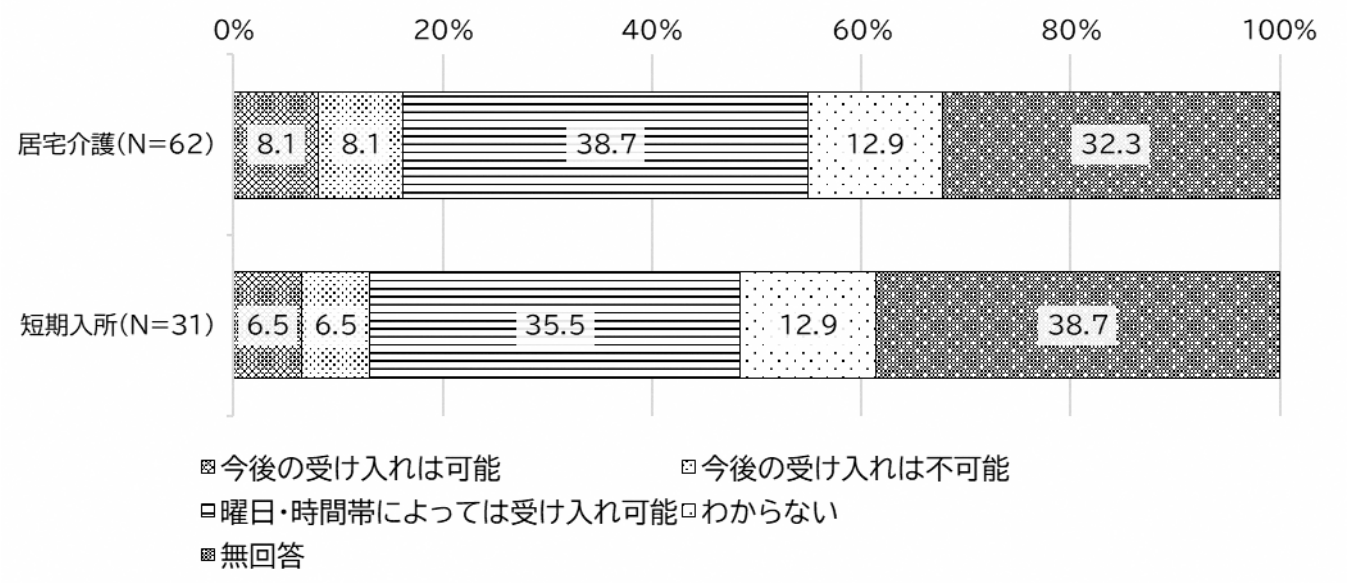
受け入れ曜日・時間帯については、居宅介護では「平日の日中」が 30.6%、短期入所では「平日の日中」、「平日の早朝・夜間」がともに 16.1%と、それぞれ最も多くなっています。

■【受け入れた曜日及び時間帯（複数回答可）】



今後の緊急利用の対応については、居宅介護では「曜日・時間帯によっては受け入れ可能」が 38.7%、短期入所では「曜日・時間帯によっては受け入れ可能」が 35.5%と、それぞれ最も多くなっています。

■【今後の緊急利用の対応】



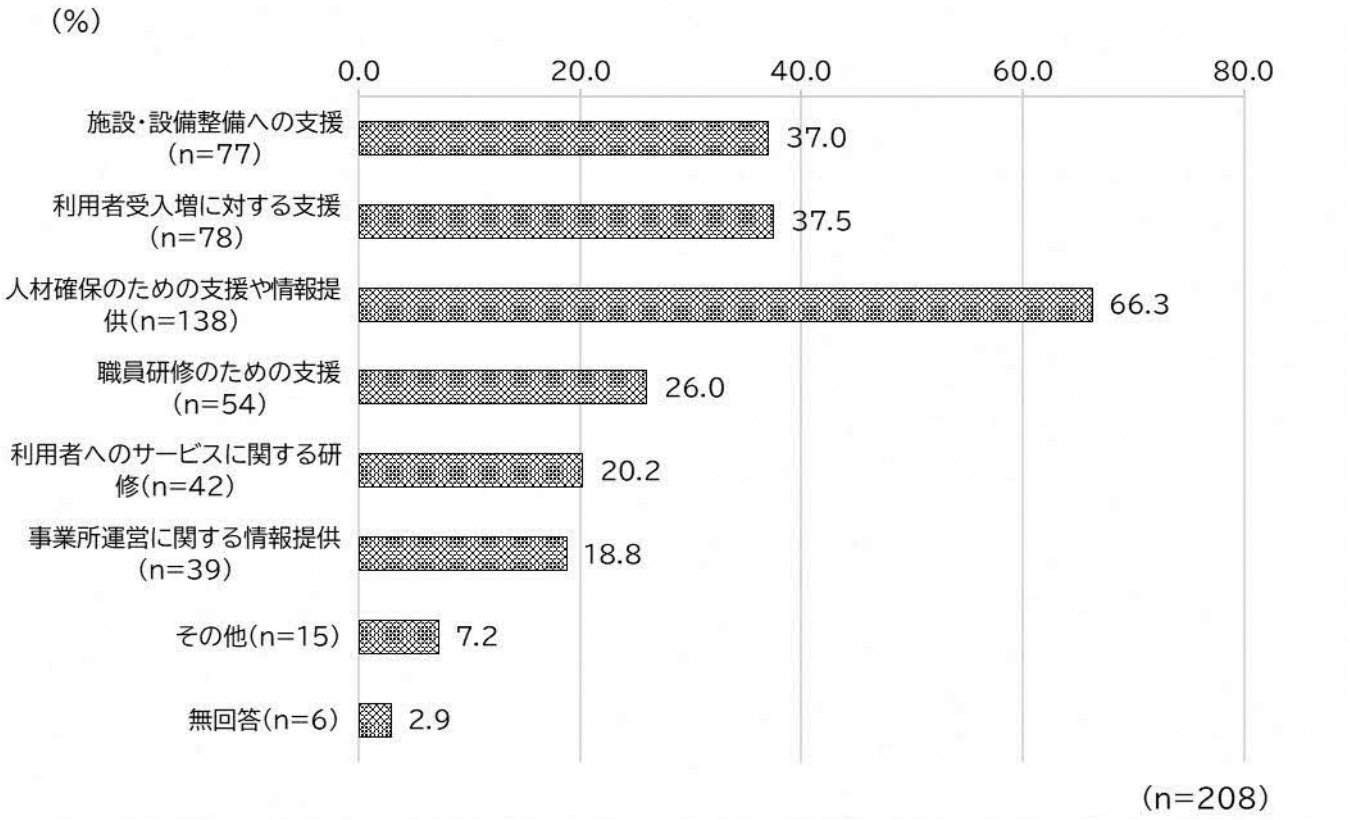
2　事業所の運営や支援について

（１）　利用者の増加等に対応するための対策

問 12　今後、利用者ニーズの増加等に対応していくための施策として、何が必要かつ効果的だと思いますか。（あてはまる番号３つまで○）

利用者ニーズの増加等に対応するための施策については、「人材確保のための支援や情報提供」が 66.3%と最も多く、次いで、「利用者受入増に対する支援」が 37.5%、「施設・設備整備への支援」が 37.0%となっています。

■【利用者ニーズの増加に対応するための施策（複数回答）】

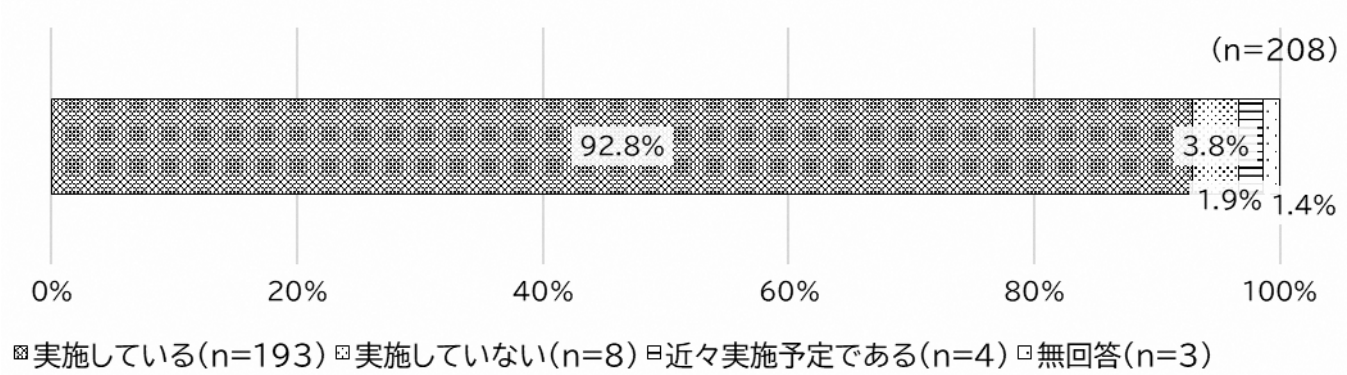


（２）　障害者虐待防止等にかかる対策を検討する委員会の開催や、従業員の対する研修の実施、及び虐待防止に関する取組

問 13　障害者虐待防止等にかかる対策を検討する委員会の開催や、従業者に対する研修の実施、及び虐待防止に係る取組を実施していますか。（あてはまる番号１つだけに○）

障害者虐待防止等にかかる対策を検討する委員会の開催や、従業員の対する研修の実施、及び虐待に関する取組については、「実施している」が 92.8%と最も多くなっています。

■【障害者虐待防止に関する取組状況】

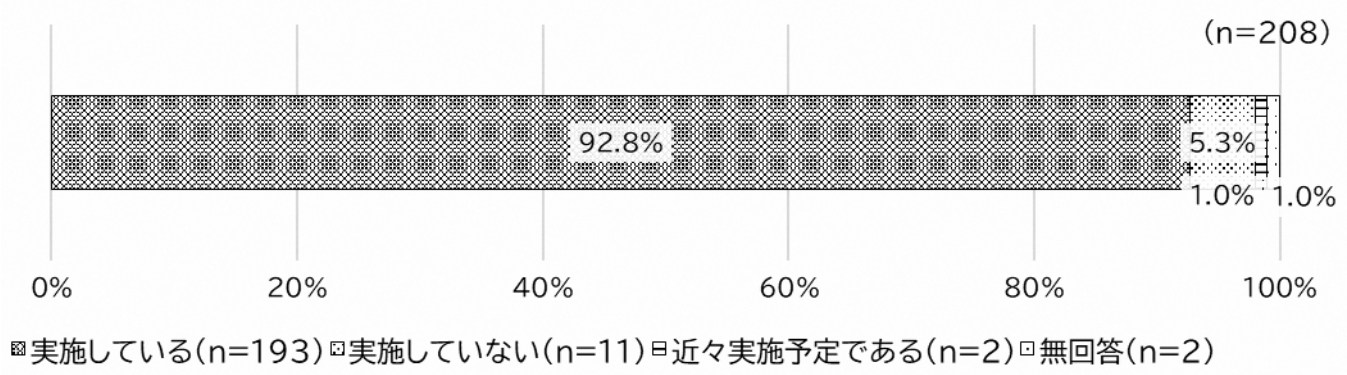


（３）　利用者支援の質の向上に向けた取組

問 14　事業所として利用者支援の質の向上に向けた取組を実施していますか。（あてはまる番号１つだけに○）

利用者支援の質の向上に向けた取組については、「実施している」が 92.8%で最も多くなっています。

■【利用者支援の質向上に向けた取組状況】

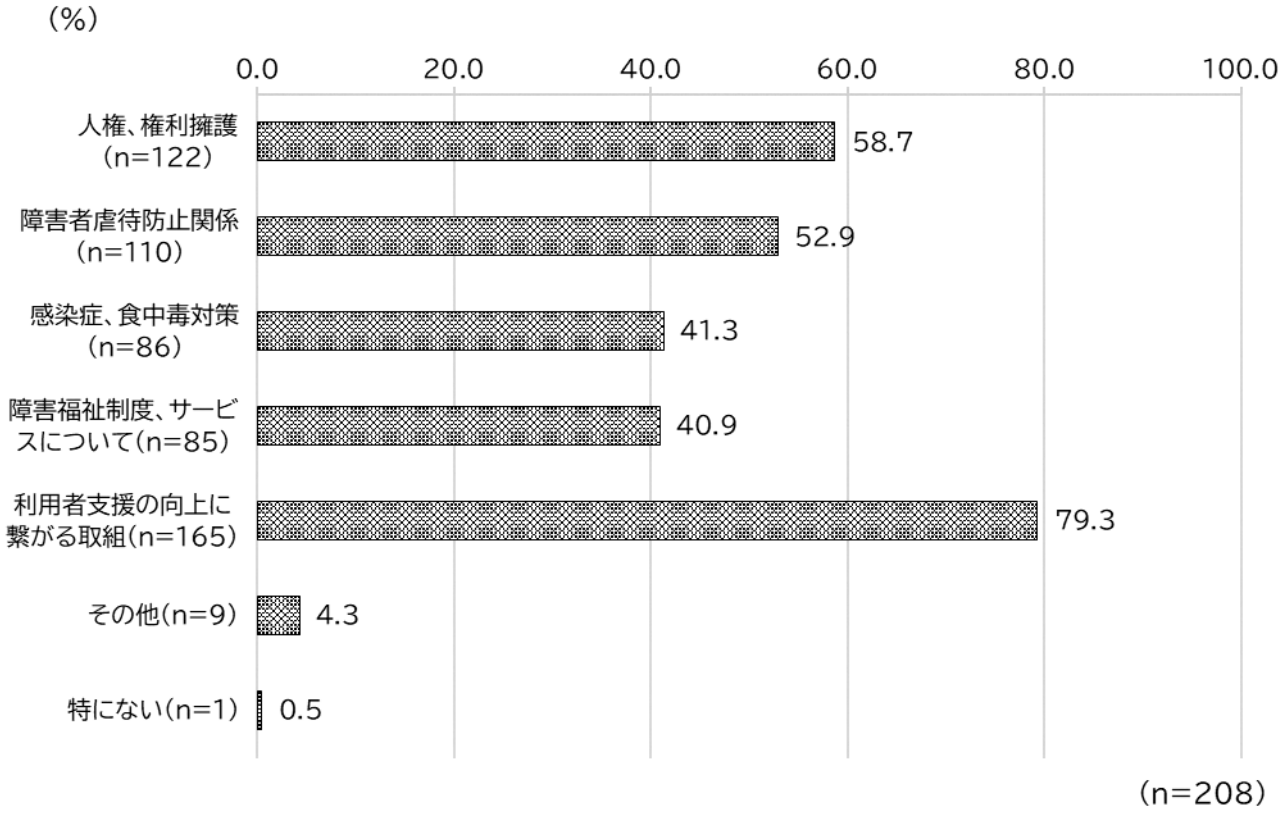


（４）　今後職員に実施したい研修

問 15　従業者に対する研修で特に力を入れたいと考えているものはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

従業員に対する研修で特に力を入れたいと考えているものについては、「利用者支援の向上に繋がる取組」が 79.3%と最も多く、次いで、「人権、権利擁護」が 58.7%、「障害者虐待防止関係」が 52.9%となっています。

■【今後職員に実施したい研修（複数回答）】

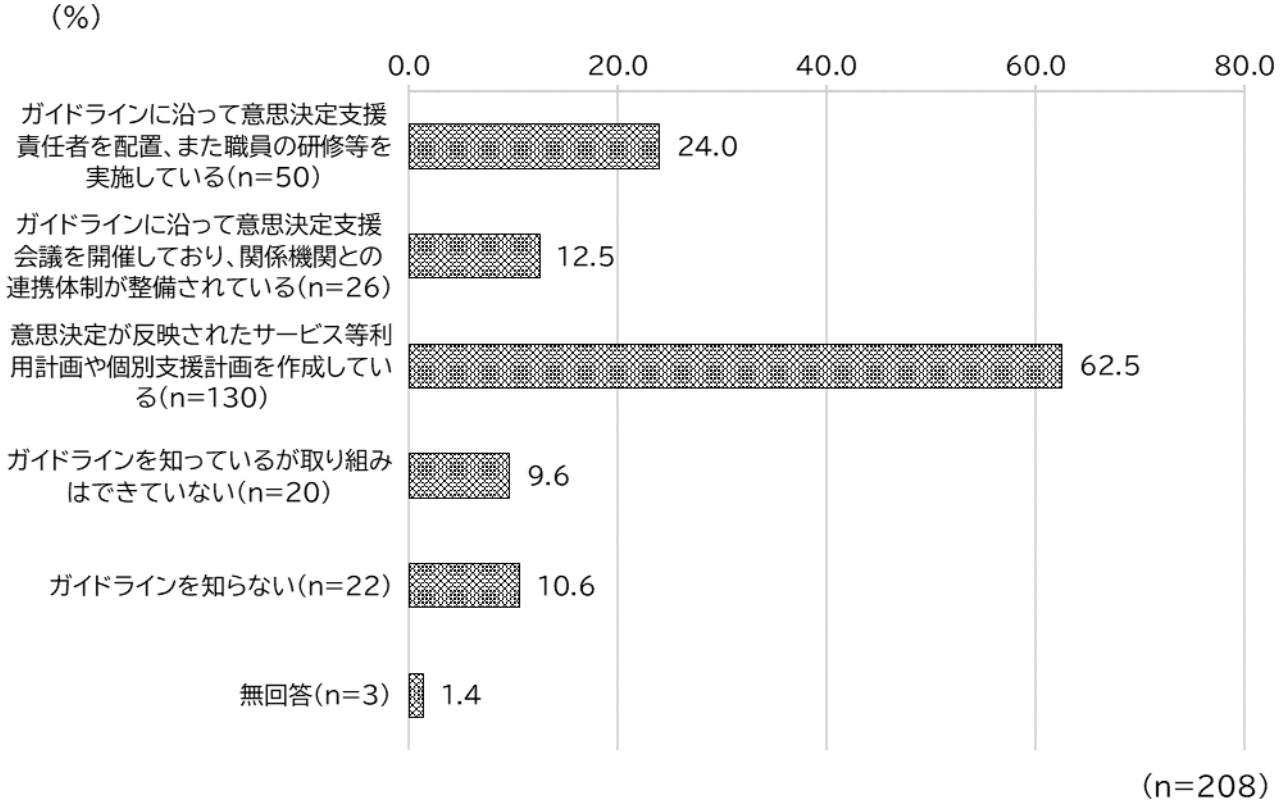


（５）　意思決定支援の取組

問 16　障害福祉サービス等の提供にあたっては、意思決定支援の適切な実施が重要と思われますが、「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」に沿ってどのような取り組みをされていますか。　（あてはまる番号すべてに○）

意思決定支援の取組については、「意思決定が反映されたサービス等利用計画や個別支援計画を作成している」が 62.5%と最も多く、次いで、「ガイドラインに沿って意思決定支援責任者を配置、また職員の研修等を実施している」が 24..0%、「ガイドラインに沿って意思決定支援会議を開催しており、関係機関との連携体制が整備されている」が 12.5%、「ガイドラインを知らない」が 10.6%などとなっています。

■【意思決定支援の取組状況（複数回答）】

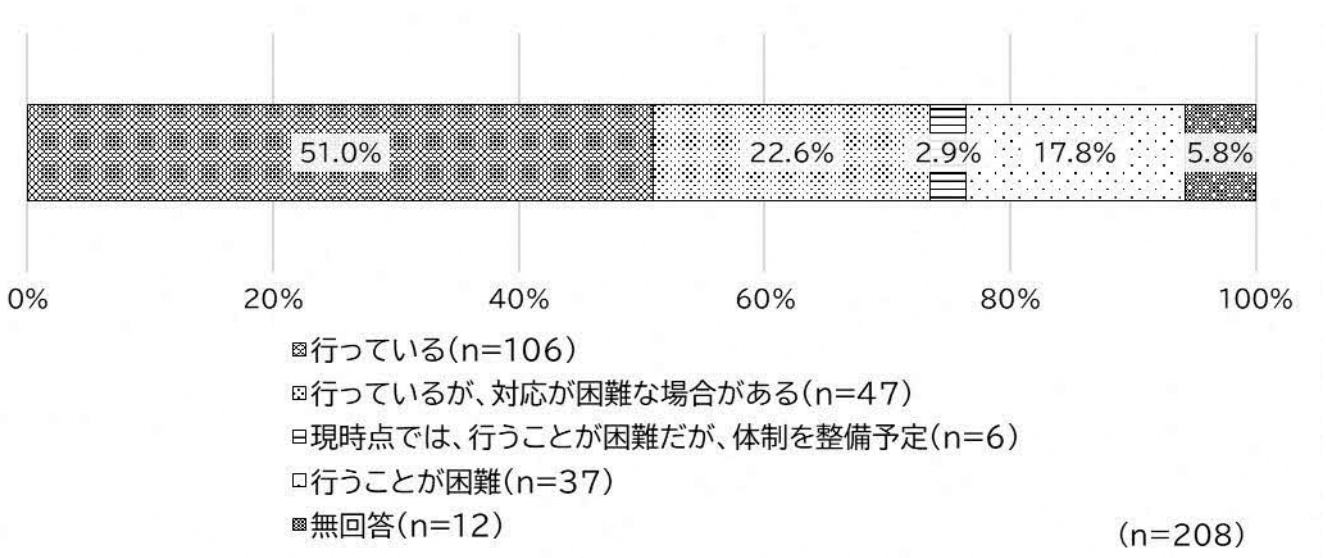


（６）　同性介助の実施

問 17　入浴介助、排泄介助等で、同性介助を行っていますか。（あてはまる番号１つだけに○）

同性介助の実施については、「行っている」が 51.0%と最も多く、次いで、「行っているが、対応が困難な場合がある」が 22.6%、「行うことが困難」が 17.8%となっています。

■【同性介助の実施状況】

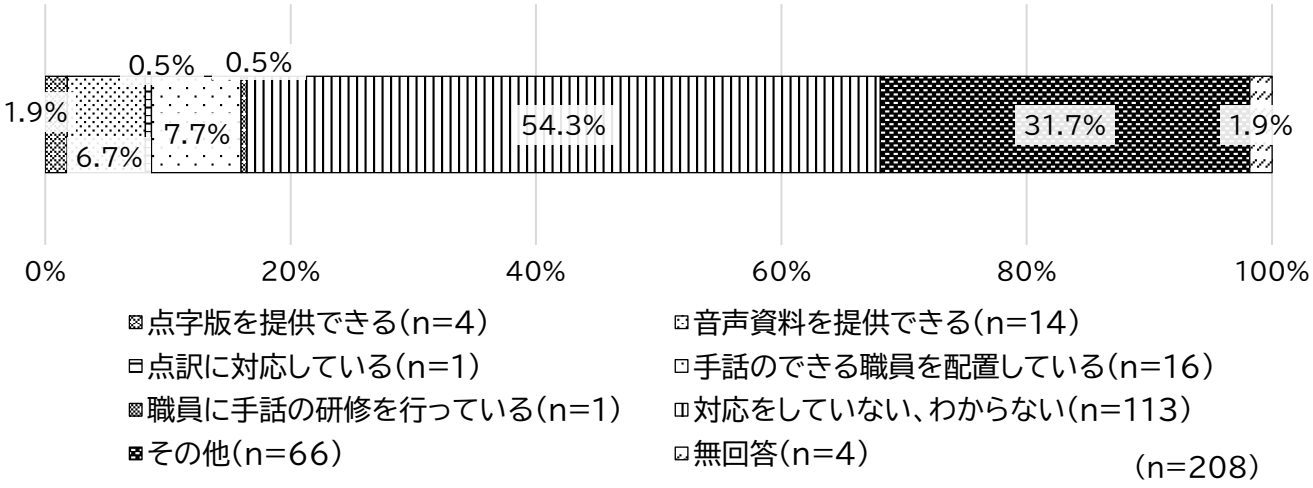


（７）　視覚障害者や聴覚障害者の方への適切な情報提供及び円滑なコミュニケーションのための対応

問 18　事業所として、視覚障害者や聴覚障害者の方に適切な情報提供を行い、また、円滑なコミュニケーションを図るためにどのような対応をしていますか。（あてはまる番号すべてに○）

視覚障害者や聴覚障害者の方への適切な情報提供及び円滑なコミュニケーションのための対応については、「対応をしていない、わからない」が 54.3%と最も多く、次いで、「その他」が 31.7%となっています。「その他」の主な内容としては、対象者がいないという意見や、FAX、筆談、スマートフォンの音声入力の活用などの意見があがっていました。

■【円滑なコミュニケーションを図るための対応】

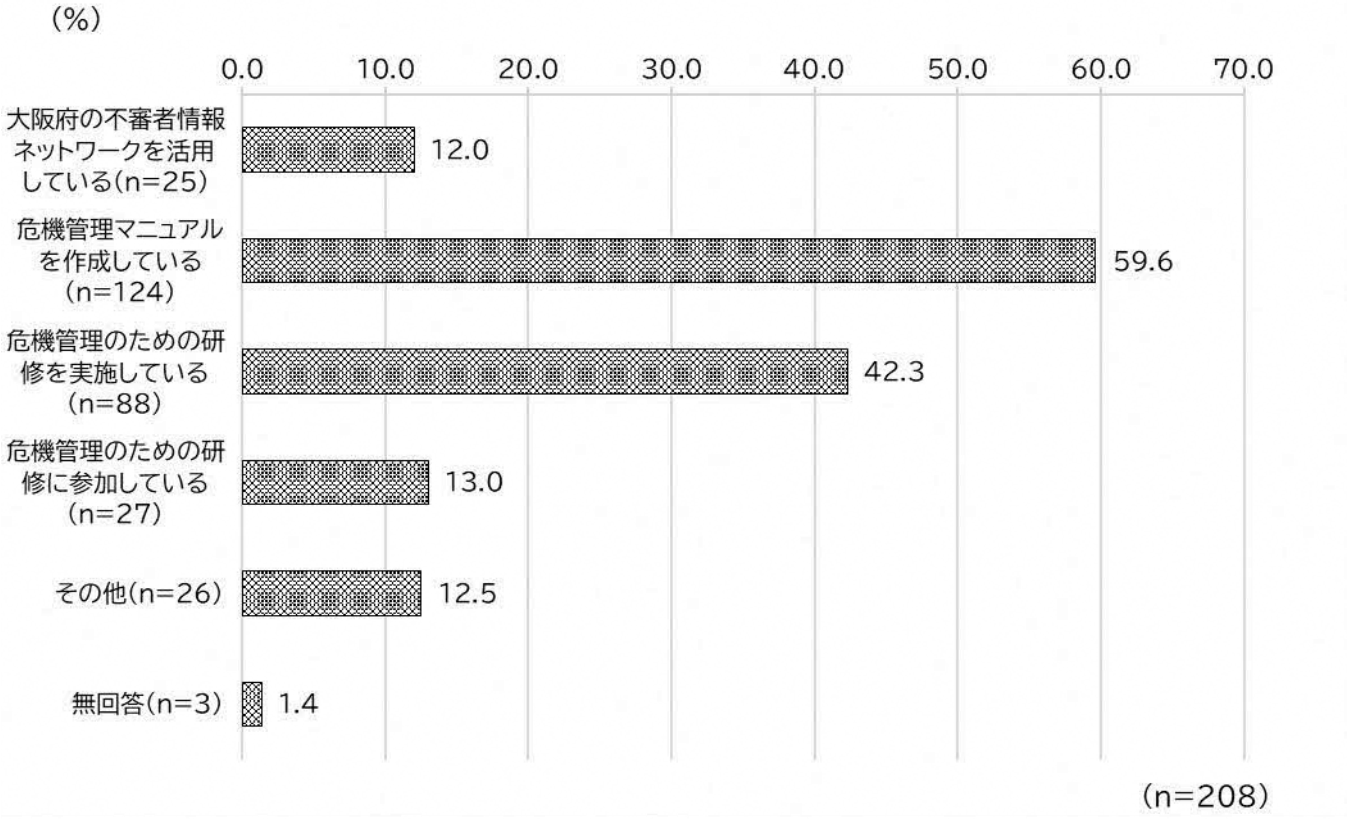


（８） 安全・安心の確保対策・危機管理対策の取組

問 19　安全や安心の確保のための対策、危機管理の対策としてどんな取り組みをしていますか。　（あてはまる番号すべてに○）

安全・安心の確保対策・危機管理対策の取組については、「危機管理マニュアルを作成している」が 59.6%と最も多く、次いで、「危機管理のための研修を実施している」が 42.3%などとなっています。

■【安全・安心の確保対策・危機管理対策の取組（複数回答）】

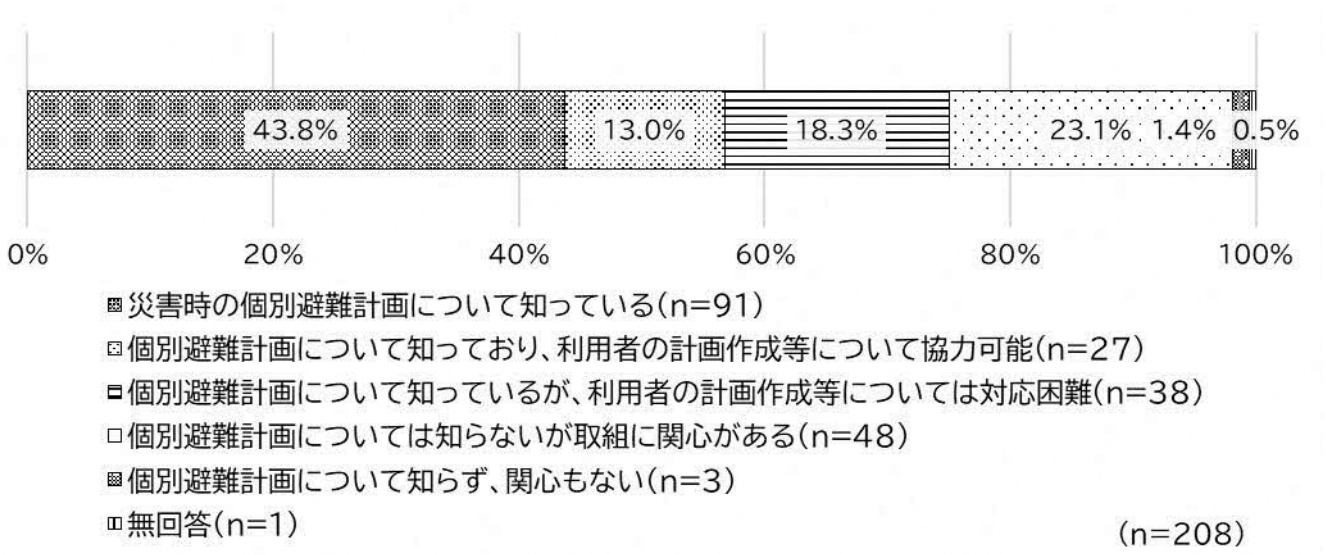


（9）　災害時の「個別避難計画」

問 20　災害対策基本法の規定により、自ら避難することが困難な避難行動要支援者について、「個別避難計画」を作成することが市町村の努力義務とされていますが、「個別避難計画」を知っていますか。

災害時の「個別避難計画」については、「災害時の個別避難計画について知っている」が 43.8%と最も多く、次いで、「個別避難計画については知らないが取組に関心がある」が 23.1%、「個別避難計画について知っているが、利用者の計画作成等については対応困難」が 18.3%となっています。

■【災害時の個別避難計画】

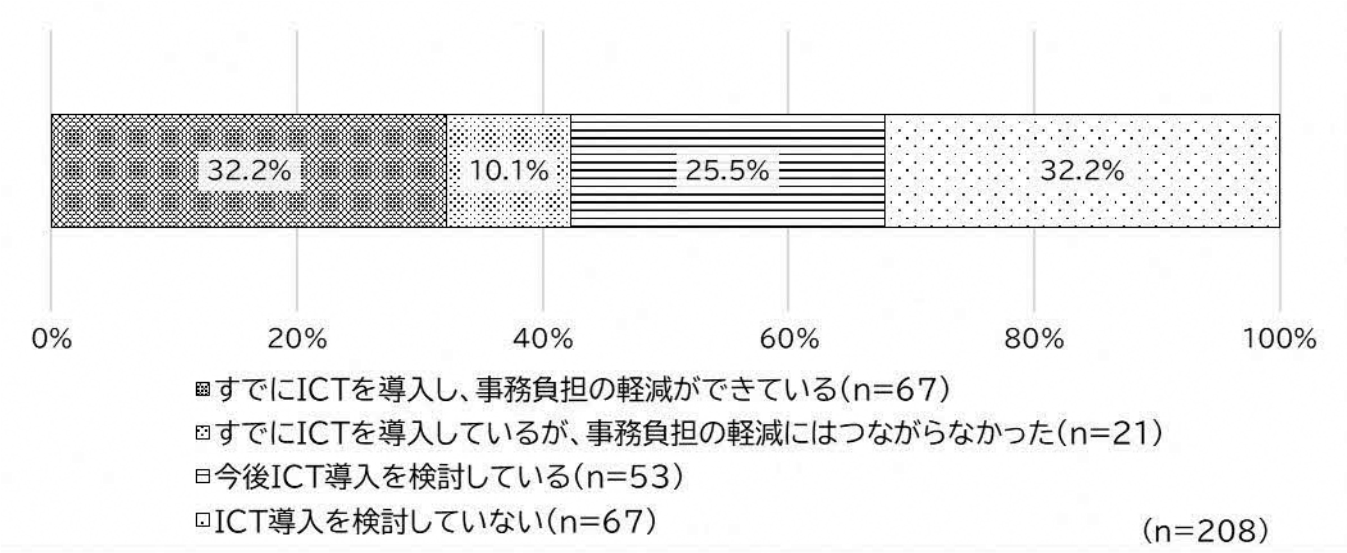


（10） ICT 導入と事務負担の軽減

問 21 ICT を導入し、事務負担の軽減ができていますか。（あてはまる番号すべてに○）

ICT 導入と事務負担の軽減については、「すでに ICT を導入し、事務負担の軽減ができている」、「ICT 導入を検討していない」がともに 32.2%と最も多く、次いで、「今後 ICT 導入を検討している」が 25.5%となっています。

■【ICT の導入状況（複数回答）】

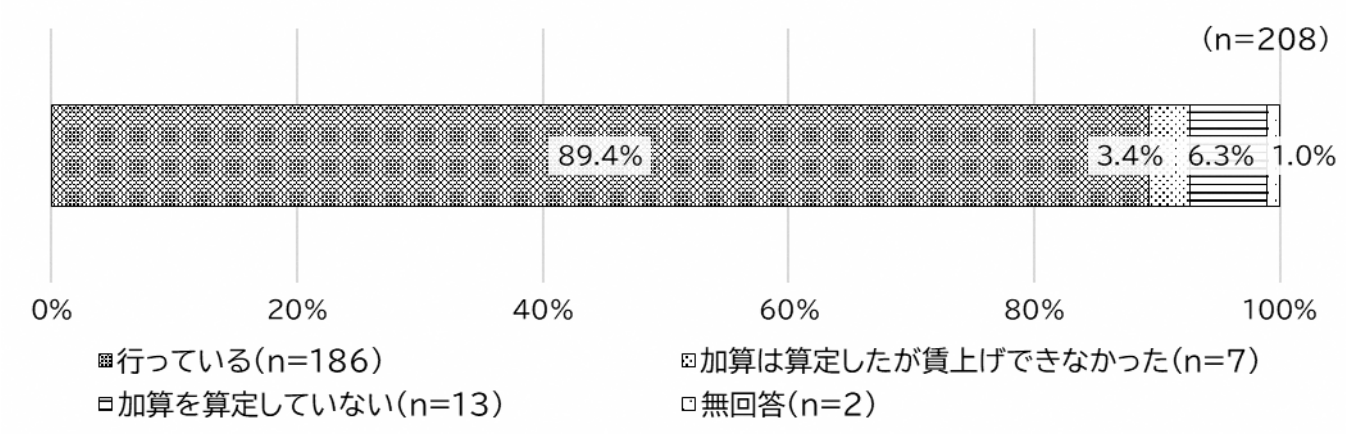


（11）　処遇改善加算の算定

問 22　処遇改善加算を算定し、賃金の向上その他の取り組みを行っていますか。（あてはまる番号１つだけに○）

処遇改善加算を算定し、賃金の向上その他の取り組みを行っているかについては、「行っている」が 89.4%と最も多く、次いで、「加算を算定していない」が 6.3%、「加算は算定したが賃上げできなかった」が 3.4%となっています。

■【処遇改善加算の算定】



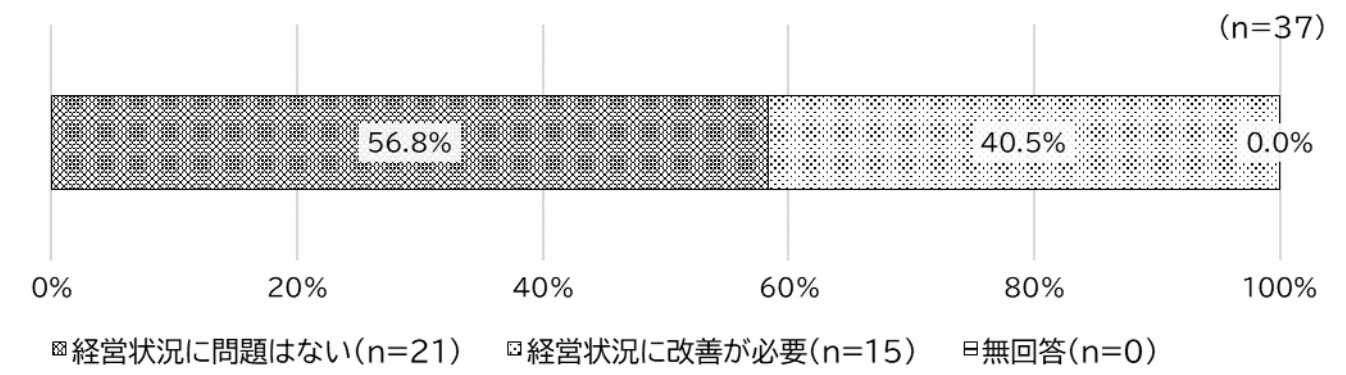
（12）　就労継続支援 A・B 型の経営状況

問 23　【就労継続支援 A・B 型の事業所】計画書を提出するなど、経営状況について改善が必要な状況ですか。（あてはまる番号１つだけに○）

就労継続支援 A・B 型の経営状況については、「経営状況に問題はない」が 56.8%と最も多く、次いで、「経営状況に改善が必要」が 40.5%となっています。

「経営状況に改善が必要」を選んだ主な理由としては、人件費や物価の上昇、利用者数の減少などがあげられています。

■【経営状況】



（13） 就労継続支援 A 型の最低賃金以上の給金を維持する上での課題

問 24 **【就労継続支援 A 型の事業所】**利用者に対し、最低賃金以上の給金を維持する上でどのような課題がありますか。

就労継続支援 A 型の最低賃金以上の給金を維持する上での課題に関する主な意見としては、賃金改定や売上確保などがあがっています。

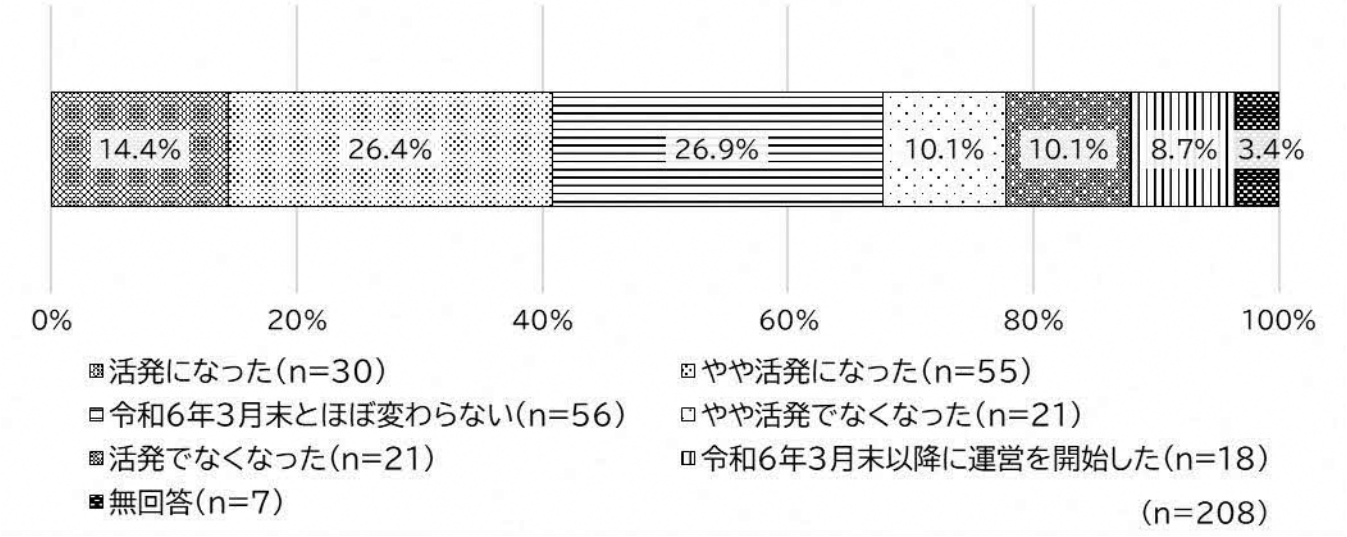
主な意見
施設内でしか働けない人への維持が難しい。
いかに高い付加価値を生み出すかの就労支援の生産活動におけるビジネスモデルの構築の難しさ。・毎年上がる最低賃金。・福祉と経営の両立の難しさ。
今の課題は、売上確保と賃金改定と考えています。売上面については、売上目標設定すると共に、定期的な技術指導や研修、外部講師の導入など、スキルアップを意識した取り組みを進めています。結果、仕事の質や効率が向上し、生産性の向上につながると考えています。
お弁当を製造・販売していますが、お米をはじめすべての食材が値上がりし大変です。一般企業と違って、弁当販売において経営のノウハウがなく、どうすればこの先お給料を支払えるのか、不安しかありません。

（14） 事業所の運営状況

問 25 令和６年３月末と比べて、全体として、貴事業所の運営状況はどのように変わりましたか。（あてはまる番号１つ だけに○）

事業所の運営状況については、「令和６年３月末とほぼ変わらない」が 26.9%と最も多く、次いで、「やや活発になった」が 26.4%、「活発になった」が 14.4%で、約４割が活発になったと回答しています。

■【運営状況】



（a）問 25　事業所の運営状況　_　問 8　事業所で提供しているサービス

事業所の運営状況が「活発になった」と「やや活発になった」で過半数を上回るサービスは、「児童発達支援」が 56.5%と最も多く、次いで「就労継続支援（A 型）」が 55.6%、「放課後等デイサービス」が 53.1%となっています。一方、事業所の運営状況が「活発でなくなった」と「やや活発でなくなった」で過半数を上回るサービスは、「施設入所支援」で 66.7%となっています。

No	サービス種別	合計	活発になった	やや活発になった	3年前とほぼ変わらない	やや活発でなくなった	活発でなくなった	運営を開始してから3年たっていない	無回答
1	居宅介護（ホームヘルプ）	62	4	16	16	6	13	6	1
			6.5%	25.8%	25.8%	9.7%	21.0%	9.7%	1.6%
2	重度訪問介護	34	1	8	10	5	7	2	1
			2.9%	23.5%	29.4%	14.7%	20.6%	5.9%	2.9%
3	行動援護	4	0	2	1	0	1	0	0
			0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
4	重度障害者等包括支援	4	1	1	1	0	1	0	0
			25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
5	同行援護	22	0	5	5	4	7	0	1
			0.0%	22.7%	22.7%	18.2%	31.8%	0.0%	4.5%
6	短期入所	31	2	5	13	4	1	4	2
			6.5%	16.1%	41.9%	12.9%	3.2%	12.9%	6.5%
7	生活介護	42	7	10	12	6	4	0	3
			16.7%	23.8%	28.6%	14.3%	9.5%	0.0%	7.1%
8	療養介護	6	0	1	2	0	1	0	2
			0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%
9	施設入所支援	6	1	0	1	3	1	0	0
			16.7%	0.0%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%
10	自立訓練（生活訓練）	4	1	0	1	0	1	1	0
			25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%
11	自立訓練（機能訓練）	3	1	0	2	0	0	0	0
			33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12	就労移行支援	8	2	2	1	1	1	1	0
			25.0%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%
13	就労継続支援（A型）	9	2	3	2	1	1	0	0
			22.2%	33.3%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%
14	就労継続支援（B型）	35	3	11	9	6	3	2	1
			8.6%	31.4%	25.7%	17.1%	8.6%	5.7%	2.9%
15	就労定着支援	10	1	3	2	1	1	2	0
			10.0%	30.0%	20.0%	10.0%	10.0%	20.0%	0.0%
16	就労選択支援	2	0	0	1	0	1	0	0
			0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
17	共同生活援助	18	2	6	5	1	2	1	1
			11.1%	33.3%	27.8%	5.6%	11.1%	5.6%	5.6%
18	自立生活援助	2	0	0	1	0	1	0	0
			0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
19	移動支援	29	1	8	7	4	7	1	1
			3.4%	27.6%	24.1%	13.8%	24.1%	3.4%	3.4%
20	地域活動支援センター	7	1	1	3	0	2	0	0
			14.3%	14.3%	42.9%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%
21	日中一時支援	7	1	1	1	1	2	0	1
			14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%
22	地域相談支援	6	0	0	3	0	2	1	0
			0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%
23	計画相談支援	14	1	2	7	0	2	2	0
			7.1%	14.3%	50.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%
24	児童発達支援	23	8	5	4	2	2	2	0
			34.8%	21.7%	17.4%	8.7%	8.7%	8.7%	0.0%
25	居宅訪問型児童発達支援	3	0	0	2	0	1	0	0
			0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
26	放課後等デイサービス	32	11	6	8	2	3	2	0
			34.4%	18.8%	25.0%	6.3%	9.4%	6.3%	0.0%
27	保育所等訪問支援	7	1	2	2	0	1	1	0
			14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%
28	障害児相談支援	10	0	2	4	0	2	2	0
			0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%
29	福祉型障害児入所施設	2	0	0	1	0	1	0	0
			0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
30	医療型障害児入所施設	5	0	1	2	0	1	0	1
			0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%

(b) 問 25　事業所の運営状況　_　問 12　利用者ニーズの増加等に対応していくための必要かつ効果的な施策

事業所の運営状況が「活発になった」事業所では、必要かつ効果的な施策として「人材確保のための支援や情報提供」が 80.0%と最も多く、次いで「施設・設備整備への支援」が 46.7%となっています。

事業所の運営状況が「活発でなくなった」事業所では、必要かつ効果的な施策として「人材確保のための支援や情報提供」が 81.0%と最も多く、次いで「利用者の受入増に対する支援」が 57.1%となっています。

また、事業所の運営状況が「やや活発でなくなった」事業所では、「施設・設備整備への支援」が 61.9%と最も多くなっています。一方で、「人材確保のための支援や情報提供」は他の運営状況と比較して、低い水準の 57.1%となっています。

上記を踏まえると、次の可能性があり、事業所の運営状況に応じた支援が必要となることが考えられます。

- 事業所の運営状況が「活発になった」事業所では、利用者ニーズが高い状態であり、受入を拡大するための人材確保や設備投資が必要となっている。
- 事業所の運営状況が「やや活発でなくなった」事業所では、人材確保のための支援や、サービスを維持・拡大するための設備投資が必要となっている。
- 事業所の運営状況が「活発でなくなった」事業所では、利用者の受け入れを拡充したいが、人手が足りない状況である。

上段：回答者数 下段：構成比		全体	施設・設備整備への支援	利用者の受入増に対する支援	人材確保のための支援や情報提供	職員研修のための支援	利用者へのサービスに関する研修	事業所運営に関する情報提供	その他	無回答
全体	全体	208	77	78	138	54	42	39	15	6
			37.0%	37.5%	66.3%	26.0%	20.2%	18.8%	7.2%	2.9%
運営状況	活発になった	30	14	13	24	9	5	6	1	1
			46.7%	43.3%	80.0%	30.0%	16.7%	20.0%	3.3%	3.3%
	やや活発になった	55	17	20	33	18	13	15	1	1
			30.9%	36.4%	60.0%	32.7%	23.6%	27.3%	1.8%	1.8%
	3年前とほぼ変わらない	56	21	16	37	9	10	4	9	1
			37.5%	28.6%	66.1%	16.1%	17.9%	7.1%	16.1%	1.8%
	やや活発でなくなった	21	13	8	12	5	5	4	0	1
			61.9%	38.1%	57.1%	23.8%	23.8%	19.0%	0.0%	4.8%
	活発でなくなった	21	4	12	17	6	2	1	3	0
			19.0%	57.1%	81.0%	28.6%	9.5%	4.8%	14.3%	0.0%
	運営を開始してから3年たっていない	18	4	6	10	5	5	6	1	2.0%
			22.2%	33.3%	55.6%	27.8%	27.8%	33.3%	5.6%	0.1%
	無回答	7	4	3	5	2	2	3	0	0
			57.1%	42.9%	71.4%	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%

（c）問 25　事業所の運営状況　_　問 21　ICT 導入による事務負担の軽減

「すでに ICT を導入し、事務負担の軽減ができている」事業所について、事業所の運営状況が「運営を開始してから 3 年たっていない」事業所が 44.4%と最も高く、次いで「活発になった」事業所が 40.0%、「やや活発になった」事業所では 38.2%となっています。

事業所の運営状況が「活発になった」事業所と「運営を開始してから 3 年たっていない」事業所では、「すでに ICT を導入し、事務負担の軽減ができている」と「すでに ICT を導入しているが、事務負担の軽減にはつながらなかった」を合わせた ICT 導入済みの割合が 50.0%と、他の運営状況と比べて最も高くなっています。

「運営を開始してから 3 年たっていない」事業所では、「すでに ICT を導入し、事務負担の軽減ができている」と「すでに ICT を導入しているが、事務負担の軽減にはつながらなかった」に加え、「今後 ICT 導入を検討している」を合わせると、83.3%となっており、他の事業所と比べて ICT 導入に積極的であると考えられます。

一方で、事業所の運営状況が「活発でなくなった」事業所では、「ICT 導入をしていない」が 47.6%と、他の運営状況と比べて最も高くなっており、「すでに ICT を導入し、事務負担の軽減ができている」は 28.6%に留まっています。

上記から、事業所の運営状況と ICT 導入状況には、一定の関連性があることが考えられます。

上段：回答者数 下段：構成比		全体	すでにICTを導入し、事務負担の軽減ができている	すでにICTを導入しているが、事務負担の軽減にはつながらなかった	今後ICT導入を検討している	ICT導入をしていない	無回答
全体	全体	208	67	21	53	67	0
			32.2%	10.1%	25.5%	32.2%	0.0%
運営状況	活発になった	30	12	3	5	10	0
			40.0%	10.0%	16.7%	33.3%	0.0%
	やや活発になった	55	21	4	17	13	0
			38.2%	7.3%	30.9%	23.6%	0.0%
	3年前とほぼ変わらない	56	12	6	15	23	0
			21.4%	10.7%	26.8%	41.1%	0.0%
	やや活発でなくなった	21	5	5	5	6	0
			23.8%	23.8%	23.8%	28.6%	0.0%
	活発でなくなった	21	6	2	3	10	0
			28.6%	9.5%	14.3%	47.6%	0.0%
	運営を開始してから3年たっていない	18	8	1	6	3	0
			44.4%	5.6%	33.3%	16.7%	0.0%
	無回答	7	3	0	2	2	0
			42.9%	0.0%	28.6%	28.6%	0.0%

（15）　自由意見

問 26　枚方市の障害福祉施策やサービス事業所への支援に関して、ご意見がありましたら自由にお書きください。

自由意見の内容
移動支援：多様化する利用者のニーズに対応していくためにガイドヘルパーの人材確保が必至です。単価の居宅介護なみへの引き上げをお願いします。
ここ半年の出来事ですが、利用者募集に関して力を入れており、時間・労力・お金を使っています。問い合わせがあり、説明→見学→体験後に受給者証発行で役所へ出向いた際、本人の要望が無い状況でリーフレットを渡し、近場の事業所へ誘導されたと断りの連絡が２～３件続いています。斡旋はしていなくても、あまり納得いく内容ではありません。
共同生活援助向けの住宅の紹介などあればと思います。相談支援員の数が少なく、事業所の負担が大きい（仕事量）ので（セルフプランのため）、相談支援事業所と専門員が増える事を願います。
物価高騰と人件費高騰で、このままでは施設運営が立ちゆかなくなります。国や自治体は我々のような単一事業所はつぶしてしまって、巨大な医療福祉法人にまとめさせたいのでしょうか。基本報酬が上がらず、物価（固定費、人件費、委託費）のみ上がる状態です。単一自治体がどうにかできる問題ではないことは承知しておりますが、苦境にある事だけはお伝えさせて頂きます。
Ｂ型から就職者を出しても、Ａ型だと一般就労に含まれないので、Ａ型にスキルアップできたことを評価してほしいと思う。就労定着支援の利用終了後は、就業・生活支援センターに引き継ぐが、人数が多いので手が回らない様子である。利用者本人が望み市町村が認めれば、定着支援の延長できるようになってほしい。
Ａ型に特化した受注があればとても助かる。賃金向上も大切ですが、最賃を保証できる仕事を国や市が考えていく必要もあるのかなと…。
いつもありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願い致します。
いつもありがとうございます。これからも、よろしくお願い致します。
資料提出等の期限がやたらと短い時があり、その際にとても困ります。もう少し余裕をもった対応をお願いしたいです。また、事業者への周知部分で言うと、ＨＰへのアップがかなり遅く感じます。また、古い情報が長く残っていることから、少し見にくいです。サービス事業所への支援についてもう少し前向きに対応頂ければなぁと思います。
自立支援協議会に参加しやすいシステムがほしい。新規参入される事業所は協議会のことを知られているからつながれているのでは？
毎年の賃上げ、送迎および生産活動に係るガソリン代・日用品など、価格は上がる一方ですが報酬改定は３年毎。厳しい限りです。
セルフプランの方が多く、困り事を相談できない、しても対応してもらえないといった意見を多く耳にします。ご家族や１つの事業所の負担を社会全体でカバー出来るような仕組み作りをお願いしたく存じます。
現状で不満はありません。

①カスハラ対策（利用者側への）②医療ケアを必要とする方、脊損等の方の在宅支援では朝・夜の対応が難しい。将来の環境が心配。
パソコンの入れ替え費用の支援が必須である。来年、入れ替えできない場合は、各方面にセキュリティー対策が間に合わず、ウイルスに感染し、多大な迷惑をかけることになる。小中学校のパソコン入れ替えだけでなく、社会福祉法人もパソコン入れ替えを国や府（市）が全面的に補助するべきである。
小規模の事業所も継続していけるよう、ヘルパーの紹介ｅｔｃ、支援してほしい。
地域連系の強化を計り、情報提供をし、スムーズに入居できる体制の強化を望む。体験入居等の受給者証発行をもう少し早めてほしい。
サービスや事業の維持に努力している事業所には要望や意見をとり入れてほしい。
福祉人材の確保への更なる公的サポートを考えて頂けるとありがたいです。
今後はこの様なアンケートはオンラインで実施をして頂ければと思います。
問１０にも書いた通り、福祉面での専門的な知識の向上が求められることが増えています。事業所内でも研修会や勉強会をしていますが、市でもそういった支援員育成研修のようなものを開いていただけると嬉しいです。また、他市ではサビ管の連絡会等でＢ型・ＧＨ等の福祉サービス事業所間で情報交換できる機会があり、枚方市でも検討していただけると嬉しいです。ご無理を申し上げて恐縮のかぎりでございますが、ご検討のほど、よろしくお願いいたします。
移動支援について。目的地で現地の方の支援が受けられるので、往復だけの利用を希望される、というケースがあります。電車やバスを使って現地では２時間ほど手待ち時間が発生するのですが、帰社するのもコストがかかるので、何か保障があれば助かります。
いつもありがとうございます。
このアンケートのデジタル化をお願いします。
・足りないサービスは足りないサービス同士をくっつけてするのではなく、足りているサービスに付加する、あるいは事業がえするなどの方が早く充足すると思います。 ・ケースワーカーの質を問う声がよく聞かれています。大きな声や力で言ったもの勝ちにならないよう、事業所・利用者・対象者を平等に扱うべきだと思います。 ・自立支援協議会のあり方や機能を見直し整理してはどうか。他市と比べるわけではないが、今の枚方市の実情にそぐった内容になっているか。
今後この様なアンケートがあれば、オンラインで行えると有難いです。
人材確保の為の支援。
移動支援を利用したいが、対応できるスタッフが不足している等の話を利用者さんやご家族からよく聞くことがあるので、利用したいサービスがなるべく希望通り受けられるようになって欲しい。
素質のある若い人材を職員として獲得するのが難しい時代です。障害者福祉で働くことに将来性を見出せるように、市の障害者施策を策定して頂きたい。２．精神障害者は、発症時から数年間は（特に統合失調症）症状が激しく、特に家族は生活リズムがめちゃめちゃになり、親は仕事に支障が出、兄弟姉妹は学業に深刻な影響が出る。そのため親はさておき、兄弟姉妹はほとんどが一生本人とは縁を切っている。そのため親なき後、本人は天涯孤独になる。その場合の居場所を

どうするか、特に年老いた場合の居場所は、精神疾患を理解する介護者が一定数いる介護施設であろうと思います。
規制する・制限するではなく、応援する・繋ぐという観点で行政支援を行って欲しい。枚方市委託の事業等は、積極的な応援が欲しい状況です。問２５等、全事業所が１に回答し、逆に行政としても答えは１だと言えることを目標にして欲しいと思います。
重心医ケアの人たちが安心して生活するためには家族の介護負担の軽減が必要。生活介護の報酬の見直し。２７日／月以上利用が必要。（日曜日も利用希望あり）家族の生活と本人の生活は別のもの。２４時間、３６５日、ひとりの人として生活できるようにサービスを組み合わせたい。重訪とふつうのヘルパーと両方利用できる、とか。・障害年金以外の収入が少なすぎる。シェアハウスに暮らしたいと思っても自立して生活できない。東京都との差がありすぎる。
わからないことがあれば必ず問い合わせをするようにしていますが、その都度、丁寧にご教授頂きとても助かっております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。
現場の状況に応じた、補助金や委託料の算定にして欲しい。
障害支援課職員との連携が出来ず、困るケースが増えています。しっかりとケースにかかわってもらいたいです。
夜間（グループホーム、ショートステイ）の支援員（世話人）の募集等に関して、市にも協力していただけるのであれば協力をして欲しい部分がある。（広報などの活用など）・数十年前に運営等に関しての市の単独補助金加算を少しでもいいので、復活させていただけると運営の資金面が助かります。
ＩＣＴ導入などの補助（国の施策）も助かりますが、事業運営の継続や維持に対しての市単費の補助や支援があれば、助かります。→車両購入や整備等の維持費、建物の修繕、生活物品購入など現行の報酬（ベースは基本報酬となります）のみでは今後の物価上昇に耐えかねますので。・基本の介護報酬が今後も下がっていくと思われる中で、加算で賄われる部分が大きくなりますが、事務量が増大されるうえに労働時間も超過していく傾向にあるので、何か、市として事務量の軽減策などあれば検討していただければと思います。
加算等の申請書類で不備をしてしまっても、迅速に対応して頂いて感謝しております。いつもありがとうございます。
計画やモニタリングのみが算定の対象となるが、実際はそれ以外に相当時間を使っています。また、ケースでない人の相談も多くあるが、一切算定できない。Ｔｅｌで話を聞くだけでも相当な労力なので何か手当してほしい。もしくは、枚方市のＣＵさんで受けてあげてほしい。リストを渡されるだけで、順番にＴＥＬしてこられますが、話を聞いてほしいだけの人も多く、枚方市で対応してもらえるといいなぁと思います。
現在、市役所バザー、くずは学習センターに訪問行かせていただいておりますが、他にも平日、日中での活動が有れば参加したいと思っています。利用者様の工賃向上の為。
各事業所とも世話人の確保が困難。若い世代への引き継ぎが難しく、安定したサービスの提供ができにくい。
人材不足。募集をかけても集まらないか、７０代（８０代）の方が多く、先の見通しが難しい。（利用者にとっても安定した提供が必要）

会議やアンケートなど、ＩＣＴ化にしてほしい。（書類申請も郵便でなくメールなどに対応してほしい）・現在、枚方市内に障害者の生産物などを常設で販売する場がなくなっており、枚方市障害福祉主催での物販イベントもないので開催して頂きたい。・障害者就労支援強化事業は運営会計を透明化にし、工賃向上、社会参加にも予算を使用し、事務局を公募による選出をお願いしたいです。・就労支援事業所への利用者の交通費補助も考えて頂きたい。・セルフプランが多すぎなので、改善して頂きたい。（計画相談員が増えるように）
枚方市には、これまで障害福祉分野において多様な支援や施策を行っていただいており、現場として感謝しています。れもんでは、胃ろう・気管切開・人工呼吸器管理など、医療的ケアを必要とする重度の利用者を現在看護士４名で受け入れており、さまざまな看護的支援を行っている一方、医療的ケアを必要とする重度の利用者は、通所にあたって家族による外出の準備の段階から多くの関わりと支援が必要となり、利用者本人だけでなく家族にとっても不安や負担が大きい状況があります。また、対象となる利用者数が少ないことから、施策の基軸として位置づけられない現状もあります。私達も今のしくみの中で、利用者の必要としている支援を全力で取り組む一方で、医療ケアが必要な利用者が安心してれもんを利用できるような支援やしくみについて、さらなる支援をお願いします。
障害当事者や事業所の要望に対して、検討して施策に反映していくプロセスが不透明。要望をどの機関が検討して、どういう理由で施策に反映された、あるいは反映されなかったか、明確でない。まずはこのアンケートに対して、明確にしてほしい。
障害のグループホームは、土日が休みだったりが多く、依頼の相談が多いですが、高齢の方々も土日に利用が多く思います。もう少し、土日もグループホームは稼働されるべきだと思います。世話人の方の介護支援教育は、される方が良いように思います。
いつもお世話になります。今後もよろしくお願い致します。
障害者地域活動支援センター（Ⅲ型）の在り方として具体的に次のようなものがあると考えています。１．利用者すべてのニーズに対応する事業所。２．アート等創作活動に特化した事業所。３．障害者のアートギャラリー（障害者アートの展示・販売・カフェなど）４．その他（ヨガ、ダンス、語りなど）
・サービス事業所ごとの支援に於いて、■■にむらがあると思う。市主催の研修などの機会をふやし、市全体のサービス事業所の■を高めてほしい。 ・家族の高齢化等に伴うニーズとして緊急時のショートステイの場が未だ未だ不足している。又、１・２週間などショートステイではあるが、比較的長期でうけてくれる場がなく、他市に頼らざるを得ない状況がある。整備は終了となっているが、市内でショートの場を確保するなど再検討してほしい。（重訪を含む）・枚方市の障害福祉施策として、必要な利用者に必要なだけ居宅介護の時間を保障しているのは、障害のある人が地域の中で暮らす上でとても重要なことだと思う。今後も継続して利用者にあった支給決定をしてもらいたい。 ・利用者からの声ですが、セルフプラン等、障害支援課から送られてくる文書の印刷がうすくて読めないという声が何人かからあります。印刷物はわかりやすく、はっきり印字されたものを利用者の方に配送して頂くようお願いします。
個別サポートの認定は家族へのアンケートのみで決められているため、本人の状態に合っていないことがある。事業所として見直しを求めても、受け入れて頂けないのが残念です。

言語聴覚士等、専門職からのアプローチを受けたい層が多いです。まだまだニーズに対して受け入れ先が少ないため、専門職が地域に出やすい環境の整備が必要と思います。
重度訪問サービスが取りやすいように受給量の申請の見直しを希望します。
就労継続支援事業所としての課題は工賃向上だと思いますが、まだまだ全国平均よりも低い工賃です。各事業所でも向上にむけて取り組んでいますが、市としての優先調達等をご検討いただきたいと思っています。
他市と比較し、あまりにセルフプランが多い。
相談を受けることが多く対応するが、算定とは結びつかない。相談支援の計画をたてていなくても、相談を受ける体制を評価してほしい。
カスタマーハラスメントの対策として、研修や講演を実施して頂いてはおりますが、それ以前にハラスメントを行う利用者が増えていると感じます。利用者の人権を擁護する必要はありますが、ヘルパーにも同様に人権が存在します。なんらかの法令などを制定するなり、役所がカスタマーへの指導・警告等、踏み込んでいく時代がきていると思います。
ラポールの喫茶について何度も陳情に伺っていましたが、何の支援もありませんでした。現況、大きな赤字は長年の喫茶への人件費捻出が一因です。この様なアンケートをされるのには大がかりな支援がある事を期待して止みません。
・福祉の人員不足により、サービスにつなげようとしてもなかなかみつからず苦戦しております。（特に居宅や移動支援） ・もう少し計画相談事業所が増えれば、全員ではないですが、中には必要だと思うが人員的に難しく…ということもあります。・支援課も忙しく手がまわらない状況であることはわかりますが、もう少し窓口へ来られた方の対応を丁寧にしていただければと思います。（内容の把握とつなぐ視点） ・新規参入の事業所も多く、いろんな事業所が参加しやすい勉強会や情報交換会ができればいいと思います。 ・一事業所で精神科病院とのやりとりは難しいこともあると思います。市も一緒に考え、フォローすることが大切だと思います。
「福祉で雇用」（Ａ型）という事がどれだけ大変か…という事で悩んでいます。事業所への支援はありがたいのですが、それに伴う書類作成がとても苦痛です。申請プロセスがもう少しわかりやすかったら助かります。このアンケートも電子で回答できれば…と。
・日中一時支援の１８日／月を１／４ずつ算定できるようにしてほしい。・放デイ、生活介護ともに月２７日以上利用できるようにしてほしい。重心医ケア（医ケアがなくても）の人たちにとって家族の介護負担が大きすぎる。月～日まで利用できる制度が必要。（家族の生活、本人の生活は分けて考えられるように）移動の支援の単価が重心医ケアの人に合っていない。サービスを提供したいが、安すぎて人を手当てできない。

第５章　「障害者団体」調査結果

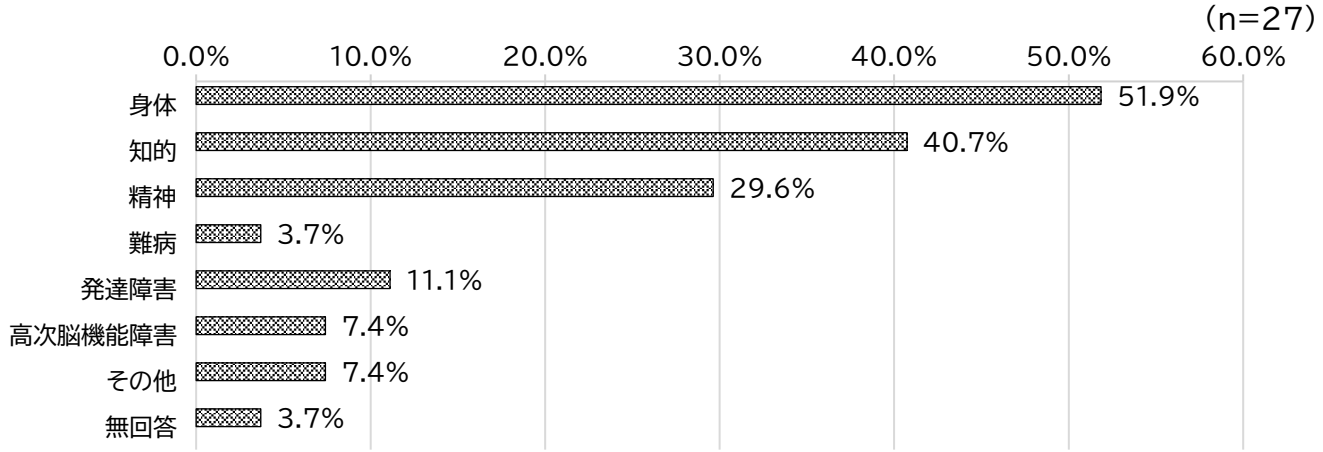
第１節　自由意見

第１項　団体の活動状況

主な障害種別（該当する番号１つに○）

回答団体の主な障害種別については、「身体」が 51.9%と最も多く、次いで、「知的」が 40.7%、「精神」が 29.6%などとなっています。

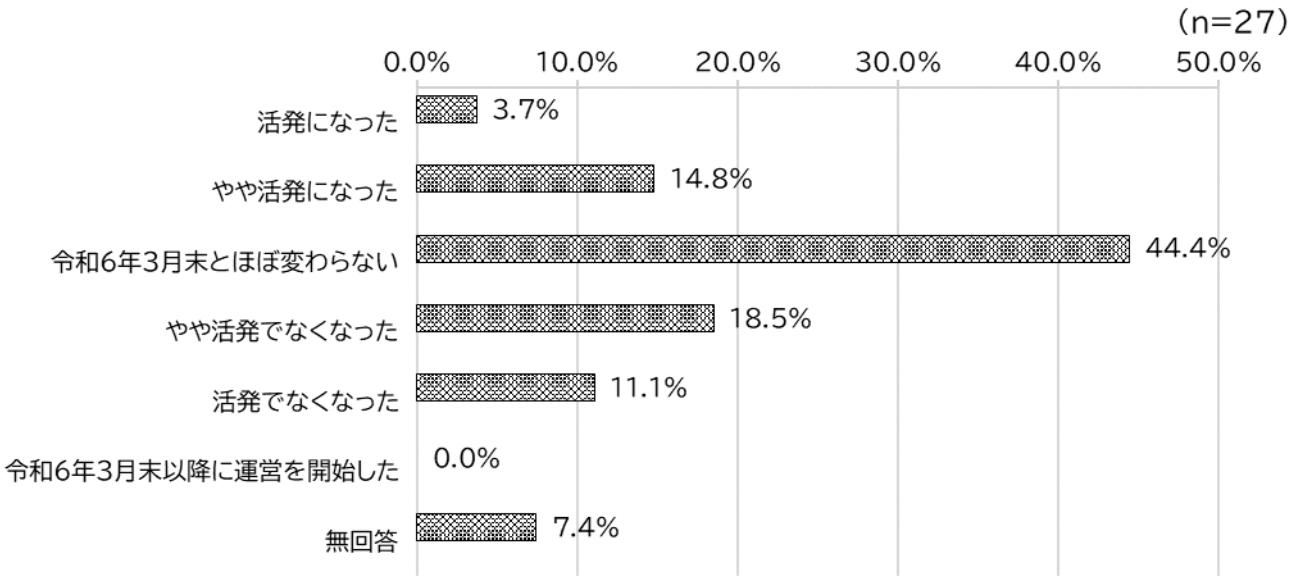
■【回答団体の主な障害種別】



令和６年３月末と比べて、貴団体の活動状況はどのように変わりましたか（該当する番号１つに〇）

団体の活動状況をみると、「令和６年３月末とほぼ変わらない」が 44.4%と最も多く、次いで、「やや活発でなくなった」が 18.5%、「やや活発になった」が 14.8%となっています。「令和６年３月末以降に運営を開始した」という回答はありませんでした。

■【団体の活動状況】



（１）　施策基本目標への意見

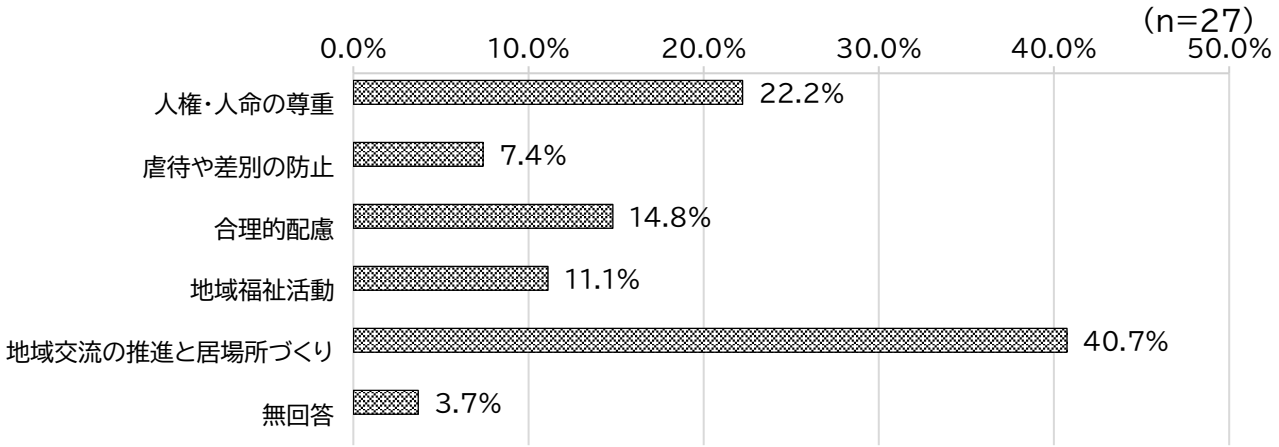
５つの施策基本目標それぞれの囲みの中に、計画記載の施策を〈選択肢〉としています。いずれも大事な施策ですが、特に取り組むべき施策はどれか、該当する番号１つに○をしてください。 また、５つの施策基本目標それぞれについて、貴団体で取り組んでおられることや市が取り組むべき課題への対応等、ご意見をお書きください。（特にご意見がない項目は空欄のままで結構 です）

①　市民啓発及び地域との交流の推進

市民啓発及び地域との交流の推進において、特に取り組むべき施策として、「地域交流の推進と居場所づくり」が 40.7%と最も多く、次いで、「人権・人命の尊重」が 22.2%となっています。

主な意見としては、地域で交流できる場所や交流機会の提供や、障害者に関する理解促進のための啓発の充実などについて複数の意見があげられています。

■【特に取り組むべき施策：市民啓発及び地域との交流の推進】



主な意見：市民啓発及び地域との交流の推進
１～５はすべて密に関連しており全て大事かと思いますが、まずは当事者を、まずは人として知ってもらうことが大事かなと思います。
人数が少なくなったので当事者の意見が聞けない。
普通の交流が出来にくいのでヘタすると誰とも喋らず一日が終る日が続く事もあるので、地域的に交流出来る場所が出来たら幸いです。（サークルも継続が難しくなる時が来るかと…）
人権、人命が根本ですが、囲い込みではなく何処でも誰でも同じ人間として、地域社会で過ごせる配慮の気持を受けて、障害の枠をこえてそれぞれ出来る事を社会に還元できる様に活動しています。

視覚障害者のことを、正しく理解してもらう啓発の場を多くもうけること。
宮之阪の七夕まつりに出店しています。手話でのコミュニケーション手段があること、聞こえない人も参加することで身近に聞こえない人がいることを地域の方々や子供達に知らせています。聞こえないろう者（手話を使う人）が、身近に居ることを知って頂くために地域の方々に理解をして頂き交流の場を設けて頂きたい。
交流の場として主にラポール枚方を利用させてもらっています。他の施設でも無料または低価で利用できたらと希望します。
１、２については、障害への理解ではなく、全ての方々に必要な事です。障害のある子どもを授かると誰も思っていなくて、授かった親の気持ちや家庭の負担、将来への不安等、少しでも気持ちが落ちつくためには、身近な方の支えが必要です。保健センター、病院の次は保育所等、子どもが安心して過ごせる場所から考えていただきたいです。
１．孤立化を防ぐための居場所づくり。２．この障害の認知度が低く、一般の方に知ってもらう啓発活動。以上のことを目標としている。
私達の会は、枚方市内における数少ない心の病の自助グループとして、２００１年発足以来、２４年に渡って活動を続けてきました。当初は社会福祉協議会やボランティア団体の手厚い支援に助けられていましたが、近年はすっかり手薄になったと感じています。枚方市の施策と聞いても、私達の活動とは遠い隔たりを感じてしまいます。再び地域福祉活動が活発になることを願って止みません。
障害のある子も無い子も、何か一つのことを取り組んでみたらどうか。パーキンソン病全国友の会所属。最初のうちは（病気の軽いうちは）活動できるが、病気が進んでくると会合など参加が難しくなってくる。トイレの利用も難しくなってきて参加を遠慮するようになる。高齢者のトイレの利用も少し数を増やしてほしい。
・「合理的配慮」という言葉はいくらか浸透してきたように感じるが、配慮を意識してどんな場面でも対応してもらえるまでには至っていない。市で具体的な事例を紹介する講演会を開催したり、ポスター、ＳＮＳ等を利用した「行政にしか出来ない、よく目にする」啓発などをしてほしい。事例については「教育の現場編」「お店編」など具体的に紹介して連載にすると、いろいろな事例を知ってもらえるのではないかと思います。 ・合理的配慮について建設的な話し合いをする上で、“前例がない”とか“特別扱いできない”とか“もし何かあったら困る”とか、そのような発想をされてはそこで話し合いがストップすることになります。目的に応じて代わりの手段を見つける努力を双方でしていけば、現実なかなか浸透しづらい合理的配慮が身近なものになるのではと思います。
公的病院である市立ひらかた病院には、手話通訳の出来る職員を配置して下さい。
合理的配慮の義務化～、すべての人権及び基本的自由を享有し、特定の場合において、必要とされ、過度の負担を課さないもののはずです。合理的配慮さえ法令に基づき適切な対応に努めて頂ければ、この５項目すべての、バリアを取り除くことができ、特に相談窓口が盥回しにするのではなくしっかりと、対応すべきである。
アート創作活動に障害者・健常者・老若男女問わず共に活動できる場作りが必要だと思う。
難聴者に対する接し方・話し方など、まだまだ社会的に知られていない。
個人個人の障害を理解し交流を深めて行く、交流の場を作って行く。

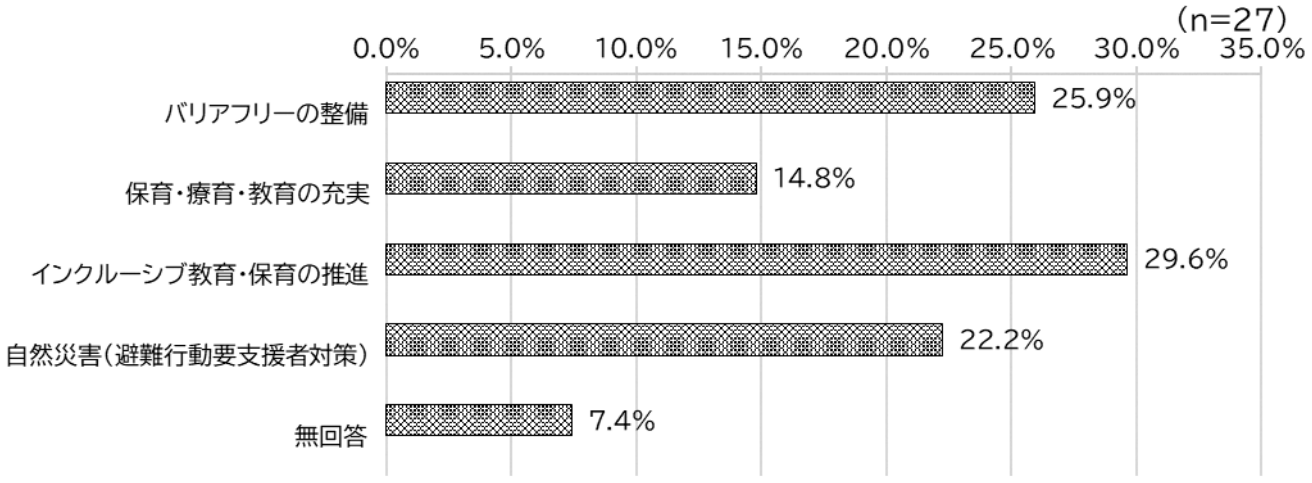
我々の団体に入っている親の子供は皆重度の身体・知的障害を持つ子供（皆成人）なので、昨今施設等での身体的精神的虐待のニュース等を見ると本当に心が痛みます。言葉を発せない人達も皆それぞれの人として幸せな日々をすごすため、かかわって下さる人々の意識の向上と介護のお仕事をされる方の待遇の改善を計って頂きたい。
特に家族として心配しているのは、親なき後の障害者本人の生活がどうなるかということです。とくに精神障害者の場合、例えば統合失調症の発症後数年間は症状が激しくて家庭内は地獄です。親のみならず、兄弟姉妹も巻き添えになり、それがトラウマとして一生付きまといます。親なき後、兄弟姉妹と障害者本人は一切交流が切れ、障害者本人は天涯孤独になります。地域福祉が頼みの綱です。
障害者が高校受験して、障害のない人との交流、教育機関への障害者の理解を深める啓発、学校での居場所を作り、安心して学生生活を送ることができるよう家庭と学校との話し合い、時には、中学高校に出向き、管理者との話し合いに同行して課題の問題点を解決につなげる
各地区でいろいろな催しがされています。体が動ける方は参加できますが、歩行困難等の送迎が必要な方など、参加が簡単にできない介護タクシーで 2～3 人相乗りの支援があればいいと思います。

②　障害者（児）が安心できるまちづくり

障害者（児）が安心できるまちづくりにおいて、特に取り組むべき施策として、「インクルーシブ教育・保育の推進」が 29.6%と最も多く、次いで、「バリアフリーの整備」が 25.9%となっています。

主な意見としては、障害の有無にかかわらず教育・保育を受けられる体制の整備や、公共施設やインフラ等に関するバリアフリー化の推進などについて複数の意見があげられています。

■【特に取り組むべき施策：障害者（児）が安心できるまちづくり】



主な意見：障害者（児）が安心できる街づくり
国連の勧告では、日本の特別支援教育でさえ差別的と述べていたように思います。子どもの教育が重要と思います。
一人暮らしが増えているので聴こえない由に災害時、アナウンスや呼び掛けに対応があれば助かります。
障害者（児）が一緒に生活の中で居るのがあたりまえの意識を生まれてから身近に感じられたら、自然と相手の事を思いやる気持や行動を考える事が出来て、助け合う事の大切さが身につき、困った人を助ける事につながると思います。
障害者だけでなく、バリアフリーを推進することによって、安心・安全に暮らす町作りができる。
当協会ではバンダナを作り、ろう者に配付しています。見た目には聞こえないという障害がわからない。同じ障害を持っている人がどこに居るのかわからないなど、ひと目で分かるように緑色のバンダナにコミュニケーションのとり方を書いています。当協会のフェイスブック等で配信しています。又、手話で話せる聴者用もあります。このバンダナも残数がありません。作成に支援して頂くか、市独自の物（目印）を作成してほしいです。災害時での情報を取得できるのは、視覚からです。又、手話での説明も必要です。情報を取れる場所を決めてほしい。
杖やカートを使っての移動では、道路のガタガタや歩道の狭さ、段差など危険と背中合わせが多いです。安心して移動できるような整備を希望します。
子どもの保育の充実は、親の心の成長にすごく大切だと思います。親が安心して子どもを育てられる環境ほどありがたいものはなく、親が努力して作れるものではない。
枚方市駅のロータリーなど工事中です。バス利用者がより安全で、利用しやすくなることを希望します。
上記の４項目においても、現場・現状との著しい乖離を感じてしまいます。行政が机上の空論を弄んでいるように思えます。もっと、当事者と向き合う姿勢を示していただきたいです。
パーキンソン、障害のある・なしに関わりなく、保育・教育が受けられるようインクルーシブ教育を進めて行ってほしい。
・学校の現場で、特別支援教育に関する知識や合理的配慮の意識について、支援級の先生方にはだいぶ浸透してきていると感じますが、通常級の先生方にはまだまだで、学校内での連携が上手くいっていない学校もあるようです。教師が変わる度にきちんと引き継ぎがされていないことも耳にします。学校で障害のある生徒も安心して過ごせるよう、障害当事者やその保護者などの話を聞く機会を大阪府ペアレントメンター等を使って、目の前の生徒への支援について考えてほしいです。
障害企画課とチャットを活用して直接に手話で話せるようにして下さい。
地域の小学校などで避難生活を送ることが難しい。安心して過ごせる場所を確保してほしい。（支援学校に避難するなど）自宅で過ごしていても救援物資を受け取らせてほしい。薬が確保できるか心配している。
この４項目の一つを選ぶのは、難しいですね。バリアフリー基本法に基づきと嘔って主張されていますが、実際は如何なものかハード面又ソフト面とどれを取っても中途半端な道路・交通・施設整備です。行動要支援者登録を、しっかりと把握し登録されていれば、少しでも自然災害のバリアが取り除くことが出来のではないか。
１つを選ぶのは難しい。障害者（児）が安心できるまちづくりは、高齢者も子供もみんなが安心で

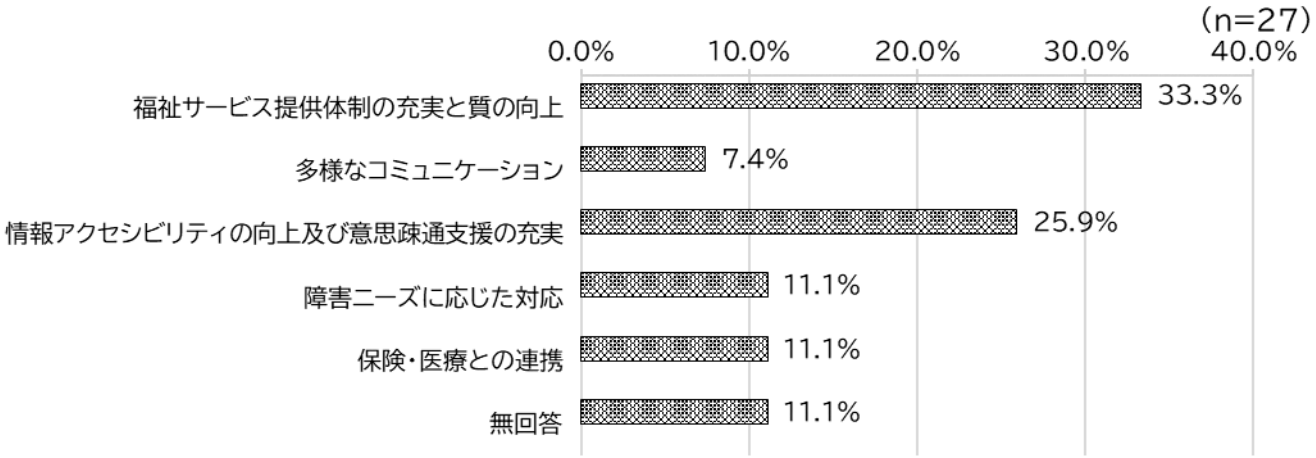
きることにも通じる。災害時はパニックにもなりやすく、避難所で過ごすのも難しい。
だれもが安心して生活出来る環境作り。
精神疾患、特に統合失調症は早ければ小学高学年から発症しますが、多くは思春期に発症します。親も本人も思春期特有の一時的なものと考えがちですが、統合失調症は心が崩壊する進行性の病気で後戻りできません。早期治療が鉄則です。中学・高校で精神保健のカリキュラムを設け、自分の心は自分が守るという意識を生徒さんたちに持ってもらうことが大切だと思います。
施設のバリアフリー化はもとより、全校にエレベーター設置要請する。学校での医療的ケアが必要な児童・生徒に対して親の付き添いを求めない。看護師設置・療育の充実
地域交流会が多いと支援が必要な人の情報が分かりやすいので災害時には近くの支援できる人の方が早くできる

③　安心して生活できるサービスの確保と提供

安心して生活できるサービスの確保と提供において、特に取り組むべき施策として、「福祉サービス提供体制の充実と質の向上」が 33.3%と最も多く、次いで、「情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実」が 25.9%となっています。

主な意見としては、福祉サービスを提供する施設の充実や、福祉サービスに関する情報を分かりやすい提供などについて複数の意見があげられています。

■【特に取り組むべき施策：安心して生活できるサービスの確保と提供】



主な意見：安心して生活できるサービスの確保と提供
知的、精神の人は自分の意思を伝えることに困難があると思います。成年後見よりも丁寧な意思決定支援の拡充を望みます。
働く親が多く、休日・放課後の支援又行く場が無い障害者が増えているのでは？話す事も無くもくもくとネット・ケイタイ・ＴＶ・ＹｏｕＴｕｂｅを見て過ごす事が無い様に、声を出せる会話が出来るコミュニケーションの場があると助かります。
市などの手続き等の封書が届いたり、文章・メール等での通知を当協会に持って来られて、内容を

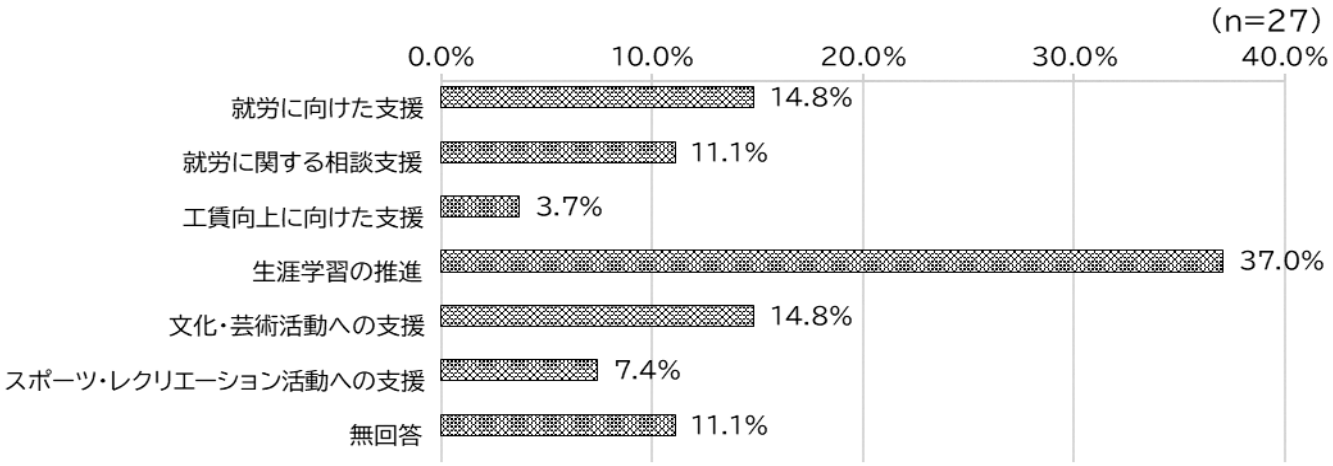
手話で通訳をボランティアでしています。通知文が日本語だとろう者は読解できなくて、生きづらい生活しにくい状況です。市役所閉庁時でも気兼ねなく手話で訳してもらえる場所を設けて下さい。
療育施設が少ない。学校では先生の手が足りてないように感じるので遠慮してしまう。放課後デイはとても助けられてるけれど、高校卒業とともになくなる。日中一時は、月に１６日しか使えないし、サービス内容も放デイとはちがう。
障害児・者が必要とする福祉サービスがわかりやすく、利用しやすいことが大事だと思います。
行政、医療機関、障害相談支援事業所、障害福祉サービス事業所の連携が必要。
福祉サービスの提供においても、年々、質と量ともに低下しています。たとえば、『計画相談支援』の利用者が２割に満たない現状を、枚方市役所はどのようにお考えでしょうか？後に続く障害者団体アンケート②において、各種福祉サービスに対する意見を求められていますが、その中から『計画相談支援』がすっぽり抜け落ちているのは、どのような意図があるのでしょうか？
子供同志の意思疎通の充実に取り組む。多様なニーズに応じた対処をしていく。
・「誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できる」。とても大事なことだと痛感しています。会員さんのアンケート回答で実際に経験した話として、家族が急遽入院することになりショートステイを連泊利用したかったが、枚方市の障害者向けショートステイは１～２泊までの利用しかできないとのことで高槻市のショートステイを４泊利用したそうです。そもそも枚方市では緊急時にどれくらいショートステイを利用できるのか、知らなかったのでとても不安だったようです。「枚方市でも緊急時にある程度連泊出来る施設がほしい」とアンケートの回答がありました。枚方市では相談支援事業所を利用することがとても難しいので、いざというときどこで情報をもらえるのかよくわからないことだらけです。・事業所情報など、ホームページも、もっとわかりやすくしてほしいです。事業所一覧も見づらいです。他に、・日中一時支援の事業所の充実。・放課後等デイサービスで年代別の特色を活かした事業所があるとありがたい（近隣の他市にはあるが枚方市には中高生向け、もしくは就労準備型のデイのような事業所が少ない）
放課後等デイサービスが、法改正の影響で使いにくくなった。仕事を調整せざるを得ない状況。交野支援四条畷校から、学校→放デイへの送迎に対応できないかも、と言われた。保護者が送迎するのは負担が大きすぎる。ショートステイが使いたくても使えない。
安心して生活のできるのは、特に障害が重い方は、保健・医療の連携であり、福祉サービスの提供体制の充実と質の向上であると考えます。
１つを選ぶのは難しい。保育・療育・教育、大人になってからの施策が一貫して必要。枚方に支援学校ができたが、いっぱいで四條畷へ行っている子もいる。障害があっても適切な教育が受けられる様、枚方にもう一校支援学校が必要。
地域で障害者が自立した生活を営むとき、必要になるのは 24 時間 365 日絶え間のないサービス提供体制です。そこには、医療も入ります。困ったとき、苦しいとき、不安な時、すぐにサービスにつながる体制があれば、それだけで安定した気持ちで地域生活ができるのではないでしょうか？
通級教育、支援学級、個人的支援教育も大事ですが、インクルーシブ教育で障害のある子もない子も共に学び育つことが大切。別けない教育、人にやさしく安心して生活はみんなと同じ。当たり前の生活を望んでいます。

④　自分らしい生き方を見つける・選ぶ

自分らしい生き方を見つける・選ぶにおいて、特に取り組むべき施策として、「生涯学習の推進」が 37.0%と最も多く、次いで、「就労に向けた支援」と「文化・芸術活動への支援」が 14.8%となっています。

主な意見としては、スポーツ・レクリエーション等を行う環境整備や、障害の状況や本人の希望に沿った就労支援の充実などについて複数の意見があげられています。

■【特に取り組むべき施策：自分らしい生き方を見つける・選ぶ】



主な意見：自分らしい生き方を見つける・選ぶ
自分の希望する仕事、自分が向いている仕事につけていない現状が多く見うけられます。多様な就労に向けた支援が必要です。
学校卒業後の進路先で悩む方が多い。就労の豊かな支援を望みます。
自分らしい生き方を見つけるには、好きな事・好きな物・やりたい事を興味を持った事をもっと知りたいという意欲とわかった時、出来た時の達成感が生きがい・生きる喜びになり生き方になると思います。
当協会では、「手話でわかるろう者の勉強会」を定期的に行っています。学べたり知識や経験できる場を設けてほしい。聴者用の〇〇教室などが有り、手話通訳が付くのはうれしいですが、聴者用のペースで進められるので、ろう者には学び難いので自分らしく（ろう者らしく）生き方を学べる場を設けてほしい。
とかく家に閉じ込もってしまいがちですが、体を動かし、他の人々と交流できるスポーツ・レクリエーションは楽しく外に出かけられる機会になると思います。
事業所と家との往復だけにならないよう、学べたり、スポーツをしたりできる場所があると嬉しいです。そこまでの移動支援も含めて。
障害があるとなかなかお仕事をするのは難しいのですが、小さなことでも、できることを増やし社会につながることを望みます。
就労の困難さ定着率の低さが大きい。
パーキンソンに関する相談支援。就労（職業）に関する相談。

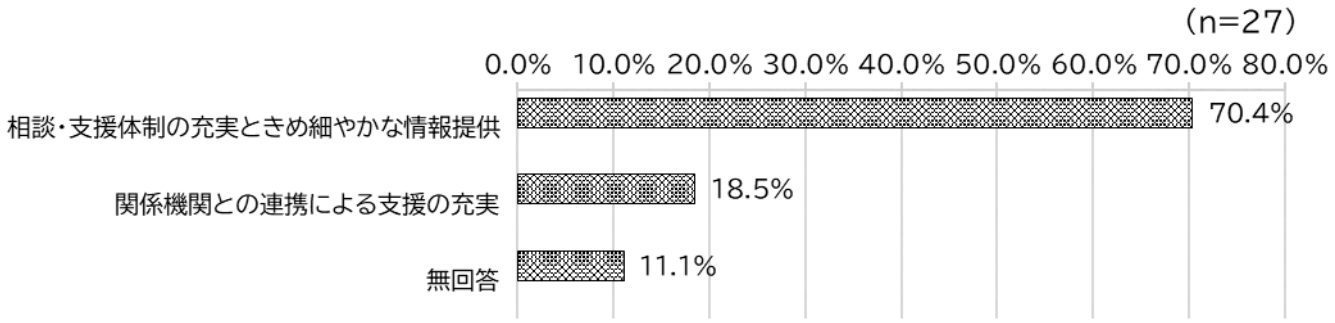
昨今の枚方市役所における、就労支援Ａ型事業所、Ｂ型事業所への施策は、まったく的を得ていないものだと感じています。すべての利用者が一般就労を目指しているわけでも、工賃の向上を望んでいるわけでもありません。一方的な価値観で、福祉事業所をコントロールしようとするのは間違いです。その皺寄せはすべて、利用者である私達に及んでくるのです。
・高校を卒業して児童デイサービスが終了すると、計画相談を受けることも出来なくなり支援が届きません。就労移行支援のことを知ることが出来ない人もたくさんいます。大学の就職課に行けば理解はありますが、アドバイスをくれるだけで、実際就活をすすめていくのは難しいです。当団体で、発達障害に特化した就労移行支援事業所の方に来てもらって講演会をしたり、紹介などをしたことで繋がった方もいますが、ぜひ市でもこのような情報提供や企画をしてほしいです。
日常生活を営むための最低限の支援はあるかと思うが、余暇を楽しむ環境は整っていないと感じる。日々の生活を「楽しむ」ための支援にも焦点を当ててほしい。
障害の程度により、考え方も違ってきます。就労に向けた相談支援があり、ご自分の特技を生かす支援も必要と考えます。
障害者の心のすきまをうめる活動。
いつでも人生をやり直せる社会は、どんな状態にある人も希望をもって生きられるでしょう。仕事だけではなく、趣味や地域活動に参加できるよう、いつでもだれでも学べるなら、より積極的に生きようと努力するでしょう。それが社会全体を活性化させると思います。
すべての人に学ぶ・知る・楽しむ権利がある。学校生活・余暇活動において、自分らしい生き方を見つけ「選択」して相談と支援が必要
各地域の学習センターで催しがありますが参加費の有料が増えて千円以上のため、高齢者や障害者の方が参加しづらい。できればワンコインで催しがあれば参加しやすいと思う。

⑤　身近な相談窓口の充実ときめ細やかな情報提供

身近な相談窓口の充実ときめ細やかな情報提供において、特に取り組むべき施策として、「相談・支援体制の充実ときめ細やかな情報提供」が 70.4%と最も多く、次いで、「関係機関との連携による支援の充実」が 18.5%となっています。

主な意見としては、情報提供体制の課題や、関係機関の連携強化の充実などについて複数の意見があげられています。

■【特に取り組むべき施策：身近な相談窓口の充実ときめ細やかな情報提供】



主な意見：身近な相談窓口の充実ときめ細やかな情報提供
良い相談員と出会えるととてもいい支援に結びつけますが、そのようにうまく利用できている障害者、ご家族は少ない印象です。理由はまだよく分かっていません。
まずは相談・支援体制で支援の方法と思いますが、情報提供するにあたって関係機関とは連携していると確信しています。
特に視覚障害者は、情報の入手が困難な障害者であることを、理解してほしい。きめこまやかな情報が必要。
当協会に相談に来られるろう者もいますが、相談として受けられない内容もあります。どこを案内してよいのかわからないです。相談者のことを理解し相談できる場が必要です。来年度から、わらしべ相談支援センターがなくなり、今ろう者はどこに自分達のことを理解してくれて、堪能な手話で対応してくれる所があるのか不安をかかえています。
適切な情報を適時得られることが必要です。
卒業後の進路が合わなかった時等、相談しやすい場所がほしい。
障害者の親の高齢化が進み、入院などの時に支援していただける場所があると助かります。
この障害を深く理解している機関が少ない。
常に私達は、正しい情報から隔離されていると感じています。情報を求めても、曖昧なその断片が提示されるのがせいぜいです。正しい情報を枚方市役所が掌握しているかどうかも、判然としていません。情報の重要性を切実に感じています。
障害のある子供にも、芸術作品や音楽など見たり聞いたりさせてやりたい。
私たちの言語である手話で相談、支援や情報を受けられるようにして下さい。
合理的配慮に繋がることで、相談支援体制の充実に取り組むべきであり、関係機関との連携強化に繋げてほしい。
介護保険制度のようにケアマネージャーさんを置いてほしい。
入所施設等の相談に行っても、一覧表を渡されるだけで自分で探さざるを得ないのはおかしい。
ワンストップの相談・支援体制があれば困ったとき相談に行きやすいと思います。場所的にもできるだけ近くにあった方がいいでしょう。相談・支援の場所の問題と質の問題がカギを握ると思います。
「障害者」が学校生活を充実して楽しく生活できるように守るべきルールを学びながら、関係（学校）機関との相談、課題解決のため、支援体制の連携と情報提供する。
・未就学、学齢期～成人まで、枚方市では一貫して相談できる場所がないと思います。本当は子ども発達支援センターのようなところには１８歳までの子どもたちがみな療育や相談に行ける場所であってほしいと思います。また、学齢期に上がって、もしかしたらうちの子障害があるかも？と思ったときに、どこに相談したらよいのかわかりにくいという声をちらほら聞きます。まるっとこどもセンターになるのかもしれませんが…。・枚方市は保護者によるセルフプラン作成を可としているが、児童のうちから生涯に渡って支援が連携していくためには、障害児の計画相談支援が必要。実際に障害児相談を看板に掲げていても実施されてない事業者もあり、児童から相談できる人や機関をもっと増やしていかないと、問題が起こってから路頭に迷う本人や家族を減らすことなどできないと思います。

（３）　質問２－１　人材の確保

障害者の支援などの活動を担う人材を確保するために、期団体で取り組んでおられることや市で取り組むべき課題等、ご意見をお書きください。

①　貴団体での取り組み

団体での取り組みに関する主な意見として、ボランティア充実の必要性や、高齢化・後継者不足による活動継続の不安などについて、複数の意見があげられています。

主な意見：貴団体での取り組み
障害者に理解のあるボランティアの方が参加出来る様にしたいです。
みんなで集まることを多くして、話す機会をもつことで、リーダーをはっくつする。
手話通訳者の育成、資格取得の支援、当事者自身が支援を担えるように当事者の育成、手話普及（手話教室等）
障害者自らが活動して運営委員を構成しているため、後継者の育成が難しいです。会報で広く人材を募集し、個別に声かけなどを行なっています。
差し迫った課題ですが出来ていない現状。高齢化、自分自身の家庭だけで精一杯の方が多い。
現在、ボランティア団体との繋がりを強めて、広く地域に支援者を求めています。
１９６７年（昭和４２年）に発足して以来今日まで続いておりますが、当初はＣＰや脊損の方が多く、リハビリ（療育）教育の充実求めて参りました。時代の変化からＮＰＯ法人を立ち上げ、事業所の運営や、啓発活動・ボランティア活動も進めてまいりましたが、高齢化と障害の重度化に負けました。
広報などによる障害者の仲間作りに居場所作り、心のすきまをうめる会の開催など、楽しく生活及び他の会員をはげます活動の展開！行事の開催。
毎月１回家族集会を開き、悩み相談や病気・制度等の勉強会を行っています。専門家の方にお任せするだけでなく、家族も支援の一員として専門家の方と連携できる方が、効果があると思います。

② 市で取り組むべきこと

市で取り組むべきことに関する主な意見として、福祉サービス従事者の待遇改善などについて、複数の意見があげられています。

主な意見：市で取り組むべきこと
それだけではないですが、平均給与は低すぎるので補助は必要です。
あらゆる委員会に、視覚障害者を参加させること。
手話通訳者の資格取得の講座の開設。当事者（ろう者）の指導能力向上の講座の開設。当事者（ろう者）と聴者（手話習得者）の相談員の育成。
支援活動を教育の一貫として行ない、中・高生レベルから興味を持ってもらう。
グループホームの世話人さんが足りません。世話人さんの学習会はもちろんですが、市独自のＰＲ作戦をしてください。
居場所作りの場所の提供。啓発活動への協力。
まずは一度でも当会に赴いて、我々、当事者の声に耳を傾けていただきたいです。少なくとも過去１０年において、枚方市役所の障害福祉担当者が、当会に訪れたことはありません。
ラポールや消防署の窓口受付に遠隔手話通訳のためのタブレット端末を設置して下さい。各大病院には診察時間内外等に二次元コードを読み取って遠隔手話通訳をお願いします。とても良い制度である遠隔手話通訳の利用時間を延長して下さい。
障害福祉サービスで働くのに魅力ある仕事内容・諸条件を整える。
各団体のＰＲをお願いしてください。巷では、ご自分たちの仲間で新しい組織を作ればよい、と思われているようですが、市もそれに向けて流されているのではないでしょうか？
問１－１でも答えましたが、人材不足の中介護のお仕事をされている方々の賃金・仕事内容等きついものがあると思います。そうしたストレスの中でのひとつの問題として利用者（入所者）さんに手を上げてしまうなどの、良くニュースで出ているような心の痛い事態も起こってくるのではないかと思います。介護される方も介護する方も幸せな状況を作る為には、介護現場の待遇改善を望みます。
市として国に対し、福祉職員さんの給料を上げるよう要望していただきたいです。新卒の入職者がほとんど来なくなったと聞きます。待遇が悪いとマスコミでも報じられており、若者ご本人は福祉の現場に就職したくても親が反対する場合もよくある話です。
障害者の保護者。元小・中学校教育関係者から成り立ってます。

（４）　質問２－２　支援の届きにくい人たちの把握

①　貴団体での取り組み

団体での取り組みに関する主な意見として、支援の届きにくい人へのアプローチの難しさや、相談先を周知する取り組みなどについて複数の意見があげられています。

主な意見：貴団体での取り組み
いわゆる支援のはざま、グレーゾーンの発達障害などの人が２次障害を発症するケースが多いようです。すべての人の底上げが必要？
サークルに誘う声かけ。
当協会では取り組んでいません。ろう者からのうわさや情報のみです。
会に出席出来ている方はまだ良いが、ひきこもりの状態の方への支援方法が判らず苦慮している。
ホームページや公式ＬＩＮＥ、インスタグラムなどのＳＮＳや、枚方市の広報などで告知して、常に会への参加者を募っています。
アルコールとかギャンブルなど関係ありませんが、支援の届いていない又、届きにくい方へのアプローチが必要である。包括的な考え方が必要ではないか。
精神疾患を抱えたご家族がどこともつながりを持たず、苦しんでいる事例があります。市内各地にもおられると思います。今年 11 月から孤立した精神障害者とご家族に向けて枚方工法の短信コーナーに相談会を家族によって行うお知らせと乗せていただきました。毎月「相談会」を開催する予定です。
障害者に学習支援・通学支援。介助者、看護師、理学療法士他、配置の充実。障害者も高校受験していろいろな進路があることを周知してほしい。

② 市で取り組むべきこと

市で取り組むべきことに関する主な意見として、障害者団体との連携や、地域における周知の必要性などについて、複数の意見があげられています。

主な意見：市で取り組むべきこと
いわゆる支援のはざま、グレーゾーンの発達障害などの人が２次障害を発症するケースが多いようです。すべての人の底上げが必要？
成人の方ですので意思の尊重での取り組だと思います。ネット環境でのコミュニケーション、Ｚｏｏｍでもイロイロと興味がもてるＷｅｂコンテンツを発信してはどうでしょうか？
障害者手帳を持っておられる人への生活等のききとりをして、困っていることやひきこもりなども把握をしてほしい。
ひきこもりの人たちのために、相談はもちろんですが、外出できるようになるきっかけとして、サークル活動、ボランティア活動などができるといいのですが。
枚方市が独自に行うのではなく、既成の各団体との連携を重視していただきたいと思います。各団体それぞれに、これまで蓄積してきたものがあるはずです。
市内校区で各地区毎に青年毎の出し物をする。時間は１時間以内とし、各地区毎の出し物を。
人のひきこもりの方の中には不登校からひきこもりへ移行するケースや、アスペルガーや高機能自閉症の割合も多いと思いますので、学校の協力を得て、不登校や不登校気味の方、アスペルガーや高機能自閉症の方の追跡調査を行うなど、教育と福祉とで連携し情報共有ができるようなシステム作りがあってもいいのではと思います。また、何か起こる前に小さい頃からどこかと繋がれるような、気軽な相談窓口の充実が必要だと思います。
成人されてから軽度の知的障害手帳は無いけれど生きづらい働けない方々、そういう方々がだんだんと高齢になり仕事をしていたけれど、年令的に働けなくなっても年金もなく、住むところもない、そんな人たちのために大人になっても療育手帳等に変る何かがもらえるとか、そういうことはできないのでしょうか。身体・精神・知的など手帳を持っておられる方々より困ってられると思います。
市内の各自治会に回覧を回してもらうのはどうでしょう。後方にあまり目を通さない人も、回覧なら割と目にされるのではないでしょうか。相談所の種類や場所、電話番号など、知らせれば相談する人がでているかもしれません。
不登校児、成人の引きこもり。一人で悩まないで、相談できるところへ行き、課題解決に導き、情報提供する。

2　障害者福祉サービスについて

◆次の①～⑥の事項について、ご記入ください。

◆「不満な点や利用しづらい点」「こんなサービスがあればよいと思うこと」の欄には、障害福祉サービス等について、不満な点や利用しづらい点、こんなサービスがあればよいとお感じになっていることをお書きください。

◆「その他の補足意見」の欄には、その他、ご自由にご意見をお書きください。

（1）　不満な点や利用しづらい点

サービスの区分ごとにあげられた「不満な点や利用しづらい点」をみると、訪問系サービス、地域生活支援事業、居住系サービス、日中活動系サービスについての意見も多くあげられています。

特に、事業所の少なさやサービス提供の担い手不足などについて、意見があげられています。

サービスの区分	不満な点や利用しづらい点
①訪問系サービス［居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援］	そもそも重度訪問介護の事業所が少なく、利用しづらい。
	同行援護→ガイドヘルパーの不足と養成研修の市によるとりくみ。当事者が望む、月の利用時間をあたえることを望む。個人負担の一割を無くすことを希望する。
	サービスが必要な人はいますが、コミュニケーションがとれないから使えていない。手話で話して説明などきちんとしてほしい。選択できるようにしてほしい。
	ガイドヘルパーさんが少ないので、なかなか外出できません。
	ヘルパーの不足。重度障害者ですらヘルパー不足が云われている。ヘルパーの待遇改善が急務。
	ろう者に利用できるサービスの情報がない、解らない、知らない、選ばれない。
	通院のつきそい、家族とバスで通院する時に使っているが、本当は車で通院する時も使いたい。家族が運転する車には同乗できず、現地で、となるとヘルパーさんにとって不利な状況になるので無理で、困っている。

	例会ほかに医療等の諸々行きたいが、介護タクシーが高すぎる。
	引きこもりの精神障害者の方の自宅を訪問し、家族やご本人の相談・話し相手をする制度が乏しいと感じます。保健所に相談員さんがいますが、人数が少なすぎます。
	介護者・支援員不足なので人材育成と近所に利用できるところがないので、事業所設置を増やしてほしい。（人手不足でガイドヘルプ・通学支援できるところが少なくなっている。）
	重心の場合、居宅も重訪も内容的には変わらないはず、これをなぜ重訪・居宅を分ける必要があるのか…？必要な内容を吟味して時間を配分すれば。
②日中活動系サービス［生活介護、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労選択支援、就労定着支援、療養介護］	B型：時給安い上、バスの運賃補助がなくなり困る。代わりに京阪電車の割引ができても、精神２級では１００ｋｍ以上と、日常生活では使うことはない。送迎している所も少ない。・仕事の内容が柔軟性に欠け、本人にあった仕事ができない。
	障害枠で入社してイジメられる事があります。頑張って就職してダメージを受けるので、就労移行は本当にむずかしいです。
	理学療法やリハビリを常時受けられない点。現在は手術後は一定期間のみ保険で受けられますが、手軽に長期続けられたらと思います。
	この障害に対する認知度の低さが根本の問題。（認知症、発達障害に比べ絶対数が少ないことが問題か。８０%が脳卒中が原因ということから高齢者が多く、尚更若年層が少なく取り残されているのではないか。
	ショートステイでは寝てばかりの人が多いので何かさせてほしい。
	☆生活介護について ・利用時間をもっと長くして欲しい。（学生時より帰ってくるのが早い） ☆就労継続支援Ｂ型について ・工賃が低過ぎて、当事者のモチベーションが上がらない。
	事業所の取り組みが分かりづらいことがある。
	報償費が安い、人材不足、就労支援Ｂ型の工賃が大阪府の平均１８０００円高額にはほぼ遠い、職の紹介斡旋はできないか、Ａ型の障害者就労加算にも問題があるのではないか？事業所が増加しサービスの提供機会が拡充し、市の果たすべき役割が小さくなったとか、それはおかしい…サービス低下とただ預かりで無事一日時間が過ぎればよいと考えているからで、本当の福祉ではなくなっている。

	就労後の障害者の支援は送り出した施設が 6 か月までは行わなければならないが、6 か月を過ぎた後は就ポツに任せてしまう傾向があると聞いています。就労後の支援は必要に応じて期限なしに実施するように指導できないものでしょうか。
	療育手帳Ａを持つ娘が就労Ｂ型利用していましたが、仕事内容に不満を持ち、精神的に不安定になってきたので生活介護にかわりました。個人ができるような体制に工夫してほしかったです。障害者ファーストで取り組んでほしいです。
③居住系サービス［短期入所（ショートステイ）、共同生活援助（グループホーム）、施設入所支援、自立生活援助］	グループホーム（ＧＨ）：人材不足のせいか、各ＧＨ独自のルールなどがあり、自由を制限しがち。障害の特性を無視して、臨機応変な対応をしない。ＧＨの合理的・効率的なルールを押しつける。※外出したいなら、数日前に予約してくれ等。※障害支援区分〇以上は１人で外出不可など。
	ショートステイ、グループホームに入所したいと思っているが、空きがなくことわられるばかり。
	視覚障害者のグループホームを、見当していってほしい。
	利用したいが不安（話せない、話してもわかってもらえない）、何をされるかわからない。
	グループホームを利用していますが、土・日が利用できないので困っています。
	ショートステイ等サービスを利用したいが、コミュニケーションが出来ないから利用出来ないし不安がいっぱいです。
	３ヶ月先の予約を取るにも予定が分からない。でも直前では予約できなくて困る。事業所の数がそもそも少ない。（ショートステイ）
	ショートを市内でお願いをできるような施設がありますか？緊急の場合、市内になければ他市にお願いになるのではないでしょうか？もともとショートをされている施設は、その施設を利用されている利用者さんが優先です。市として喫緊の課題と認識しているのであれば、親亡き後の終の棲家も同時進行でお願いしたい。
	グループホーム、週末の行き場所探し。
	・土・日とか連続でショートを使いたい時に見つからない。 ・緊急で親がみられなくなった時に、即利用できずに困った。
	グループホームの報酬単価が低すぎます。これでは若い新卒どころか、主婦をしている方もほかの業種に行ってしまいかねません。
	短期入所（ショートステイ）の利用日数が少ない。

④地域生活支援事業［障害者相談支援事業、移動支援事業（ガイドヘルパー派遣）、障害児通学支援事業（通学ガイドヘルパー派遣）、日中一時支援事業、意思疎通支援事業、地域活動支援センター事業、日常生活用具、給付等事業］	移動支援、特に通院に援助の手をさし伸べて欲しい。
	対応する品目の見直しと物価が上ることによる現在の品目の金額の見直し。
	この障害に対する支援について大阪府と市（堺市、京都市を除く）の間に温度差が大きいと感じます。（枚方市に限らず）非難するのではなく何が原因なのかが知りたい。予算、人員、優先順位？
	☆相談支援について ・相談支援事業所の充実を望みます。 ・相談支援事業の計画相談ができる事業所が少なすぎる。支援学校卒業前に相談支援事業所と繋がることを勧められたが、実際には受け入れてもらえるところがほとんどなかった。 ・セルフプランでは情報がなさすぎる。セルフプランだと、何かあった場合、家庭だけでは対応しきれないのが現実。 ・セルフプランだと孤立しがち。個人で自分にあった福祉サービスを探すことが困難だと感じる。障害のある人が必ず相談支援事業所と繋がり、できるだけ安心して暮らせるようになってほしい。 ・高校を卒業し、大学や専門学校へ進学すると、児童デイサービスは終了し、相談支援も終了となり、支援が届かない。 ☆移動支援について ・移動支援を使いたくても、発達障害にありがちなこだわりで、初めての人、初めての行動パターンに対応することが苦手だったりするので、担当者が変わる移動支援は、ずっと利用できないままである。 ・支援区分５だが、療育手帳Ｂ１だと本人の交通費、ヘルパーさんの交通費ともに割引がないため費用負担が大きく、つらい。 ☆地域活動支援センターについて。 ・もっと障害のある人のいる家庭に情報が届くように広報してほしい。 ・発達障害のことをどれくらい理解してくれているのか不安。それぞれの地域活動支援センターを作って（増やして）ほしい。
	日中一時支援の支給時間が短い。地域活動支援センターの取り組みはよいと思うが、平日の、その時間にどうやって利用するのか？（生活介護を休んで？）と思ってしまう。ガイドヘルパー土曜日利用を問い合わせたが、その後連絡がなかった。
	地域生活支援事業は、なくてはならない事業だと思います。ただ、地域生活支援センターがなぜ必要であったか、創作的な活動、生産活動、日常生活援助、これは就Ｂも生活介護も全部同じ支援を行っているのではないか。障害者相談支援事業所の在り方（相談しやすい事業所又は場所）日常生活用具の給付事業は、判定機関を枚方市に置く。大阪府に働きかけてください。

	手話が通じないからめんどう。不安、腹が立つ。
	・男性のガイドヘルパーさんがいなくて困っている。 ・ガイド２人付きでしか出られない子なので、回数が制限される。
	視覚部他、ヘルパーさんが少なく、日常生活が行動がしにくい！
	親子二人住まいの障害者家族の場合、健常者である家族が急病で入院することになった場合、障害によっては一人で家にいること、食事などできない場合があります。そんな時、短期入所できる施設を探さねばなりません。私たちの団体でも数例ありますが、一緒に移動していただく期間はどこになるのでしょうか？
	人手不足ということもあり、ガイドヘルパー事業利用したいが、なかなか利用しにくい。移動支援事業、日中一時支援事業の利用充実と数を増やしてほしい。
⑤障害児支援［児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援、福祉型児童入所支援、医療型児童入所支援］	枚方支援学校が過密過大なので、枚方、交野地域に支援学校を作ってほしい。
	放課後等デイサービスの質にばらつきがある。法改正で利用時間が変わり、仕事を調整せざるを得ない。急に閉所になり困った。
	障害児支援も障害者も同じではないの…？
⑥以下の施設における障害児受け入れ［保育所、幼稚園、認定こども園、留守家庭児童会室］	障害があると幼稚園に入れませんでした。
	少し前の話になりますが、保育所入所にあたり、知的障害がないから加配をつけてもらえなかった。公立の幼稚園で行事の参加を見送るような言い回しをされた。
	重層的支援体制と合理的配慮がしっかりと連携を取り、取り残しが無いように。留守家庭児童会室も共働きのお子さんたちを、守ってください。

（２）　こんなサービスがあればよいと思うこと

サービスの区分ごとにあげられた「こんなサービスがあればよいと思うこと」をみると、居住系サービス、地域生活支援事業についての意見が多くあげられています。

特に、グループホームの整備やショートステイのサービス拡充、ガイドヘルパーの増員・サービス拡充などについて複数指摘されています。

サービスの区分	こんなサービスがあればよいと思うこと
①訪問系サービス［居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援］	交通費補助
	手話で話せる支援者がほしい。
	すぐに手話で説明して欲しい、家からも手話で相談したい。
	家族が買い物している間に一緒にごはんを食べたりして待っていてくれたら、とてもありがたい。いつも時間に追われてしまうので。近隣に限らずできたら…。
	重心の一人暮らしが現在いないのか、親亡き後、家がありながらこの家での生活が出来なくなるのは良くない。持ち家でも、長く生活をしていたところでの生活ができるように、重心の方のことを考えてください。終の棲家として。包括的な介護が必要である。
	親での対応が難しい。通院や外出等、行動上の困難がある時に使える、助けてもらえるのは行動援護？
②日中活動系サービス［生活介護、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労選択支援、就労定着支援、療養介護］	福祉車両が利用しやすいように拡充してほしい。（ワンコインで利用できるようなものを増やして欲しい）
	ゲームをしたり、軽いスポーツｅｔｃ楽しんでも良いのでは？
	事業所の数が多すぎて、利用者も支援者も、お互いに足の引っ張り遭いをしている、人材不足である。療養介護、医療ケアの必要な方の支援はまだまだ不足です。近場でのリハビリ等が受けられ、日常生活の援助が必要である。
	就労ボランティアさんを育成して、就労後の障害者の方を時々見守りに会社を尋ねたり、会社の困りごとを来たりしてもらう制度を作ったらどうでしょうか。障害者施設を定年退職したような方に適任かも
	就労Ｂと生活介護の間の就労支援があるといいです
③居住系サービス［短期入所（ショートステイ）、共同生活援助（グループホーム）、施設入所支援、自立生活援助］	・ショートステイの日数を増やしてほしい。 ・ＧＨはリビングが狭い。みんなの共有のスペースなど増やしてほしい。
	訪問看護
	市独自の施策でグループホームも土・日利用できるようにしてほしい。枚方市に入所施設を作ってほしい。
	ショートステイ・グループホーム・施設入所支援などでの入浴・排せつ・食事の介護などよくして下さるなと思いますが、ショートステイなどではお風呂の時間が短いと思う。
	・枚方の障害者向けのショートステイが１～２泊位しか利用できる施設がないようなので、親（私）の入院等でそれ以上利用したいときにお願いできる施

	設がほしいです。先日、高槻にあるショートステイにお世話になりました（４泊）が、枚方にもあったらいいなと思いました。 ・枚方市にもサテライト型のグループホームがほしい。
	家族に不幸や急な病気・ケガがあったときに緊急で「必ず」預けられる、泊まることができる場所と制度がほしい。
	身体（重度）障害者のグループホーム。
	・土・日とか長期（盆・正月等）に日中の事業所が休みになる時、ＧＨでゆっくり過ごす為の施策が必要。事業所だけの努力ではムリだと思う。 ・親亡き後に子供が安心して生きていける場がほしい。
	高齢化した精神障害者で、グループホームでは支援できなくなったような方のいわば終活の時期を過ごせる施設があれば安心です。そこの職員は精神保健福祉士も含めた、精神障害者の支援になれた方がいてもらえれば安心です。
	グループホーム利用に、女性と男性利用別々にできるといいのですが…。
④地域生活支援事業［障害者相談支援事業、移動支援事業（ガイドヘルパー派遣）、障害児通学支援事業（通学ガイドヘルパー派遣）、日中一時支援事業、意思疎通支援事業、地域活動支援センター事業、日常生活用具、給付等事業］	スマートフォン、移動を助けるナビの機器の貸与を望む。
	手話が堪能な通訳者や相談員をおいてほしい。
	堺市は堺市立健康福祉プラザ（堺市高次脳機能障害支援拠点機関）があり、納谷クリニックとの連携が出来ている。京都市は京都市高次脳機能障害者支援センターがあり、定期的講習会が行なわれている。
	ろう者は文章解読能力不能で手話により会話可能は最適であるタブレット端末を日常生活用具化に認めて下さい。
	新しいサービスよりも、土・日の選択肢を増やしてほしい。
	障害者のアートギャラリーのようなものがあれば、創作的活動の発表の場にもなり、週末の外出の選択肢にもなると思う。体験型であればなおよい。地域交流にも寄与できる。
	視覚障害者の方が就職した後も、家から職場まで、またその逆方向について、ガイドヘルパーさんが付く制度が欲しいです。
	ヘルパーさんをふやして欲しい。
	・障害福祉サービスを利用していなくても、障害と診断された方全員が相談支援事業所を利用できるようにして欲しい。使える福祉サービスがあるのに気づくことができない。 ・移動支援について、療育手帳の判定がＢ１、Ｂ２でも支援区分が４～６の方への費用負担軽減処置をして欲しい。 ・移動支援を利用して福祉サービス事業所への送迎の場合、枚方市では、ヘルパーさんの交通費は往復とも利用者負担となるが、加算等があり往復とも利

	用者負担ではない市町村もあると聞いた。枚方市でも利用者負担軽減のための検討をして欲しい。 ・障害者は的確な状態説明ができないので、家族は当事者の健康状態の把握が困難。今後年齢が上がっていけば、さらに健康管理が難しくなる不安がある。発達障害に起因するこだわり等で、一般的な市民検診を受けることが難しい方のための独自のサービスがあればありがたい。
⑤障害児支援［児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援、福祉型児童入所支援、医療型児童入所支援］	上と重なりますが、枚方支援学校があるのに、高等部になると東部地域在住の子供さんは、交野支援四條畷校に通わなければなりません。ぜひ枚方、交野地域に支援学校を作ってください
	・不正受給など金銭面の監査だけでなく、利用者に対するサービス、支援者などの従事者に対する待遇についても監査してほしい。 ・利用する保護者の声、意見を直接吸い上げられる窓口を作る、または、現在そのような場所が存在するのであれば、もっと広く利用する保護者に知らしめるアナウンスが必要だと思います。
⑥以下の施設における障害児受け入れ［保育所、幼稚園、認定こども園、留守家庭児童会室］	なし

（３）　その他の補足意見

サービスの区分ごとにあげられた「その他の補足意見」をみると、訪問系サービス、日中活動系サービスについての意見が多くあげられています。
具体的には、相談場所の整備や、事業所を選択することの難しさに関する意見などがあげられています。

サービスの区分	その他の補足意見
①訪問系サービス［居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援］	サークルのチラシを多くの場所に置いてほしい。
	大変な仕事でささえて頂き感謝しています。
	手話で気楽に相談できる場所が欲しい。介護の相談したい。
	事業所の数が多すぎて選ぶのに大変。連絡しても対応できないと言われる。
②日中活動系サービス［生活介護、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労選択支援、就労定着支援、療養介護］	管理者の不正で会社がつぶれ、継続の会社への移行がスムーズに行かない。
	療養介護はとても大切だと思います。
	■■■テレビばかりではあきてしまう。
	日中の生活介護利用している施設で入浴サービスが中止になった。家では入れることが困難な人が多いので、入浴サービスはすごく皆求めているものであったのに…。
	生活介護でも事業所によって工賃が出るところと出ないところがあるので、不公平だと思います。
③居住系サービス［短期入所（ショートステイ）、共同生活援助（グループホーム）、施設入所支援、自立生活援助］	着替えの洗たくもして下さる所があって、ありがたいと思います。
	重度身体障害者が選べる居住系のサービスが無さすぎる。特に親が高令になり困っている人多いです。本当にどうにかしてほしい。
	・ＧＨに入っているが、家に帰った時の対応が大変。大声を出す、夜中に寝ないでさわぐ、両親で何とか対応しているが、どちらかが何かあればどうにもならない。その為に入所施設をとも思うが近場にはない。・この一年同じ作業所から、他府県の入所施設を探して入った人や、突然母親が亡くなり一人でとり残されていた人が出たことで、これから先の不安は一段と増している。
	居住系サービス：将来的に考えて（親なき生活時）、定期的にショートステイ、グループホーム、施設入所、後見人（成年後見制度）などの説明会があればと思います。

④地域生活支援事業［障害者相談支援事業、移動支援事業（ガイドヘルパー派遣）、障害児通学支援事業（通学ガイドヘルパー派遣）、日中一時支援事業、意思疎通支援事業、地域活動支援センター事業、日常生活用具、給付等事業］	・検診の機会は、障害者にも平等にあって欲しい。
	①～④の〇〇系サービス・事業という枠組をとりはずしての情報交換や交流ができるようになればと思う。支援法という制度の枠組に適応させられる障害者でなく、ひとりの人間をどのように支援していけるのか、という視点が必要だと思う。
	日常生活用具給付等事業で、知的障害者発達支援の方が迷子になりそうで、実際警察にお世話になったこともあり、ＧＰＳ器具の補助してもらいたい。
⑤障害児支援［児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援、福祉型児童入所支援、医療型児童入所支援］	児童の高次脳機能障害者は数は少ないのではないか。少ないだけに取り残される可能性がある。
	・事業所の突然の休止を経験し、障害児相談支援の必要性を痛切に感じた。枚方市はセルフプランの利用者が大半だと耳にするが、個人ですぐに対応することがとても難しいことを実感した。 ・市としても、児童向け計画相談支援事業所設置の推奨、設置支援を行い、障害児の保護者への積極的な利用を促す必要があるのではないだろうか。 ・事前通告なく、いきなり児童発達支援、放課後等デイサービス等を休所もしくは閉所することのないよう管理監督して欲しい。休所または閉所する場合、次の行き場を見つけるサポートを行う事を義務づける等の対策をして欲しい。いきなり休所もしくは閉所するといった事案が起こった場合、市として速やかに対応するためのルール作り等をお願いしたい。
⑥以下の施設における障害児受け入れ［保育所、幼稚園、認定こども園、留守家庭児童会室］	なし

【確認用メモ：裏表紙ウラ】

【確認用メモ：裏表紙】